

1. 京都第二外環状道路関係遺跡 平成21年度発掘調査報告

1. はじめに

今回の発掘調査は、京都第二外環状道路敷設に先立ち、国土交通省近畿地方整備局の依頼によって実施したものである。道路は長岡京市域では長岡京市南部を東西に流れる小泉川にそって山間部に至るルートが予定されている。

このルートは桓武天皇によって造営された長岡京域南部に当たる地域を横切ることから、ほぼ全域にわたり発掘調査が必要であると考えられた。同時に小泉川は現在、河川改修によって直線状に流路が変更されているが、本来は大きく蛇行しながら流れていた。そのため河川の氾濫によってすでに遺構面が削平されている可能性も予想されたが、多くの調査成果が得られた。本事業にかかわる発掘調査は、平成15年度から実施されている(岩松ほか2005、岩松ほか2006、岩松ほか2007、戸原・岩松・竹井2008、中川・大本2009、中川・戸原・岡崎ほか2009、岡崎ほか2010)。

今回報告する発掘調査地は、長岡京市下海印寺に所在する。調査対象地は、調査前には水田として利用されていた。調査地周辺は平成19年度調査(岩松2009・中川ほか2010・増田2010)によって縄文時代中期及び後期の集落が存在することが確認されていた。そのため今回の調査地でも同様な遺構・遺物が確認できるものと期待されていた。

長岡京跡右京第984次調査のトレンチは、右京第927次調査と第943次調査(第3トレンチ)に挟まれた地域で、一部岸ノ下地区を含めた調査区となる。

右京第988次調査は、右京第927次調査地の南側に沿った里道及び農業用水路の部分である。今回の調査地南側は河川氾濫原の崖面になっており、H鋼と松の板で護岸された上が里道となっていた。こうしたことから良好な遺構面が残されているか危惧されたが、発掘調査の結果、全面にわたり縄文時代以降の遺構・遺物が残されていることが明らかになった。

本報告書は、平成21年度に実施した発掘調査の成果及び22年度の遺物整理を報告するものであり、中川が執筆した。また、遺物写真については当センター調査第1課資料係田中彰が撮影した。国土座標は、現地記録も含め日本測地系第Ⅵ系を使用した。土層および遺物の色調は農林水産技術会議監修の『新版標準土色帖』を用いた。

現地調査、報告に当たっては、長岡京市教育委員会、(財)長岡京市埋蔵文化財センターのほか、京都大学文化財総合研究センター千葉豊氏・富井眞氏からご指導とご助言をいただいた。また、現地調査については、地元下海印寺地区自治会、下海印寺地区農業組合、下海印寺地区まちづくり協議会の皆様にご支援をいただいた。記してお礼申し上げます。

なお、調査に係る経費については全額、国土交通省が負担した。

〔調査体制等〕

長岡京跡右京第984次調査(7ANOOD-9：長岡京右京八条三坊十六町)・伊賀寺遺跡

現地調査責任者 調査第2課長 肥後弘幸

調査担当者 調査第2課調査第2係長 森 正

同 主任調査員 中川和哉

同 調査員 高野陽子

調査場所 長岡京市下海印寺伊賀寺

現地調査期間 平成21年9月8日～10月13日

調査面積 70㎡

長岡京跡右京第988次調査(7ANOOD-10：長岡京右京八条三坊十六町)・伊賀寺遺跡

現地調査責任者 調査第2課長 肥後弘幸

調査担当者 調査第2課調査第2係長 森 正

同 主任調査員 中川和哉

調査場所 長岡京市下海印寺伊賀寺

現地調査期間 平成21年10月22日～平成22年1月22日

調査面積 800㎡

2. 自然と歴史

今回の調査地は、京都盆地南西部に位置する長岡京市の南部にあたる地域にある。西側には、京都盆地を形成する山が迫り、この山は丹波方面へと連なる。この山塊は丹波帯と呼ばれる古生層からなりたっており、チャートや粘板岩などが分布している。遺跡は、この山塊に源を発する小泉川左岸にある。現在は河川改修によって直線状に改修されているが、本来は大きく蛇行しており、それに対応するように川の両側に氾濫原も大きく広がっている。川は長岡京市域から大山崎町を経て、大阪湾に注ぐ淀川と合流する。

今回の調査区は小泉川左岸の沖積段丘面上に位置しており、河川の浸食により複雑な地形を示している。遺跡の基盤層は礫層であるが、その下には密度のある大阪層群の粘土層が存在している。現在の河床面にも大阪層群が現れているところが存在し、化石なども採集できる。氾濫原と考えられる調査地より一段下の水田面を掘削すると地表下2～3m程度で粘土層が確認できる。そのレベルは河床面と大差がない。小泉川は非常に固い大阪層群粘土層を大きく下刻できていないことがわかり、このことが周辺の段丘面を容易に削り、再堆積する要因となっていることが考えられる。

小泉川流域では後期旧石器時代から遺跡が認められる。南栗ヶ塚遺跡では、旧石器時代後期に属するサヌカイト製のナイフ形石器を含む石器群が検出された。この石器には、接合資料も認められ、この地域では珍しく本来の包含層が残されていた。

縄文時代には小泉川流域で多くの遺跡が発見されている。最も古い時期の土器は、下海印寺遺

跡から発見された早期のポジティブな押型文土器片である。早期に属するチャート製、いわゆるトロトロ石器が俗遺跡から出土している。前期には南栗ヶ塚遺跡から北白川下層式の縄文土器が住居跡に伴って検出されている。

中期には伊賀寺遺跡より400m離れた友岡遺跡(右京第325次調査地点)から、段丘斜面に投棄された状態で、船元式土器が大量に出土した。中期末の北白川C 式の時期には、伊賀寺遺跡で竪穴式住居跡および遺物が検出されている。また、大山崎町脇山遺跡(高野1997)でも北白川C 式土器を含む土坑が検出されている。

後期初頭の中津式土器は伊賀寺遺跡で、後期緑帯文期は伊賀寺遺跡・下海印寺遺跡で遺構・遺



第1図 調査地位置図及び周辺主要遺跡

物が発見されている。元住吉山式土器を伴う竪穴式住居跡は、伊賀寺遺跡で確認されている。また、同時期の墓壙も発見された。そのうち2か所からは多量の焼骨が発見され、供献土器と考えられる注口土器や玉作り関連遺物が出土している。

縄文時代晩期に入ると、小泉川下流の大山崎町下植野南遺跡において突帯文の甕棺が検出されている。

弥生時代前期の遺構は小泉川流域では発見されていないが、裕遺跡で土器が出土している。

弥生時代中期前葉には南栗ヶ塚遺跡や下植野南遺跡で方形周溝墓群が発見されている。両遺跡とも石製武器が出土した埋葬施設が確認された。

中期後葉の土器は裕遺跡から出土している。弥生時代末の竪穴式住居跡は伊賀寺遺跡や下海印寺遺跡で検出されている。右京第902次調査のものはベット状遺構を持つ多角形の竪穴式住居跡である。

古墳時代には下流に境野1号墳と呼ばれる全長約62mの前方後円墳が存在している。古墳時代前期に築造され、段築と埴輪列が確認されている。古墳時代後期に入ると多くの竪穴式住居跡が伊賀寺遺跡内の随所で確認されている。同じように下植野南遺跡においても5世紀後半から6世紀にかけての竪穴式住居跡が多数検出されている。

飛鳥時代については、鞆岡廃寺の存在が古くから知られていた。正確な位置は確認されていないが、飛鳥時代から長岡京期に至る瓦が発見されている。出土瓦には「田辺史牟也毛」と線刻されたものがあり、渡来系氏族である田辺氏との関係が注目されている。

奈良時代の遺構としては、掘立柱建物跡などが伊賀寺遺跡や下海印寺遺跡、下植野南遺跡などで検出されている。

長岡京市平野部の大部分を占める長岡京は、延暦3(784)年、桓武天皇によって平城京から遷都され、延暦13(794)年に平安京に遷るまで都として機能していた。長岡京の造営は10年と短く、これまでの発掘調査例では七条より南の地域で明確な条坊は発見されていない。ところが今回の長岡京跡右京八条三坊十六町の発掘地域で、長岡京期と考えられる建物跡・溝を新たに検出した。

中世に入ると今回の調査地南側の低位段丘面上には掘立柱建物跡による集落が営まれるようになるが、今回の調査区では中世関連の遺構は発見できなかった。

明智光秀が主君織田信長に対して京都本能寺において謀反を起こした、世に言う天正10(1582)年6月13日の山崎合戦では、明智側の陣が敷かれた最西端部にあたる可能性がある。

3. 調査の概要及び検出遺構

1)長岡京跡右京第984次(7ANOOD-9)調査・伊賀寺遺跡(下内田地区)

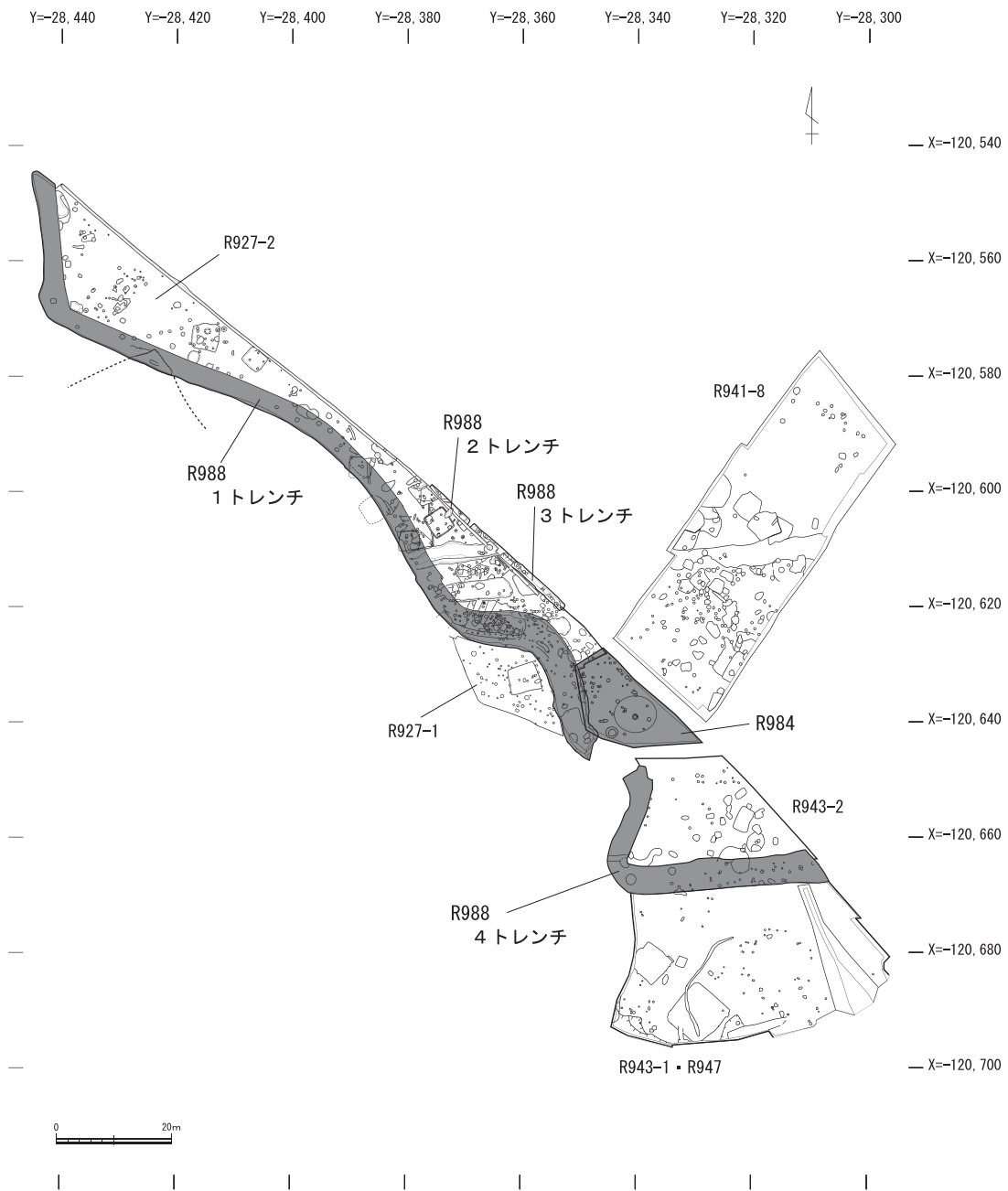
(1)調査概要

右京第927次調査1・2トレンチと第943次調査3トレンチに挟まれた地域である。右京第927次調査1トレンチでは遺構の大半が削平されていたようで、柱穴と土坑だけが検出されていた。また、2トレンチ南東部では今回の調査地に続く遺構の一部が検出されていた。右京第943次調

査3トレンチでは、炉跡を持つ北白川C式の竪穴式住居跡が1基検出されたが、床面のみが残存し、上部は大きく削平されていた。近世の井戸なども検出されているが、遺構の中で遺物が出土したのは縄文時代のものが中心で、中期の北白川C2式のものと同期の元住吉山ないし宮滝式の大きく2時期の遺構に分かれる。

(2) 層位(第3・4図)

調査前の地形は土層断面図(第3図北壁断面図)に見られるように高低差のある水田2枚から成り立っていた。溝を挟んで南側が80cm水田面が低い。溝を境に耕作土と遺構検出面である黄灰色砂礫層(第6・12層)の共通点を除きその間の堆積物が異なっている。これらの堆積物は水平堆



第2図 長岡京跡右京第927・984・988次調査トレンチ配置図

積である。こうした堆積は、溝を境に堆積環境が異なっていたことを示しており、調査前の地割が、遺構検出面より上の層が堆積する頃から継続していたことを示している。また、本来水成の堆積物である砂礫層の上面が水平であることから、水田造成によって本来の上部層が削平されているものと考えられる。遺構埋土は黒色であることが多く、こうした傾向は砂礫層上に堆積する黄色系の堆積物上面において発見できる縄文時代遺構にも一般的に認められる傾向である。また礫層が遺構検出面になる地域では、相対的に遺構の深度が浅い傾向が認められ、平安時代以降の土地改変によって本来の遺構掘り込み面は削平されていると考えることが妥当である。

上記した遺構検出面と水田耕作に関連したと考えられる薄い水平層の下部では、マンガンが集積し硬化している。そのため、そのマンガン層を少し削りこまないと遺構は検出することが困難である。

(3) 検出遺構(第3図)

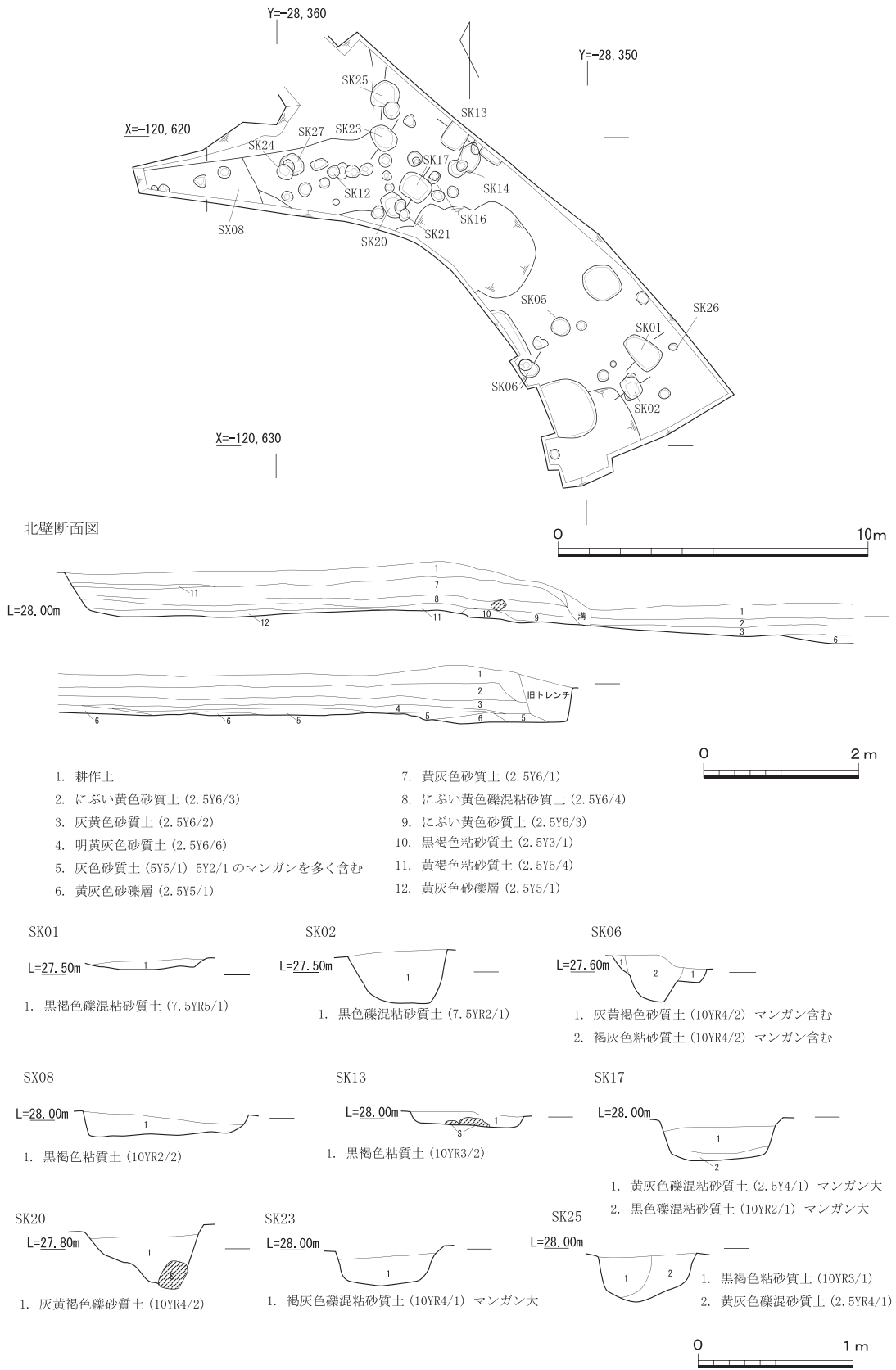
大型落ち込み状遺構 S X08 右京第927次調査2トレンチ南東部で検出していた落ち込み状遺構 S X104の延長部分である。第927次調査当時、遺構の立ち上がりが緩く、縁辺が不整形であることから、調査前の地形に見られた落ち込み部分に包含層が堆積したものあるいは複数の遺構が重複したものとして認識していた。埋土は黒褐色ないしは黒色であったため遺構を分離することが困難であった。今回の調査で遺構延長部分の底面が平坦であることから竪穴式住居跡が複数の遺構と重複していたことが明らかになった。

本報告書で別記する第988次調査で検出した竪穴式住居跡 S H89の北端部にあたり、同一の遺構である。埋土は黒褐色の粘質土で遺構の輪郭等から重複があることは確認できるが、平面及び断面から検証することができなかった。出土遺物は小面積ながら非常に多く、ほとんどすべてが北白川C2式であるが、若干後期の遺物も混入している。床面で検出できた小土坑及び柱穴は掘削面を確認することが困難であったため前後関係は不明と言わざるをえない。そのため後期の土器が混入したものと考えられる。土器は大型の破片も含まれるが、接合率が低く個体数も多い。また床面に接して出土するといった特徴もないことから、竪穴式住居跡のくぼみに投棄されたものと考えられる。検出面からの深さは20cmを測る。

土坑 S K01 調査トレンチ南東部で発見した隅丸長方形の土坑である。平面形態から土壙墓の可能性が考えられたことから丁寧に掘り下げを行ったが、遺物は縄文土器と考えられる破片以外検出できなかった。棺痕跡や骨などが検出できなかったことから土坑と位置づけた。短辺である南東辺が80cm、北西辺が60cm、長さが1.3m、検出面からの深さ5cmを測る。

土坑 S K02 調査トレンチ南東部で検出した長方形の土坑である。土坑内からは元住吉山あるいは宮滝式の土器片と北白川C式土器が出土している。埋土は黒色礫混粘砂質土で単一の層で充填されていた。短辺55cm、長辺70cm、検出面からの深さ35cmを測る。

土坑 S K05 平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川C2式の土器片が出土している。埋土は他の縄文時代の遺構と同様、黒色を呈していた。直径60cm、検出面からの深さ8cmを測る。



第 3 図 長岡京跡右京第984次調査 遺構平・断面図及び土層断面図

土坑S K06 平面形が楕円の土坑である。柱痕跡らしい部分を検出したが、遺構の基盤になっている地層が礫層で硬いことから、柱当りが沈んだと考えることが難しいため、別の遺構と考えるほうが妥当である。断面図で見る1層の灰黄褐色砂質土部分がS K06、2層の褐灰色粘砂質土部分がS K06掘削以後の遺構と位置づけられる。遺物は主に1層の埋土内から出土し、比較的多くの縄文土器底部が出土した。周辺の状況と胎土等から縄文時代中期の遺物と考えられる。長軸70cm、短軸50cm、検出面からの深さ10cmを測る。

土坑S K12 平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代後期の元住吉山式あるいは宮滝式土器片が出土している。直径40cm、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑S K13 一部が調査地外に出るため形状ははっきりしないが、平面形が長方形に復元できる土坑である。S K01と同様、底部が平らで検出面からの深さが浅い。土坑内には他の縄文時代の遺構と同様、黒褐色土が充填されており、縄文土器片が出土した。長辺75cm以上、短辺75cm、検出面からの深さ5cmを測る。

土坑S K14 平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川C式の土器片が出土している。直径35cm、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑S K16 平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川C式の土器片が出土している。直径30cm、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑S K17 平面形が隅丸長方形を呈する土坑で、土坑内からは縄文土器細片が出土している。埋土は2層に分かれ、底部付近には有機物の影響の可能性のある黒色の土が堆積していた。長辺1m、短辺80cm、検出面からの深さ25cmを測る。

土坑S K20 平面形が隅丸長方形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川C式の土器片が出土している。埋土は灰黄褐色礫砂質土である。長辺80cm、短辺70cm、検出面からの深さ40cmを測る。

土坑S K21 平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代後期の元住吉山式あるいは宮滝式土器片が出土している。直径30cm、検出面からの深さ10cmを測る。

土坑S K23 平面形が楕円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文土器細片が出土している。長軸90cm、短軸65cm、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑S K24 平面形が楕円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川C式の土器片が出土している。長軸50cm、短軸40cm、検出面からの深さ30cmを測る。

土坑S K25 平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文土器細片が出土している。埋土は2層に分かれ、1層の黒褐色粘砂質土部分が柱痕跡状に断面図では見えるが、平面的に円形を呈することはなかった。直径90cm、検出面からの深さ30cmを測る。

土坑S K26 平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川C式の土器片が出土している。直径30cm、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑S K27 平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川C式の土器片が出土している。直径70cm、検出面からの深さ5cmを測る。

2)長岡京跡右京第988次(7ANOOD-10)調査・伊賀寺遺跡(下内田地区)

(1)調査概要

右京第984次調査に引き続き実施した発掘調査で、発掘調査時の工事用道路部分を挟み西側を1トレンチ、東側を4トレンチと名付けた。京都第二外環状道路側道側溝によって深く掘り込まれる部分を2・3トレンチとした。遺構番号は調査トレンチに関係なく通番で番号をふった。

1トレンチは第927次調査の2トレンチに接し並行するように曲がりくねった幅の狭い調査区となった。これは里道とそれに並行する農業用水路部分が調査区であるためである。1トレンチからは従来の調査と同様、縄文時代中期の北白川C式、元住吉山Ⅱ式の竪穴式住居跡、土坑を検出することができた。その中でも竪穴式住居跡S H89からは多量の北白川C2式の土器が出土した。また、S X199の縄文時代後期の北白川上層式3期の良好な資料を検出することができた。

長岡京期の遺構として、これまでの調査で検出されていた溝S D01・02の延長部分を検出した。S D02は西端の部分に木樋が設定されていたと考えられる状況が認められ、この部分に土橋が想定できる。

2・3トレンチは側溝部分という狭長なトレンチであったが、1トレンチで検出できたS D01・02を検出し、927次調査で検出していた縄文時代中期の竪穴式住居跡S H65の北東部を検出することができ、その規模が確定できた。その他、縄文時代の土坑も多く検出することができた。

4トレンチは右京第943次調査の1トレンチ、2トレンチの間に存在した里道、水路の部分である。第943次調査2トレンチでは縄文時代後期の竪穴式住居跡、焼骨を含む土壌墓が検出されている。今回の調査地では第943次調査で検出している竪穴式住居跡S H01の延長部を検出した。また第943次調査の1トレンチ、2トレンチに見られる地層の不整合面を検出することができた。

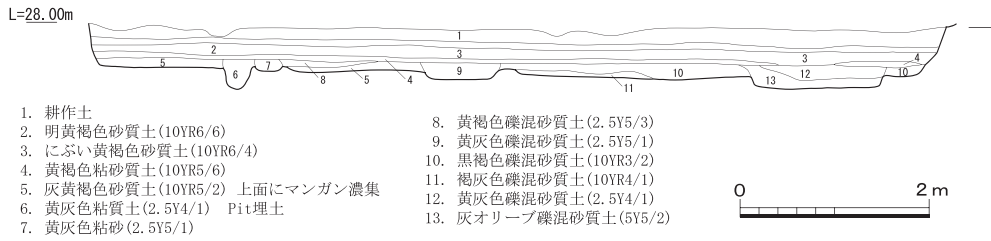
(2)層位(第4図)

1トレンチの土層断面は右京第927次調査の2地区を一部取り込む形で観察し、その反対側については氾濫原との段丘崖となるため観察・計測することができなかった。遺構検出面は1面で、第984次調査の地層の説明で述べたように水平の水田関連の堆積層があり、遺構検出面の上面は平坦で、水田開墾によって平らにされたと考えられる。遺構検出面上面にはマンガンの沈着が確認できた。遺構検出面を構成する地層は、この調査地の地形を形成した基盤層である砂礫層と灰黄褐色または黄褐色を呈した粘砂質土になる。この粘砂質土を掘り下げると、遺構検出面で部分的に現れる基盤層の砂礫層にあたる。調査トレンチ中央部付近は砂礫層が遺構検出面になっていた。詳細は第927次調査の土層断面図(中川ほか2010)を参照していただきたい。

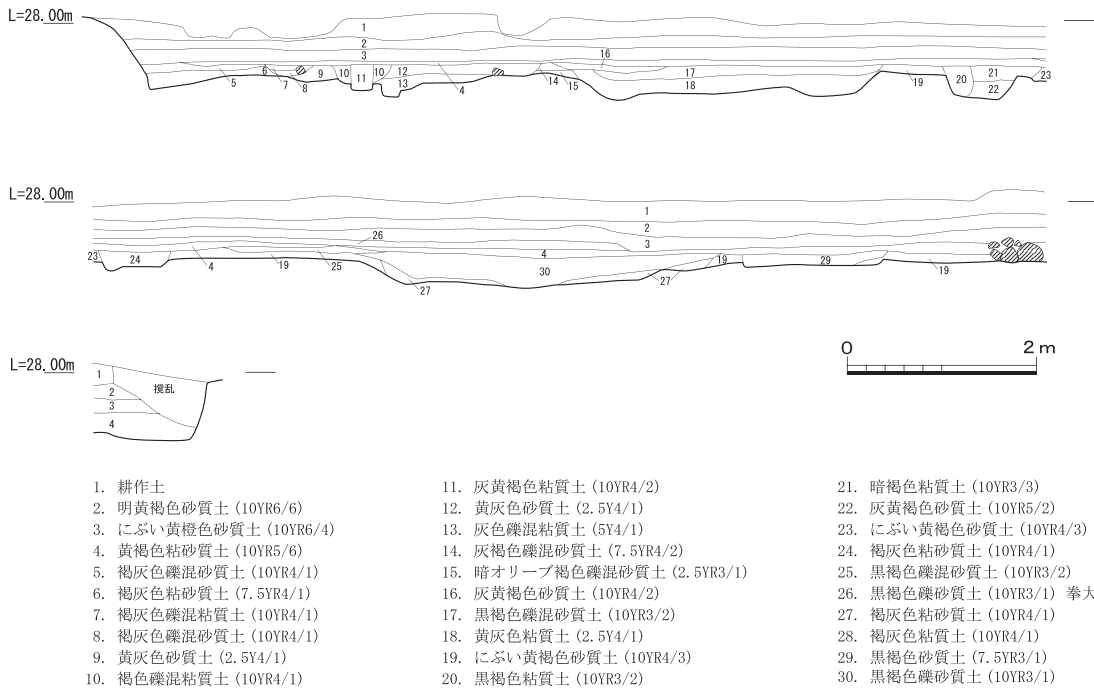
2・3トレンチでも遺構検出面の上面は平坦で、水田開墾によって平らにされたと考えられる。遺構検出面上面にはマンガンの沈着が確認できた。2トレンチの遺構検出面は5層の灰黄褐色砂質土及び10層の黒褐色礫混砂質土であった。10層が遺構検出面になる部分では、遺構埋土と類似しており判別が困難であった。

3トレンチでは、12の黄灰色砂質土と19のにおい黄褐色土が検出面になっている。16～18は長岡京期の溝S D01、26・27は長岡京期の溝S D02の埋土である。長岡京期の遺構も縄文時代

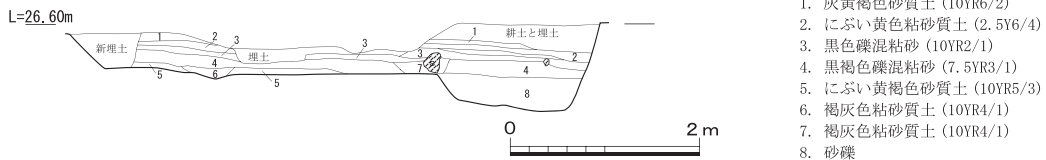
2 トレンチ北東壁断面図



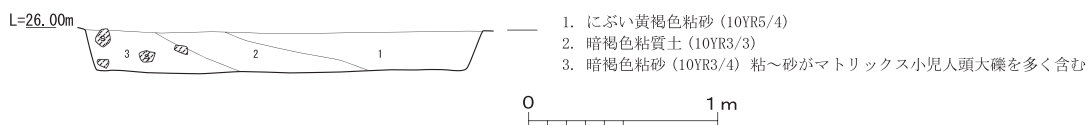
3 トレンチ北東断面図



4 トレンチ東壁断面図



4 トレンチ断ち割り断面図



第4図 長岡京跡右京第988次調査 2・3・4トレンチ土層断面図

の遺構も同じく 4 層を取り除いた後に検出できる。

4 トレンチは、かつての調査地点に重複して設定したため、南壁及び北壁の土層堆積状況が観察できず、東壁のみを観察できた。他のトレンチ同様、客土の下に 1～3 層の薄い水平層が堆積しており、遺構検出面である 4 層上面は水平である。7 層は縄文時代の遺構埋土である。トレンチは大きく「L」字の形状をしているが、東西方向部分では調査区を斜めに大型の礫が見られる部分と、それ以外のか所に分かれ地形形成面が異なる。礫層は東壁の 8 層であり、この現象を明らかにするため設定した地層確認用の断割りの断面図の 3 層に当たり、段丘礫と考えられる。北側で隣接する右京第 943 次調査 1 トレンチ・第 947 次調査では、右京第 943 次調査 2 トレンチで密集していた縄文時代の遺構がまったく検出できなかったが、今回の調査でも右京第 943 次調査 1 トレンチに接した部分では縄文時代の遺構は検出できなかった。右京第 947 次調査で段丘崖から氾濫原に及ぶ調査を実施した結果、縄文時代の遺構面の基盤となる礫層とは異なる時期の礫が基盤となっていることが判明した。礫層から縄文時代後期の土器が出土している。右京第 947 次調査地では、庄内期の竪穴式住居跡が発見されていることから、縄文時代後期から庄内期までに堆積し地盤が安定したことになる。よって断ち割りで確認できた 1・2 層と 3 層とは不整合の関係であると判断される。

(3) 検出遺構(第 5～14 図)

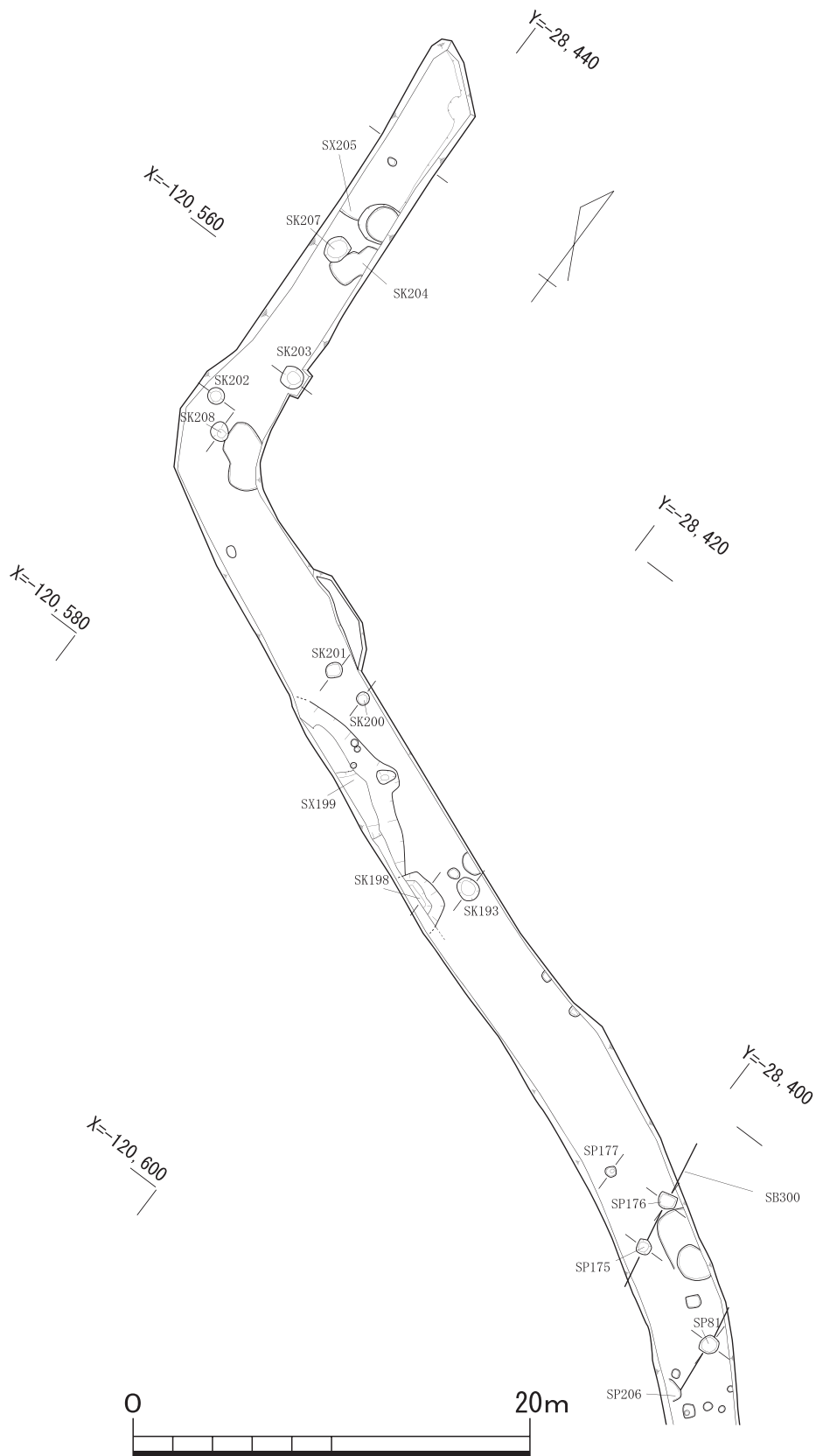
①長岡京期(第 5・6・9 図)

溝 S D 01 右京第 947 次調査地内で検出した S D 02 と並行する長岡京期の溝である。S D 02 の土橋部分に対応する地点では、溝底で検出した柱穴(S P 153)があり、その中に直径 20cm の花崗岩製の礫が平らな面を上にして据えられていた。花崗岩は在地の石材ではないことから、土橋に対応してこの部分に木橋が架けられており、その桁を支える柱穴と考えられる。右京第 927 次調査では多くの瓦が出土したが、今回の調査では数点の出土が確認できた。これら溝の主軸は東で北に 7° 振っており、長岡京の計画軸がほぼ真南北であることと異なる特徴を持つ。検出長 3m、幅 3m、検出面からの深さ 30cm を測る。

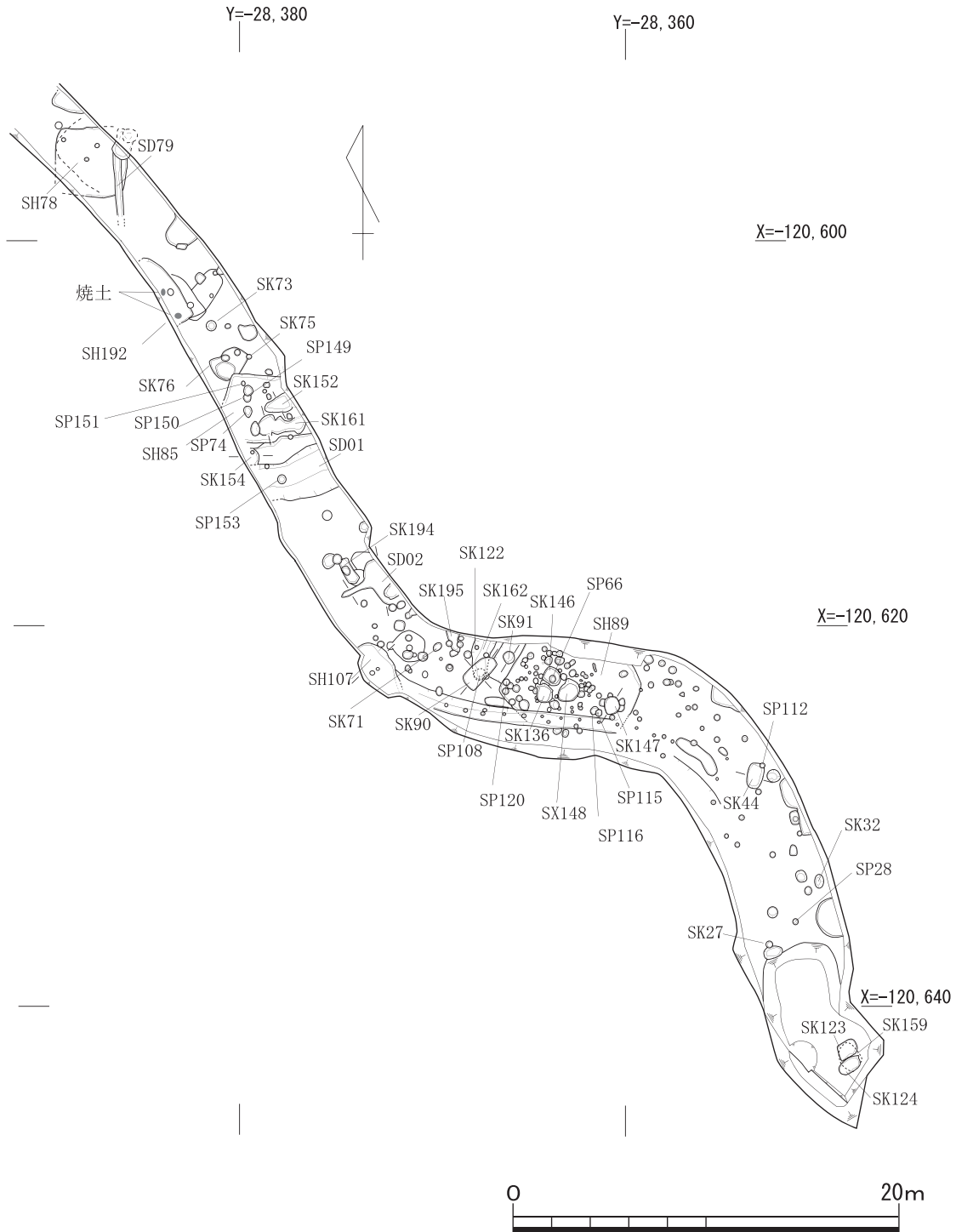
溝 S D 02 S D 01 に並行する溝である。これまでの調査で約 70m 分を検出している。溝の西部では急に幅約 30cm と狭くなる。この部分に暗渠が想定でき、土橋の可能性が指摘できる。検出長 2.5m、幅 2.5m、検出面からの深さ 15cm を測る。

溝 S D 79 S H 78 と重複する南北方向の溝で、S H 78 より新しい。S H 78 の埋土に長岡京期の遺物が含まれることから、溝は長岡京期より新しいことが確認できた。右京第 927 次調査ではこの溝と並行する溝を約 9m 東で検出している。溝の主軸は北で 6° 西に振る。この振り角は、周辺の同時期の遺構と同じである。

掘立柱建物跡 S B 300 S P 181・175・176・206 が柱穴となる掘立柱建物跡である。柱掘形は方形である。右京第 927 次の S P 37・59 が S B 300 の柱掘形となる。右京第 927 次調査では柱抜き取り痕から瓦が出土していた。建物は両調査の結果、南北 4 間以上、東西 2 間の南北棟に復元でき、建物の主軸は北で 7° 西に振る。この振り角は周辺の長岡京期の遺構と同じである。



第5図 長岡京跡右京第988次調査 1トレンチ北半部遺構平面図

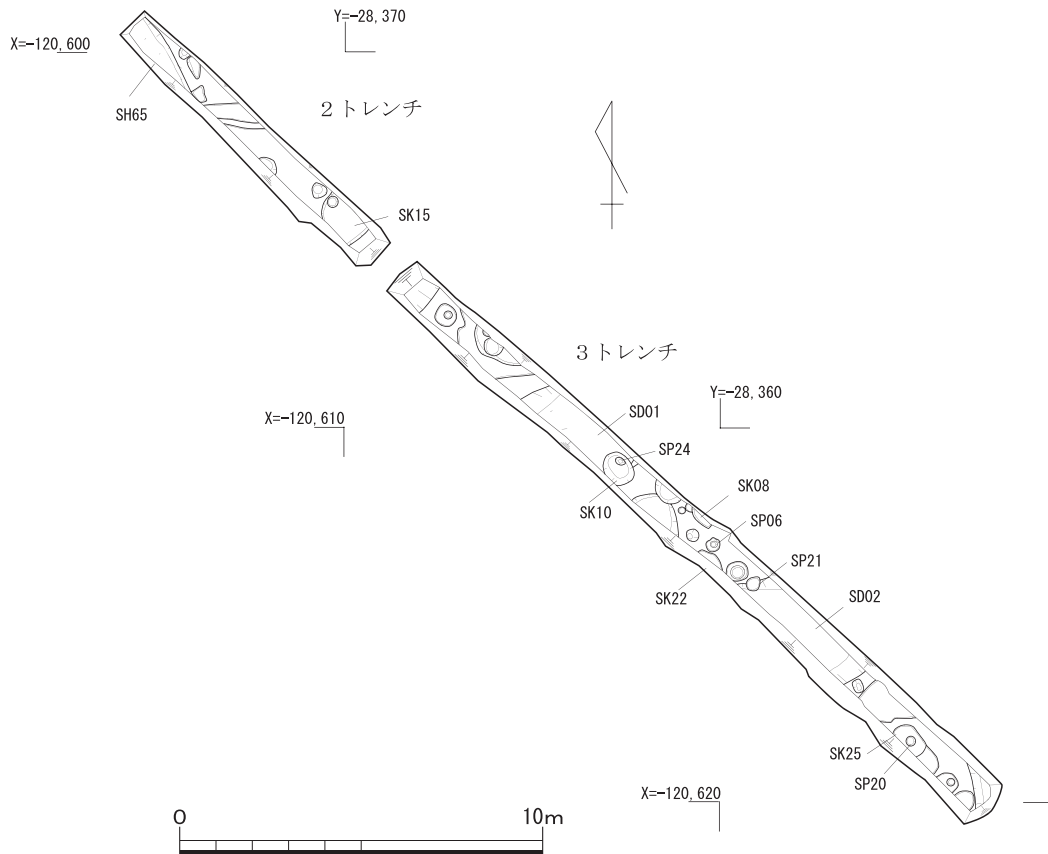


第6図 長岡京跡右京第988次調査 1トレンチ南半部遺構平面図

②古墳時代(第5・8・9図)

溝SD160 東西方向の古墳時代後期の溝である。最終的に洪水堆積と考えられる砂礫で埋まっていた。右京第943次調査2トレンチのSD05に続く遺構である。今回の調査地では直線状に掘削されているが前回の調査部分では蛇行している。検出長3.5m、幅1m、検出面からの深さ18cmである。

落ち込み状遺構SX205 1トレンチ西端部で検出した落ち込み状の大形の遺構で、右京第

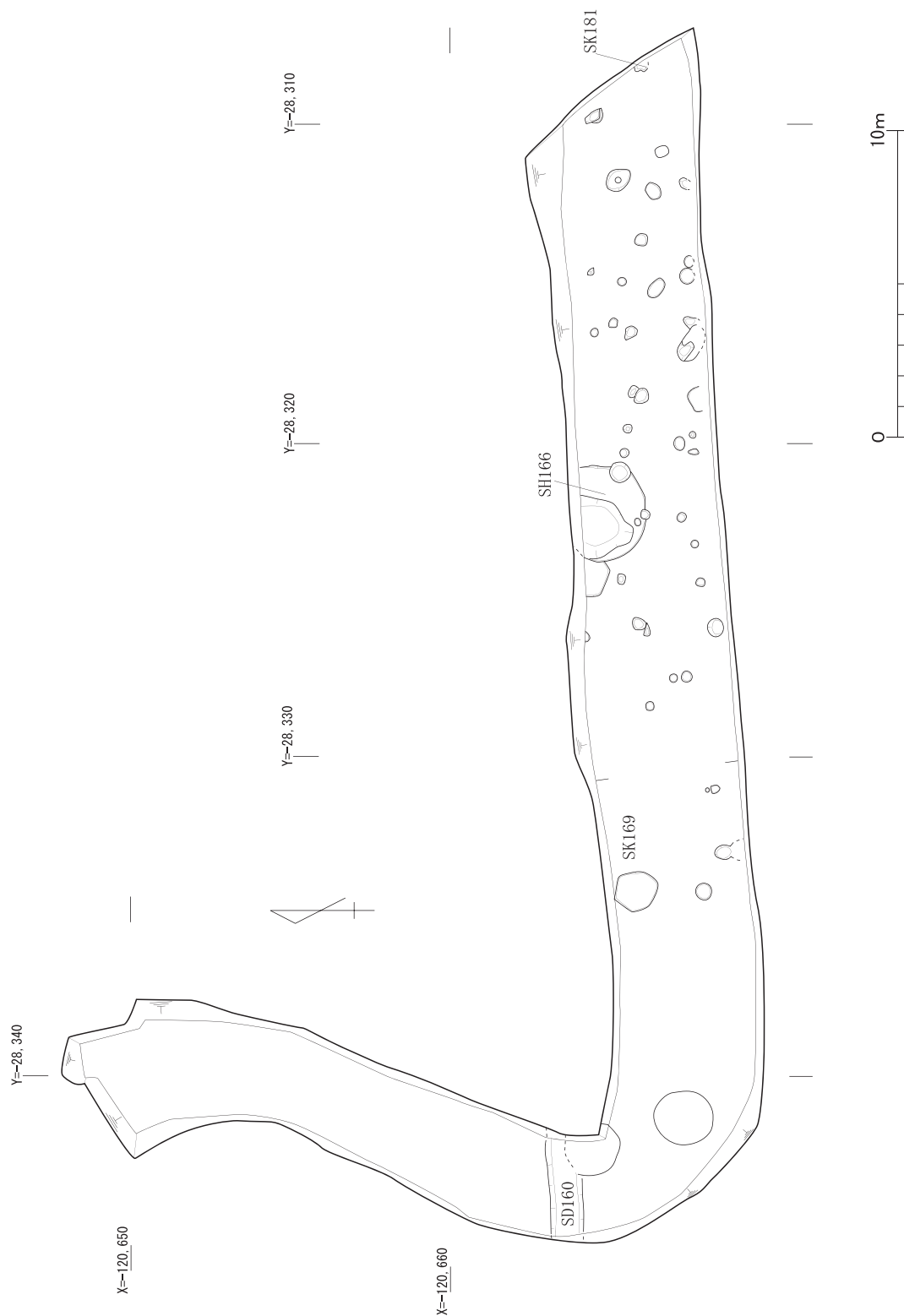


第7図 長岡京跡右京第988次調査 2・3トレンチ遺構平面図

927次調査のS X95につながる遺構である。出土遺物には縄文土器のほか、庄内期の土師器、古墳時代後期の須恵器がある。検出面からの深さは25cmである。

③縄文時代

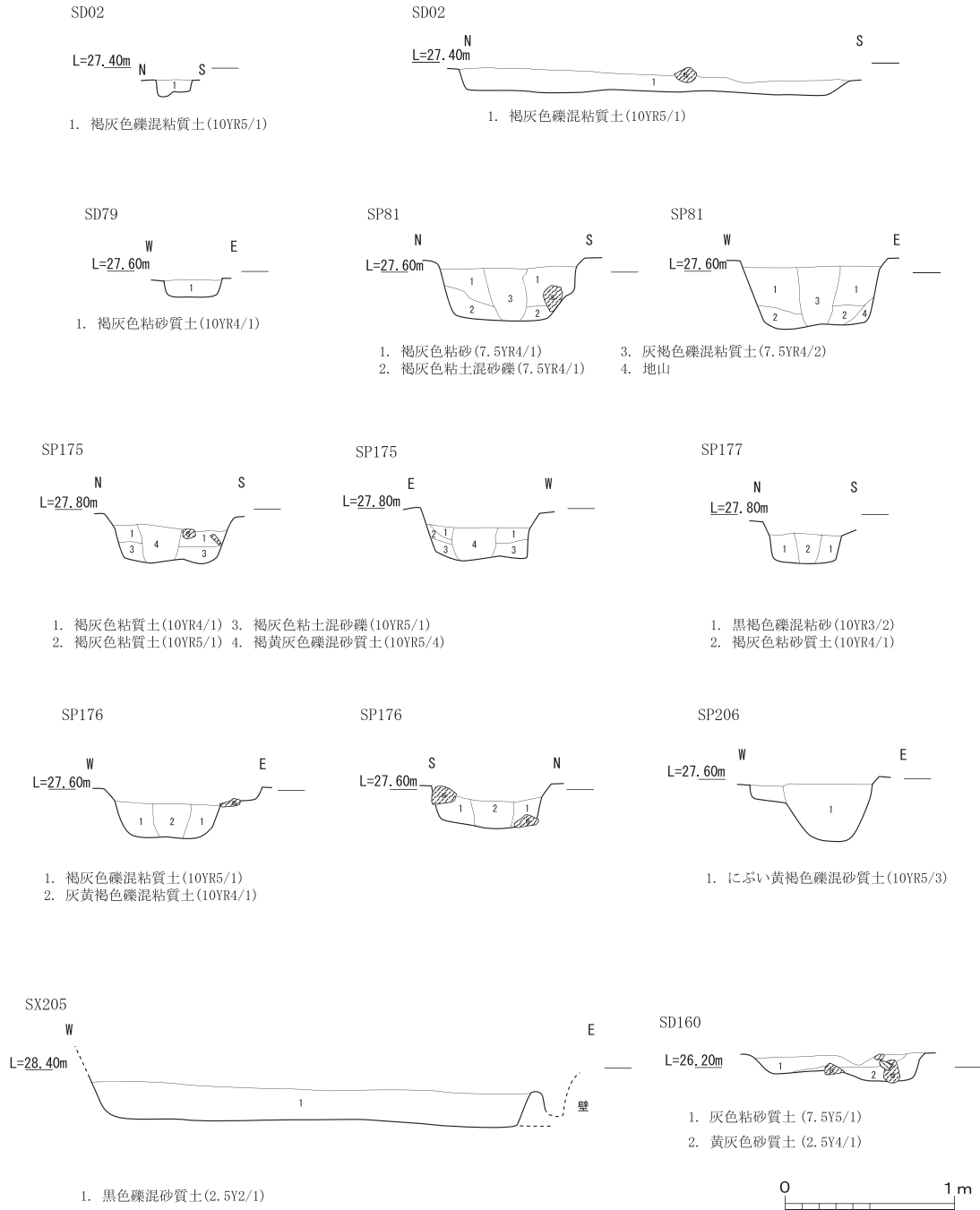
竪穴式住居跡S H89(第6・10図) 右京第927次調査では落ち込み状遺構S X104、右京第984次調査ではS X08として扱った竪穴式住居跡である。竪穴式住居跡南辺部分は近世の溝によって壊されている。また、溝の南側は削平されて低いため、南隅部は検出できなかった。住居床面で多くの柱穴・土坑を検出したが、多くの遺構が住居跡と同様の黒色の埋土であったため、住居に伴うものかどうかの判別はできなかった。床面中央部には炉跡であるS X148が存在する。平面形が長楕円形を呈する浅い皿状の土坑で、土坑南西部に焼土層が厚く堆積していた。北東部は、土坑の掘形底部まで焼土がない部分が、南北方向に直線的に確認できる。焼土端もこの部分で切れていることから何らかの構造物があったものと想定できる。右京第927次調査のS H08や第943次調査3トレンチS H20の炉は、住居内のおおむね北側に東西方向に大きな自然礫を据えている構造物が確認できた。この住居の炉跡も本来南北方向に大きな石が据えられていたものと想定できる。また、石を抜き取った跡と想定できるその外側でも検出レベルの異なる焼けた部分が存在することから炉跡の造り変えなども想定できる。出土遺物は非常に多く、北白川C2式の土器が大半であるが、数点の北白川上層式、元住吉山式土器が含まれている。上述したように竪穴式住居跡廃棄後に掘られた遺構が存在したものと考えられる。土器の個体数が多いが接合率が低く、住



第 8 図 長岡京跡右京第988次調査 4 トレンチ遺構平面図

居廃棄時に伴う遺物ではなく、住居のくぼみに捨てられた土器である可能性が高い。東西方向 6.5m、南北方向 5m に復元でき、検出面からの深さは 15cm である。

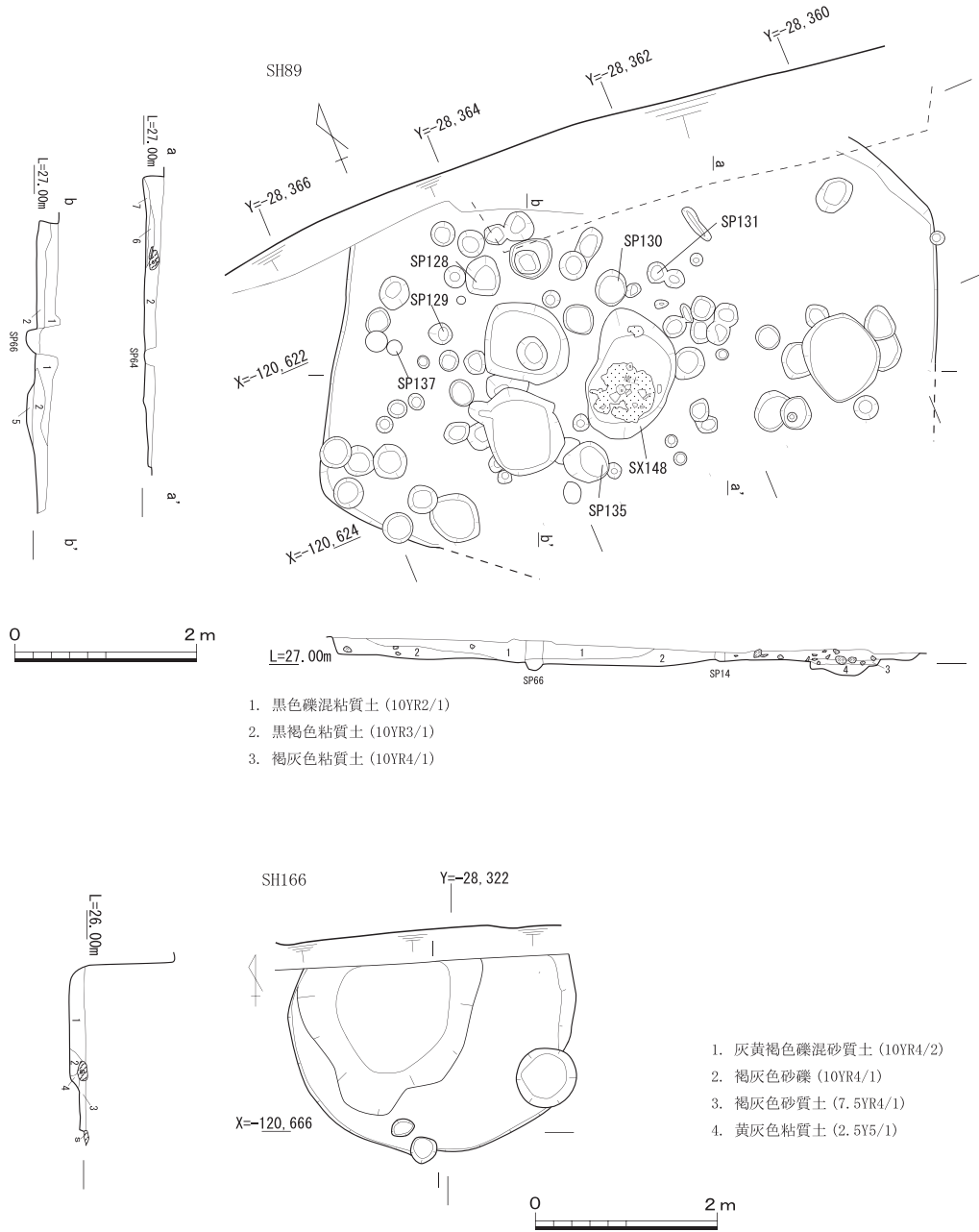
竪穴式住居跡 S H85(第 6・11 図) 右京第 927 次調査 S K147 につながる遺構で、今回の調査により竪穴式住居跡と判明した。遺構床面で S K161、S K152 の土坑を検出することができた。



第9図 長岡京跡右京第988次調査 長岡京期及び古墳時代遺構断面図

なお、右京第927次調査S K147は竪穴式住居跡とS K161の延長部が重なり合い、不定形な様相を示していたものと考えられる。住居床面の南西部には焼土が確認できた。出土遺物は縄文時代中期の北白川C式が主体で、数点新しい時期のものが混入する。東西方向4.5m、南北方向5.4m、検出面からの深さ20cmを測る。

竪穴式住居跡S H78(第6・11図) 1 トレンチ中央部分で検出した竪穴式住居跡である。右京第927次調査では土坑と認識していた遺構で、今回の調査により竪穴式住居跡と判明した。遺構検出面付近では円形に見え、褐灰色礫混じり砂質土内から礫に混じり瓦や須恵器の細片が出土している。このため当初は長岡京期の土坑として掘削し始めたが、下層において焼土を検出した。

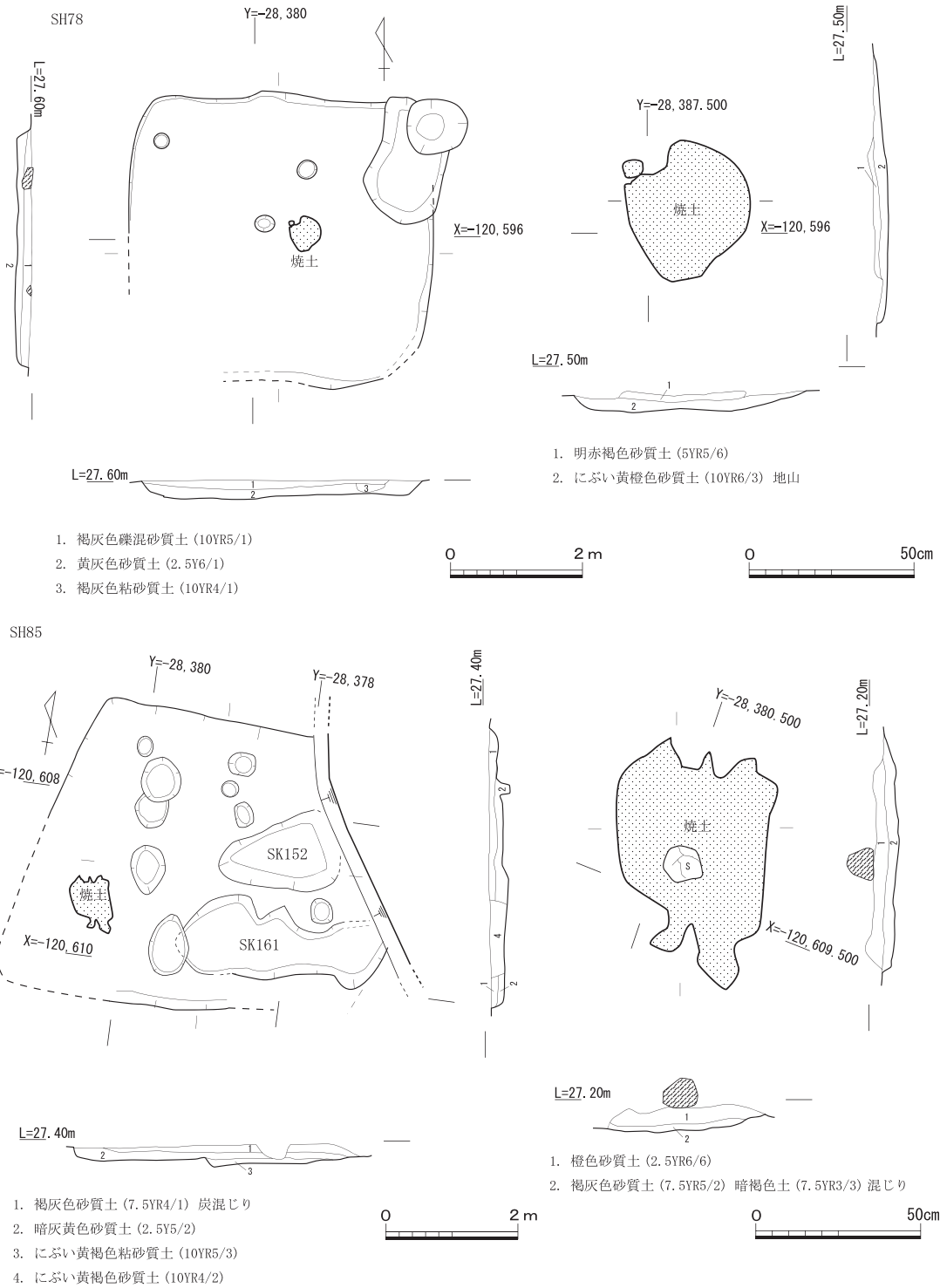


第10図 長岡京跡右京第988次調査

1 トレンチ豎穴式住居跡 S H89・4 トレンチ豎穴式住居跡 S H166実測図

本来の住居跡の埋土は黄灰色土で遺構検出面の土層と酷似していたため、上面で検出した円形のまま掘り進んだが、床面から遺構の輪郭を追っていくことによって方形の豎穴式住居跡であることが判明した。中央の炉跡と考えられる部分には直径50cmの円形の焼土が残されていた。他に施設等は検出できなかった。遺物は少なく、元住吉山式と考えられる遺物のみであった。東西3.6m、南北3.6m、検出面からの深さ35cmである。

豎穴式住居跡 S H107(第6図) 調査区内で北東辺部分のみを検出した大形の遺構で、規模から豎穴式住居跡と考えられる。埋土からは縄文土器が出土している。一辺の長さは約5mで、検出面からの深さは15cmである。



第11図 長岡京跡右京第988次調査 1トレンチ竪穴式住居跡S H78・85実測図

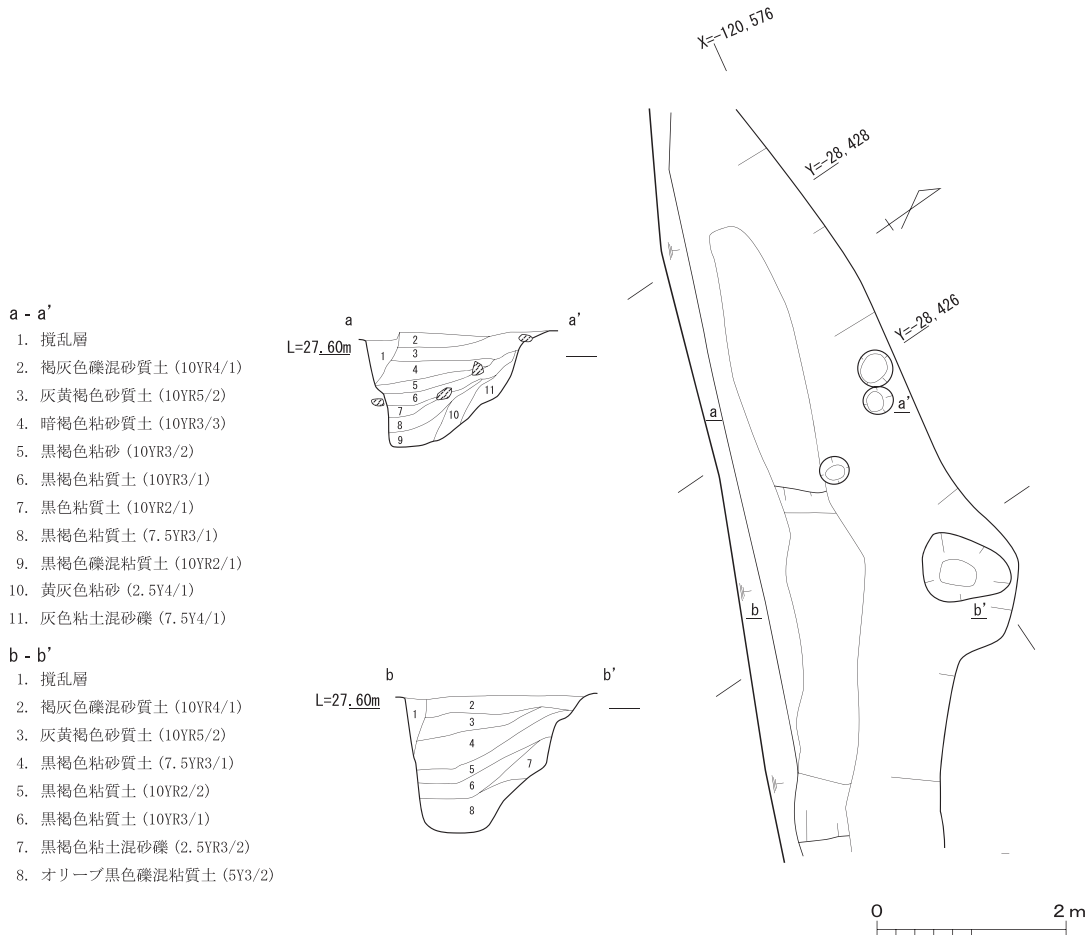
竪穴式住居跡S H166(第8・10図) 4トレンチで検出した円形の竪穴式住居跡である。右京第943次調査2トレンチS H01の延長部分である。今回の発掘調査では3つの遺構が重なる構造になった。S H166の断面観察の結果、竪穴式住居跡の検出面から切り込まれた土坑が確認できた。竪穴式住居跡とこの土坑検出時の土を洗浄した結果、元住吉山式土器と骨片、緑色の石材を用いた平玉の未成品、剥片などが出土した。なお、右京第943次調査でも玉類が出土している。直径約3.2m、検出面からの深さ10cmを測る。

竪穴式住居跡 S H 192(第 6 図) S H 85の北西部で検出した竪穴式住居跡で、北東辺のみが検出できた。床面には焼土が 2 か所確認できた。北東辺の長さ 3.2m、検出面からの深さ 5 cm である。

崖 S X 199(第 5・12 図) 1 トレンチ北側で検出した縄文時代の崖である。現在の調査地に残る崖面は中世以後の河川の浸食によるもので、この部分だけが削り残されて縄文時代の崖が残ったものと考えられる。崖面は 45° 程度の傾斜をもつことから、この崖もある時期の河川浸食によって形成されたものと考えられる。堆積土中には北白川上層 3 式の土器が多く含まれ、崖上方から捨てられたものである。時期の異なる遺物はほとんどなく、検出面上部から切り込む遺構もあることから堆積物で早くに埋没したものと考えられる。近くには縄文時代中期の住居跡があるにもかかわらず遺物がほとんど含まれず、縄文時代前期前葉の遺物で満たされていることは、崖の形成が中期末以後になされたと考えることが妥当である。層序的には遺物の廃棄には若干の時期差があり、大型の破片は堆積土中位付近に多く認められる傾向があった。

土坑 S K 08(第 7 図) 3 トレンチで検出した土坑で、北東部が調査区外に延びる。遺構内から北白川 C 式の土器が出土した。遺構の最大幅は 70cm、検出面からの深さ 5 cm を測る。

土坑 S K 10(第 7 図) 3 トレンチで S D 01 と重複して検出した平面形が楕円形を呈する土坑である。遺構内から北白川 C 式の土器が出土した。長軸 90cm、短軸 70cm、検出面からの深さ 35cm を測る。



第12図 長岡京跡右京第988次調査 1 トレンチ崖 S X 199実測図

土坑S K14(第7図) 3トレンチ北西部で検出した土坑で、規模等は確定できない。検出面からの深さは10cmを測り、土坑内から花崗岩製の磨石が出土した。

土坑S K15(第7図) 2トレンチ南東端で検出した大型の土坑で、埋土から北白川上層式の土器が出土した。調査区の外に遺構が続くため規模は不明である。最大幅は1.4m、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑S K22(第7図) 3トレンチで検出した土坑で、遺構の多くの部分が調査区外である。検出最大長は80cm、検出面からの深さ5cmを測る。

土坑S K25(第7図) 3トレンチで検出した楕円形の土坑で、一部が調査区外に延びる。遺構内からは北白川C式の土器が出土した。長軸90cm、短軸約60cm、検出面からの深さ10cmを測る。

土坑S K27(第6図) 1トレンチ南端部の攪乱北側で検出した円形の土坑である。土坑内から無文の縄文土器が出土した。直径40cm、検出面からの深さ30cmを測る。

土坑S K32(第6図) 1トレンチ南部で検出した楕円形の土坑である。内部から元住吉山式の土器が出土した。長軸70cm、短軸50cm、検出面からの深さ60cmを測る。

土坑S K44(第6図) 1トレンチで検出した隅丸長方形の土坑でS P112と重複するが、本土坑のほうが先行する。土坑内からは北白川C式の土器が出土した。長辺1.3m、短辺0.7m、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑S K71(第6図) 1トレンチS D02の南側で検出した円形の土坑である。土坑内から元住吉山式の土器が出土した。直径45cm、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑S K73(第6・13図) 1トレンチS H85北側で検出した円形の土坑である。直径50cm、検出面からの深さ20cmを測る。遺構検出面でまとまった土器が出土し、その土器群を取り去るとチャート製の扁平な礫を検出した。さらにその下にも土器が存在した。土器埋納土坑の可能性もある。礫を囲むように無紋の土器が3個体据えられていた。

土坑S K75(第6図) 1トレンチS H85北側に隣接したS K76上面から切り込まれた円形の土坑である。土坑内から北白川C式の土器が出土した。直径30cm、検出面からの深さ10cmを測る。

土坑S K76(第6図) 1トレンチS H85北側に隣接する不定形の土坑である。土坑内には最大長が30cm前後の礫2個が存在した。出土遺物には北白川C式の土器がある。最大長2m、幅1.2m、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑S K90(第6・14図) 1トレンチS H89の西側で検出した長方形の浅い土坑で、底は一樣に平らであった。土坑内から北白川C式の土器が出土した。長辺1.9m、短辺0.9m、検出面からの深さ5cmを測る。

土坑S K91(第6・14図) 1トレンチS H89の西側で検出した円形の土坑である。土坑内から縄文時代後期の凹線文土器が出土した。直径60cm、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑S K122(第6図) 1トレンチS H89の西側で検出した柱穴の可能性のある円形の土坑で、土坑内から北白川C式の土器が出土した。直径20cm、深さ25cmを測る。

土坑 S K 123(第 6・13図) 1 トレンチ南端で検出した S K 124と並列する楕円形の土坑である。長さ30～20cmの礫が充填されていた。土坑内から縄文土器細片が出土した。長軸1.1m、短軸0.8m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑 S K 124(第 6・13図) 1 トレンチ南端で検出した S K 123と並列する長楕円形の土坑である。土坑内から北白川 C 式の土器と凹線文土器が混在して出土した。S K 159と重複するため遺物が混在した可能性が考えられる。長軸1.2m、短軸0.7m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑 S K 136(第 6・14図) 1 トレンチ S H 89床面で検出した円形の土坑である。埋土は3層に細分でき、上層に炭化物が認められた。北白川 C 式の土器が主に1層から出土した。直径80cm、検出面からの深さ40cmを測る。

土坑 S K 146(第 6・14図) 1 トレンチ S H 89床面の S K 136北側で検出した円形の土坑である。埋土は3層に細分でき、上層に炭化物が認められた。北白川 C 式の土器が主に1層から出土した。直径80cm、検出面からの深さ50cmを測る。

土坑 S K 147(第 6・14図) 1 トレンチ S H 89床面で検出した円形の土坑である。埋土は2層に細分でき、上層に炭化物が認められた。2層は非常に硬く、石等を含まない砂質土であった。北白川 C 式の土器と考えられる底部が1層から出土した。直径80cm、検出面からの深さ60cmを測る。

土坑 S K 152(第 6・11・14図) 1 トレンチ S H 85床面で検出した土坑である。形状は不定形で右京第927次調査地に続く。もっとも長い部分が前回の調査とあわせて2.2m、それに直行する幅が0.9m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑 S K 154(第 6・14図) 1 トレンチ S D 01・02間で検出した土坑である。一部が浸食により存在しないが、楕円形を呈していたと考えられる。残存長0.6m、検出面からの深さ20cmである。

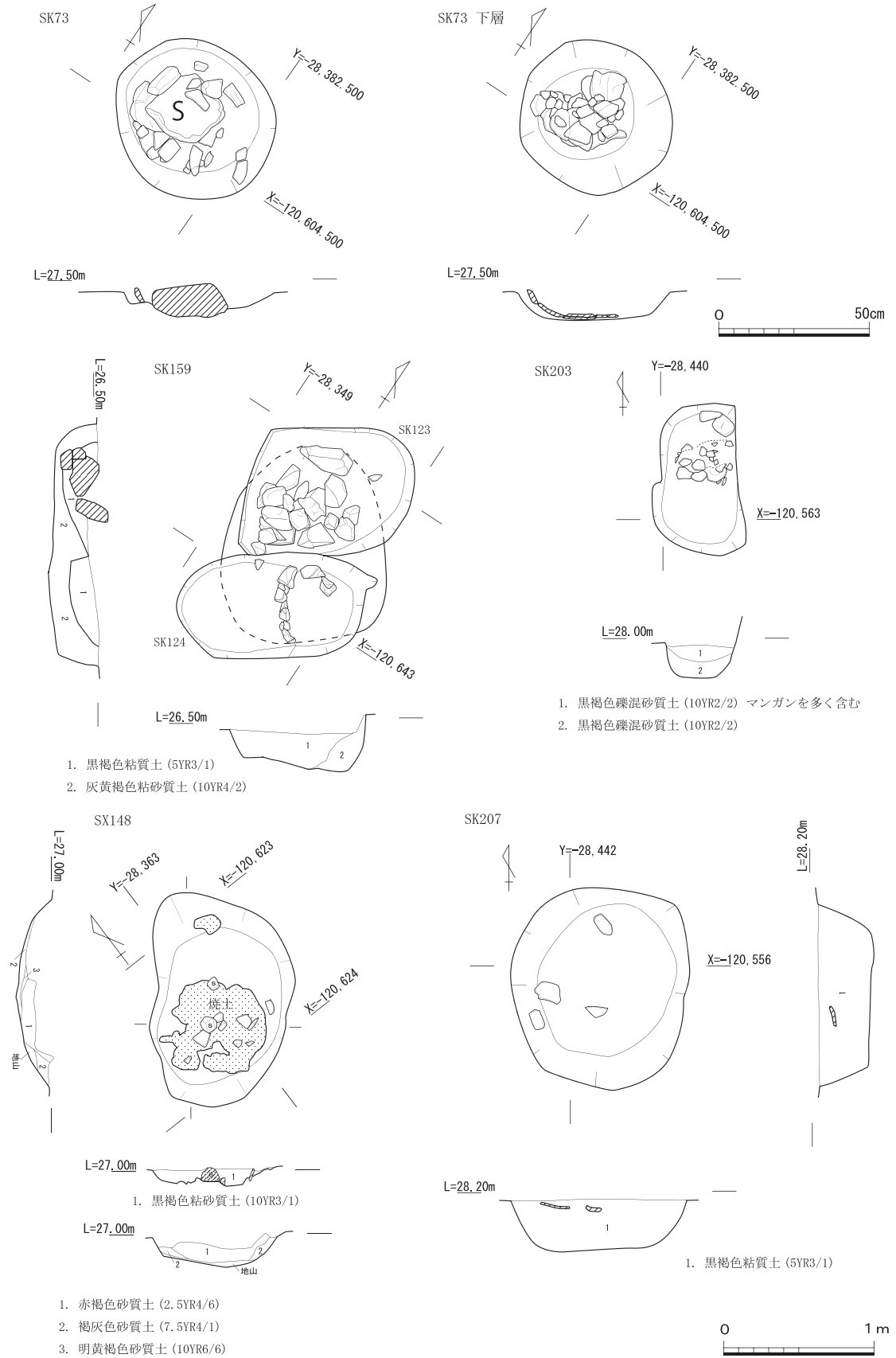
土坑 S K 159(第 6・13図) 1 トレンチ南端で検出した S K 123・124と重複する長楕円形の土坑である。土坑内から縄文土器が出土しているが碎片のため時期が不明である。他に台石が出土している。長軸1.4m、短軸1.1m、検出面からの深さ30cmを測る。

土坑 S K 161(第 6・11・14図) 1 トレンチ S H 85床面で検出した土坑である。形状は不定形で右京第927次調査地に続く。もっとも長い部分が前回の調査とあわせて2.2m、それに直行する幅が0.8m、検出面からの深さ15cmを測る。

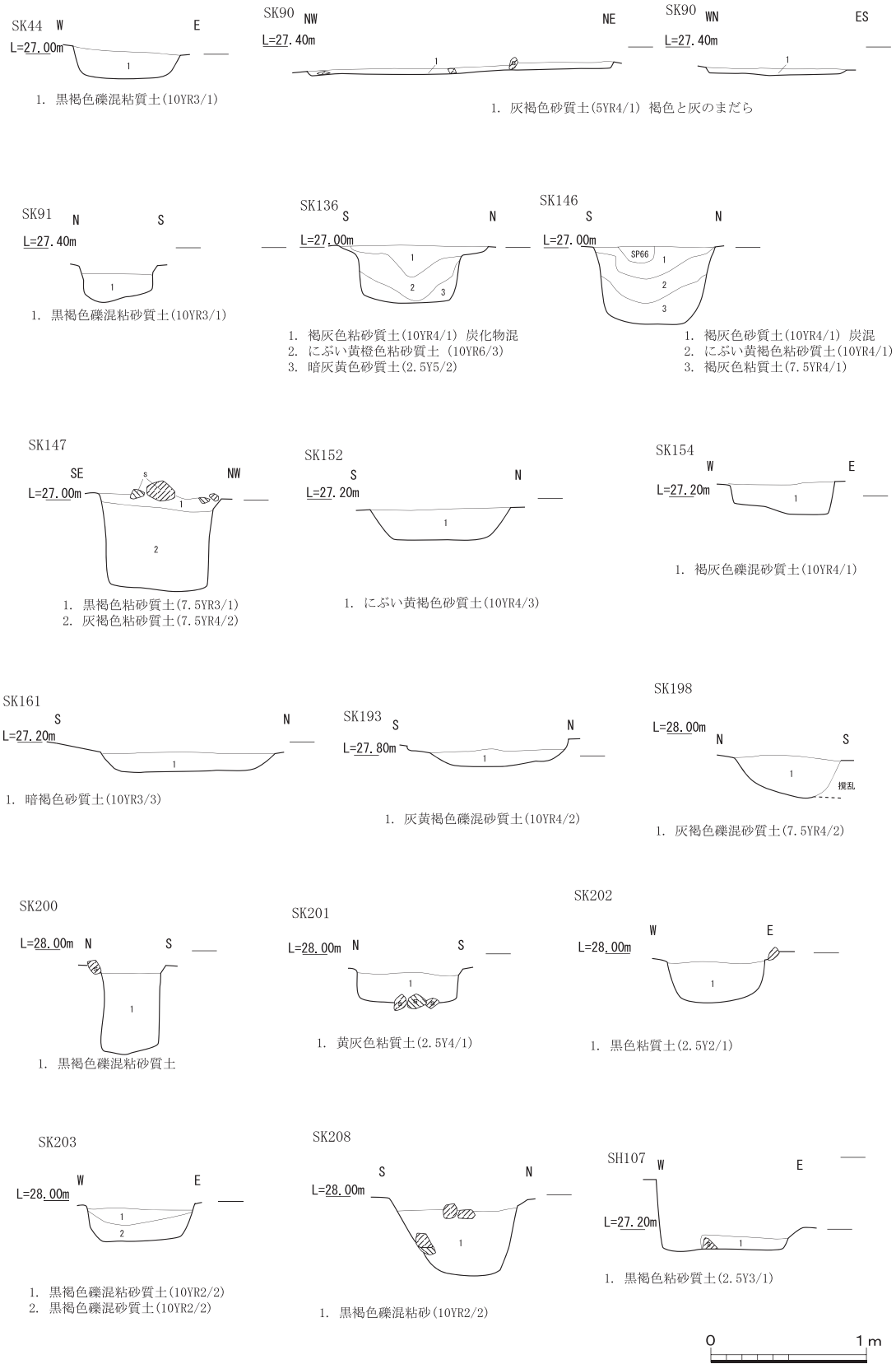
土坑 S K 162(第 6 図) 1 トレンチ S K 90と重複し、先行する土坑である。右京第927次調査の S K 21につながる長い土坑で、土坑内から北白川 C 式の土器が出土した。検出長は2.2m、幅1.1m、検出面からの深さ45cmを測る。

土坑 S K 169(第 8 図) 4 トレンチ中央部分で検出した円形の浅い土坑である。土坑内から切り目石錘が出土した。直径1.3m、検出面からの深さ5cmを測る。

土坑 S K 181(第 8 図) 4 トレンチ東端セクションにかかるように検出した土坑である。遺構は東側に延びるため規模は不明であるが、4 トレンチ東壁断面図の7の土層に対応し、北白川 C 式土器が底部に張り付いた状況で出土した。南北長は30cmで、検出面からの深さ10cmを測る。



第13図 長岡京跡右京第988次調査 1 トレンチ検出遺構実測図



第14図 長岡京跡右京第988次調査 1 トレンチ検出遺構断面図

土坑S K 193(第5・14図) 1トレンチS X199東側で検出した皿状の円形土坑である。直径1.2m、深さ15cmを測る。

土坑S K 194(第6図) 1トレンチS D02北側で検出した長楕円形の土坑で、土坑内から北白川C式の土器が出土した。長軸1.4m、短軸0.6m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑S K 195(第6図) 1トレンチS D02の南側で検出した土坑で、多くは前回の調査地へ続き、北白川C式の土器が出土した。検出長1.1m、幅0.5m、検出面からの深さ40cmを測る。

土坑S K 198(第5・14図) 1トレンチのS X199を掘り込む土坑で、南半が攪乱のため失われている。遺物は出土しなかったが、S X199が埋まった後に掘削されたことがわかる。最大幅3m、検出面からの深さ30cmである。

土坑S K 200(第5・14図) 1トレンチS X199の北側にある円形の土坑である。顕著な遺物は認められなかったが、埋土等から縄文時代のもものと判断した。直径70cm、検出面からの深さ80cmを測る。右京第927次調査でも数基の同様な深い土坑を検出しており、木柱や掘立柱建物が存在した可能性も考えられるが、建物としてはまとまらなかった。

土坑S K 201(第5・14図) 1トレンチS X199の北側にある隅丸方形の土坑である。一辺が0.7m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑S K 202(第5・14図) 1トレンチ北側屈曲部で検出した隅丸方形の土坑である。土坑内からは縄文土器片が出土した。直径0.7m、検出面からの深さ30cmを測る。

土坑S K 203(第5・13・14図) 1トレンチ北側屈曲部で検出した円形の土坑である。右京第927次調査のS K 28と同一遺構で、その西半部である。土坑内からは無文土器がまとまって出土した。一辺1.1m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑S K 204(第5図) 1トレンチ北部で検出した不定形の土坑でS K 207に切り込まれている。最大長2.3m、幅1.1m、検出面からの深さ10cmを測る。

土坑S K 207(第5・13図) 1トレンチ北部で検出した円形の土坑で、不定形の土坑S K 204を切り込んで掘削されている。土坑内から北白川C式、北白川上層式の土器が出土した。直径1.2m、検出面からの深さ40cmを測る。

土坑S K 208(第5・14図) 1トレンチ北側屈曲部で検出した円形の土坑である。埋土から縄文時代の遺構と考えられる。直径0.8m、検出面からの深さ60cmを測る。

柱穴S P 06(第7図) 3トレンチ中央部で検出した円形の柱穴である。中央部に柱痕跡と考えられる部分が存在した。柱穴内から北白川C式の土器が出土した。直径40cm、検出面からの深さ10cmを測る。

柱穴S P 20(第7図) 3トレンチ南東部で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川C式の土器が出土した。直径25cm、検出面からの深さ5cmを測る。

柱穴S P 21(第7図) S D02と重複して検出した円形の柱穴である。柱穴内から無文の縄文土器片が出土した。直径40cm、検出面からの深さ15cmを測る。

柱穴S P 24(第7図) 3トレンチS D20・S K10と重複して検出した柱穴で、S K10に先行

すると考えられる。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。直径20cm、検出面からの深さ15cmを測る。

柱穴 S P 28(第 6 図) 1 トレンチ南端部の水路関連施設による攪乱の北側で検出した円形の柱穴で、柱穴内から元住吉山式の土器片が出土した。直径30cm、検出面からの深さ15cmを測る。

柱穴 S P 66(第 6 図) 1 トレンチ S H 89床面の S K 146を切り込む円形の柱穴である。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。直径30cm、検出面からの深さ10cmを測る。

柱穴 S P 74(第 6 図) 1 トレンチ S H 85床面で検出した楕円形の柱穴である。柱穴内から縄文土器片が出土した。

柱穴 S P 112(第 6 図) 1 トレンチ S K 44を切り込む円形の柱穴である。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。直径0.3m、検出面からの深さ20cmを測る。

柱穴 S P 115(第 6 図) 1 トレンチ S H 89床面で検出した円形の柱穴である。S P 116を切り込んで掘削されている。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。直径0.3m、検出面からの深さ30cmを測る。

柱穴 S P 116(第 6 図) 1 トレンチ S H 89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。直径0.4m、検出面からの深さ10cmを測る。

柱穴 S P 120(第 6 図) 1 トレンチ S H 89床面で検出した円形の柱穴である。元住吉山式の土器が出土した。直径0.3m、検出面からの深さ15cmを測る。

柱穴 S P 128(第10図) 1 トレンチ S H 89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。直径0.3m、検出面からの深さ40cmを測る。

柱穴 S P 129(第10図) 1 トレンチ S H 89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。直径0.2m、検出面からの深さ20cmを測る。

柱穴 S P 130(第10図) 1 トレンチ S H 89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。直径0.4m、検出面からの深さ50cmを測る。

柱穴 S P 131(第10図) 1 トレンチ S H 89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から石器が出土した。直径0.2m、検出面からの深さ10cmを測る。

柱穴 S P 135(第10図) 1 トレンチ S H 89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。直径0.5m、検出面からの深さ15cmを測る。

柱穴 S P 137(第10図) 1 トレンチ S H 89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から縄文土器片が出土した。直径0.15m、検出面からの深さ40cmを測る。

柱穴 S P 149(第 6 図) 1 トレンチ S H 85床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。直径0.5m、検出面からの深さ20cmを測る。

柱穴 S P 150(第 6 図) 1 トレンチ S H 85床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。S P 149に切り込まれる。直径0.4m、検出面からの深さ25cmを測る。

柱穴 S P 151(第 6 図) 1 トレンチ S H 85床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川 C 式の土器が出土した。直径0.2m、検出面からの深さ10cmを測る。

4. 出土遺物

1) 土器・土製品

縄文土器については観察表を別途掲載したことから簡単な記述にとどめることとする。

(1) 長岡京跡右京第984次(7ANOOD- 9)調査(第15～18図)

大型落ち込み状遺構S X08 遺構内から北白川C式の土器がまとまって出土している。1～5は大波状口縁を持つ有文深鉢の突起部である。1の突起部は四角く面をなしており、土器の内側に向いた面では沈線で丸く区画した中に押し引きした刺突で施文する。この土器は焼成が非常によく同一個体はほかに存在しない。4・5・15・16・21・25・26・30は水平口縁を持ち、口縁直下にすぐ文様帯が来る有文深鉢である。8～10、13・14・17・18・20・22・29は口縁部が肥厚する無文深鉢である。9・10・13のように口縁部内面にも縄文が施されるものもある。19は水平口縁を持ち隆帯の中に楕円形区画文を横に連ねた土器で、楕円形区画接点部上面には指頭による凹点が施されている。23・28は角閃石を含む胎土を持つ平縁深鉢である。ナデによって滑らかな稜を持つ凹凸を作り上げている。23の胴部には沈線文が施される。32・34・40は縄文施文後、棒状工具によって多重弧線文を施した深鉢である。上部が外反することから頸部と考えられ、14に見られるような口縁部が肥厚する口縁と組み合わせられると考えられる。24・27・31は器表面が平滑に調整された深鉢で、他の縄文土器とは異なるもので後期前葉に属するものと考えられる。35は無文浅鉢で、外面は板状の工具で丁寧にナデられる。37は口縁部内側端面に広く縄文が施された有文浅鉢である。36・38～41・43～47は有文深鉢胴部である。48～52は深鉢底部である。

土坑S K02 53は表面に縄文が施された深鉢胴部である。54は縄文時代後期後葉の凹線文土器の口縁部である。55は縄文時代中期末の北白川C式土器の深鉢胴部である。S K02からは時期の異なる土器が出土している。

土坑S K05 56は有文深鉢頸部で、口縁部がわずかに欠損する。57は縄文が施された無文深鉢の口縁部である。58は縄文の施された胴部である。これらの土器はいずれも北白川C式土器である。

土坑S K06 図化できる遺物は縄文土器底部のみである。62～66は深鉢の底部である。

土坑S K12 59は縄文時代後期後葉の凹線文土器の口縁部である。

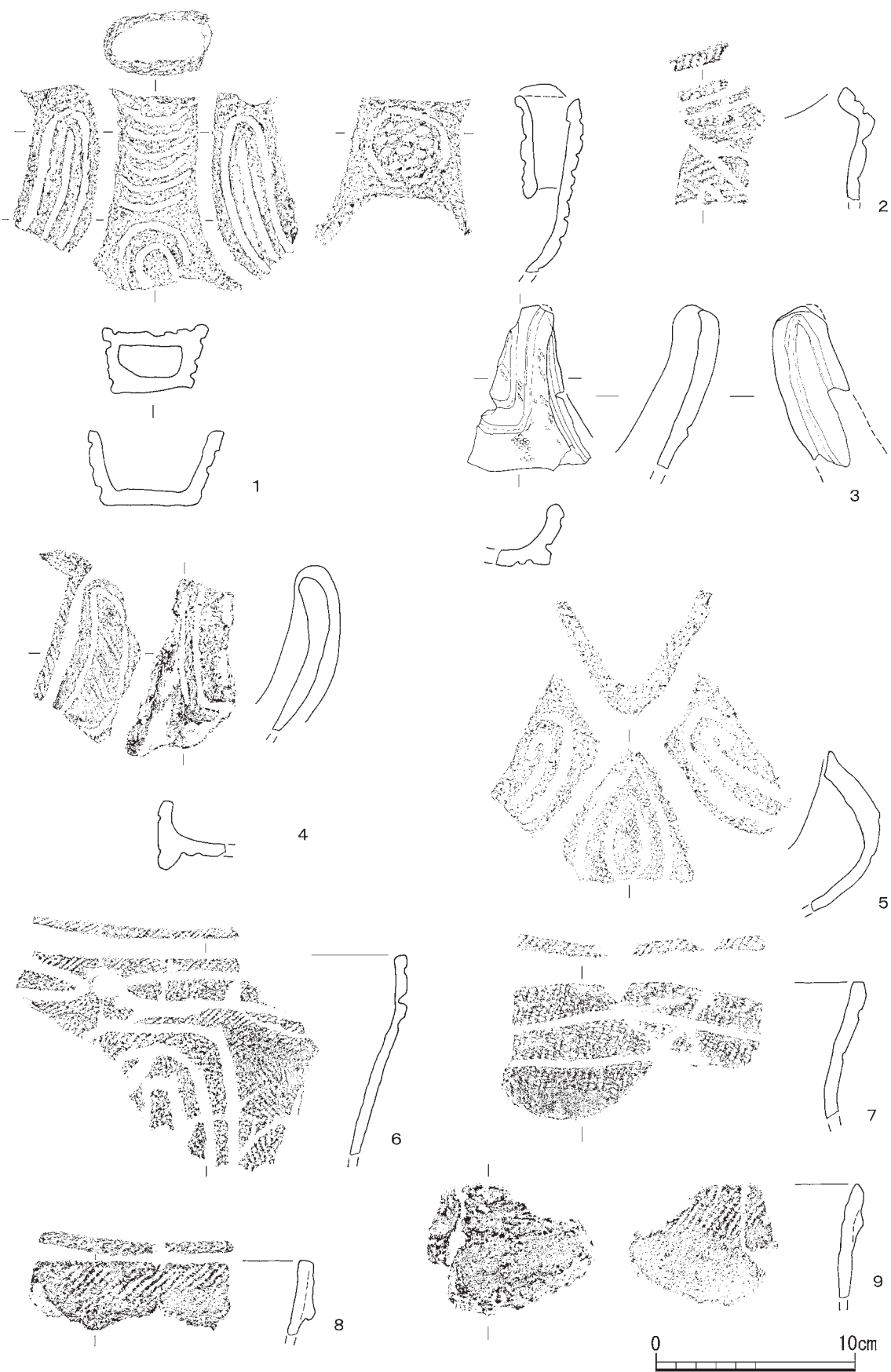
土坑S K14 60は隆帯によって楕円形に区画した北白川C式土器の有文深鉢頸部である。横方向の楕円形区画が接する部分の上部には、棒状の工具による刺突が確認できる。

土坑S K16 61は口縁部外面に多重沈線が施される北白川C式土器の有文浅鉢口縁部である。

土坑S K20 67・68は北白川C式土器の有文深鉢口縁部である。70は外面に縄文の施された北白川C式土器の無文深鉢口縁部である。

土坑S K21 72は北白川C式土器の無文深鉢頸部である。75は凹線が施された後期後葉の凹線文土器の胴部である。

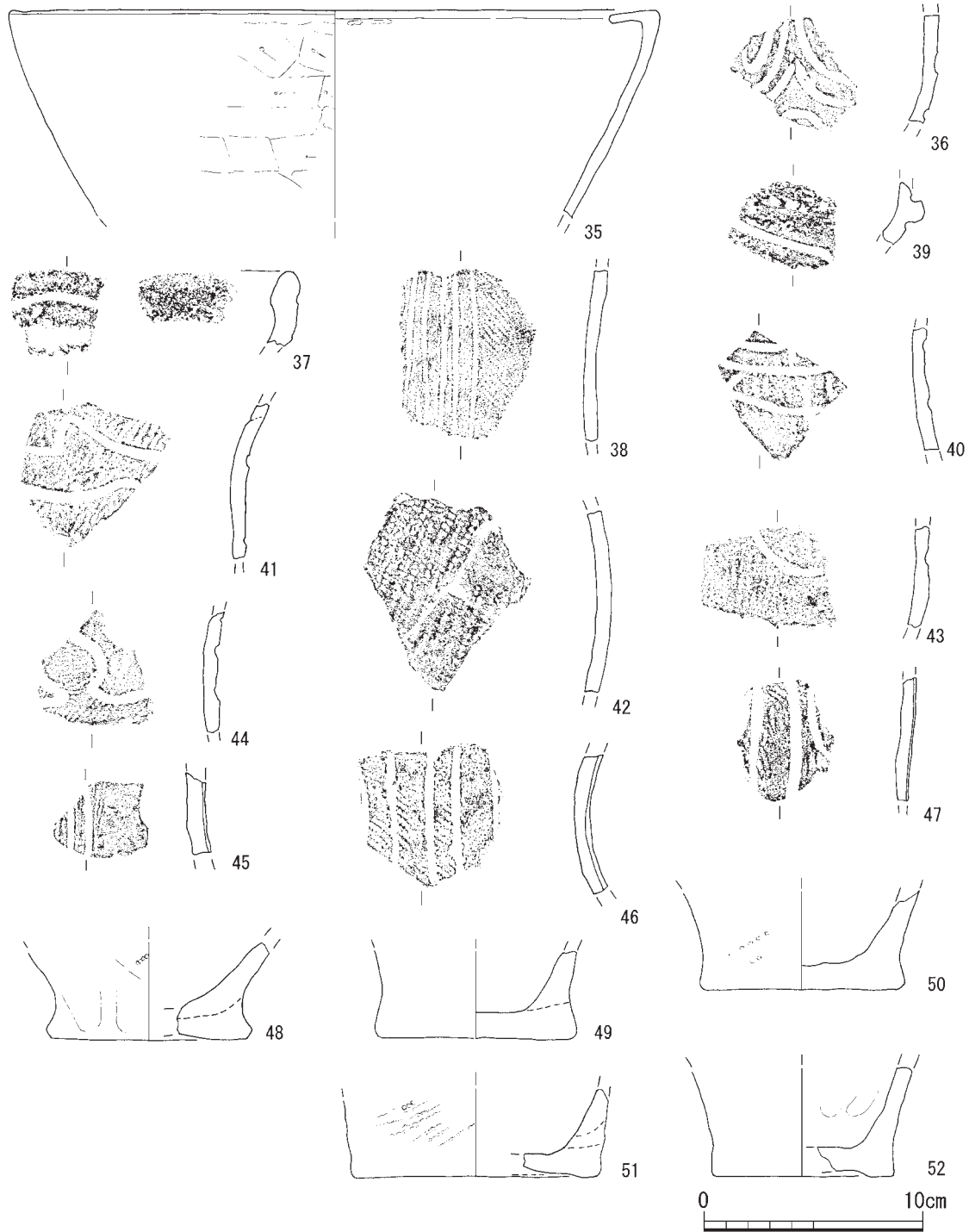
土坑S K24 71は縄文が施された北白川C式土器の無文深鉢胴部である。74は口縁部が肥厚



第15図 長岡京跡右京第984次調査 大型落ち込み状遺構 S X08出土縄文土器(1)



第16図 長岡京跡右京第984次調査 大型落ち込み状遺構 S X08出土縄文土器(2)



第17図 長岡京跡右京第984次調査 大型落ち込み状遺構 S X08出土縄文土器(3)

する北白川C式土器の無文深鉢である。

土坑 S K26 69は北白川C式土器の有文深鉢口縁部である。口縁端面には工具によるキザミが施される。

土坑 S K27 73は小片のためはっきりしないが、縄文時代後期前葉の堀之内式土器の胴部と考えられる。

(2)長岡京跡右京第988次(7ANOOD-10)調査(第19～54図)



第18図 長岡京跡右京第984次調査 遺構出土縄文土器

①長岡京期(第19図)

溝SD01 77は須恵器の壺胴部である。78は須恵器の底部で高台は付かない。79は須恵器甕の口縁部である。82は丸瓦の受け部である。83・84は平瓦である。今回の調査では軒瓦は出土せず、隣接地で調査した右京第927次に比べると出土量は極端に減少した。

溝SD02 80は杯Bの底部である。これまでの調査で見つかった土器に比べると、この個体には高台の取り付け方に古い様相が認められる。81は須恵器の蓋で、頂部に輪状のつまみが剥がれた跡が残る。

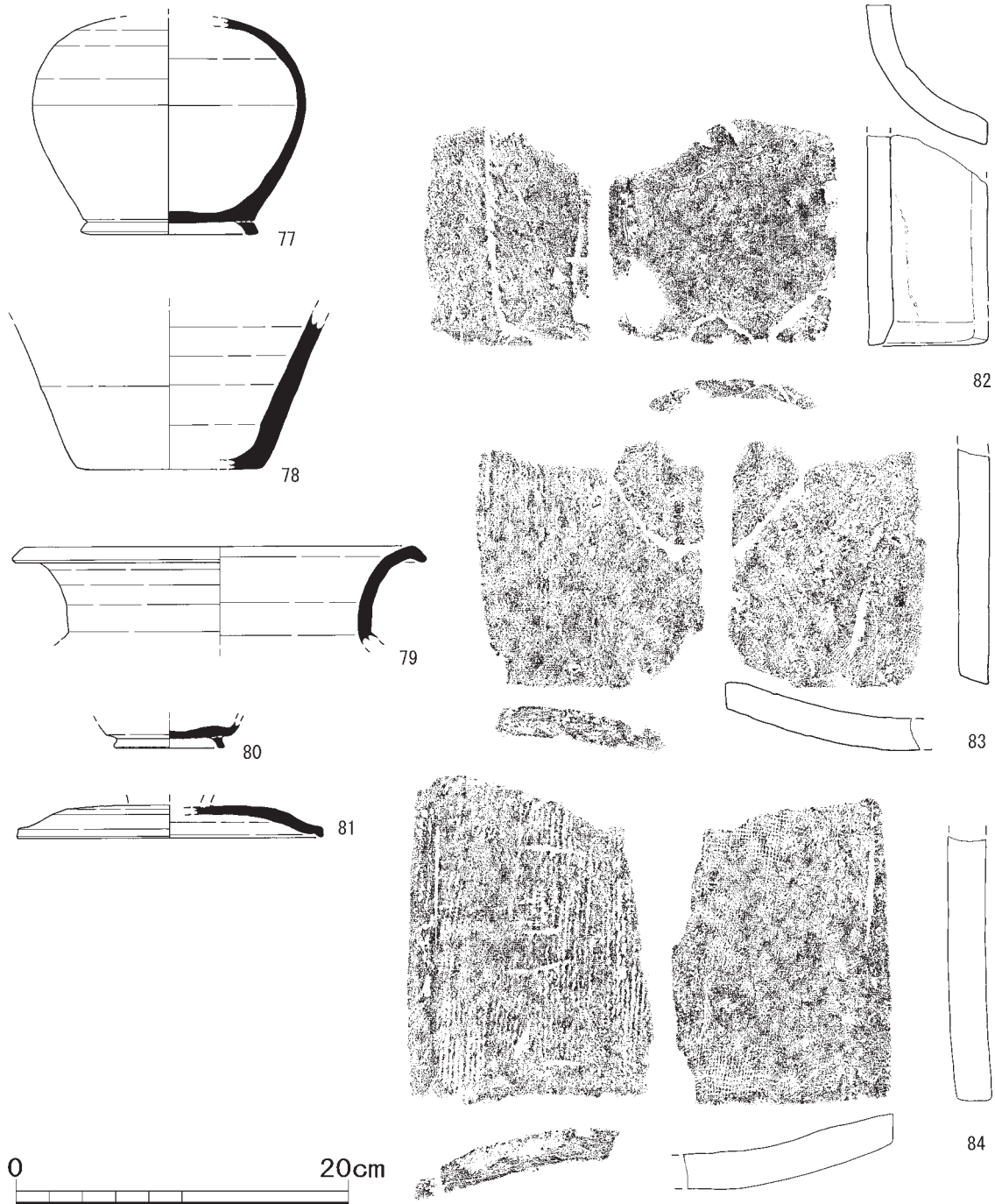
②古墳時代(第20図)

溝SD106 85は6世紀初頭の須恵器杯蓋である。86は須恵器の杯身である。87は土師器の壺である。88は土師器の甕で、体部外面は縦方向のハケ、内面はケズリで調整される。

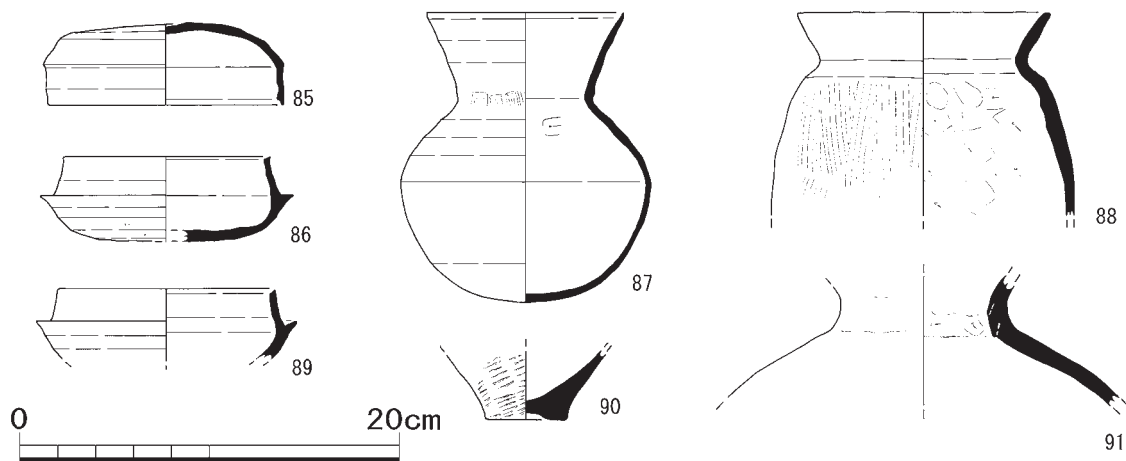
落ち込み状遺構 S X 205 89は6世紀初頭の須恵器杯身である。この遺構からは縄文時代からの遺物が混在するが、この須恵器が時期のわかるものでは最も新しい遺物である。90は古墳時代初頭の外面がタタキで調整された甕の底部である。91は粘土の接合痕がよく残っている土師器の壺の頸部である。

③縄文時代

竪穴式住居跡 S H 89(第21～32図) 92～126は波状口縁を持つ北白川C式土器の深鉢である。105は全体にナデ調整のみでわずかに沈線による施文が施されるが、非常に大きな突起部に復元



第19図 長岡京跡右京第984次調査 溝 S D 01・02出土遺物

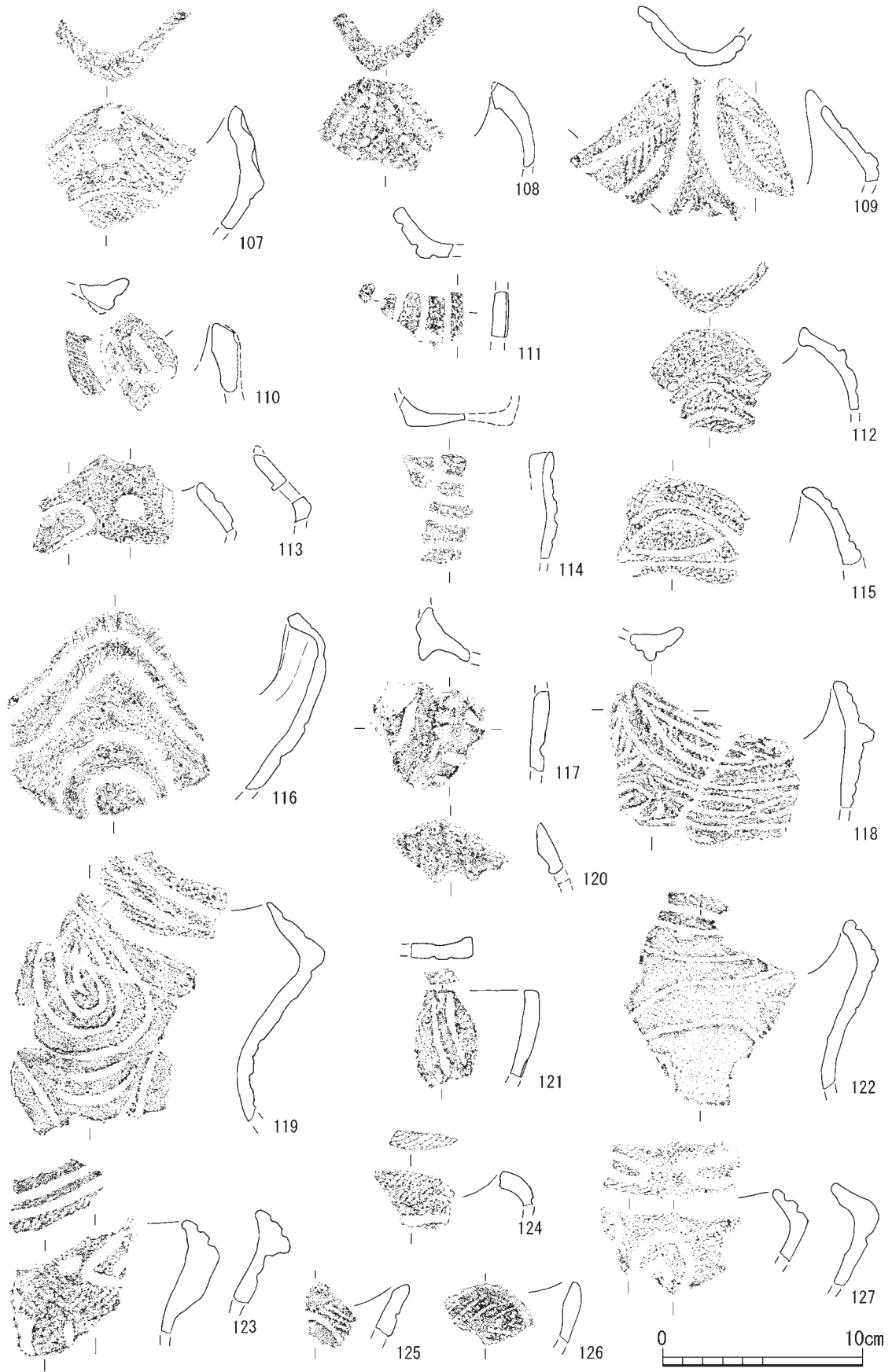


第20図 長岡京跡右京第988次調査 古墳時代遺構出土遺物

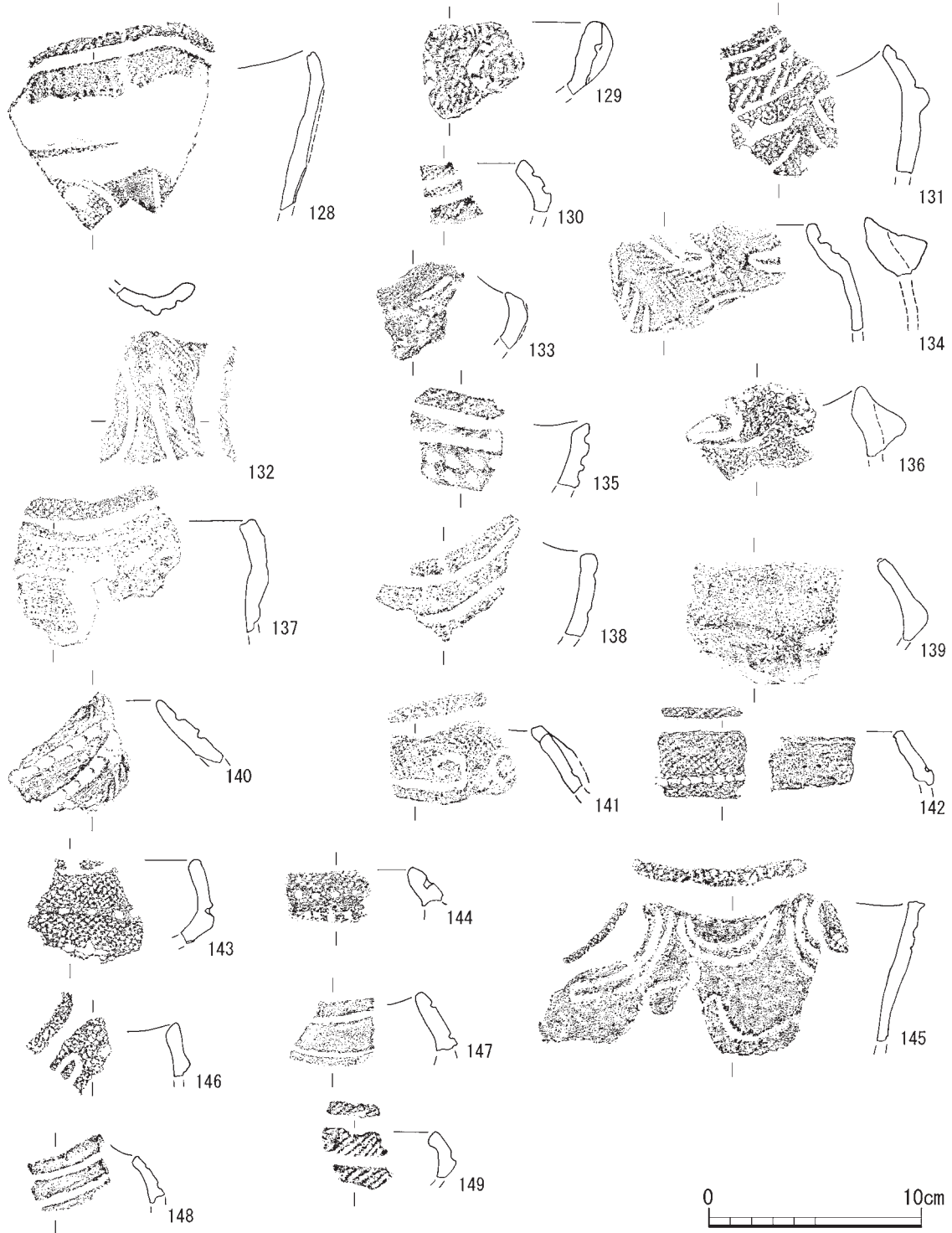
できるもので、こうした土器の中では文様が少ないことが注目される。127は口縁部外面を沈線によって横方向に楕円に区画し、その隣り合う部分が突出する。128は波状口縁を持つ深鉢で、器表面には大きく剝離した跡が存在する。橋状把手などが付けられていた可能性が高い。129～138・140・141・146～148は波状口縁を持つ深鉢である。139は隆帯によって横方向に楕円形状に区画していく深鉢である。143・144は口縁外面に縄文を施した後、刺突によって施文した深鉢口縁部である。小片のため口縁が波状を呈したかは不明である。149は縄文と沈線で施文された深鉢口縁部である。小片のため口縁が波状を呈したかは不明である。145は2つに分かれる突出部を持つ深鉢である。沈線によって口縁部の形状に沿って施文されている。150～153・155は非常によく似た色調・胎土を示す個体である。しかしながら150・151は平縁で、152・153は波状口縁の様相を示している。口縁部の個体は口縁部付近には施文されず、隆帯の下から沈線文が施される。156～160・162は特徴が酷似した土器片であるが接点は存在しない。いずれも口縁外面を肥厚させた土器で、頸部との段差部分を上から凹点を施し突出させる。肥厚部分からは多重弧線文が施される。162は口縁部が欠損しているが同様のものと考えられる。162には焼成後に穿孔された穴が2か所存在する。161もまた肥厚部分からは多重弧線文が施される深鉢であるが、162とは胎土が著しく異なる。163は口縁外面を肥厚させ、その肥厚部から下に沈線文が施された深鉢であるが、上記の156～160・162と文様形態が異なる。164～182は平縁の深鉢口縁部である。166は肥厚した部分の下側を凹線で「L」字状に施文している。183～206は平縁の深鉢口縁部である。189は隆帯を渡すように橋状把手が付けられている。207～211・215・219は平縁の有文深鉢口縁部である。212・213は無文深鉢である。214は無文深鉢口縁部で、口縁端にキザミが施されているが上部はわずかに欠損している。216～218・220～223・225は無文深鉢口縁部である。224・226は胎土に大きな砂粒を含まないよく似た無文浅鉢の口縁部である。227は穿孔が施され口縁端面に縄文を持つ浅鉢である。228は平口縁の沈線による施文をもつ有文浅鉢である。229は「く」字状に屈曲する口縁部を持つ無文浅鉢である。230は口縁部が「く」字状に屈曲し、屈曲部に縄文を施し、口縁外面に凹点を置く浅鉢で、胎土は砂粒をほとんど含まず、丁寧に作られ



第21図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器(1)



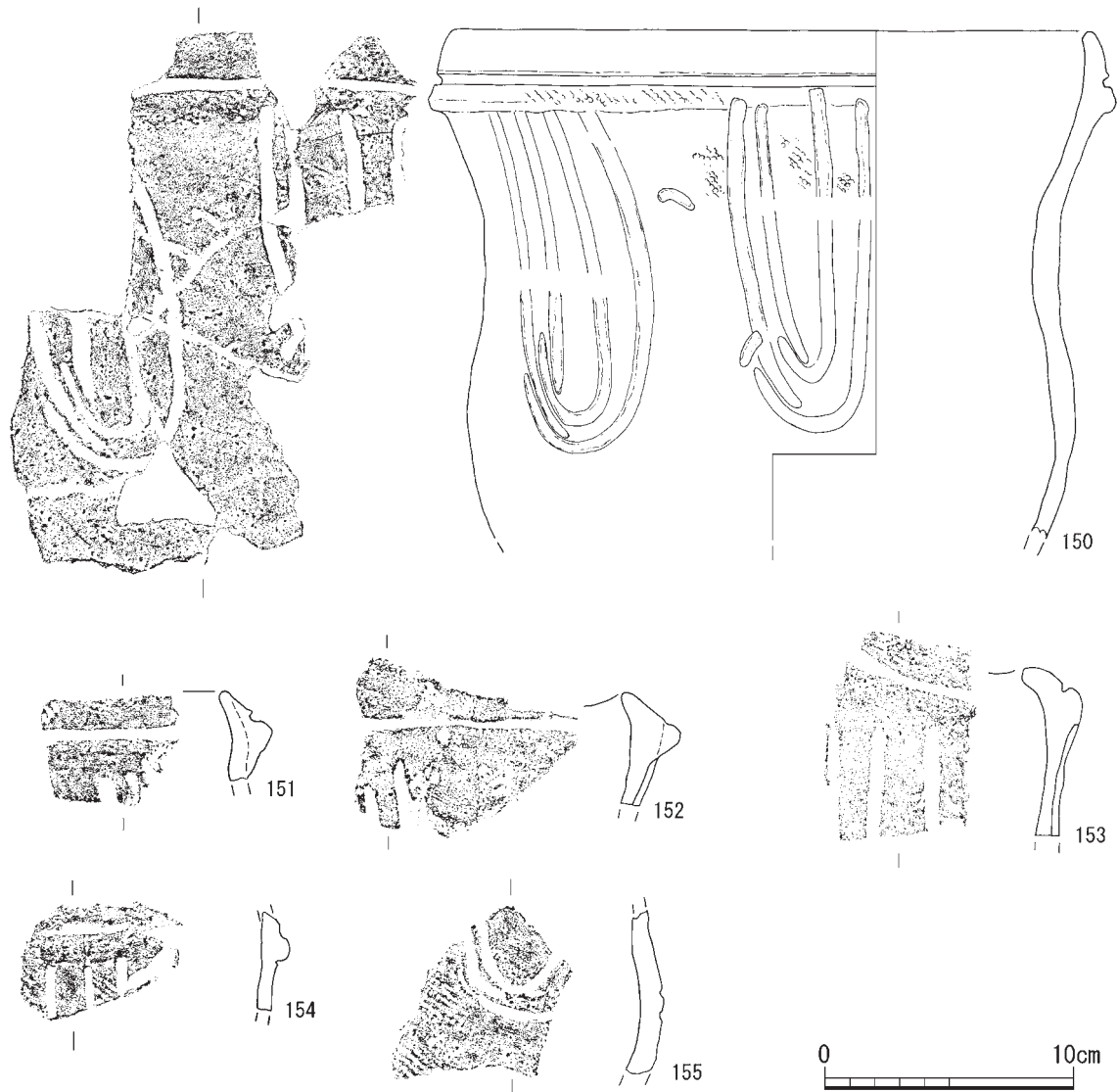
第22図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡S H89出土縄文土器(2)



第23図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡S H89出土縄文土器(3)

ている。231～255は北白川C式土器の深鉢胴部及び頸部である。233は隆帯を渡すように橋状把手が付けられている。234は大きな波状口縁をもつ個体と考えられる。238は横方向に楕円形区画を巡らす有文深鉢である。256～279は北白川C式土器の有文深鉢胴部である。280は土器を再利用した錘である。

281～284は北白川上層式土器の有文深鉢口縁部である。281・283は肥厚した口縁部外面に縄



第24図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡S H89出土縄文土器(4)

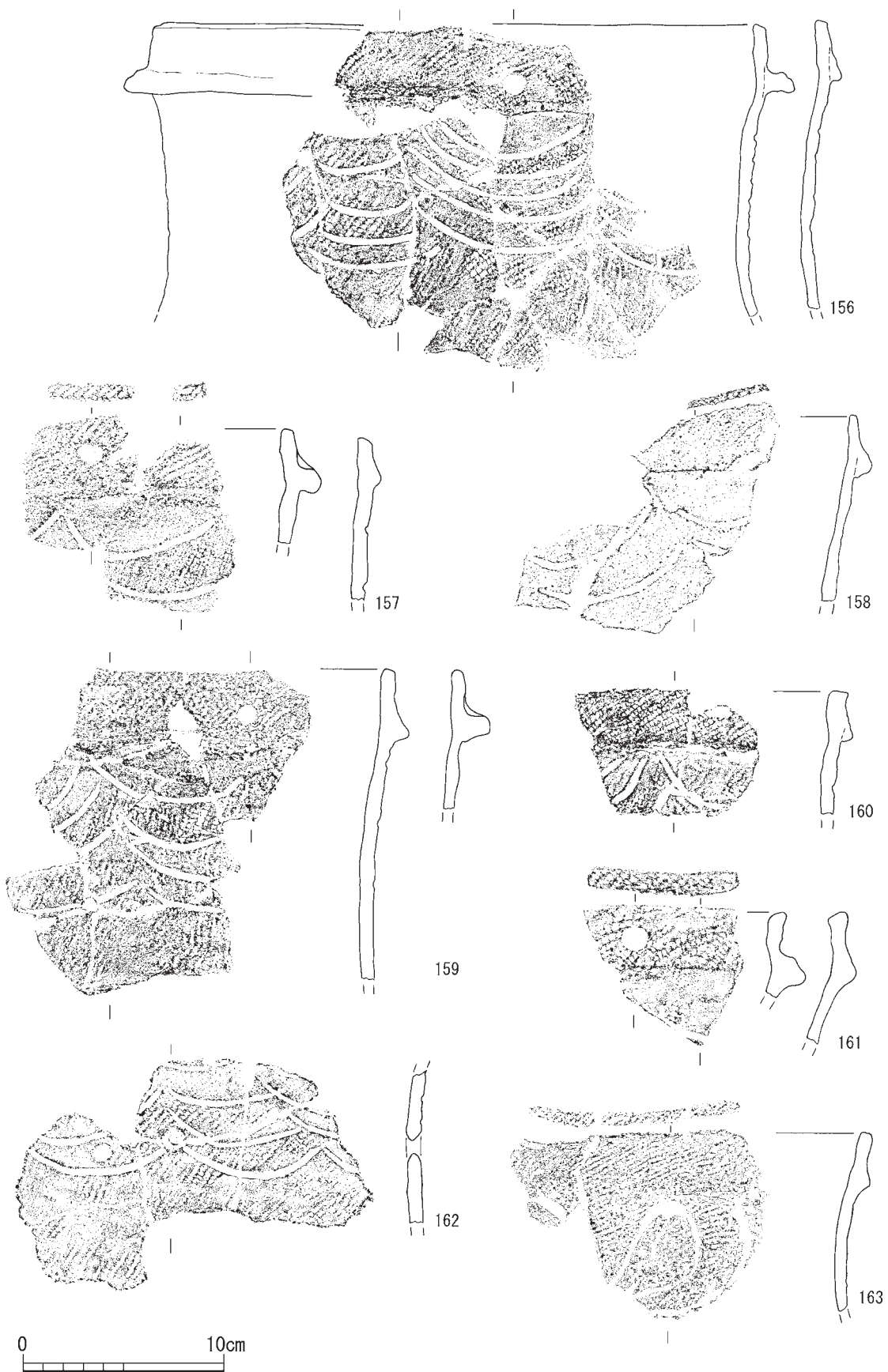
文があり、その下から縦方向に多条の細い沈線が施される。282・284は口縁内面に縄文が施文されている。285～287は凹線文土器で元住吉山式土器と考えられる有文深鉢である。

281～287は北白川C式土器以外の土器であり、図化できるもののすべてである。

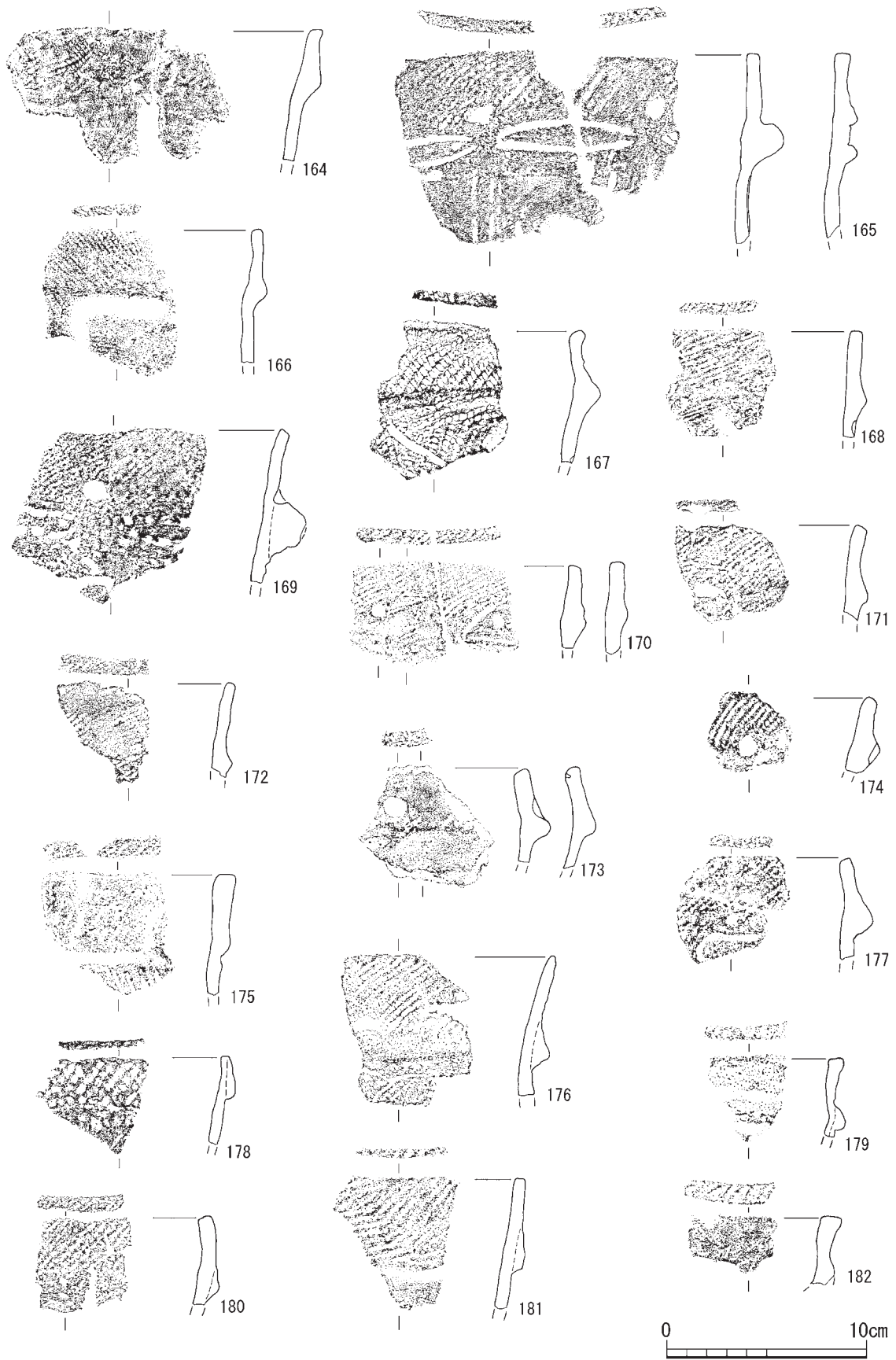
288～312は北白川C式土器の深鉢底部である。289は沈線と縄文によって底面が施文される。290は底面に対向するように「C」字状の沈線文が施され、器表面底面近くにまで沈線文が認められ稜を形成するように整形された部分も認められる。291は底面の地面と接するか所と器面底部付近に縄文が施される。296は底面全面に縄文が施された個体である。

竪穴式住居跡S H85(第33図) 313～327・329・330の縄文土器が出土している。313～324・326・327・330は北白川C式土器である。325は器壁が薄く角閃石を含んでいることから縄文時代後期のものと考えられる。329は縄文時代後期後葉の凹線文土器で、器表面に凹線と貝殻の扇状圧痕が認められる。出土遺物の大半が北白川C式土器である。

竪穴式住居跡S H78(第33図) 328は北白川上層式土器の波状口縁をもつ有文深鉢口縁部であ



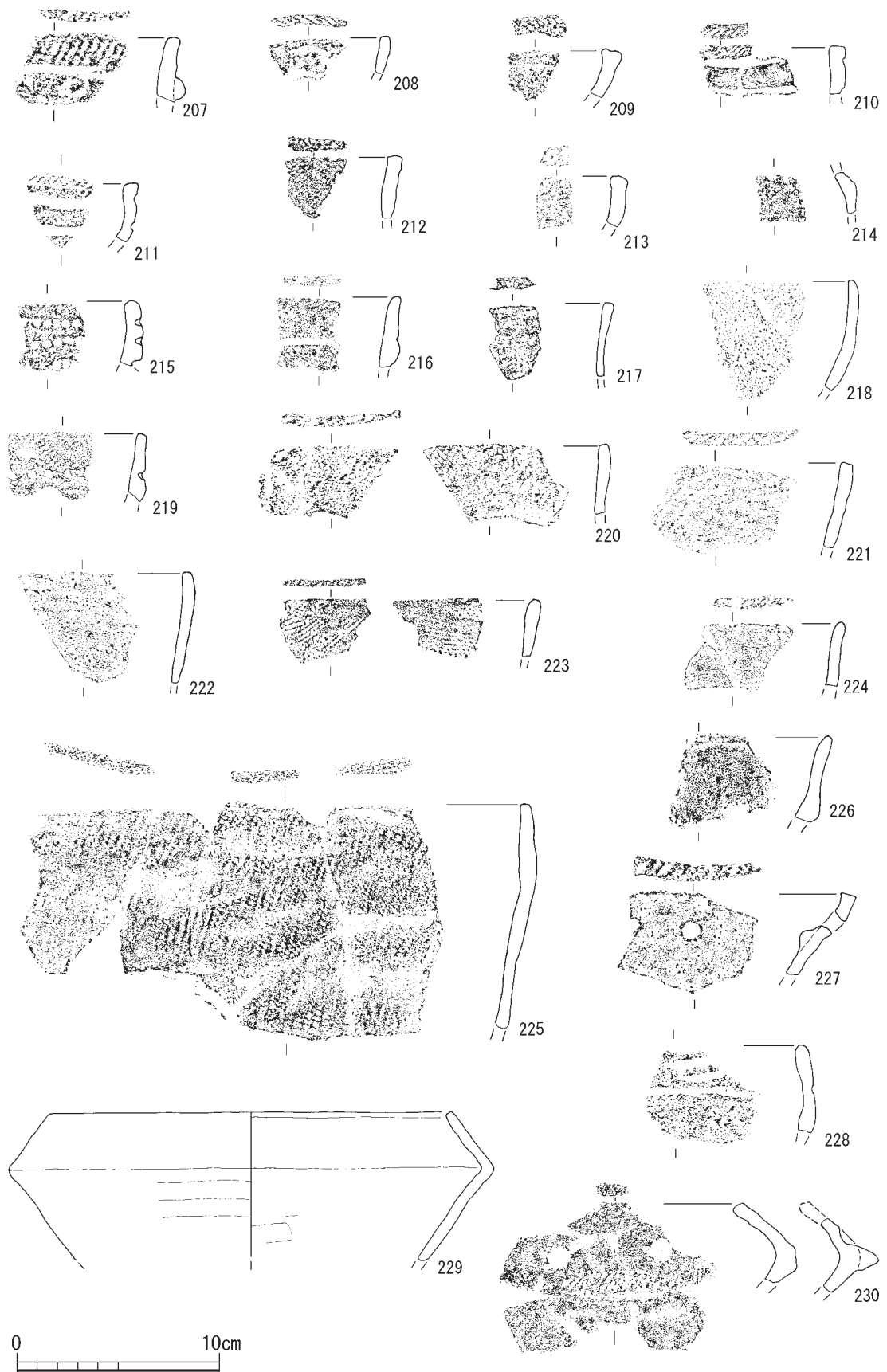
第25図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡S H89出土縄文土器(5)



第26図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡SH89出土縄文土器(6)



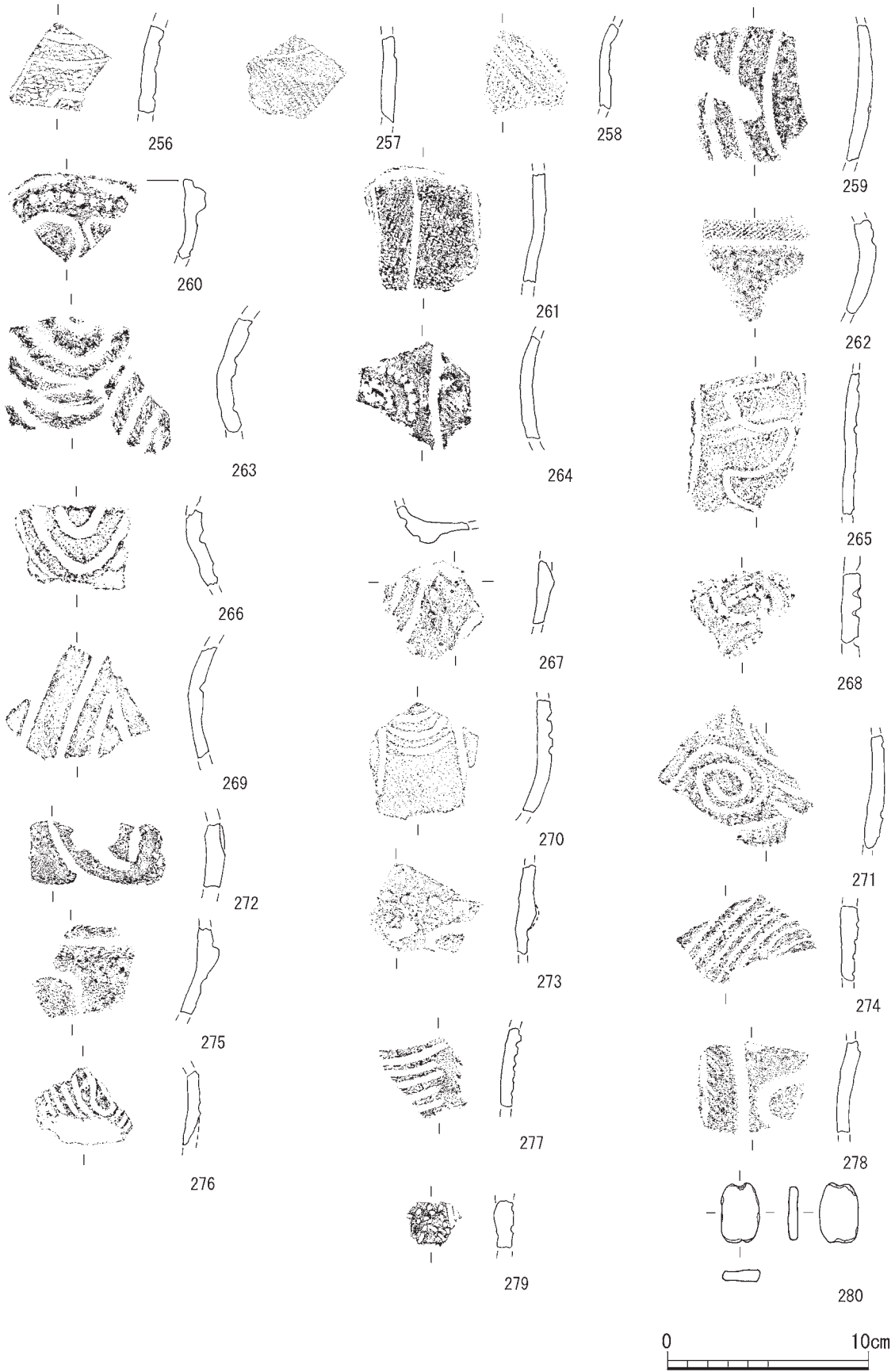
第27図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器(7)



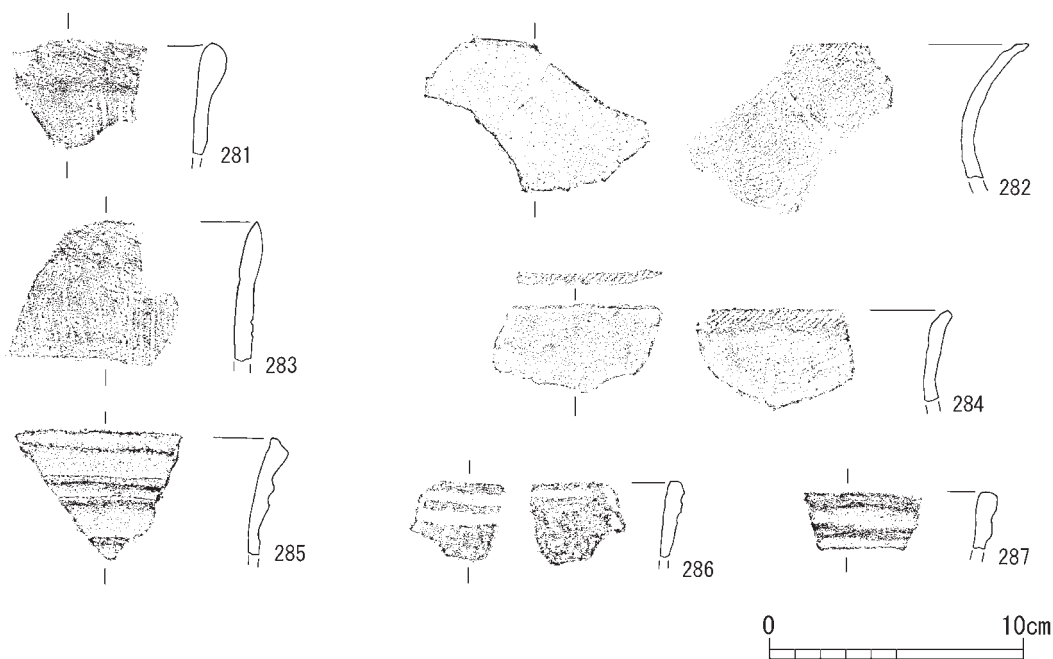
第28図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡SH89出土縄文土器(8)



第29図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡S H89出土縄文土器(9)



第30図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡S H89出土縄文土器(10)



第31図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡 S H 89出土縄文土器(11)

る。これ以外に図化できる遺物は見当たらなかった。

竪穴式住居跡 S H 107(第33図) 332・333は角閃石を含む特徴的な胎土を持つ土器の底部である。332は浅鉢底部と考えられる。縄文時代後期に属するものである。

竪穴式住居跡 S H 166(第33図) 331は凹線文土器の胴部で、元住吉山式土器と考えられる。

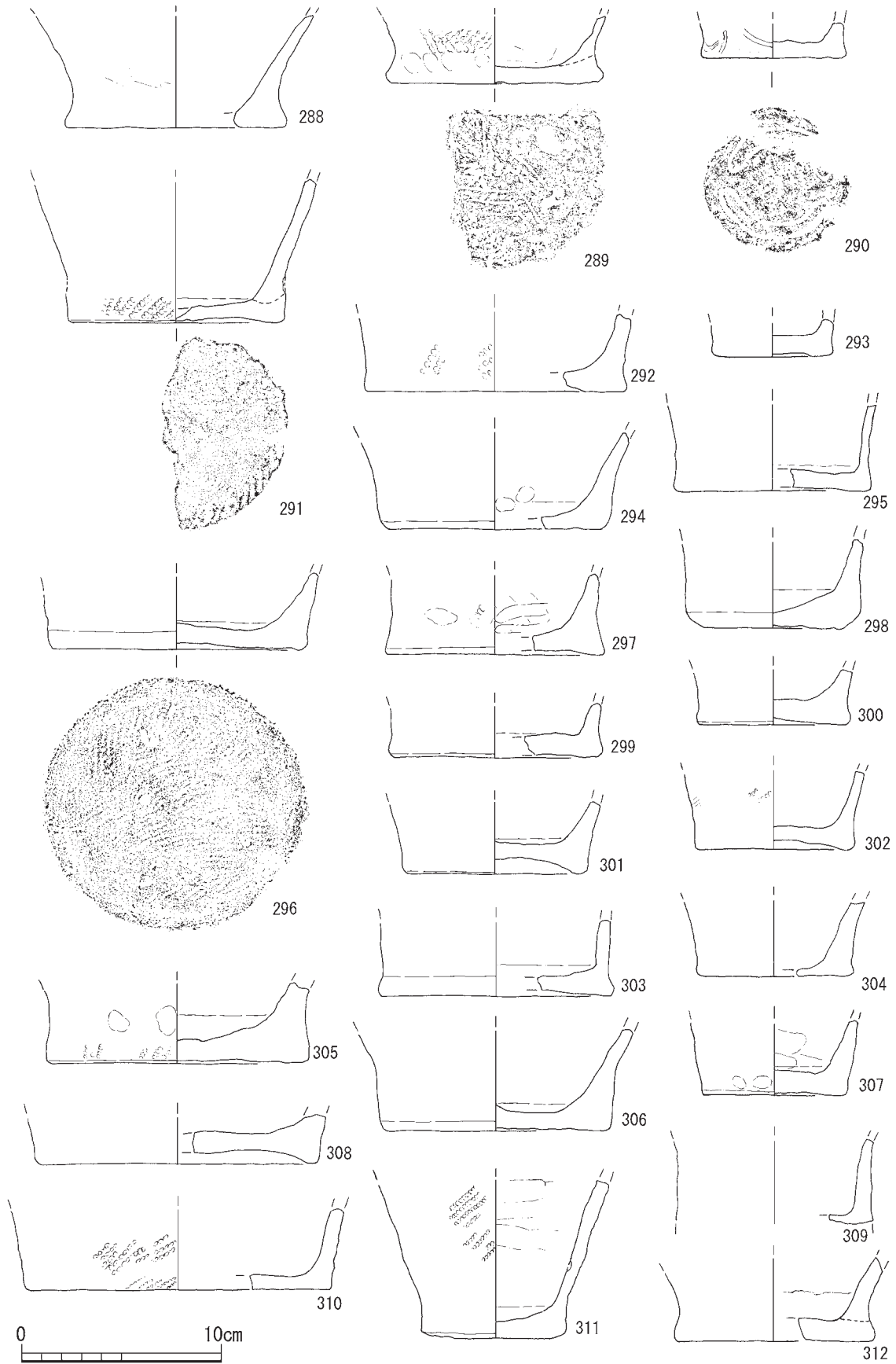
崖 S X 199(第34～44図) この遺構からは北白川上層式の土器がまとまって出土した。土器群から北白川上層式 2 期の新相、3 期の古層に位置づけられるが、ここでは 3 期として名称を用いている。

334～341は北白川上層式 3 期の波状口縁を持つ有文深鉢である。334は頸部に垂直方向の多条の沈線が施されている。336は小片で傾きがわからないが、334・346と同じような形態の個体と考えられる。340は頸部の遺存状態がよく突起部は 4 か所に復元できる。342は口縁を外側に折り曲げた土器で有文深鉢に分類したが、内面が平滑に仕上げられている浅鉢の可能性もある。343は頸部の残りが悪く口縁部形状の復元が難しいが、波状口縁を持つ有文深鉢であった可能性が高い。口縁内面はわずかに肥厚し、端面に沈線 2 条が施文される。

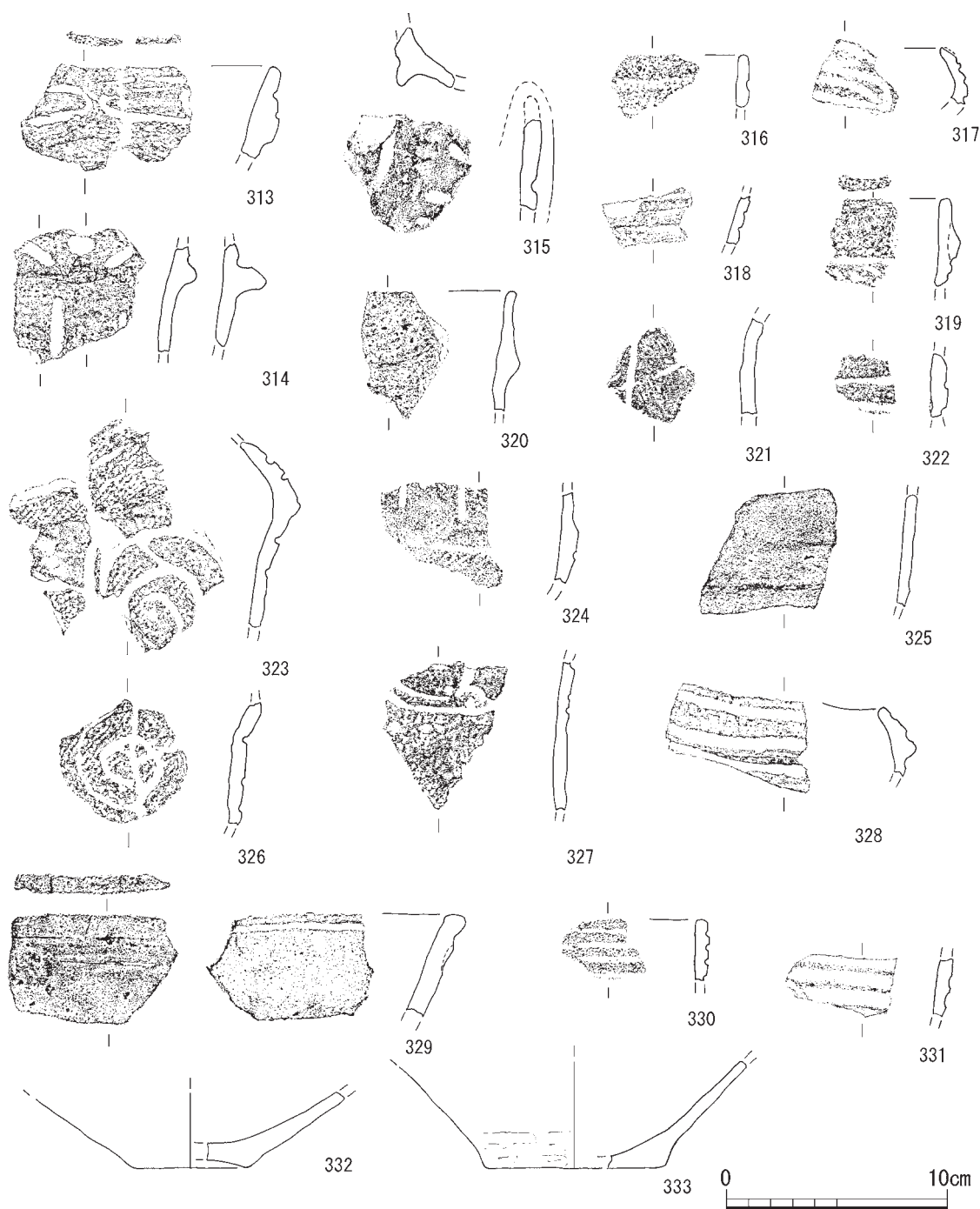
344は口縁内外面に沈線を入れ、段状に形状を整えた有文深鉢口縁部である。345・347～362は口縁口唇部外面、内面あるいはその両方に縄文が施された平縁の深鉢である。

363・364・367～375は沈線が口縁口唇部内面を回る平縁有文深鉢である。377～380は無文粗製深鉢である。379は口縁端面にキザミが施されている。

381～390・414は堀之内式土器の影響を受けたバケツ形の胴部を持つ有文深鉢である。変容が大きいことから北白川上層式 3 期として特に観察表では別の型式として区分しなかった。387～390は器表面に横方向の沈線が多条に認められる。390は387・388に見られるように密接した多条の沈線が回るものであるが、やや内湾することから浅鉢の可能性も否定できない。391～393は



第32図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡SH89出土縄文土器(12)

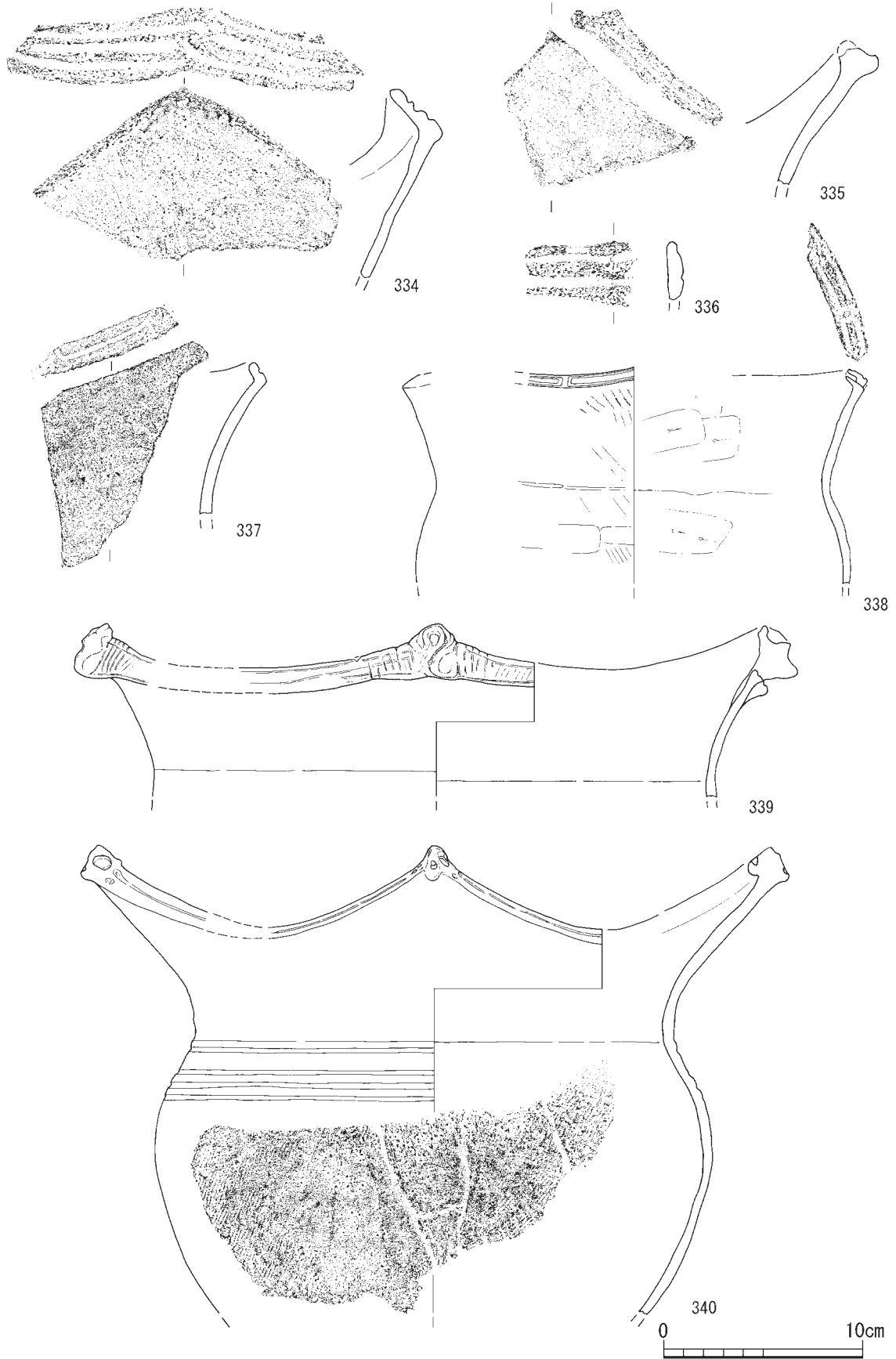


第33図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡S H78・85・107・166出土縄文土器

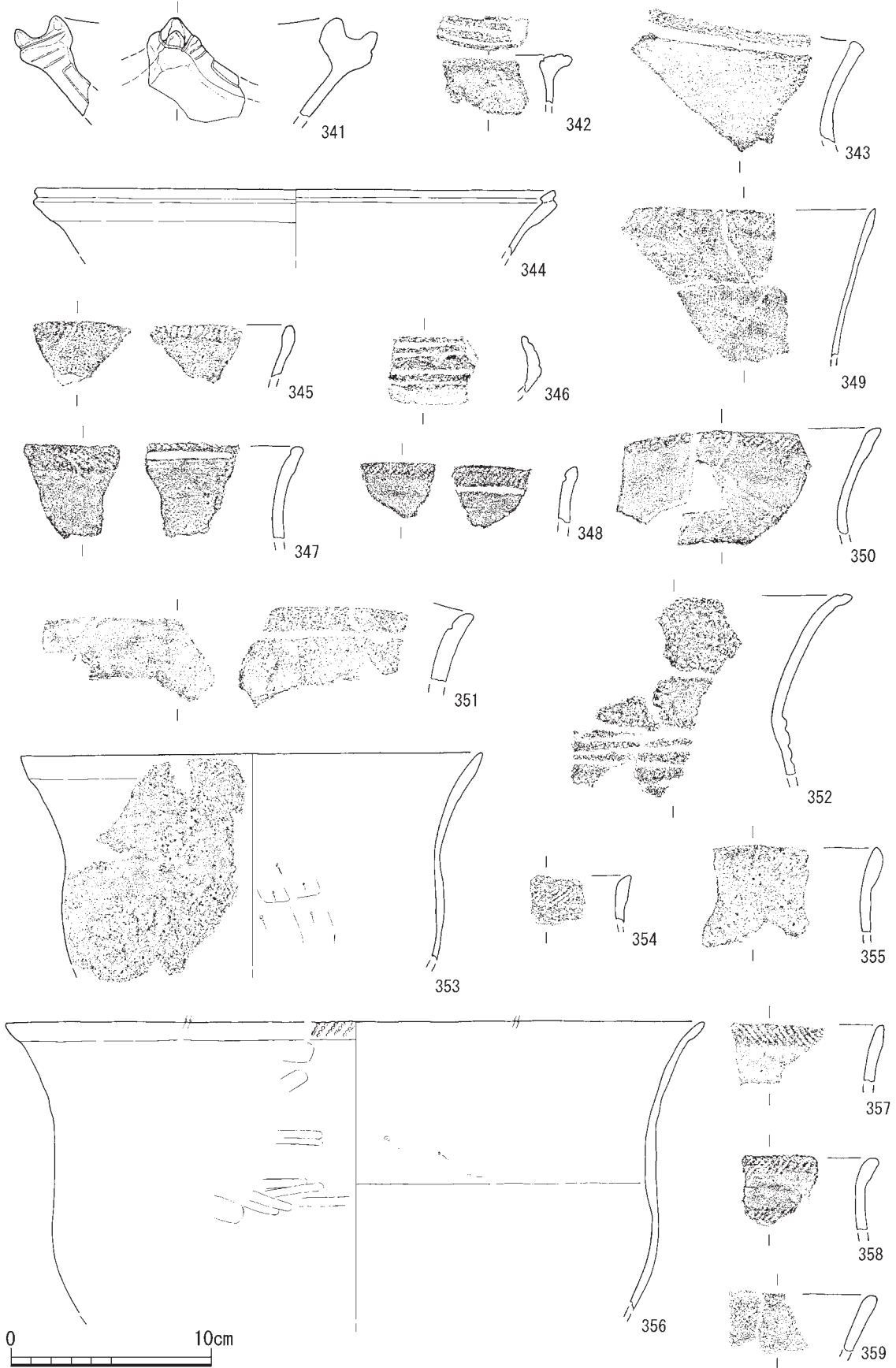
口縁端部が丸く収まる深鉢口縁部に付けられた突起部である。394は長い頸部を持つ深鉢の頸部及び胴部である。396・400・401は同一個体である可能性が高い。

407～428・430は北白川上層式3期の有文深鉢胴部である。429は縄文の施された無文深鉢の胴部である。423～428・430は細い多条の沈線が垂直方向に施される。410は状態が悪く凹線文土器の可能性もある。

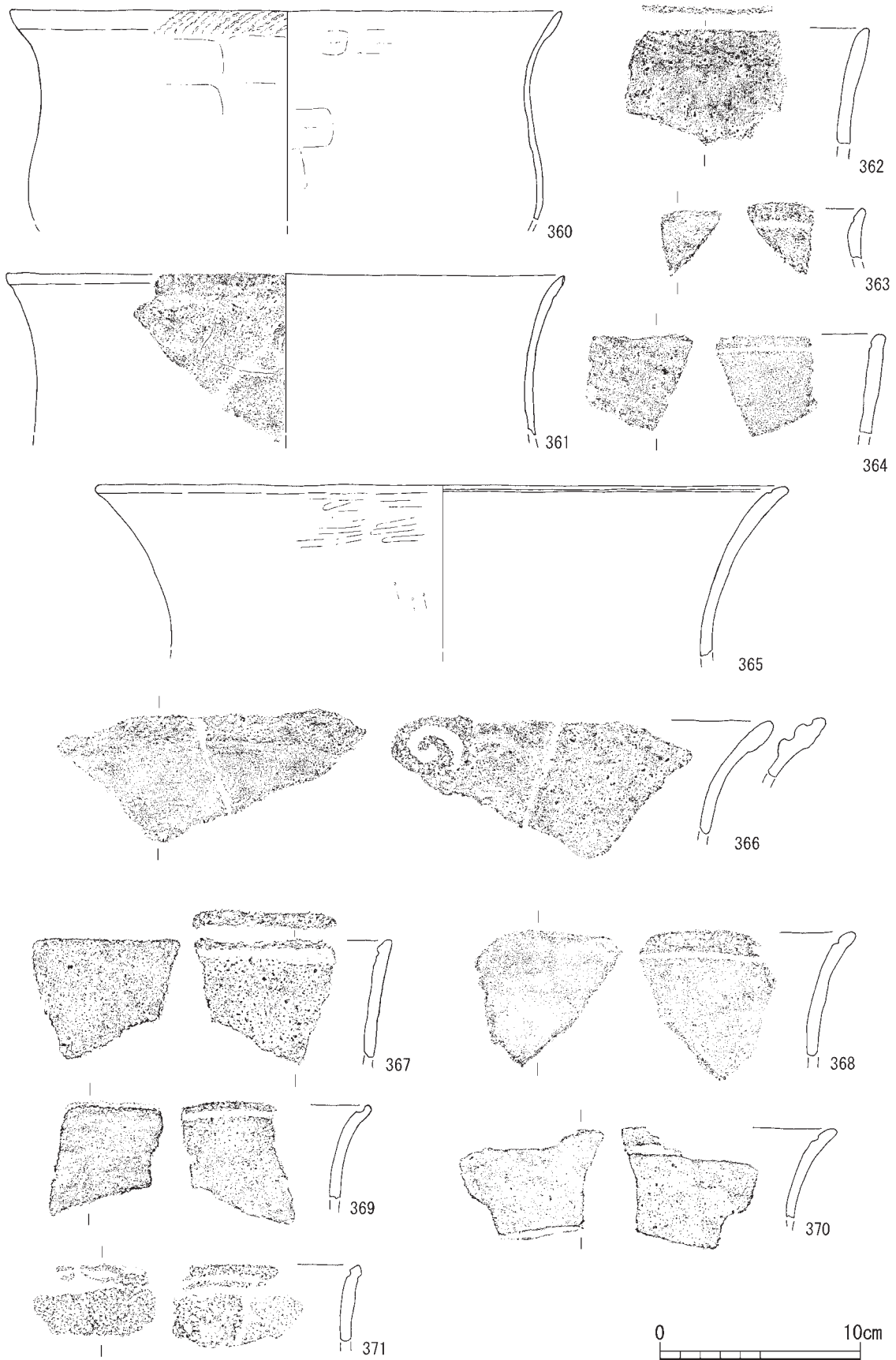
431・432は頸部から胴部において沈線が回る有文浅鉢である。433は口縁部が垂直で胴部にかけてやや広がる無文浅鉢である。434は口縁が開く有文浅鉢の口縁部である。435は多条の沈線が



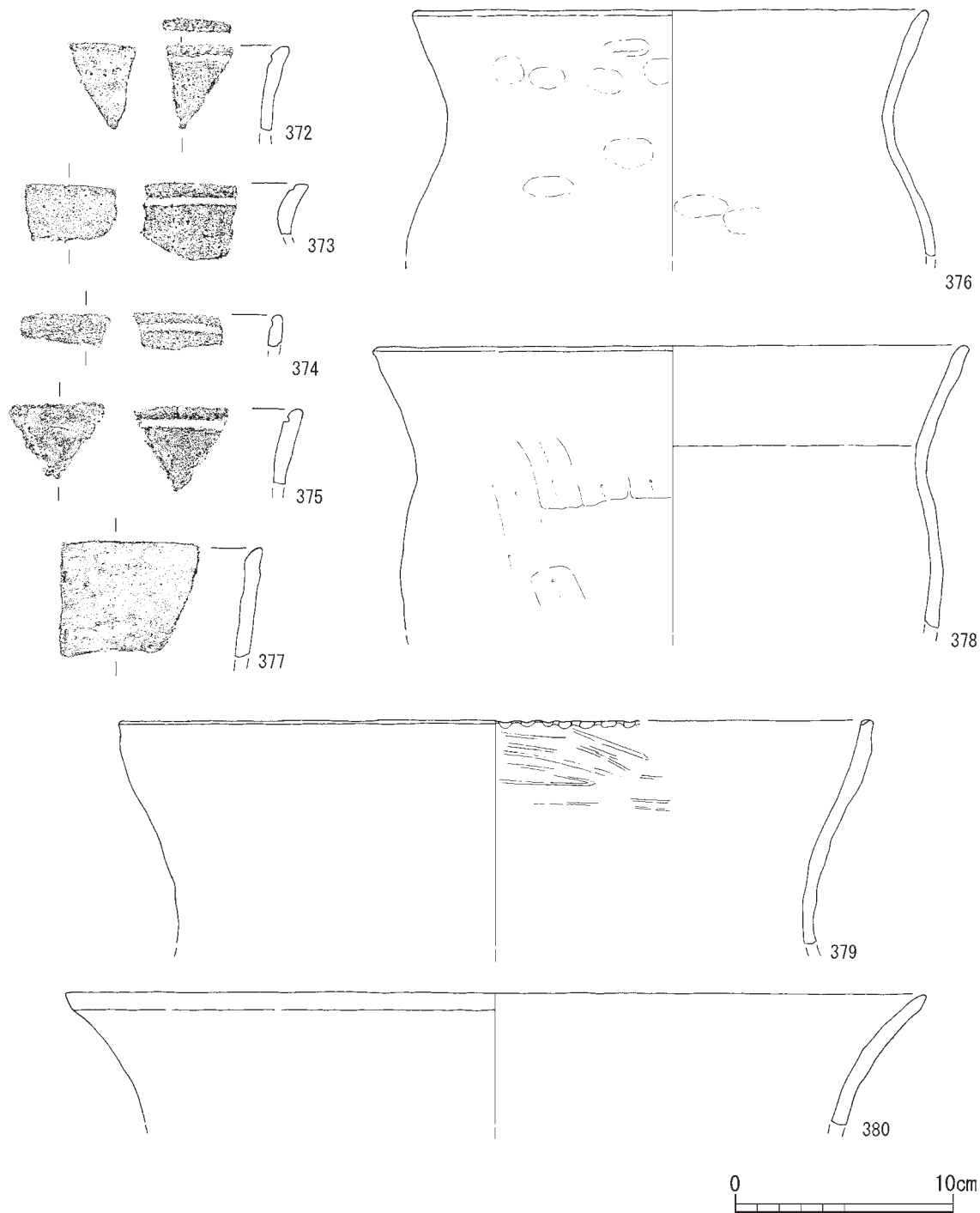
第34図 長岡京跡右京第988次調査 崖S X199出土縄文土器(1)



第35図 長岡京跡右京第988次調査 崖S X 199出土縄文土器(2)

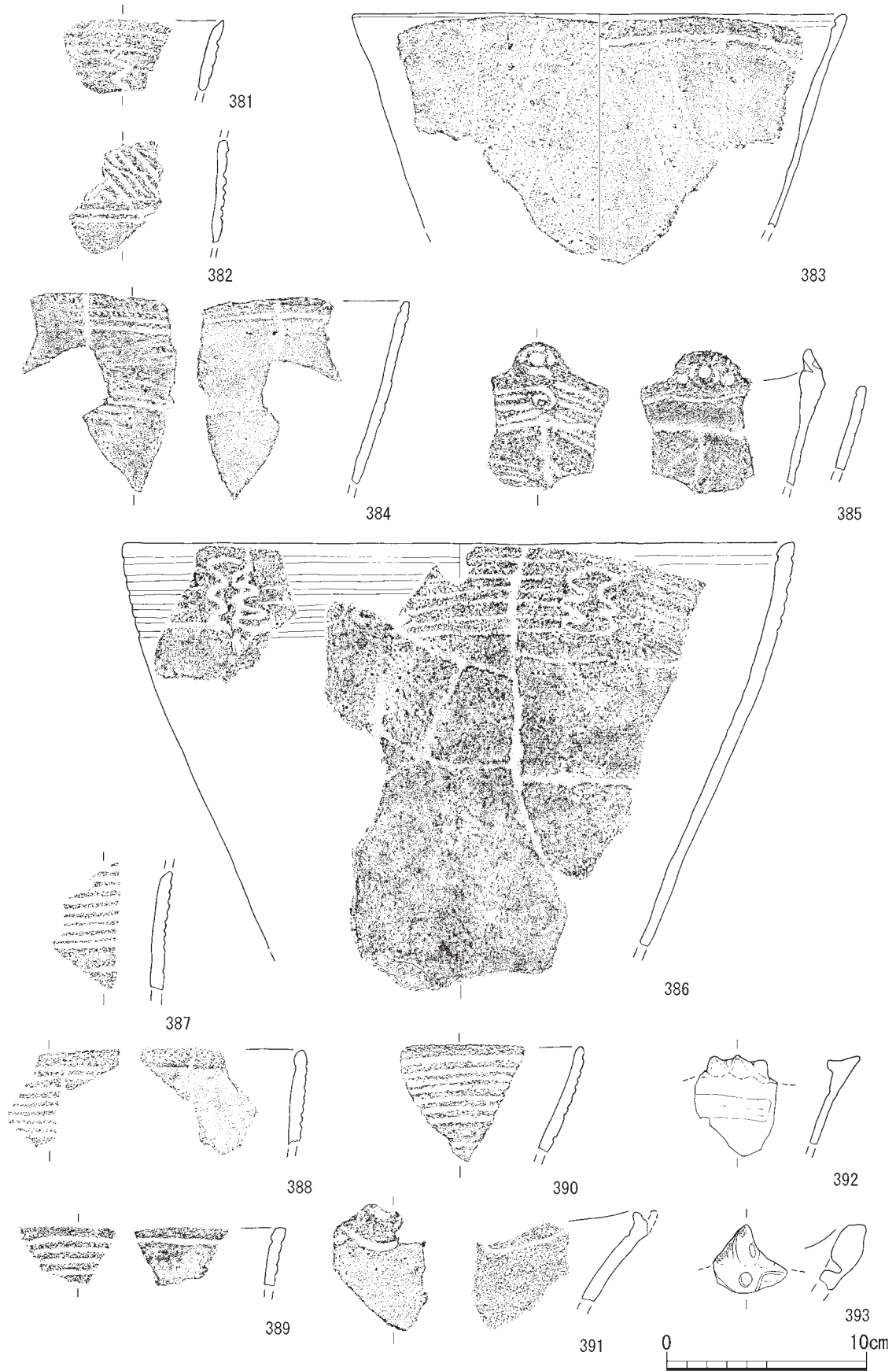


第36図 長岡京跡右京第988次調査 崖S X199出土縄文土器(3)

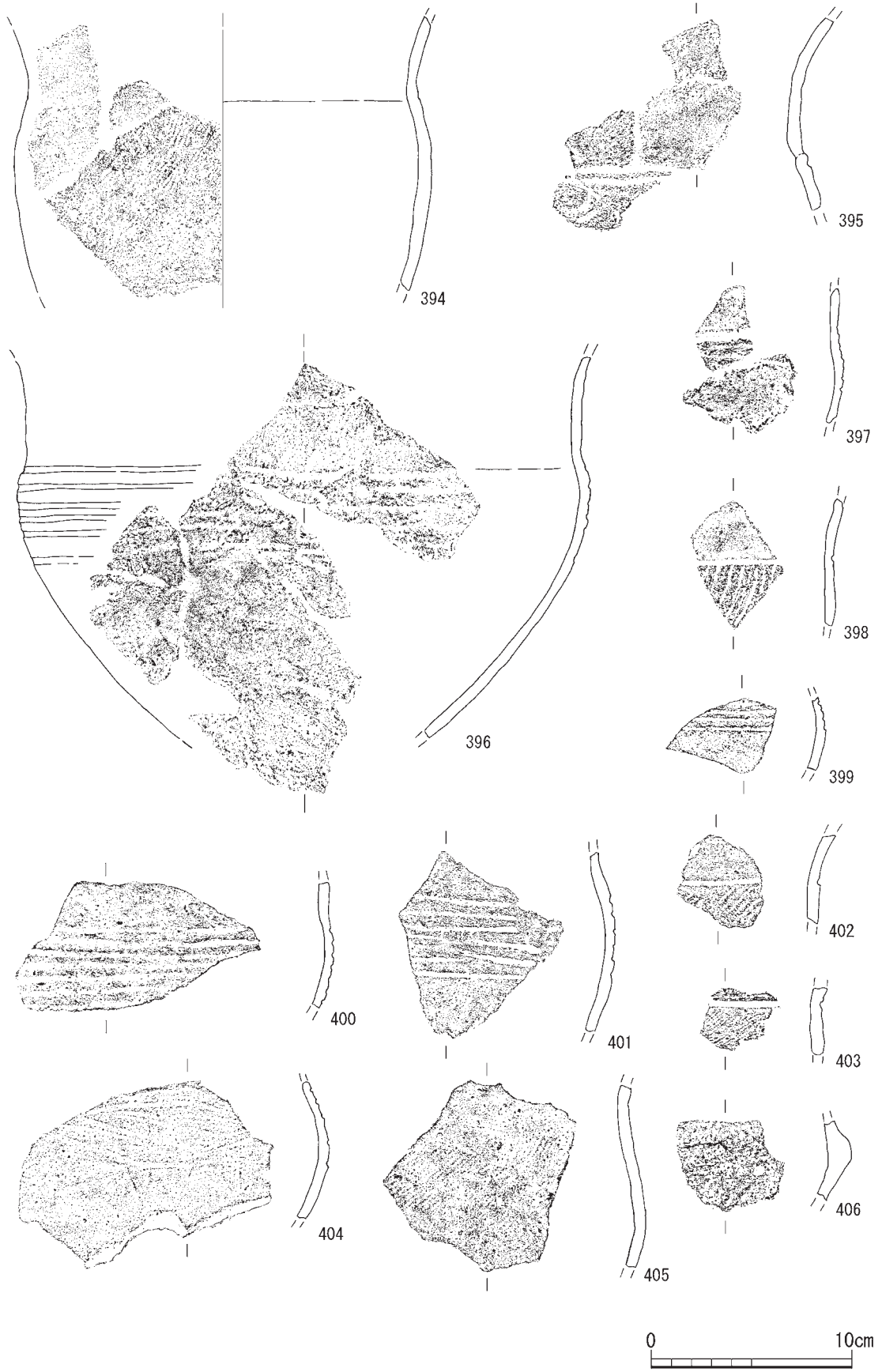


第37図 長岡京跡右京第988次調査 崖S X199出土縄文土器(4)

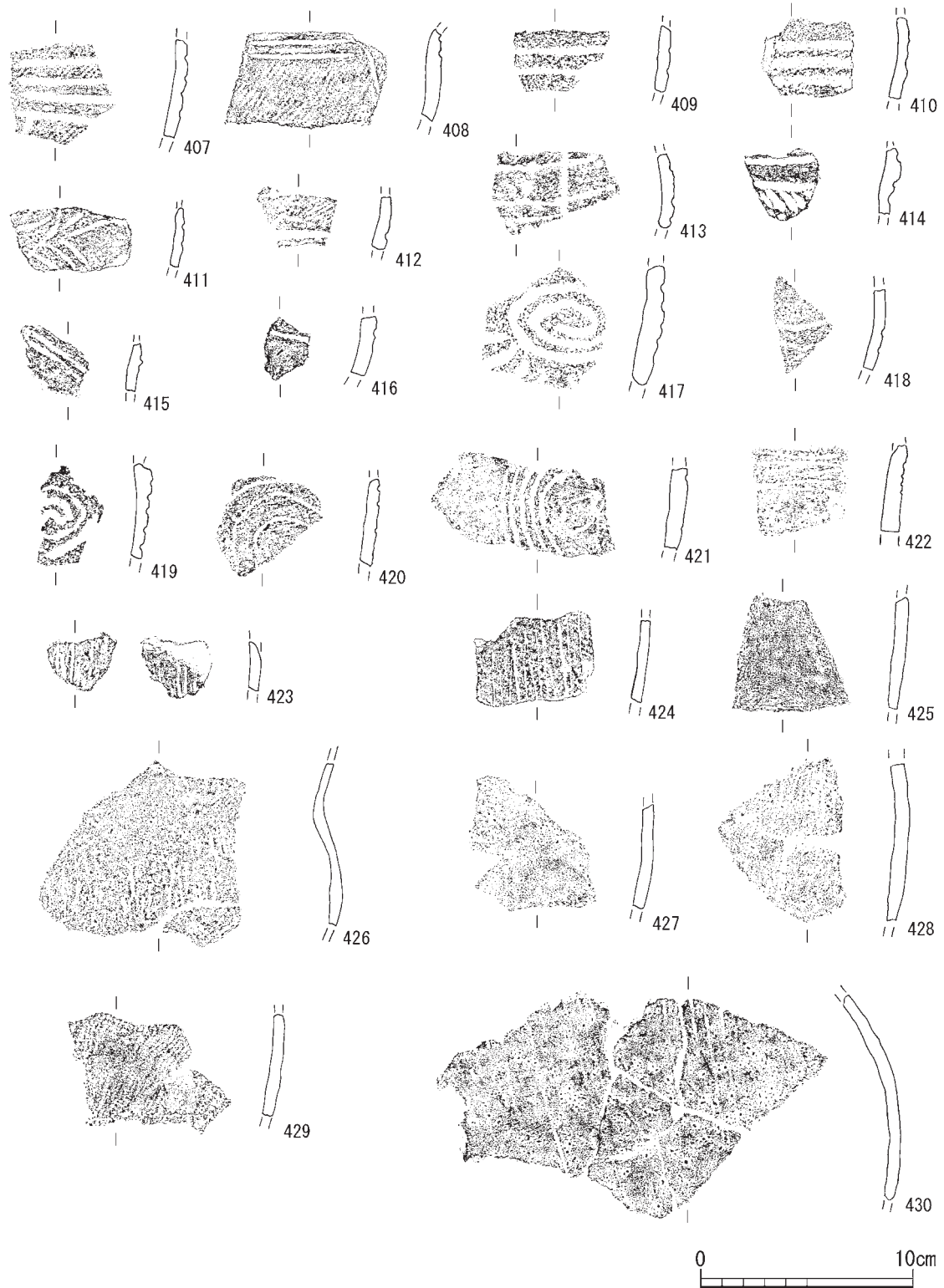
回る有文浅鉢である。436～439は無文浅鉢である。440～443は丸胴部を持つ浅鉢で、胴部に縄文が施文される。444は無文の浅鉢である。445は口縁部内面を肥厚させ沈線文を施した有文浅鉢である。446は口縁内面に沈線と押し引刺突によって施文された有文浅鉢である。447は内外面が沈線で施文された有文浅鉢である。448は口縁外面に沈線文が施された有文浅鉢である。449は内面に沈線と刺突文が施された有文浅鉢である。450・452は口縁外面に沈線がめぐる有文浅鉢である。451は口縁内面の1か所に短い粘土紐が付けられた有文浅鉢である。453～456は無文の浅鉢



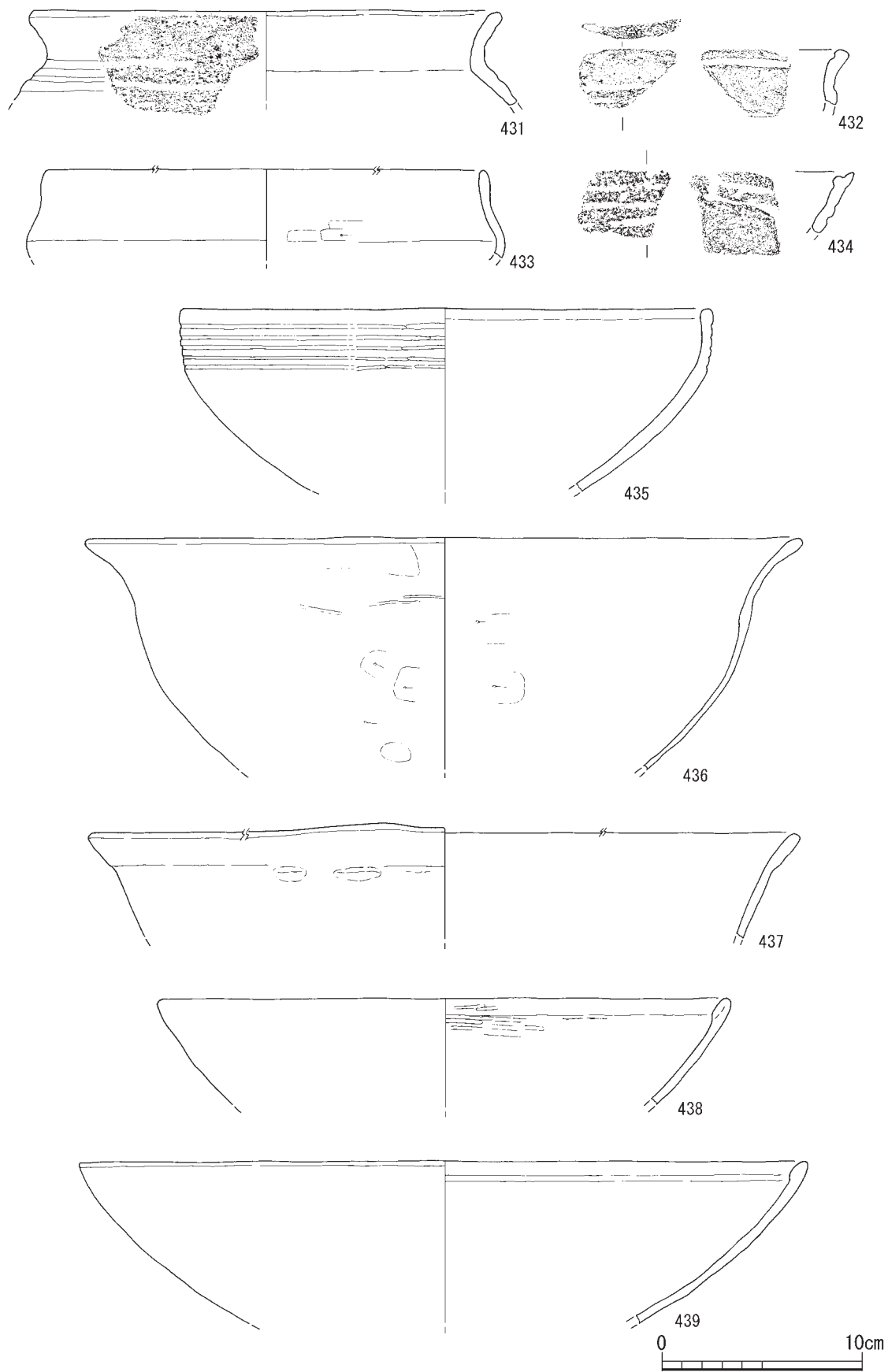
第38図 長岡京跡右京第988次調査 崖S X 199出土縄文土器(5)



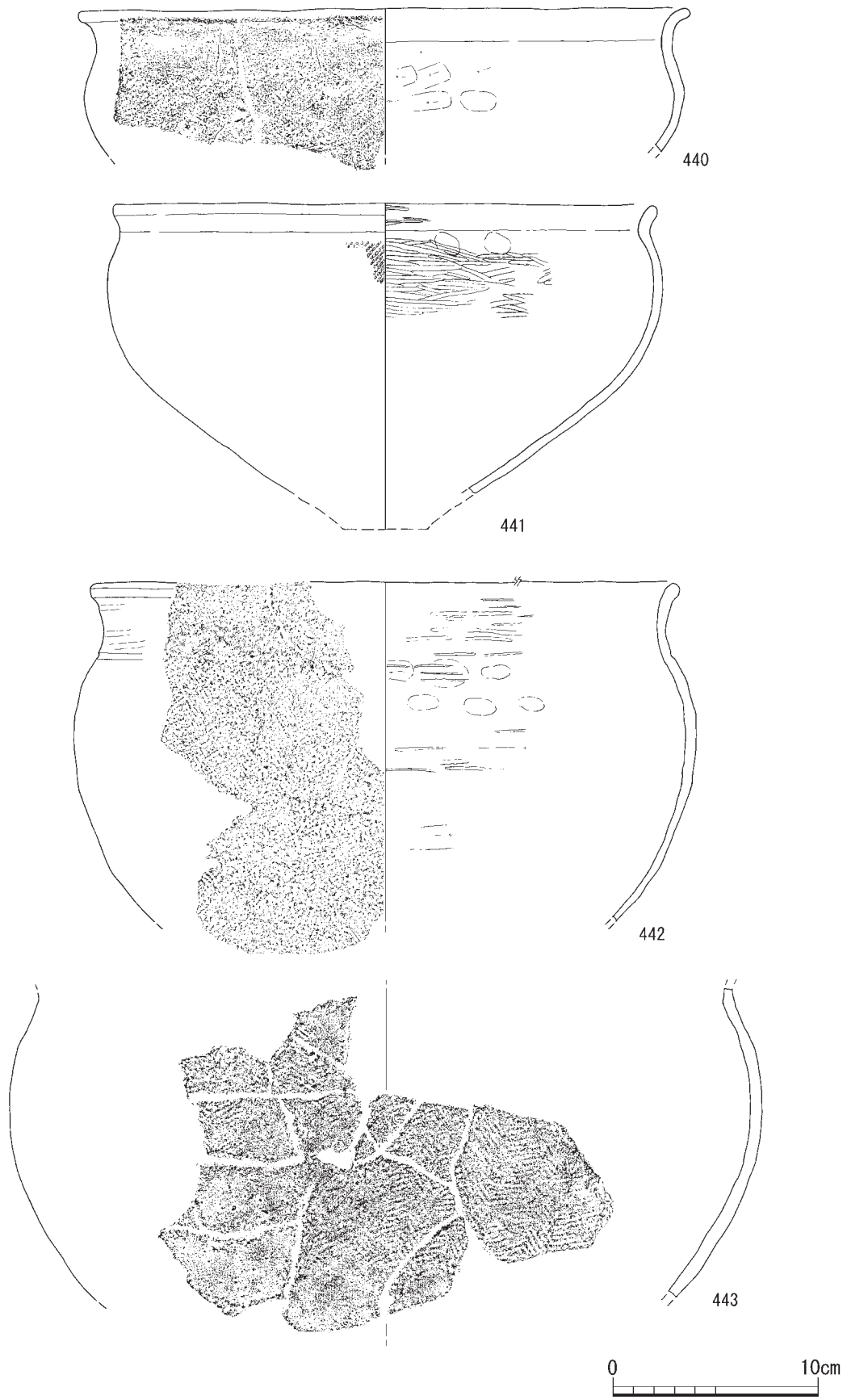
第39図 長岡京跡右京第988次調査 崖 S X 199出土縄文土器(6)



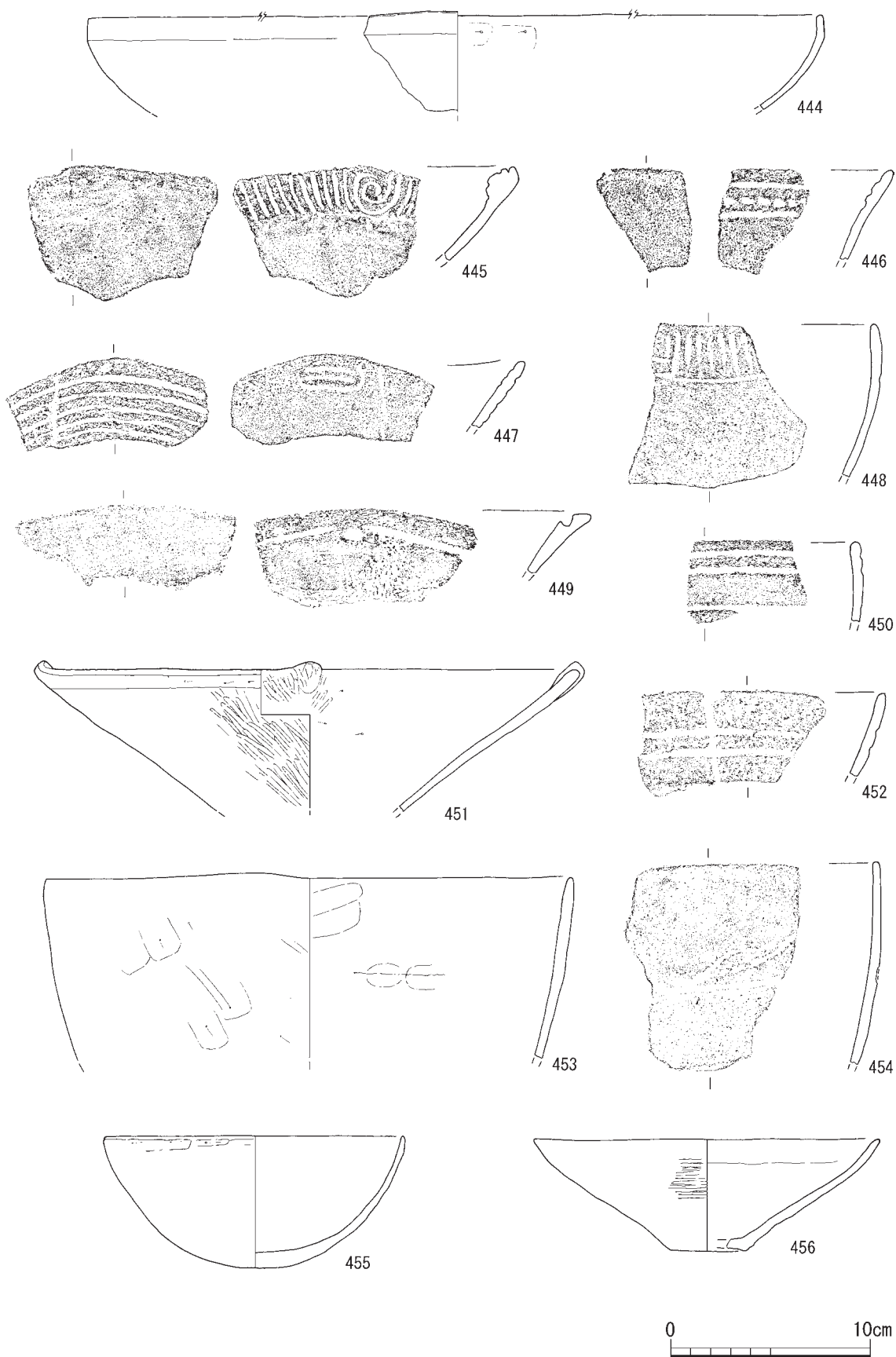
第40図 長岡京跡右京第988次調査 崖S X199出土縄文土器(7)



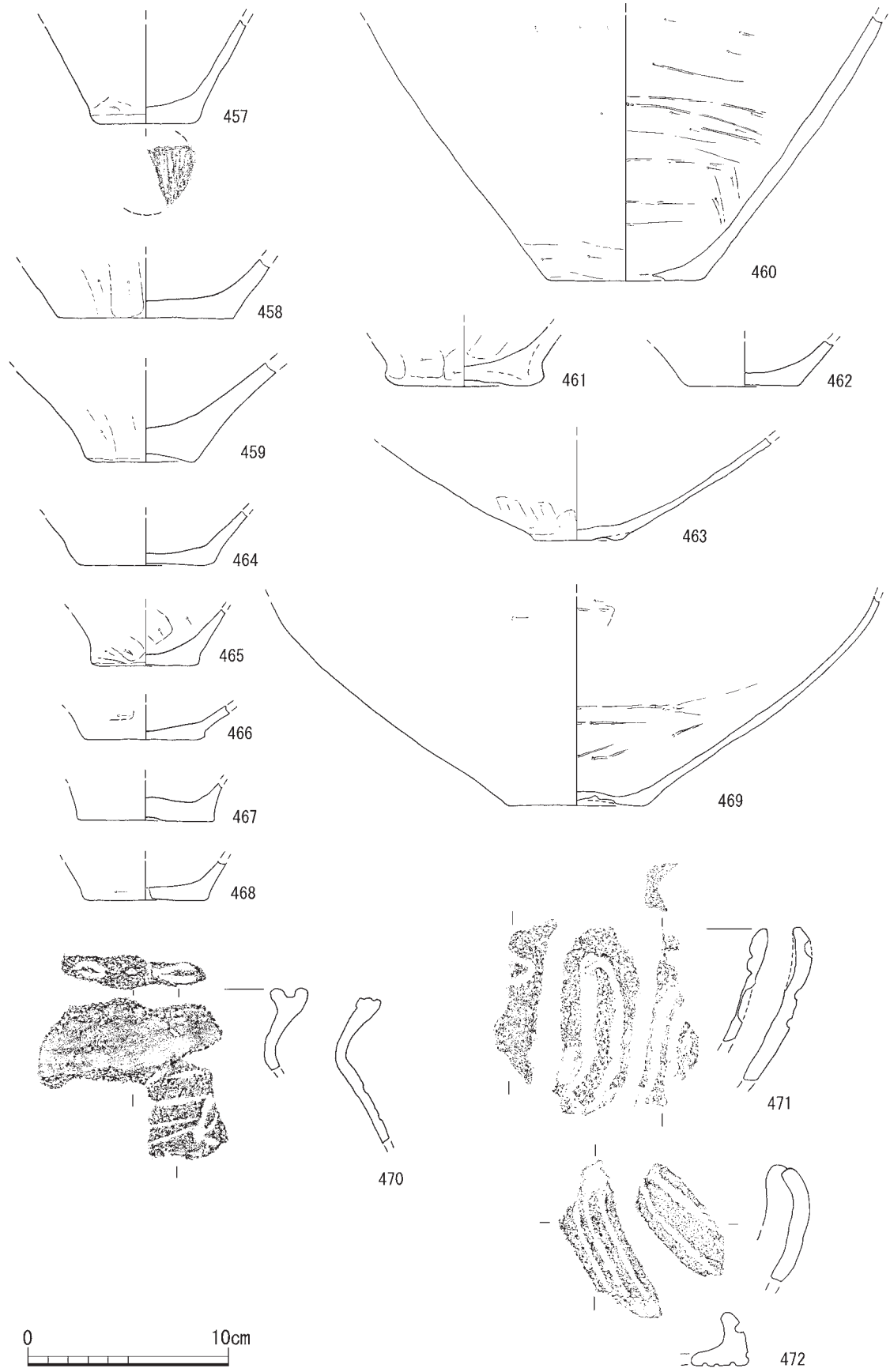
第41図 長岡京跡右京第988次調査 崖S X199出土縄文土器(8)



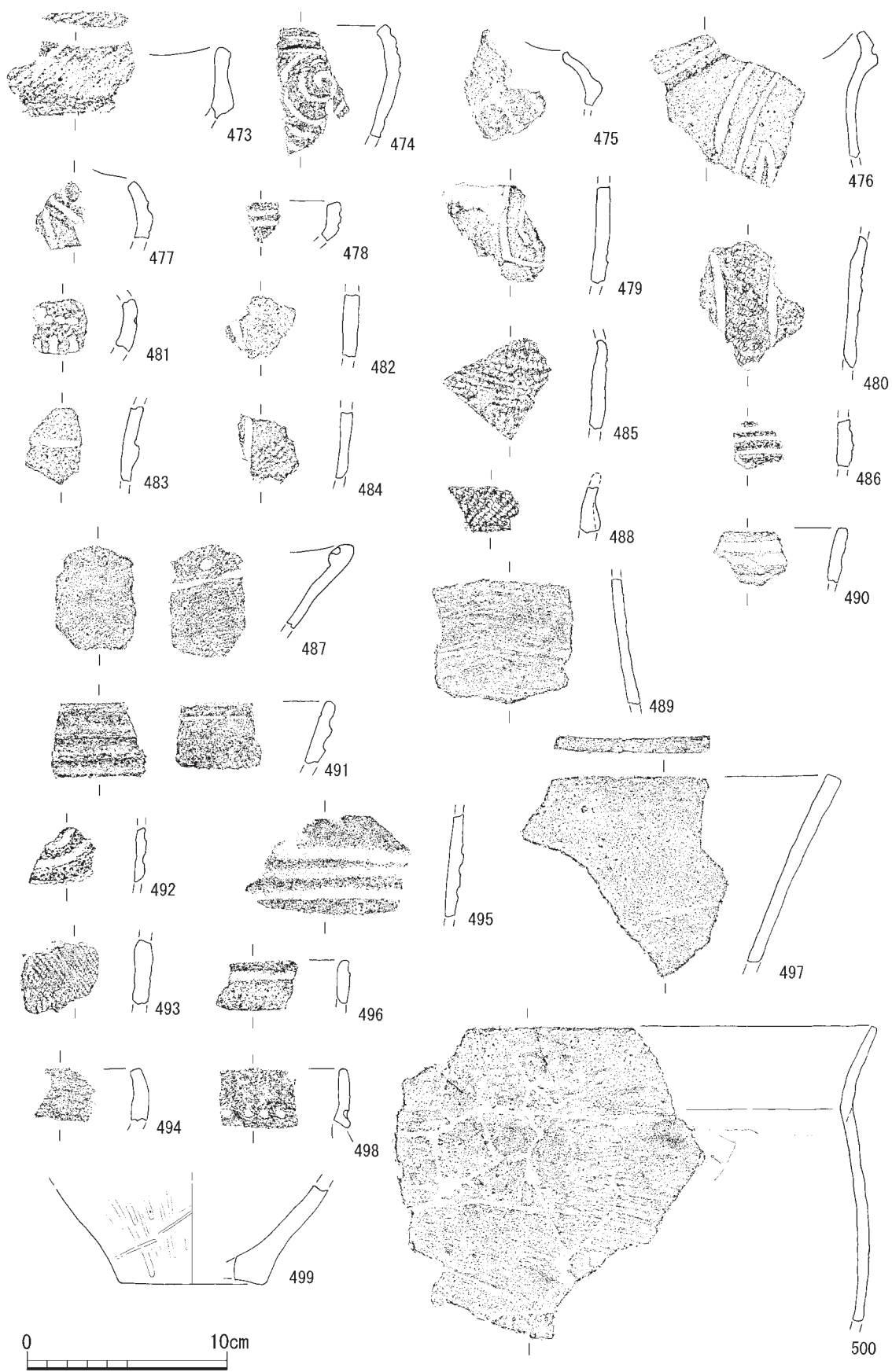
第42図 長岡京跡右京第988次調査 崖S X199出土縄文土器(9)



第43図 長岡京跡右京第988次調査 崖 S X 199出土縄文土器(10)



第44図 長岡京跡右京第988次調査 崖S X199出土縄文土器(11)



第45図 長岡京跡右京第988次調査 土坑出土縄文土器(1)

である。

457～469は縄文土器底部である。457・460は深鉢底部で、463・469は浅鉢底部に特定できる。

470は縄文時代後期前葉の四ツ池式土器有文深鉢である。磨滅のため器表面の状態が非常に悪い。471・472は中期末の北白川C式土器の波状口縁を持つ有文深鉢突起部である。

土坑S K 08(第45図) 473は北白川C式土器の口縁部が肥厚する平縁の無文深鉢である。

土坑S K 10(第45図) 474～485は北白川C式土器の深鉢片である。485以外はすべて有文である。476は波状口縁を持つ個体である。

土坑S K 15(第45図) 487は北白川上層式土器の有文浅鉢である。

土坑S K 22(第45図) 486は北白川上層式土器の堀之内系有文深鉢胴部である。

土坑S K 25(第45図) 488は北白川C式土器の口縁部が肥厚する平縁の無文深鉢である。

土坑S K 27(第45図) 489は器表面に条痕が残る無文土器で、縄文時代後期後葉と考えられる。

土坑S K 32(第45図) 490は凹線文土器の口縁部である。

土坑S K 44(第45図) 492・493はいずれも北白川C式土器の深鉢で、492は沈線文が施される。

土坑S K 71(第45図) 491・494～497はいずれも後期後葉の凹線文土器である。元住吉山式土器と考えられる。

土坑S K 73(第45・46図) 499～502はいずれも無文の深鉢で、縄文時代晩期滋賀里Ⅲ式土器である。この時期の遺構はS K 73のみである。

土坑S K 75(第46図) 503は北白川C式土器の有文深鉢である。

土坑S K 76(第45図) 498は北白川C式土器の平縁有文深鉢口縁部である。

土坑S K 90(第46図) 504～507は北白川C式土器の有文深鉢である。

土坑S K 91(第46図) 508・509は凹線文土器の深鉢である。508は貝殻の扇状圧痕と凹線が確認できる。

土坑S K 122(第46図) 510・511・515は北白川C式土器である。510は縄文が外面全面に施された無文の浅鉢である。511・515は有文深鉢胴部である。

土坑S K 124(第46図) 512は縄文時代後期後葉の深鉢である。514・516～524は北白川C式土器である。

土坑S K 136(第47図) 525は北白川C式土器の有文深鉢胴部である。

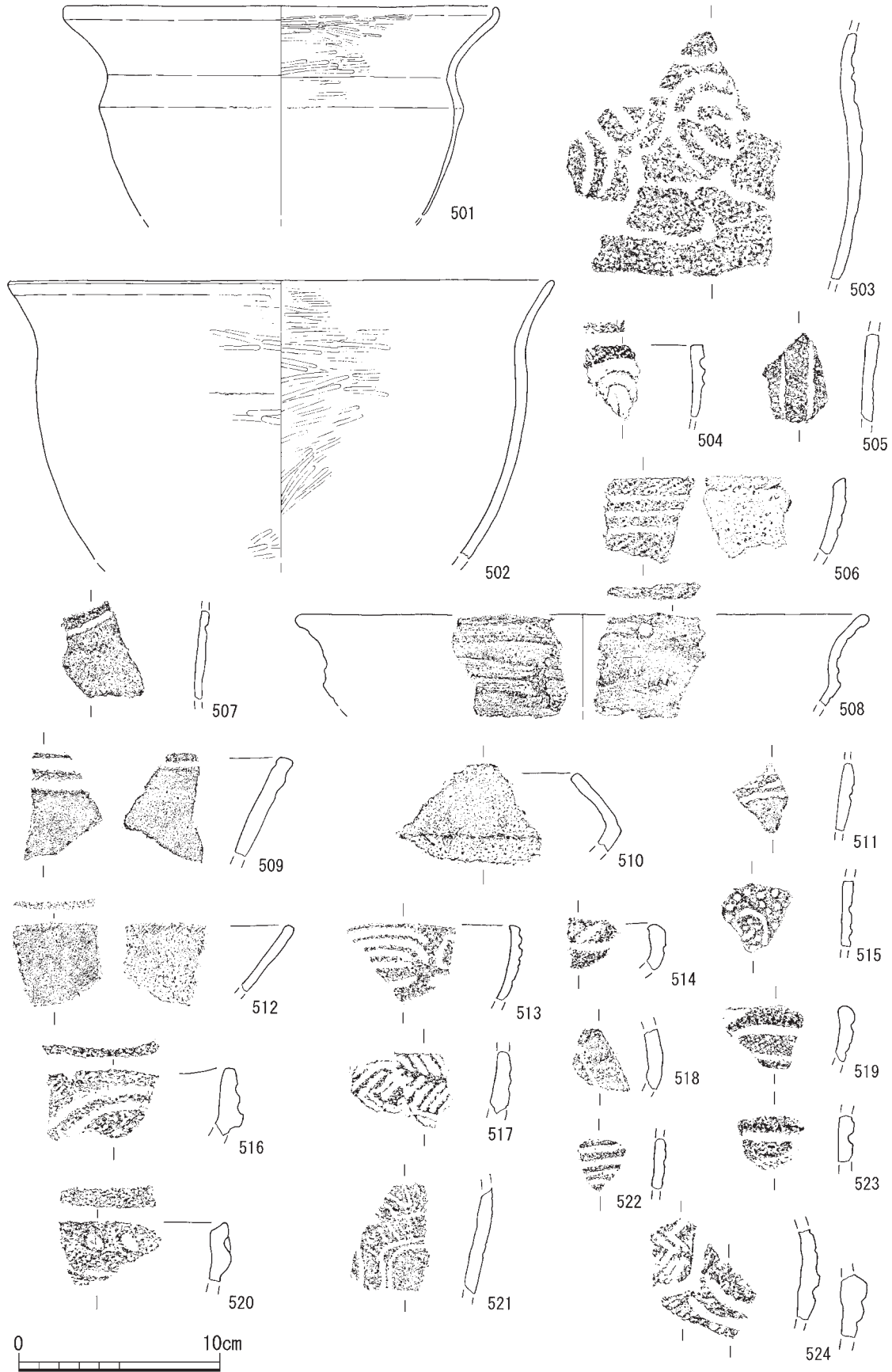
土坑S K 146(第47図) 526～551は北白川C式土器である。528・529・530は波状口縁をもつ有文深鉢である。527は端面に縄文が施された浅鉢口縁部である。531・534は平縁の深鉢である。537は口縁屈曲部に凹点を連続して施文した有文深鉢である。532・533・535・536・538～543・545～550は有文深鉢の胴部である。544・551は深鉢の底部である。

土坑S K 162(第48図) 552～557は北白川C式土器の深鉢である。557は波状口縁を呈する。

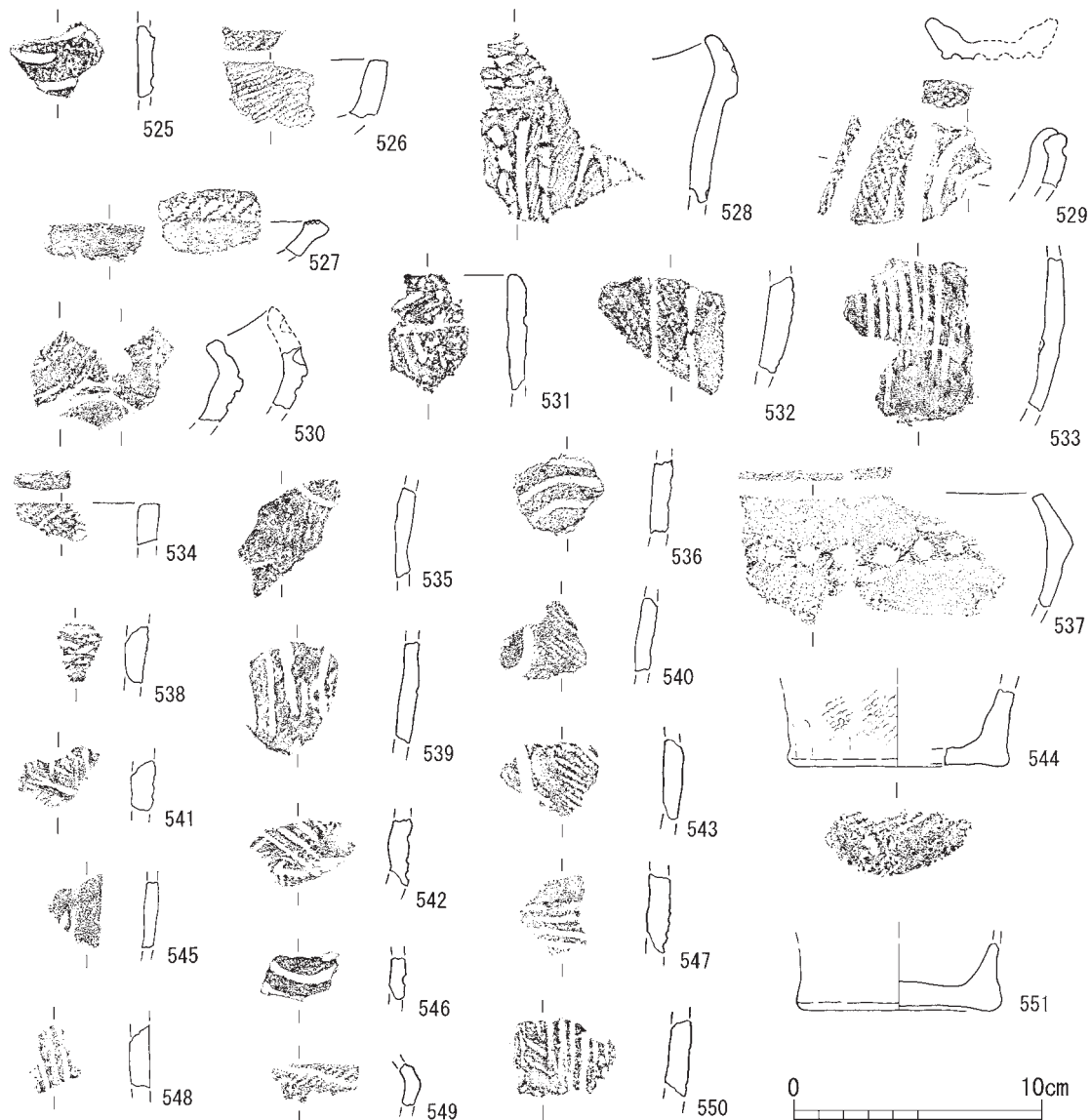
土坑S K 181(第48図) 558は北白川C式土器の有文深鉢胴部である。

土坑S K 194(第48図) 559は北白川C式土器の有文深鉢である。

土坑S K 195(第48図) 560～562は北白川C式土器の有文深鉢である。



第46図 長岡京跡右京第988次調査 土坑出土縄文土器(2)



第47図 長岡京跡右京第988次調査 土坑出土縄文土器(3)

土坑 S K 201(第48図) 563・566・567は北白川 C 式土器である。563は高台状を呈し、大きく穿孔される。566・567は有文深鉢の口縁部である。

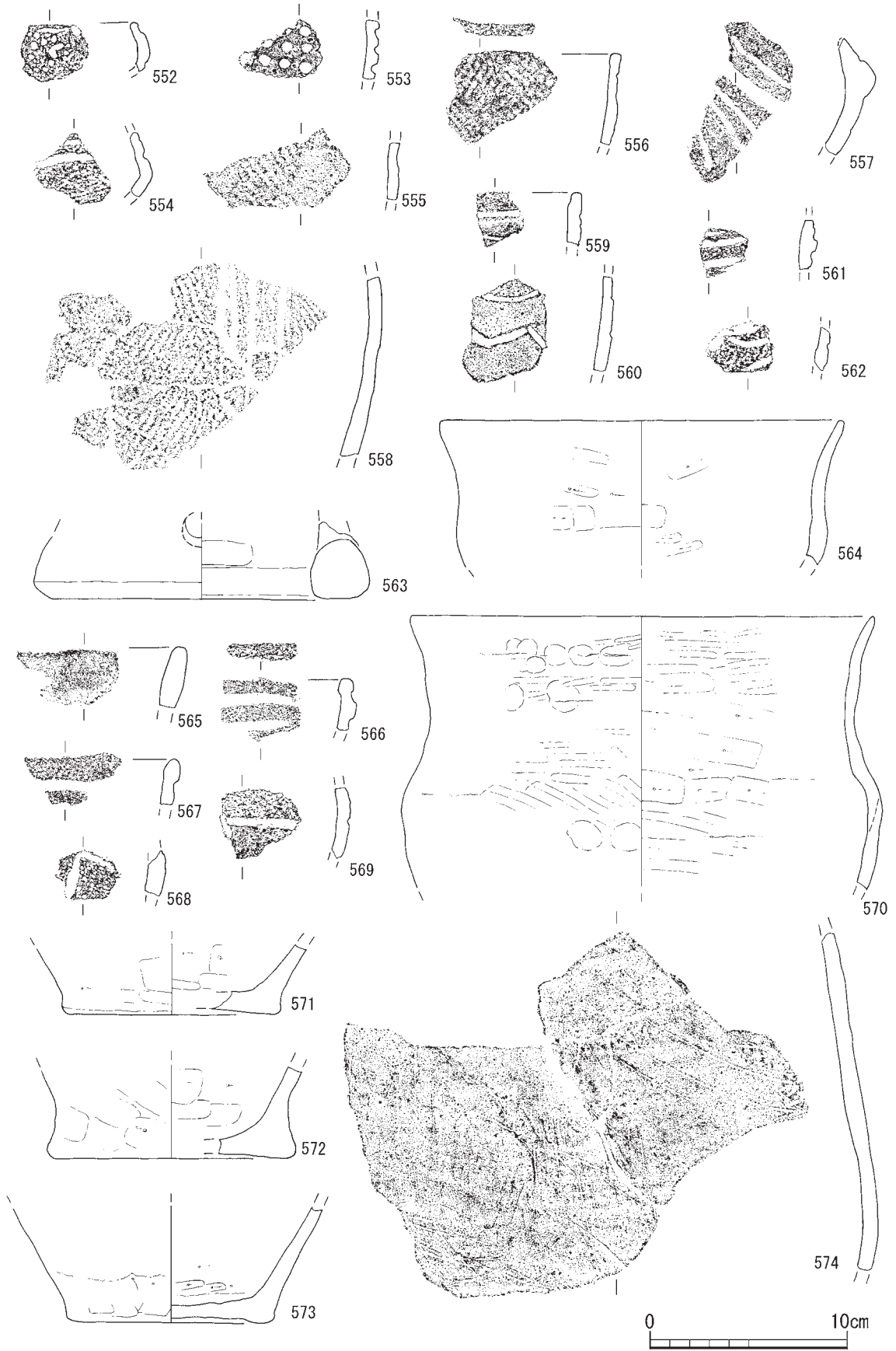
土坑 S K 202(第48図) 565は無文の深鉢口縁部である。569は有文深鉢の胴部である。574は北白川上層式土器の有文深鉢胴部である。

土坑 S K 203(第48図) 564・570～573はいずれも北白川上層式の無文土器である。

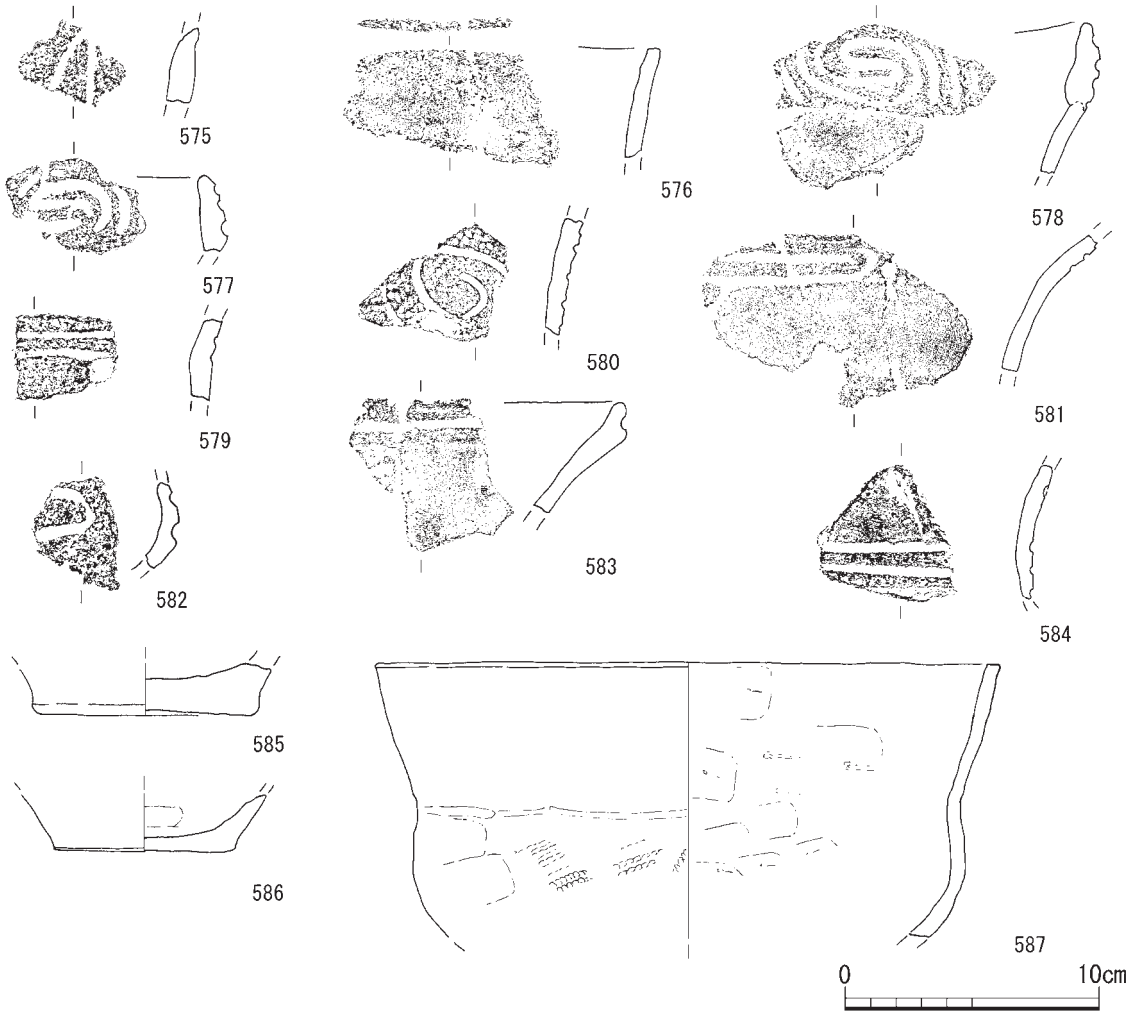
土坑 S K 204(第49図) 575・576はいずれも北白川上層式の土器である。

土坑 S K 207(第49図) 577～587が出土した。580が北白川 C 式、その他が北白川上層式の土器である。

柱穴 S P 06(第50図) 588は北白川 C 式土器の有文深鉢である。589は北白川 C 式土器の無文深鉢である。

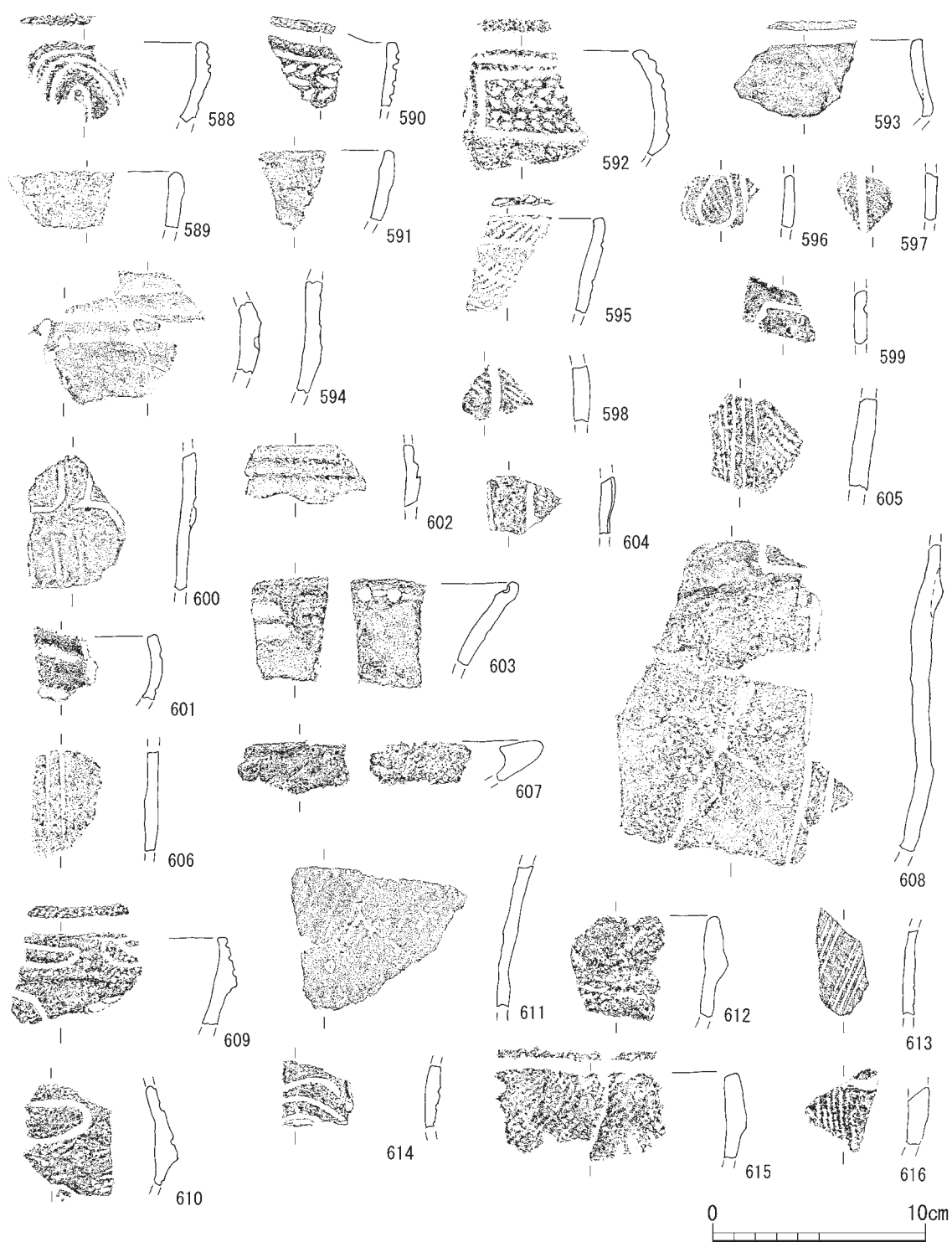


第48図 長岡京跡右京第988次調査 土坑出土縄文土器(4)



第49図 長岡京跡右京第988次調査 土坑出土縄文土器(5)

- 柱穴 S P 20(第50図) 590は北白川 C 式土器の波状口縁をもつ有文深鉢である。
- 柱穴 S P 21(第50図) 591は縄文後期の無文深鉢である。
- 柱穴 S P 24(第50図) 592は北白川 C 式土器の平縁有文深鉢である。593は北白川 C 式土器の無文浅鉢の口縁部である。
- 柱穴 S P 28(第50図) 594は凹線文土器の有文深鉢である。
- 柱穴 S P 66(第50図) 595～598は北白川 C 式土器の有文深鉢である。
- 柱穴 S P 74(第50図) 599は北白川 C 式土器の有文深鉢胴部である。
- 柱穴 S P 112(第50図) 600は北白川 C 式土器の有文深鉢頸部である。
- 柱穴 S P 115(第50図) 601は北白川 C 式土器の有文深鉢口縁部である。
- 柱穴 S P 116(第50図) 606は北白川 C 式土器の有文深鉢である。
- 柱穴 S P 120(第50図) 602・603・607は凹線文土器の元住吉山式土器である。602・603は有文深鉢で、607は無文浅鉢である。
- 柱穴 S P 128(第50図) 604・605・608は北白川 C 式土器の有文深鉢である。
- 柱穴 S P 129(第50図) 609・610は北白川 C 式土器の有文深鉢である。



第50図 長岡京跡右京第988次調査 柱穴出土縄文土器

柱穴 S P 130(第50図) 611は胎土に角閃石を含む無文深鉢胴部である。

柱穴 S P 135(第50図) 614は北白川C式土器の有文深鉢である。

柱穴 S P 137(第50図) 613は北白川上層式土器の堀之内系の有文深鉢胴部である。

柱穴 S P 149(第50図) 612は北白川C式土器の無文深鉢口縁部である。

柱穴 S P 150(第50図) 615は北白川 C 式土器の無文深鉢口縁部である。

柱穴 S P 151(第50図) 616は北白川 C 式土器の有文深鉢胴部である。

2) 石器・石製品

(1) 玉類(第51図) 右京第988次調査4トレンチ 竪穴式住居跡 S H166の埋土を洗浄選別して出てきた玉類である。玉は碧玉の一種である。617は扁平な円形に粗く加工した後、両面からの穿孔によって穴があげられている。約半分は欠損している。618は円形に粗く加工され、穿孔されている。穿孔方向は欠損のため不明である。619～621は扁平な円形に粗く加工された玉の一部で、穿孔等は欠損のため確認できない。622は扁平な円形に粗く加工した後、穿孔された玉である。穿孔方法は片面が欠損しているため不明であるが、片面の穿孔部が貫通していないことから未完成品であることがわかる。623は扁平な円形に粗く加工した後、両面から穿孔されているが、貫通していない。624は扁平な円形に粗く加工した後、両面から穿孔されるが貫通していない。

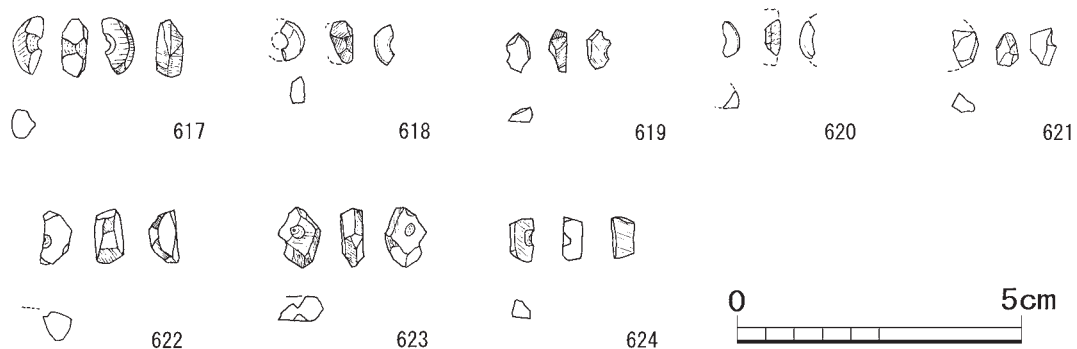
これらの玉は完成品がなく、一部製作時に出た碎片も出土していることから失敗品とみなすことができる。特に穿孔段階の破損品が多く穿孔工程にかかわる作業場が近くに存在した可能性が考えられる。

(2) 打製石器(第52図) 625～630はサヌカイト製の凹基無茎の打製石鏃である。625は右京第988次調査1トレンチ S H89、626・629は右京第988次調査1トレンチ S H85、627・628・630は右京第988次調査4トレンチ S H166から出土している。破損している石鏃もすべて破損面は他の風化面と変わらない。

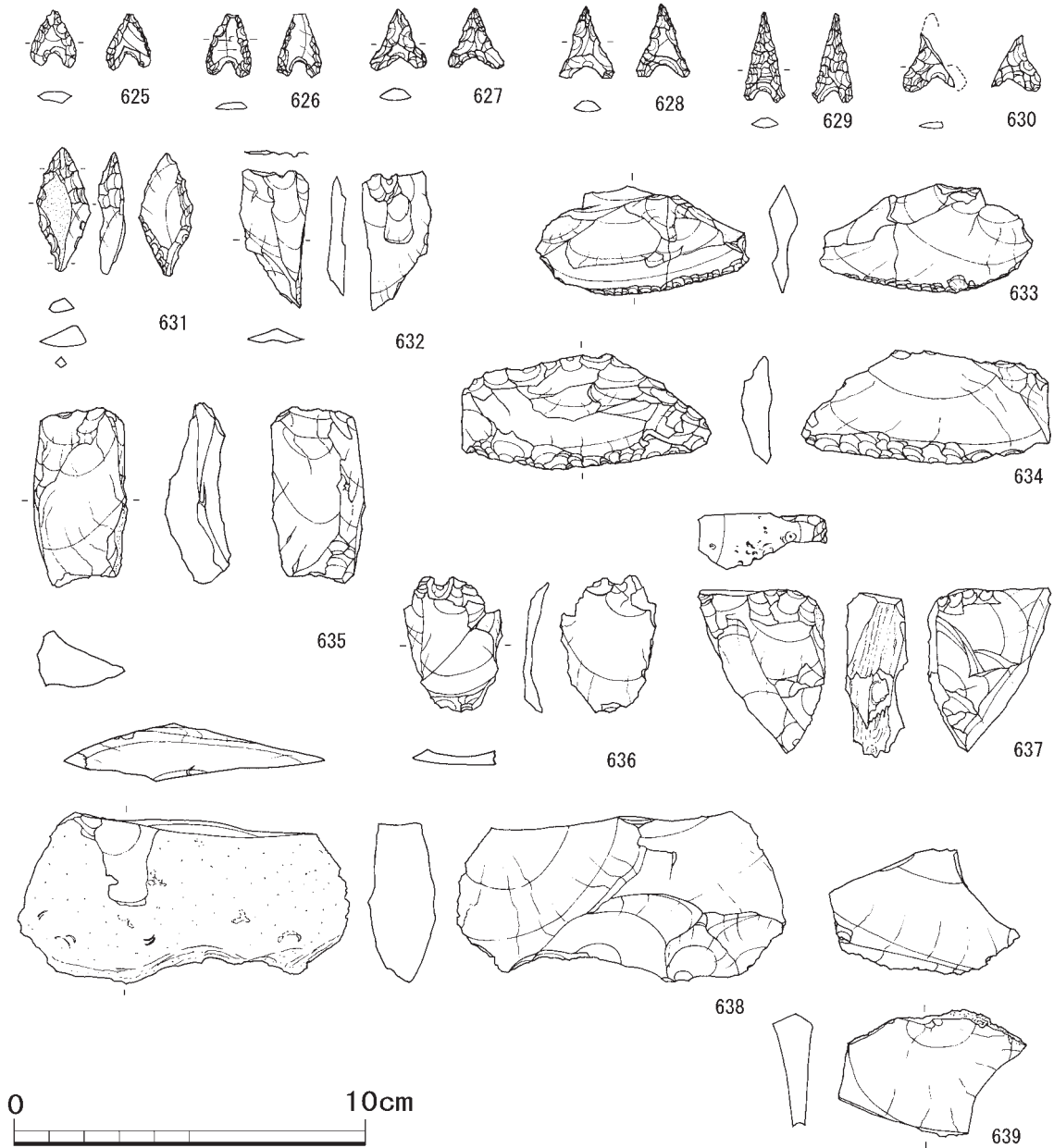
631は右京第988次調査4トレンチ S H166から出土しているサヌカイト製の石錐である。先端部には使用痕は認められないが、穿孔過程の玉類と共伴することは注目される。

632・636・637は右京第984次調査 S X08で検出したサヌカイト製の石器である。632・636は線状打面を持つ両極技法で作られた剝片である。638は打面縁にツブレが認められる楔形石器である。打面部には多くの打撃による痕跡が残されている。

633・634はサヌカイト製の削器である。両者ともに横長剝片を用い、その末端部に背腹両面から刃部加工がなされている。633は右京第988次調査1トレンチ S H85、634は右京第988次調査1



第51図 長岡京跡右京第988次調査 竪穴式住居跡 S H166出土玉類

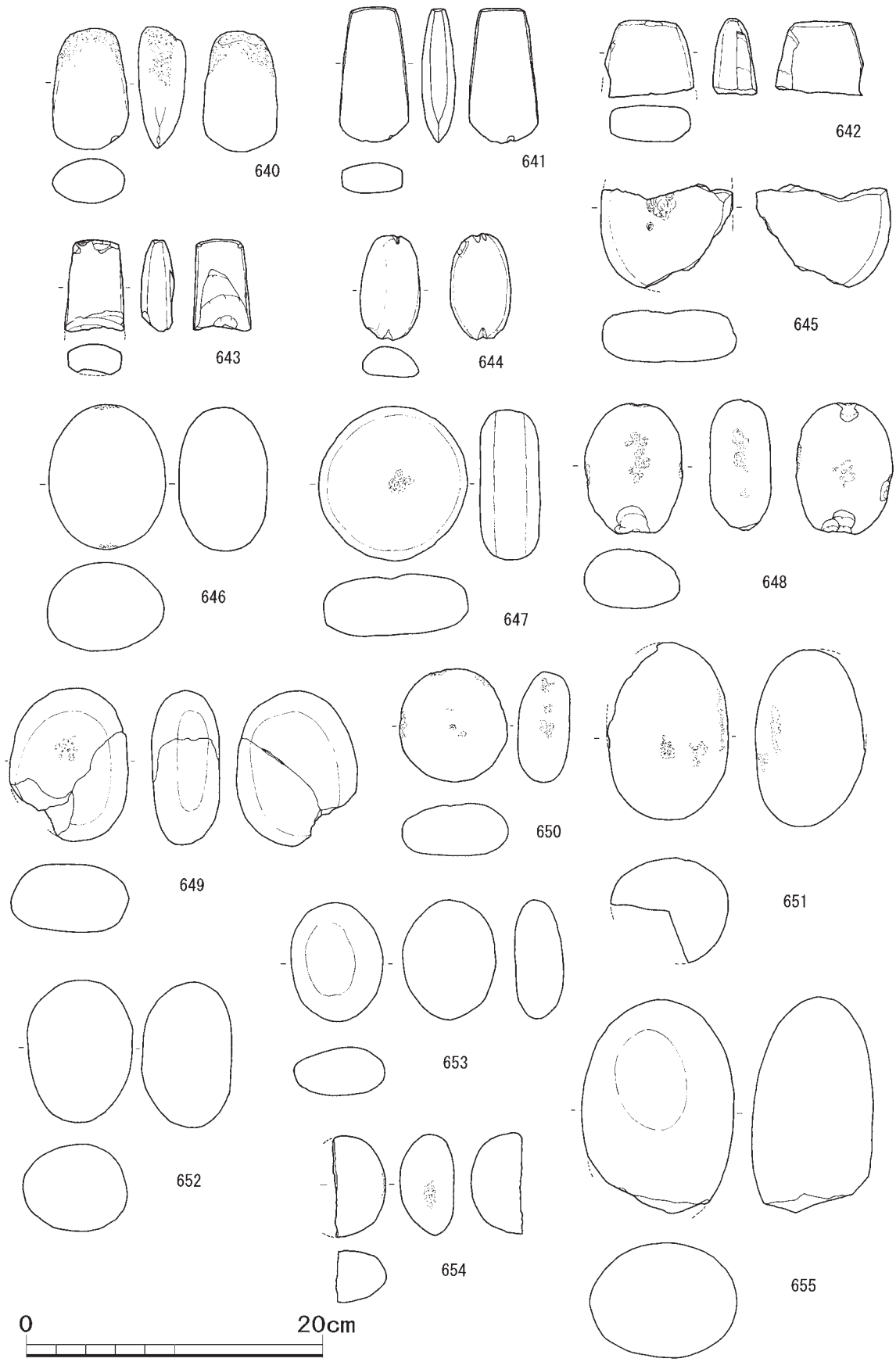


第52図 長岡京跡右京第984・988次調査 打製石器

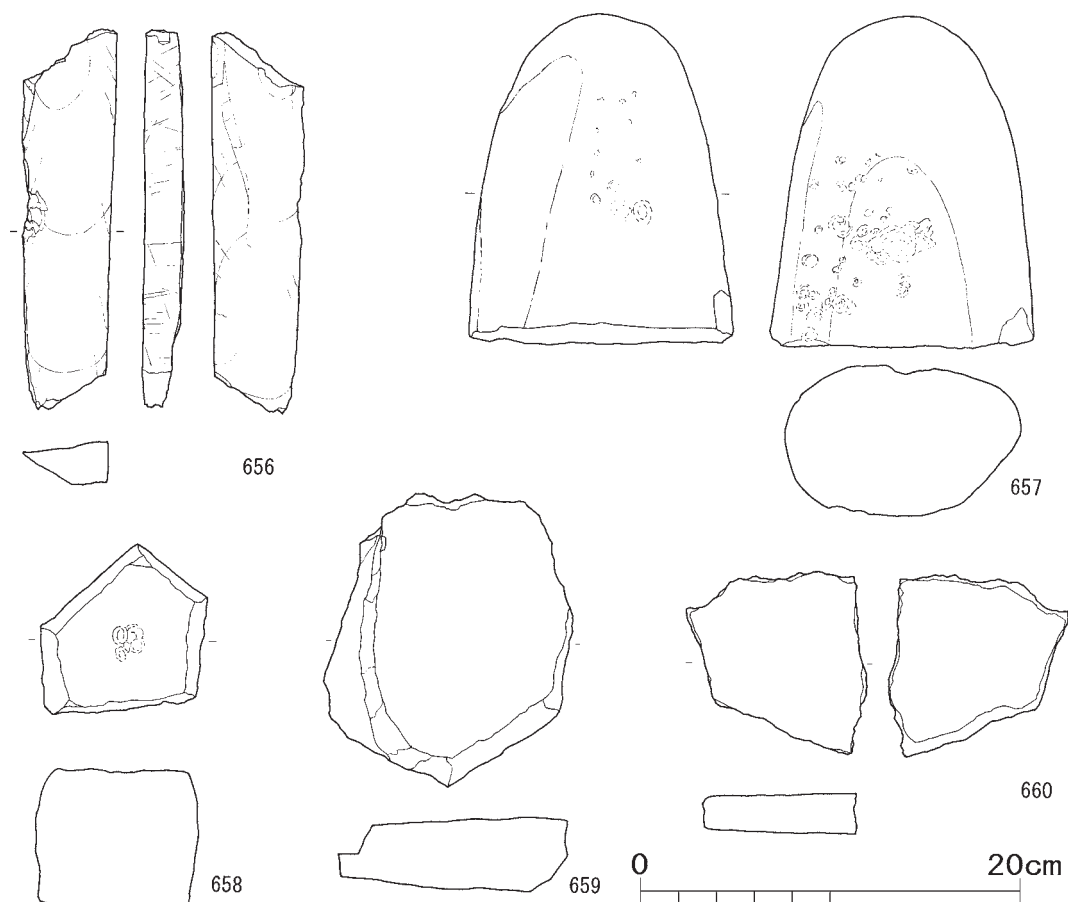
トレンチ S H89床面で検出した S P131から出土している。635は右京第988次調査1 トレンチ S H78出土のサヌカイト製楔形石器である。638・639は右京第988次調査1 トレンチ S X199から出土した。638は大型のサヌカイト片で、折れ面が最終的な面である。この石器が今回の調査で出土したサヌカイトのうち包含層出土の石器を含めてもっとも大きなものである。639はサヌカイト製の横長剥片である。

(3) 磨製石器及び礫石器(第53・54図)

640は右京第988次調査1 トレンチ S H85で出土した、断面が楕円形を呈する緑色ヒン岩製の磨製石斧である。着柄部分は敲打痕が残されている。641・642は右京第988次調査1 トレンチ S H89で出土した石斧である。641は刃部に一部欠損があるのみで完形品である。全面が磨製加工されている。石材は緑色の硬い岩石で粒状構造が認められる。642はヒン岩製の石斧の基部である。



第53図 長岡京跡右京第984・988次調査 石斧及び礫石器



第54図 長岡京跡右京第988次調査 礫石器

側面に残る剝離痕は刃部側からの力を受けたことを示している。643は右京第988次調査1トレンチS H85出土のヒン岩製の石斧の基部で、前方からの衝撃によって破損したものと考えられる。

644は右京第988次調査4トレンチS K169から出土した砂岩製の切り目石錘である。645は右京第984次調査S X08出土の凹石である。素材となる石材は角閃石を多く含んでいる。646は右京第984次調査S K14出土の花崗岩製の敲石である。647は右京第988次調査1トレンチ包含層出土の石英質砂岩製の凹石である。648は右京第988次調査3トレンチS K08から出土した石英質砂岩製の敲石である。649は右京第988次調査1トレンチS H89から出土した砂岩製の磨石である。650は右京第988次調査1トレンチS X199出土の石英質の岩石を用いた敲石である。651は右京第988次調査1トレンチS H89から出土した敲石である。石質は不明であるが周辺では産出しない石材である。652は右京第988次調査1トレンチS H89から出土した磨石で、石材は不明であるが角閃石を含む。653は右京第988次調査1トレンチS X199出土の砂岩製の磨石で、図面上端部が前面に渡り赤く変色する。654は右京第988次調査1トレンチS X199出土の石英製の敲石である。655は右京第984次調査S X08から出土した砂岩製の礫で、一部に磨かれた部分を持つ。656は右京第988次調査1トレンチS H89から出土した粘板岩である。自然面上には軸に直行する方向に線状痕が認められる。657は右京第988次調査1トレンチS K159から出土した砂岩製の台石で、敲打痕や研磨痕が認められる。658は右京第988次調査1トレンチS H85出土のヒン岩製の台石である。

659・660は右京第988次調査1トレンチS X199から出土した板状に割れる緻密な岩石を使用した石皿である。中部地方で言う鉄平石の可能性はある。

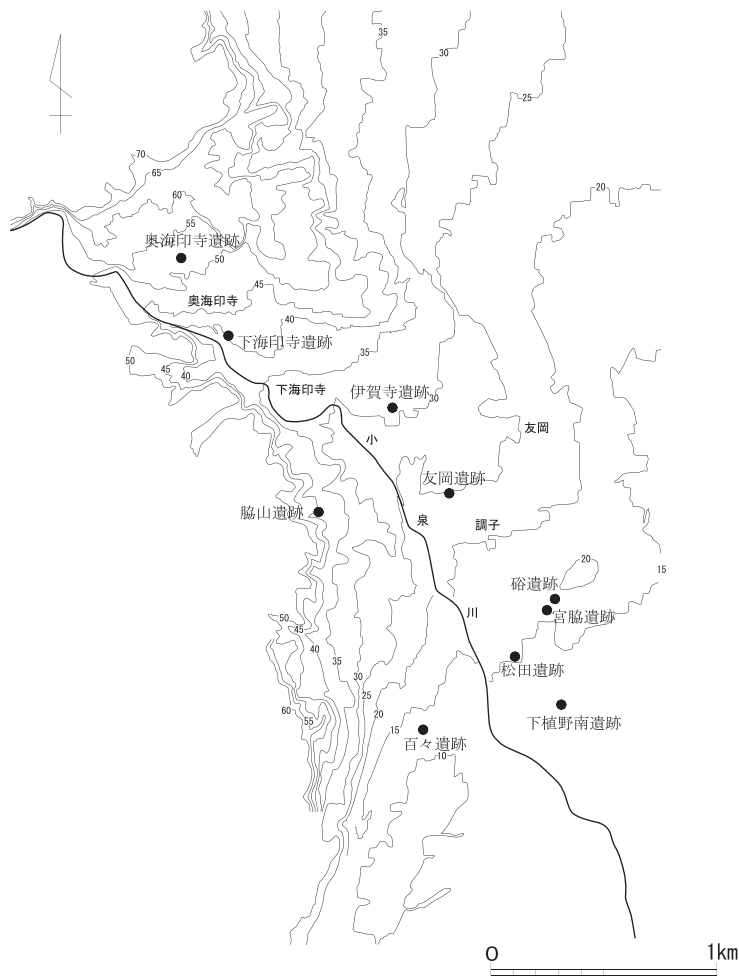
5. 小泉川流域の縄文集落の変遷

1) はじめに

京都府南部における縄文時代研究は大正12年に発見された北白川追分町遺跡に始まる。乙訓地域では大枝遺跡や下海印寺遺跡の調査が研究の黎明期にあたる。下海印寺遺跡は1971年に発見され、1976年に初めて発掘調査が実施され、京都における代表的な縄文時代遺跡として知られるようになった。

下海印寺遺跡に隣接した小泉川は、西山山塊に源を発する淀川支流の小河川である。川の両岸には段丘が発達し、特に左岸には広い段丘面が広がっている。また、川の流れる地域は大阪層群の固い粘土層が基盤になっており、河川による基盤層の掘り込みが顕著でなく、現在の氾濫原の地表下2～3mで基盤層に到達する。下海印寺遺跡はこの小泉川左岸の低位段丘上に立地している。

平成15年度から始まった京都第二外環状道路の建設に伴う発掘調査によって、小泉川左岸の発掘調査が密に実施されることになった。



第55図 小泉川流域の縄文時代遺跡分布図

掘調査が密に実施されることになった。その結果、段丘のあり方や、新たな縄文時代遺跡の発見があり、これまでの周辺の調査と合わせて多くのことが明らかになってきた。特に遺跡の消長や立地の変遷が分かっている。縄文時代の遺構・遺物が発見されている場所ごとに地形の状況を考えていきたい。

2) 小泉川左岸の遺跡

第55図でみられるように小泉川流域には多くの縄文時代遺跡が分布している。その中でも立地等の遺跡のあり方がわかっており、遺物量の豊富な3遺跡を取り上げたい。

(1) 下海印寺遺跡(尾流・方丸地区)

下海印寺遺跡の中心域は、

1978年から4次にわたる調査によって、低位段丘上にあるとされてきた。調査された地点では縄文時代早期の押型文土器が発見されており、地形面との関係が整合的である。

しかしながら、この低位面の堆積物には押型文土器を含む土石流状のしまりの悪い礫混じり層なども見られ、縄文時代早期後半から後期初頭までの間に扇状地が発達し、堆積物が覆いかぶさっている可能性も否定できない。近接する同じ地形面である西条地区(右京第970次調査：岡崎2010.7)では地表下50cm程度で基盤層である大阪層群の粘土が検出できた。その上にしまりの悪い人頭大の礫を含む堆積層が存在した。検出できた遺構は庄内期が最も古く、近くで縄文時代の遺物が多いにもかかわらず遺構を検出することができなかった。

西条地区よりも川に近い尾流地区では、低段丘面よりも下位の平坦面から縄文時代後期中津式、里木Ⅱ式の土器が土坑や包含層から出土している。下海印寺遺跡の中心的な時期と同じである。調査地点南側は江戸時代、中世の崖面が形成されている。

西条地区東側の上内田地区(中川ほか2009・岡崎ほか2010)でも平坦面が形成されている。発掘調査の結果、庄内期の竪穴式住居跡を最古期の遺構とする平坦面で、ベース面となる黄褐色砂礫から縄文土器片が出土している。縄文土器片には縄文が施されている。この面では、ほかに古墳時代中期～後期、中世の遺構が検出されているが、古墳時代末には、礫の掘り込みを伴う洪水性堆積物が認められる。

以上のことから、下海印寺周辺では3つの成立期の異なる遺構面があることがわかる。1つは縄文時代早期以前に形成された下海印寺遺跡中心部、他は縄文時代後期初頭以前に形成された尾流地区、縄文時代から庄内期までの間に形成された上内田地区である。

(2)伊賀寺遺跡(第56図・付表1～5)

伊賀寺遺跡の調査は大半が京都第二外環状道路建設に伴う事業によるものであるが、調査年度が異なることや、調査事業主体が異なることからまとめて報告されることがなかった。京都第二外環状道路建設関連の伊賀寺遺跡調査の最後である本報告書でこれまでの調査をまとめたい。

A. 過去の伊賀寺遺跡の調査

伊賀寺遺跡は、遺跡内の次数が整理されていないため、長岡京跡の発掘次数を発掘調査地を分けるために用いた。

①右京第70次調査(R70次)

1982年に長岡京市教育委員会によって実施された発掘調査で、現在のNTT西日本長岡京別館の建物敷地にあたる。調査地は低位段丘面に立地している。発掘調査では中世の建物群、長岡京期の溝などが検出されたが縄文時代の遺構は発見されなかった。包含層中から縄文時代草創期のサヌカイト製有舌尖頭器が出土し、縄文時代の活動がこの地域にもあったことが明らかになった。

②右京第799次調査(R799次：岩松ほか2005)

京都第二外環状道路建設に先立ち平成15(2003)年度に実施された部分的な発掘調査のうち、伊賀寺遺跡に関連する下海印寺地区で13か所のトレンチが設定された。現在の氾濫原に1・2・4～6・9～13、沖積段丘面に3・7・8のトレンチを設定した。氾濫原のトレンチでは50～70

付表1 伊賀寺遺跡調査地点一覧

	回数	地区	調査年次	調査主体	遺構	遺物
1	右京第70次調査		昭和56年度	長岡京市教育委員会		○
2	右京第799次調査	下海印寺	平成15年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
3	右京第910次調査		平成19年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
4	右京第927次調査	下内田地区	平成19年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
5	右京第941次調査		平成20年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
6	右京第943次調査		平成20年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
7	右京第947次調査	伊賀寺地区	平成20年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター		○
		樽井地区				○
8	右京第975次調査		平成21年度	長岡京市教育委員会	○	○
9	右京第984次調査		平成21年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
10	右京第988次調査		平成21年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○

cmの中世以後に形成された土壌堆積を経て河川堆積の礫層に変わる。

沖積段丘面に設置した3か所のトレンチのうち3トレンチからは打製石鏃、時期不明の縄文土器、7トレンチからは土坑内から北白川C式の土器が出土している。8トレンチでは北白川上層式・元住吉山Ⅱ式の縄文土器が包含層から出土した。この発掘調査によって伊賀寺遺跡が縄文時代の遺跡でもあることがより明らかになり、今後の調査で縄文時代の遺物・遺構に留意する必要性を認識させた。

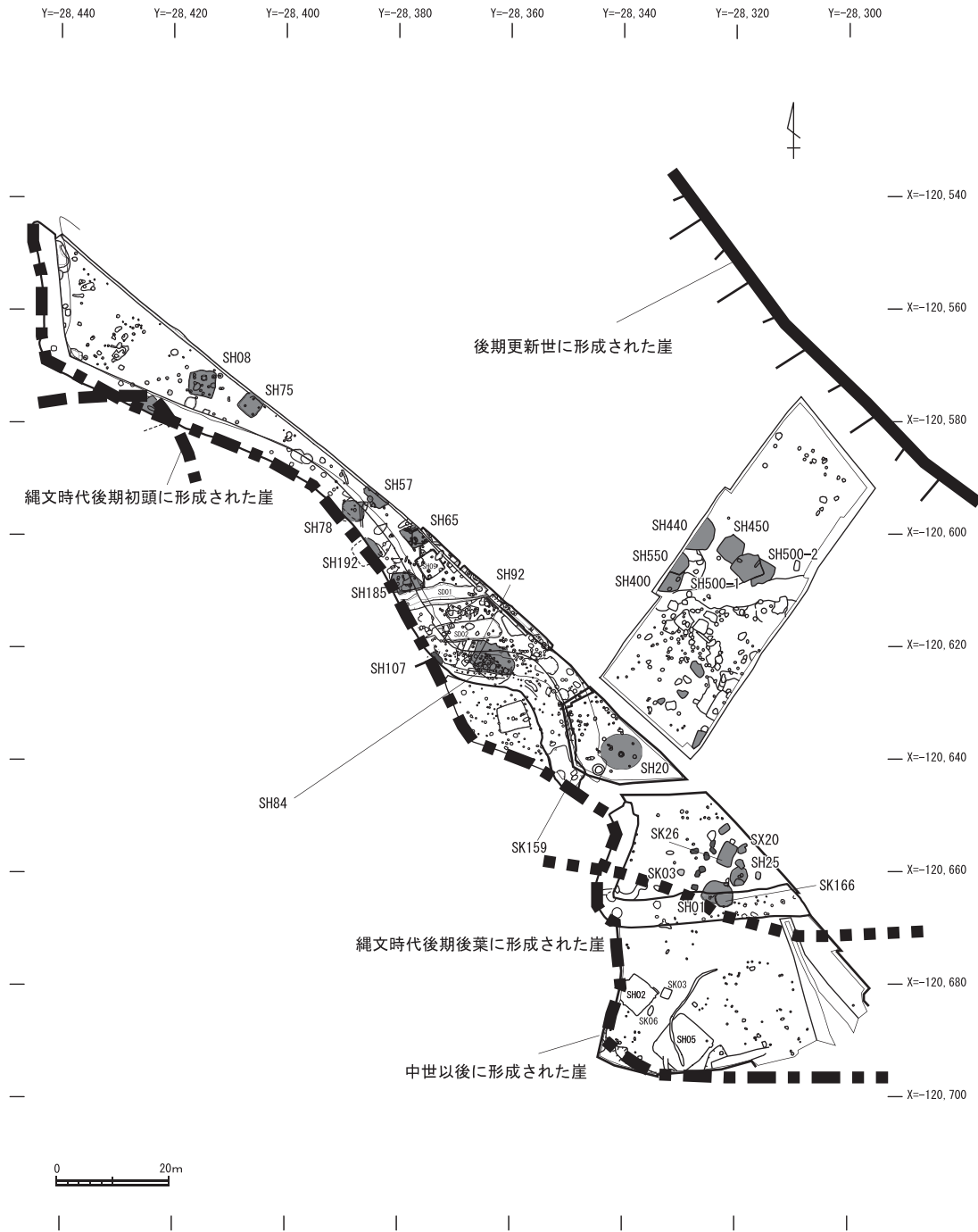
③右京第910次調査(R910次：増田ほか2009)

平成19(2007)年度に実施された京都第二外環状道路に取り付く府道部分の発掘調査である。1～4のトレンチが低位段丘面上に配置された。縄文時代の遺構は3トレンチのみで検出された。遺構は竪穴式住居跡SH190で平面形は部分的調査であるため不明であるが、内部からは縄文時代中期末の北白川C式土器が出土している。低位段丘面上では唯一の遺構検出例である。包含層中ではあるが、装飾表現の施された石冠が出土している。石冠は縄文時代後期後半から晩期にかけての遺物であることから沖積段丘面に見られる凹線文土器の時代の生活域が低位段丘面上にも広がっていたことがわかる。

④右京第927次調査(R927次：中川ほか2010)

平成19(2007)年度に実施された京都第二外環状道路予定地の発掘調査である。R799次調査の7・8トレンチ周辺の発掘調査地で、第1・2の2つの調査区を設定した。第1調査区では縄文時代の柱穴、土坑を検出した。土器は破片のため時期を特定できなかった。

第2地区では方形の竪穴式住居跡(SH08・57・65・75)4基を検出した。住居跡はすべて北白川C式土器の時期に属する。SH08では方形の石囲い炉を検出した。その他土坑、柱穴を多く確認し、縄文時代中期末の北白川C式、後期中津・福田KⅡ・北白川上層・元住吉山・宮滝式、晩期突帯文土器が出土している(付表5参照)。



第56図 伊賀寺縄文遺跡における主要遺構

⑤右京第941次調査(R941次：増田ほか2010)

京都第二外環状道路に取り付く府道部分で、平成20(2008)年度に右京第910次調査と同じ路線内で実施された調査である。8トレンチからのみ縄文時代の遺構が検出された。8トレンチは沖積段丘面上に立地し、8基(SH400・440・450・500-1・500-2・520・550・590)の竪穴式住居跡を検出している。SH520は出土遺物がわずかであるが北白川C式の時期である。SH590は時期不明で、その他が元住吉山～宮滝式の凹線文土器の時期に帰属する竪穴式住居跡である。

8トレンチ北東部の全体の3分の1程度はほとんど縄文時代の遺構が存在しない地域で、調査

区中央部分に縄文時代後期の竪穴式住居跡が分布し、調査区南西部には土坑、土壙、柱穴がある。

石器類が包含層中から多数出土した。石器類の総数は4,485点で、石鏃が244点と多く、石核・剥片が90%以上になる。石器製作に伴う遺物が多いことが明らかになり、共伴遺物から多くは縄文時代後期凹線文土器の時期に比定できる。

⑥右京第943次調査伊賀寺地区(R943次：岩松ほか2009)

京都第二外環状道路側道の府道部分で、平成20(2007)年度に実施された。R799次調査の3トレンチを含む地域に3か所のトレンチを設定した。1トレンチと2トレンチの間には地形の変換を示す崖面S X29を検出し、1トレンチのある場所が2トレンチに比べ形成時期が新しいことが明らかになった。1トレンチでは遺構検出面の下層が縄文時代後期の包含層になっており、基盤の礫層に続く。崖は縄文時代後期以後に形成されたものと考えられ、1トレンチでは縄文時代の遺構を検出することができなかった。

2トレンチでは、2基の竪穴式住居跡(S H01・25)を検出した。S H25は後期の土壙が上面から掘り込まれていることから、後期凹線文土器以前の遺構であることがわかる。S H01は元住吉山式土器の時期に帰属する。このほかに縄文時代後期後葉の火葬を受けた骨の入る土壙2基(S K03・26)、土壙墓と考えられる遺構16基を検出した。2トレンチと隣接するR941次調査8トレンチ南部の地域とあわせ、墓壙と考えられる大型の土坑が多く見られ、墓域を形成していることがわかった。

3トレンチでは、縄文時代中期北白川C式の竪穴式住居跡と考えられるS H20が検出できた。住居跡床面近くまで削平が及んでおり、平面形状は不明である。炉跡が存在し、北東側に大型の砂岩製の礫を横長に据え、炉の一辺を形成している。

⑦-1 右京第947次調査伊賀寺地区(R947次：岡崎ほか2010)

平成20年度第二外環状道路部分の発掘調査で、R943次調査1トレンチに接した部分に設定された調査区である。R943次調査1トレンチ同様に、縄文時代の遺構は発見できなかった。下層の確認のため実施した深掘り調査によって、この調査区の遺構面の基盤層となる礫層中から縄文時代後期の土器が出土した。

⑦-2 右京第947次調査樽井地区(R947次：岡崎ほか2010)

平成20年度第二外環状道路部分の発掘調査で、伊賀寺地区に接した部分に設定された調査区である。伊賀寺地区の調査地よりも1段低い氾濫原に位置しており、沖積段丘から段丘崖にかけて調査区が設けられた。その結果、段丘崖に露出した礫層中から縄文時代後期の土器を上限とする縄文土器が出土している。氾濫原では古墳時代～中世までの遺物を含む流路が複数存在し、遺構は近世以降のものしか確認できなかった。中世段階まで離水しなかった可能性が指摘できる。

⑧右京第975次調査(R975次：小田桐2010)

平成21(2009)年度に遺跡の範囲を確認するため、長岡京市教育委員会で実施された発掘調査である。R941次調査の8トレンチ東側に2か所のトレンチを設定した。両トレンチからは縄文時代中期(北白川C式)、後期(一乗寺K式～宮滝式)の土器とともに、多量の石器類と碧玉製平玉の

未製品が出土している。

2 トレンチでは骨を伴う集積墓 S X14 が検出されており、近接する R943 次調査 2 トレンチの墓域の広がりをおさえることができた。遺物の詳細については不明である。

B. 縄文時代の時期別遺構

① 縄文時代中期末(北白川 C 式)

この時期に所属すると考えられる竪穴式住居跡は 9 基で、平面形が不明な R910 次調査 S H190、R943 次調査 S H20 を除くとすべて方形を呈している。

炉跡を持つものは 3 基で、R927 次調査 S H08 のものは方形の平面形を呈し、北側の辺は 1 枚の砂岩円礫で形成し、他の辺は複数の礫で作られている。R943 次調査 S H20 では北東側に大型の砂岩製円礫を据え、その他の部分は粘土を貼り付け、内部は床面に対して 20cm ほどくぼんでいる。R988 次調査 S H89 では、20cm 程度掘り込んだ炉跡の北側に横方向に焼土が掻き取られたような部分があり、S H20、S H08 同様に大型の石が据えられていた可能性がある。

R927 次調査 S H57・65、R988 次調査 S H85 では竪穴式住居床面の壁近くに焼土の広がり認められた。いずれも掘り窪められた跡や施設は確認できなかった。他の遺構としては土坑・土壇・柱穴などがある。そのうちでも S P436 は検出時に柱穴と認識したが、後に土壇であることが明らかになった遺構である。土壇からは大型の礫とともに小片の骨が出土している。

縄文時代中期末の遺構は、R941 次調査 8 トレンチ南部、R943 次調査 2 トレンチ、R927 次調査地、R984 次調査地、R988 次調査地と沖積段丘面の氾濫原に近い部分に集中する。また、後世の削平が著しいが、低位段丘面上の R910 次調査で S H190 がある。中期の遺構は、低位段丘の段丘崖から R941 次調査 8 トレンチ中央部分まで希薄である。R975 次調査では湧水があったことなどから、段丘崖と沖積段丘面が接する地域では湿気を含んでおり、中期には居住に適さなかった可能性がある。

② 後期前葉(中津～四ツ池式)

R927 次調査 S K51 では中津式の深鉢 1 個体がほぼ完形の状態で埋納されていた。これ以外に当該期の遺構は存在していない。R927 から福田 K 2 式、R988 次調査で四ツ池式土器が他の時期の遺構から出土しているが、これらの時期の明確な遺構は検出されていない。

③ 後期前葉(北白川上層式 1～3 期)

北白川上層式の遺構は R927・988 次調査地点に限られ、竪穴式住居跡が 2 基検出されている。R988 次調査 S H78 は中央に炉跡を持つ方形の竪穴式住居跡である。出土遺物のうち時期のわかるものは 1 点のみである。R988 次調査 S H107 は氾濫原形成時の浸食によって多くの部分が失われているが、残存部分から隅丸方形を呈していたと想定できる。出土遺物は土器底部だけであるが北白川上層式と考えられる。

この時期に明確に属する土坑は少ない。R927 次調査 S K04・05・16・53 があり、北白川上層式 1 期の遺物が出土している。R988 次調査では S K15・22・202～204、S P137 が検出されている。

R988次調査のS X199は縄文時代に河川によって形成された崖面である。この斜面堆積物の中からまとまって北白川上層式の土器が出土している。土器は時期幅が限られた良好な資料で、北白川上層式2期の新相もしくは3期の古相として位置づけられる。

④後期後葉(元住吉山～宮滝式)

竪穴式住居跡は、R941次調査8トレンチでは5基と周辺の状況から凹線文期に属すと考えられるもの2基が検出され、R943次調査では1基と周辺の状況から凹線文期に属すると考えられるもの1基が検出された。R941次調査8トレンチの竪穴式住居跡は方形のものが主体を占めているが、R943次のはすべて円形である。

R941次調査8トレンチ南部とR943次調査2トレンチ、R975次調査1トレンチにかけて墓域が広がっていた。その中でも火葬を施した骨を埋納した土壙墓が2基検出された。付表4で示したように火葬を受けたことや人骨であることが同定できた遺構以外に、骨片が出土した縄文時代後期の遺構が7基あり、それらが上記の2基の火葬骨の入った土壙(S K20・26)の周辺に分布していることから、その他の大型土壙とあわせ集中して埋葬が行われた地域と想定できる。

玉作りに関連する遺物が墓域と重なって存在する。出土品は原石または成形加工時の碎片、平玉の未完成品である。平玉は扁平な円形に粗く整形された後、両面から穿孔されている。完成品や表面が平滑に磨かれたものがないなど穿孔過程までのもので構成されていることから、製作時のゴミが捨てられたものと考えられる。

⑤晚期前葉(滋賀里Ⅲ式)

R988次調査S K73だけが時期のわかる遺物が出土した遺構である。大型の土器の破片を敷いた上に平らなチャート礫を載せ、さらにその上に大型の土器の破片を被せた遺構であり、行為自体に意味があると考えられる遺構である。遺物も含めこれまでの調査で唯一の晚期前葉のものである。

(3)友岡遺跡

右京第325次調査(小田桐1996)で、低段丘崖の斜面堆積物中から中期の船元Ⅲ式土器を中心とする遺物が出土している。出土状況から低位段丘上に集落が広がっていたものと想定されている。

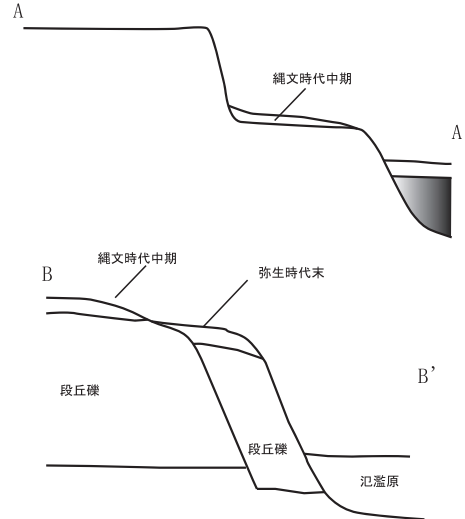
3)遺跡の関係(第57図)

上記した3つの遺跡は互いに、500m程度離れた位置に立地している。川の上流から下海印寺遺跡、伊賀寺遺跡、友岡遺跡の順に並ぶ。この3遺跡は同じ縄文時代の遺跡であるが、その遺構を伴う中心的な時期が互いに異なっている。もっとも古いのは友岡遺跡で船元式土器段階、その次は伊賀寺遺跡の北白川C式段階、下海印寺遺跡の中津式・里木式段階、伊賀寺遺跡の北白川上層式2期・元住吉山式段階と、時期により縄文時代の遺跡の分布が異なることがわかる。

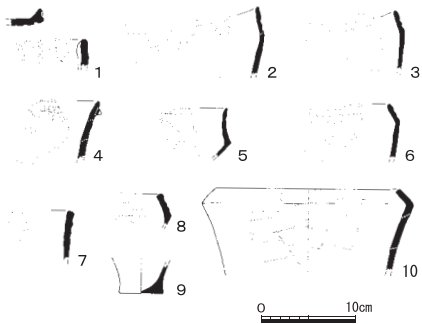
こうした集落の移動と地形面の関係を見ていきたい。地形面は、下海印寺遺跡の中心部や友岡遺跡の載る低段丘面、伊賀寺遺跡中心部や下海印寺遺跡尾流地区の立地している沖積段丘面Ⅰ、宮滝式土器段階から庄内期までに形成された沖積段丘面Ⅱがある。友岡遺跡では低段丘面から段丘崖方向にゴミが捨てられていることから、水場に近い場所が居住に適しているという前提に立



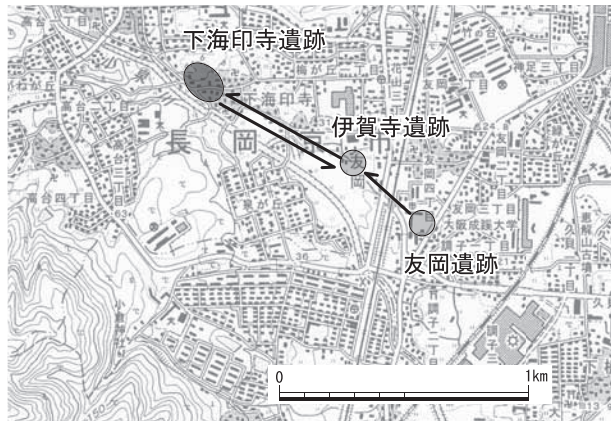
(1) 伊賀寺遺跡における地形分類



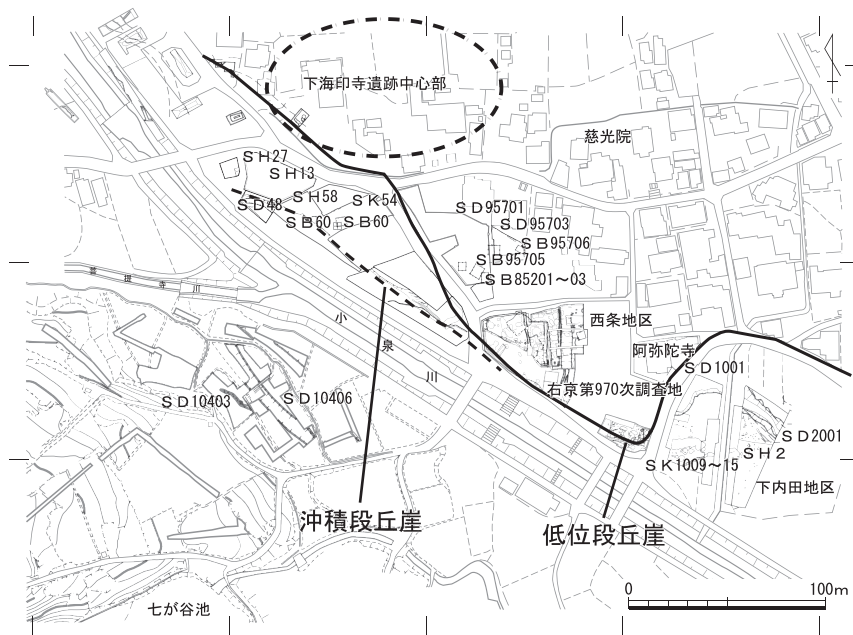
(2) 伊賀寺遺跡における断面模式図



(3) 沖積段丘Ⅱ面出土の縄文土器
(2・6～8・10が断ち割りで出土)



(4) 小泉川流域における集落移動モデル



(5) 下海印寺遺跡周辺の地形

第57図 小泉川流域の縄文時代遺跡考察関連図面

てば、沖積段丘面Ⅰが形成されていなかったか、完全に離水していなかったと想定することも可能である。下海印寺遺跡では扇状地の活動が盛んであった可能性も指摘できる。

沖積段丘面Ⅰでは下海印寺遺跡と伊賀寺遺跡は補完的に時期がずれている。伊賀寺遺跡では北白川C式段階と北白川上層式2期段階の間に河川による沖積段丘面Ⅰに対する浸食が認められる。前述したように、北白川C式段階には沖積段丘面Ⅰが現在より広く、河川の浸食によって集落が損害を受けたことは想像に難くない。その後、上流の下海印寺遺跡に集落が移り、より広い平坦面を持つ伊賀寺遺跡に再びかえってくる。縄文時代後期後葉以後に沖積段丘面Ⅰを削り込み沖積段丘面Ⅱが形成される。集落の終わりをこの時期と考えたい。

小泉川流域の縄文時代中期から後期にかけての集落変遷は、地形面形成からわかる過去の災害と一致することから、自然環境によって移動するという仮説を立てることが可能であることが分かった。こうした自然環境による移動が汎日本的な環境変動によるものであるかどうかは、他の地域との詳細な対比とともに自然科学的データの検討が必要とされる。

6. まとめと考察

1)長岡京期(第58図)

今回の調査地は右京八条三坊九・十六町にあたる地域である。長岡京は784年から794年の10年間しか存在していなかった。そのため京域がどの程度完成していたかについては、決着を見えない。ただ宮から遠くなるにつれて条坊関連遺構が発見されることが稀になる。

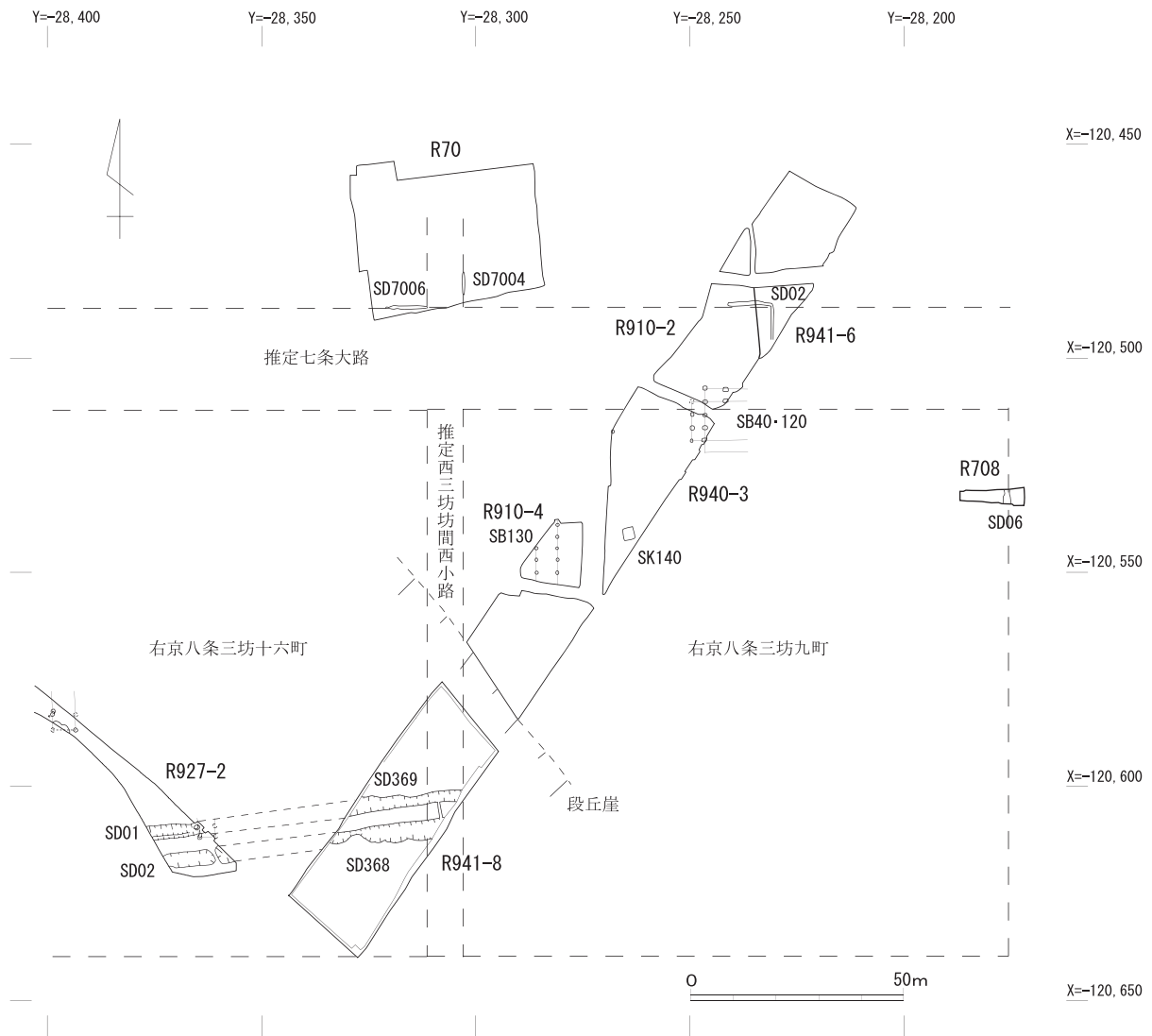
右京第70次調査(中尾ほか1982)では、七条大路北側溝(S D7006)と西三坊坊間西小路東側溝(S D7004)とされる遺構が検出されている。溝の残存状態が良好でなかったことから、性格の確定に疑念も存在した。右京第910次調査2トレンチ内で検出された「L」字に曲がる溝S D02の東西方向部分がS D7006の東側延長部分と一致する。このことから長岡京期前後の真東西を向く同じ軸線上の溝が存在することになり、S D7006が条坊側溝である信憑性が増加した。しかしながら右京第910次調査では、推定七条大路の路面上を溝が横断したり、建物が建つことになり矛盾することとなる。こうした結果から、右京第927次調査(中川ほか2010)の報告では、伊賀寺に関連した地割と考えた。

また、今回の調査地等で検出している溝S D01・02は長岡京期の溝と考えられるが、東で7度北に振り長岡京期の計画線と異なる。この溝は平行する溝で、内側の肩部は直線的であるが、外側に凹凸が認められる。このような傾向は京内の築地塀のある宅地では散見できる現象である。また、他にこの溝と直交する方向の溝2条や南北棟の掘立柱建物跡を検出している。こうした軸が異なる遺構群と前述した正方位を向く遺構群との関係を検討すると、正方位を向く遺構群は低位段丘上に立地しており、軸が異なる遺構群は沖積段丘上に存在する。両者の間には2m前後の段丘崖が存在する。同時期に2つのプランが存在したことになるが、右京八条三坊九町の宅地では両者が共存していることになる。1つの仮説として、長岡京条坊プランが崖の存在から部分的にゆがんだと考えることもできる。しかも、七条大路の南側にある八条坊間北小路は現在の小泉

川の氾濫原であることを加味してみても、連続して施工することができなかつたと考えられる。条坊の横軸となる道路は七条大路しか通せなかつたことになり、大路を起点として宅地を設けたため地形の影響を受けたとは考えられないだろうか。

また、仮説 2 として大路の側溝とされる S D 7006 が七条大路南側溝であれば、右京第 910 次調査で検出した遺構群はすべて宅地内に納まることになる。S D 02 が八条坊間北小路北側溝の位置にゆがみはあるが存在することになり、右京八条三坊九町の宅地は 1 町以上の宅地に復元できる。そして、八条坊間北小路北側溝に対応する南側溝がないことと、施工自体が困難ですぐに途絶える状況となり意味がないことから、宅地南面は川に対峙していたと考えられる。

右京八条三坊九町の宅地は、段丘上の眺望のいい部分に主要な建物が建てられ、前面を築地で区切り河原へと続いていた構造ととらえることができる。主要な建物部分からは小泉川の水面や河原、遠望には山崎の天王山を望む南面した好立地の宅地として復元することができる。この宅地は一町以上の規模を持つことから、延喜式から類推すると三位以上の身分のものが所有できる土地である。この地域では小泉川の対岸は山となっており、条坊施工も発掘調査地点までしか物



第58図 下内田地区周辺の長岡京期の遺構

理的にできない状況である。こうした土地に有力者の宅地が存在することは、前述した立地の特徴から別荘として利用されたものと想定できる。

2)古墳時代

古墳時代後期の溝S D106と落ち込み状遺構S X206を検出した。いずれも古墳時代後期の遺物が出土している。同時期の竪穴式住居跡は右京第927次調査や右京第941次調査で多く検出されている。今回の調査では集落に直接関連する遺構は発見できなかった。

3)縄文時代

(1)縄文土器 縄文時代の遺物は中期末の北白川C式と北白川上層式3期のものが多く、しかも1つの遺構からそれぞれまとまって出土している。

北白川C式土器は竪穴式住居跡S H89からまとまって出土している。伊賀寺遺跡の場合、竪穴式住居内の土器の出土量は決して多くはなく、この住居跡が特殊である。この遺構はいくつかの遺構が重なっている可能性が指摘できる。また、凶化したように個体数が非常に多く接合比率も低いものであったことから竪穴式住居の窪みに投棄されたものと考えられる。遺物の中には北白川上層式・元住吉山式の土器が含まれるがごく少数で、S H89に投棄された遺物の時期は縄文時代中期末と考えたい。出土遺物には北白川追分町遺跡における土器分類のA、B、C類の有文深鉢土器が量的にも多く出土しており、比叡山西麓地域との比較検討が必要とされる。

土器に用いられた胎土は多岐にわたっている。弥生時代等で見られる在地の土器の砂粒は石英・長石・チャート・赤色斑粒である。遺跡の立地する長岡京市はその河川の多くが丹波古世層で形成された山塊に源を発している。そのため、古世層起源のチャートや頁岩などの鉄分を含んだ堆積岩が熱せられ赤色化した赤色斑粒が含まれる。明らかに在地の土器と異なり角張った石英・長石と通常風化によって碎片化する大きな雲母が含まれるものもある。角閃石を含む個体があるが、いわゆる生駒西麓産と呼ばれる褐色の粘土部分を持たず、角閃石と他の鉱物とが分離していない岩片として入っているものもある。こうした角閃石を含むものには古世層起源のチャートを含む個体も存在する。

縄文時代の崖S X199からは縄文時代後期前葉の北白川上層式3期の土器が大量に出土した。北白川C式土器、四ツ池式土器がそれぞれ数個体存在する。北白川C式土器は残りがよいが、四ツ池式土器は器表面が非常に荒れている。出土土器は、S H89のものと異なり角閃石を含むものが多くなる。土器群は堀之内式土器の文様構成が崩れるなど2期より新しい様相を見せている。3期の資料は標識遺跡である京都大学構内出土の遺物よりも量的に恵まれていることと、3期の標識資料が今回の資料に比べ新しい様相を持つことから詳細に細分することが可能であろう。

(2)石器・石製品 打製石器はすべてサヌカイト製である。遺跡内で発見される剥片や分割礫は、小型で10cmを越すものは存在しない。また、礫石器の中には遺跡周辺では河川礫中から入手できないものも多く、通常近くで入手していると考えられる石器であるが、遠方からもたらされている可能性がある。石皿に用いられた石材は鉄平石の可能性があり、中部地方からもたらされたことも視野に入れる必要がある。

S H166で検出した玉類は、S H166を切り込む土坑部分と住居部分のどちらからも出土している。右京第947次調査では墓壙からも玉及び未完成品、素材が出土している。今回の調査では、こうした玉類が副葬品ではなく、この区画が玉作りに関連する機能を持っており、その後、墓が造られたことがわかった。

(中川和哉)

参考文献

- 岩松保ほか「京都第二外環状道路関係遺跡平成15年度発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第113冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2005
- 岩松保ほか「京都第二外環状道路関係遺跡平成16年度発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第118冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2006
- 岩松保ほか「京都第二外環状道路関係遺跡平成17年度発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第124冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2007
- 岩松保ほか「大山崎大枝線道路改良事業関係遺跡報告書」(『京都府遺跡調査報告集』第133冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2009
- 岡崎研一「長岡京跡右京第970次・下海印寺遺跡の発掘調査」(『京都府埋蔵文化財情報』第112号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2010.7
- 岡崎研一ほか「京都第二外環状道路関連遺跡平成20年度発掘調査報告」(『京都府遺跡調査報告集』第137冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2010
- 古閑正浩ほか『境野1号墳』大山崎町教育委員会 2007
- 中川和哉・大本朋哉「京都第二外環状道路関係遺跡長岡京跡(長岡京跡右京第927次)・伊賀寺遺跡」(『京都府遺跡調査報告集』第136冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2010
- 中川和哉・高野陽子ほか「京都第二外環状道路関係遺跡平成19年度発掘調査報告」(『京都府遺跡調査報告集』第131冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2009
- 中川和哉・戸原和人「京都第二外環状道路関係遺跡平成18年度発掘調査報告」(『京都府遺跡調査報告集』第126冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2008
- 福永伸哉ほか『鳥居前古墳－総括編－』大阪大学文学部考古学研究室 1990
- 増田孝彦「長岡京跡右京第910次(7ANOIR-5・NNT-3地区)・941次(7ANOOD-5・OIR-7・NNT-4地区)・友岡遺跡・伊賀寺遺跡発掘調査報告」(『京都府遺跡調査報告集』第133冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2009
- 増田孝彦「長岡京跡右京第941次(7ANOOD-5・OIR-7・NNT-4地区)・友岡遺跡・伊賀寺遺跡」(『京都府遺跡調査報告集』第137冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2010
- 森島康雄「長岡京跡右京第968次発掘調査報告」(『京都府遺跡調査報告集』第141冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2010

付表2 伊賀寺遺跡検出の竪穴式住居跡

発掘次数	竪穴式住居跡 番号	時 期	形 状	炉 跡	出土遺物	
					土器	石器
右京第 910 次	SH190	北白川C式	不明	不明	○	
右京第 927 次	SH08	北白川C式	方形	石囲炉	○	
	SH57	北白川C式	方形	焼土	○	○
	SH65	北白川C式	方形	焼土	○	○
	SH75	北白川C式	方形	無	○	
右京第 941 次	SH400	宮滝式	方形	不明		○
	SH440	宮滝式	長楕円形	焼土	○	○
	SH450	元住吉山式以前	六角形	地床炉	○	○
	SH500-1	元住吉山式	方形	焼土	○	○
	SH500-2	元住吉山式	方形	無		
	SH520	北白川C式か	方形	不明	○	○
	SH550	凹線文土器	方形	不明	○	○
	SH590	不明	方形	不明	○	
右京第 943 次	SH01	元住吉山式	円形	無	○	○
	SH20	北白川C式	不明	石囲炉	○	
	SH25	元住吉山式以前	円形	地床炉		
右京第 988 次	SH78	北白川上層式か	隅丸方形	地床炉	○	
	SH85	北白川C式	隅丸方形	焼土	○	○
	SH89	北白川C式	隅丸方形	地床炉	○	○
	SH107	北白川上層式か	隅丸方形	焼土	○	
	SH192	不明	方形	焼土		

付表 3 伊賀寺遺跡地点別石器出土状況

石器・石製遺物		R70	R799	R910	R927	R941	R943	R947		R975	R984	R988
								伊賀寺	樽井			
狩猟具	尖頭器	○				○						
	石鏃		○	○	○	○	○			○	○	○
漁撈具	石錘				○	○						○
土堀具	打製石斧				○	○						
調理具	石皿類				○	○				○		○
	磨石類			○	○	○				○		○
伐採具	磨製石斧				○	○	○					○
加工具	打製石錐			○	○	○						○
	石匙				○	○						
	削器				○	○						○
	台石					○	○					○
	砥石					○						
祭祀具	石棒				○					○		
	石冠			○								
装身具	平玉					○	○			○		○

付表 4 骨が出土した遺構

調査次数	遺構番号	時期	遺構の平面形	規模 (m)	遺物		礫	焼土
					土器	石器		
右京第 941 次	SP436	北白川 C 式	長方形	1.25 × 0.25	○	○		
	SK540	元住吉山式	円形	直径 0.6	○		○	
	ST560	不明	楕円形	1.5 × 0.9				
	ST620	北白川 C 式	楕円形	2.2 × 1.5	○	○		
	SK697-1	元住吉山式	楕円形	2.5 × 1.4	○	○		○
右京第 943 次	SK03	元住吉山式	楕円形	1.24 × 1.05	○	○	○	○
	SK20	元住吉山式	方形	1.55 × 1.4	○		○	○
	SK26	元住吉山式	方形	4.05 × 2.85	○	○		○
右京第 971 次	SX14	後期	楕円形	0.9 以上 × 0.5	不明	不明	○	不明
右京第 988 次	SH166 (SH01)	元住吉山式	円形	直径 3.2	○	○		

付表5 伊賀寺遺跡出土の縄文土器

時 期	R70	R799	R910	R927	R941	R943	R947		R975	R984	R988
							伊賀寺	樽井			
草創期	○				○						
早 期									○		
前 期											
中期	鷹島式										
	船元Ⅰ式										
	船元Ⅱ式										
	船元Ⅲ式					○					
	船元Ⅳ式										
	里木Ⅱ式										
	北白川C式		●	●	●	●	●	○	○	○	●
後期	中津式			●							
	福田KⅡ式			○							
	四ツ池式										○
	北白川上層式1期			○							
	北白川上層式2期		○	○							
	北白川上層式3期			○						●	●
	一乗寺K式								○		
	元住吉山Ⅰ式					○		○	不明		
	元住吉山Ⅱ式		○		●	●	●	○	○	●	●
	宮滝式			○	●				○		●
	滋賀里Ⅰ式										
晩期	滋賀里Ⅱ式										
	滋賀里Ⅲa式										●
	篠原式										
	滋賀里Ⅳ式										
	船橋式				○		○				
	長原式										

●：遺構・遺物、○：遺物のみ

付表 6 縄文土器観察表

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
1	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	明赤色 斑粒褐 2.5YR5/6	明赤色 斑粒褐 2.5YR5/6	沈線・ 刺突文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
2	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	黒褐 10YR3/1	灰黄褐 10YR6/2	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SX08
3	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	黒 5Y1/2	褐灰 10YR5/1	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
4	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	灰黄褐 10YR6/2	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 雲母	SX08
5	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい赤 色斑粒褐 5YR5/4	橙 5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
6	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	凹点・ 沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
7	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
8	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SX08
9	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 10YR8/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
10	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/2	にぶい橙 5YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
11	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5Y6/6	灰褐 5YR4/2	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SX08
12	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SX08
13	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
14	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	明赤色 斑粒褐 2.5YR5/6	明赤色 斑粒褐 2.5YR5/6	縄文	ナデ		石英・長石	SX08
15	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	灰黄褐 10YR4/2	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SX08
16	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/4	にぶい橙 7.5YR7/4	刺突 文・沈 線・縄 文	ナデ		石英・長石	SX08
17	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR4/1	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SX08
18	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SX08
19	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR5/3	にぶい 黄橙 10YR5/3	縄文	ナデ		石英・長石	SX08
20	無文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
21	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR5/3	区画内羽状沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
22	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 7.5YR8/4	灰白 10YR8/2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
23	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR6/6	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX08
24	無文深鉢	頸部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR5/3	無文	ナデ		石英・長石・雲母	SX08
25	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR4/7	にぶい黄橙 10YR4/7	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
26	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 5YR6/3	凹点・沈線	ナデ		石英・長石	SX08
27	無文深鉢	口縁部	北白川上層式	後期前葉	良	明黄橙 10R6/4	橙 7.5YR6/6	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX08
28	無文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/3	沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX08
29	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/3	橙 5YR6/6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
30	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
31	無文深鉢	胴部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX08
32	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX08
33	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
34	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	褐灰 10YR5/1	にぶい黄橙 10YR7/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SX08
35	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/4	灰黄褐 10YR4/2	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
36	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	黒 5Y2/1	褐灰 10YR5/1	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
37	有文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SX08
38	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄褐 10YR7/3	明灰黄 2.5Y5/6	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SX08
39	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	明褐 7.5YR5/6	褐 7.5YR4/3	刺突文・沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
40	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	灰褐 7.5YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
41	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 7.5YR6/3	にぶい 黄橙 7.5YR6/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SX08
42	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
43	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄褐 10YR6/2	沈線・ 縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX08
44	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	黒褐 7.5YR3/1	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SX08
45	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
46	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR5/3	にぶい 黄橙 10YR5/3	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・角閃石・ 雲母	SX08
47	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR7/6	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
48	有文 深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	明赤色 斑粒褐 2.5YR5/6	明赤色 斑粒褐 2.5YR5/8	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
49	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	明褐 7.5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	無文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・ 雲母	SX08
50	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	灰黄褐 10YR6/2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
51	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	灰白 2.5YR7/1	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SX08
52	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	黄灰 2.5YR5/1	にぶい 黄橙 10YR7/2	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX08
53	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/2	にぶい 黄橙 10YR7/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK02
54	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	凹線	ナデ		石英・長石	SK02
55	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/3	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK02
56	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄褐 10YR7/3	にぶい 黄褐 10YR7/3	押引き 刺突 文・沈 線・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒・雲母	SK05
57	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい 黄橙 10YR6/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SK05
58	無文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	にぶい橙 7.5YR6/4	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SK05
59	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	灰黄褐 5YR5/2	黒褐 2.5YR3/1	凹線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SK12
60	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/4	凹点・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK14
61	有文 浅鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	浅黄橙 10YR8/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SK16

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
62	深鉢	底部			良	橙 7.5YR6/4	黄橙 10YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK06
63	深鉢	底部			良	灰 N 4/0	にぶい 黄橙 10YR7/3	無文	ナデ		石英・長石・雲母	SK06
64	深鉢	底部			良	赤色斑 粒褐 5YR4/5	にぶい褐 7.5YR5/3	無文	ナデ		石英・長石	SK06
65	深鉢	底部			良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい 黄橙 10YR6/3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK06
66	深鉢	底部			良	黄灰 2.5 Y 7/2	灰黄褐 10YR6/3	無文	ナデ		石英・長石	SK06
67	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ		石英・長石	SK20
68	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 5YR6/4	にぶい赤 色斑粒褐 5YR5/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SK20
69	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄褐 10YR5/4	にぶい 黄橙 10YR5/3	口唇部 刺突・ 沈線・ 縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SK26
70	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ		石英・長石・チャート・ 角閃石・雲母	SK20
71	無文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	黄灰 2.5 Y 4/1	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK24
72	無文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄 2.5 Y 7/2	にぶい 黄橙 10YR7/4	隆帯	ナデ		石英・長石	SK21
73	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR5/4	黒褐 10YR3/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK27
74	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR7/6	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SK24
75	有文 深鉢	胴部	凹線文 土器	後期 後葉	良	黒 N 1.5/0	黒褐 10YR3/2	凹線	ナデ		石英・長石・雲母	SK21
76	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK26
92	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	押引き 刺突 文・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒・角閃石・雲 母	SH89
93	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	黒褐 10YR3/1	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
94	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH89
95	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	褐灰 5YR4/1	にぶい橙 7.5YR5/4	刺突 文・沈 線・縄 文	ナデ	b	石英・チャート・赤色 斑粒	SH89

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
96	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 5YR8/4	にぶい橙 7.5YR5/4	押引き 刺突 文・沈 線・縄 文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
97	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
98	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい赤 色斑粒褐 5YR4/3	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH89
99	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
100	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	にぶい 黄橙 10YR6/3	押引き 刺突 文・沈 線・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒・雲母	SH89
101	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
102	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	黒褐 2.5YR3/1	暗灰黄 2.5YR5/2	押引き 刺突 文・縄 文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
103	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	押引き 刺突 文・沈 線・縄 文	ナデ		石英・長石・雲母・砂	SH89
104	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	黒褐 5YR3/1	褐白 7.5YR4/1	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
105	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	浅黄 2.5Y7/2	浅黄 2.5Y7/2	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
106	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	刺突 文・沈 線	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
107	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい赤 色斑粒褐 5YR5/3	にぶい橙 5YR7/4	押引き 刺突 文・沈 線・縄 文	ナデ		石英・長石・雲母・砂	SH89
108	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR7/6	にぶい 黄橙 10YR7/4	押引き 刺突 文・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
109	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
110	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	灰褐 5YR5/2	沈線・ 縄文	摩滅		石英・長石	SH89
111	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	にぶい 黄橙 10YR7/2	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
112	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR7/1	浅黄橙 7.5YR8/4	押引き 刺突 文・沈 線・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
113	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR5/2	灰褐 7.5YR4/2	刺突 文・沈 線	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
114	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	褐 7.5Y4/4	褐 7.5Y4/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
115	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 褐 7.5Y5/3	にぶい 褐 7.5YR5/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
116	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	にぶい 橙 7.5YR7/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
117	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	淡赤色 斑粒橙 2.5Y7/4	橙 2.5YR7/6	沈線	ナデ		石英・長石	SH89
118	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	黒褐 2.5Y3/1	隆帯・ 沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
119	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
120	無文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 5YR4/1	橙 5YR6/6	穿孔	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
121	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/3	浅黄橙 7.5YR8/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
122	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
123	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	にぶい 橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
124	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	にぶい 橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
125	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/2	黒褐 2.5Y3/1	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH89
126	無文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR 7 /6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
127	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	橙 7.5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 砂	SH89
128	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 橙 5YR6/4	沈線・ 縄文・ 剝離痕	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
129	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	押引き 刺突 文・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
130	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
131	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	黒褐 10YR3/1	黒褐 10YR3/1	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
132	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 7.5YR4/2	灰褐 7.5YR4/2	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
133	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	縄文	ナデ		石英・長石	SH89
134	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR7/6	にぶい橙 5YR6/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
135	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	赤色斑 粒褐 5YR4/6	にぶい赤 色斑粒褐 5YR4/4	刺突・ 沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
136	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
137	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
138	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
139	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい 黄橙 10YR7/3	隆帯・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
140	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	押引き 刺突 文・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
141	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
142	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい褐 7.5YR6/4	押引き 刺突 文・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
143	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	褐灰 10YR5/1	黄灰 2.5YR4/1	刺突・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH89
144	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 10YR7/4	にぶい橙 10YR7/4	刺突・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
145	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
146	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
147	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
148	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	褐灰 7.5YR6/1	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
149	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH89
150	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
151	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
152	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	灰白 2.5YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
153	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
154	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR4/1	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
155	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/2	にぶい 黄橙 10YR7/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
156	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	浅黄橙 10YR8/3	凹点・ 隆帯・ 沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
157	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR5/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	凹点・ 隆帯・ 沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
158	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	隆帯・ 沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
159	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/4	にぶい 橙 7.5YR6/4	凹点・ 隆帯・ 沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
160	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	凹点・ 隆帯・ 沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
161	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/4	凹点・ 隆帯・ 沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
162	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	にぶい 橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
163	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	隆帯・ 沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
164	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	にぶい 橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
165	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR5/3	凹点・ 隆帯・ 沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
166	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	褐灰 10YR5/1	灰黄褐 10YR5/2	凹線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
167	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR5/2	褐灰 7.5YR5/2	縄文・ 沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
168	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	縄文・ 沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SH89

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
169	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	凹点・ 隆帯・ 押し 刺突 文・沈 線・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
170	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR5/2	にぶい 橙 7.5YR6/4	凹点・ 隆帯・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
171	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ		石英・長石	SH89
172	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	縄文	ナデ		石英・長石	SH89
173	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	凹点・ 隆帯・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
174	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR6/4	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	凹点・ 隆帯・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
175	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 5YR7/4	にぶい 橙 5YR7/4	縄文・ 沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
176	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/3	にぶい 橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ		石英・長石・チャート	SH89
177	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄 2.5YR7/2	にぶい 黄橙 10YR7/3	隆帯・ 縄文・ 沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 雲母	SH89
178	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	灰黄褐 10YR5/2	縄文	ナデ		石英・長石	SH89
179	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 5YR7/4	橙 5YR7/6	隆帯・ 縄文・ 沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
180	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/4	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SH89
181	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
182	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	にぶい 橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
183	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR6/4	にぶい 橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
184	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
185	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	凹点・ 縄文		b	石英・長石・チャート	SH89
186	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
187	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒・雲母	SH89
188	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	橙 2.5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
189	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/4	にぶい黄 褐 10Y5/3	橋状把 手・凹 点・沈 線・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
190	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	明灰褐 7.5YR5/6	にぶい橙 7.5YR7/4	凹点・ 隆帯・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
191	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
192	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/4	にぶい 黄橙 10YR6/4	隆帯剥 離痕・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
193	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
194	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
195	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR6/6	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
196	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	灰黄褐 10YR6/2	縄文	ナデ		石英・長石	SH89
197	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
198	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい赤 色斑粒褐 5YR5/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
199	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
200	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい黄 2.5YR6/3	穿孔・ 沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
201	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
202	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	にぶい 黄橙 10YR6/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
203	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
204	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 5YR7/4	明褐灰 5YR7/2	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
205	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
206	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	黒褐 10YR3/1	黒褐 10YR3/1	口唇上 キザ ミ・沈 線・縄 文	ナデ		石英・長石	SH89
207	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい赤 色斑粒褐 5YR5/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
208	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR6/4	橙 7.5YR6/6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
209	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
210	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
211	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい橙 10YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
212	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR7/6	にぶい褐 7.5YR5/3	縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
213	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR5/4	にぶい橙 7.5YR6/4	縄文	ナデ		石英・長石	SH89
214	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR6/3	縄文	ナデ		石英・長石	SH89
215	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	刺突 文・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
216	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
217	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR7/1	にぶい 黄橙 10YR7/3	無文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
218	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	無文	不明	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
219	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	刺突 文・縄 文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
220	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
221	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/3	橙 7.5YR7/6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
222	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	黄灰 2.5YR4/1	浅黄橙 10YR8/3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
223	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	縄文	不明	b	石英・長石・チャート・ 雲母	SH89
224	無文 浅鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	黄灰 2.5Y5/1	縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
225	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい 黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
226	無文 浅鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	無文	ナデ		石英・長石	SH89
227	無文 浅鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	黄灰 2.5YR5/1	にぶい 黄橙 10YR6/3	穿孔・ 縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SH89
228	有文 浅鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR7/6	橙 5YR6/6	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
229	無文 浅鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 5YR6/4	浅黄橙 10YR8/3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
230	無文 浅鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 7.5YR8/4	橙 5YR6/8	凹点・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
231	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR5/4	にぶい 黄橙 10YR6/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
232	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい橙 7.5YR7/3	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH89
233	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/3	灰褐 7.5YR4/2	凹点・ 沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH89
234	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・ 雲母	SH89
235	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
236	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
237	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/4	にぶい 黄橙 10YR6/3	刺突文	ナデ		石英・長石	SH89
238	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・ 雲母	SH89
239	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 7.5YR8/3	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
240	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
241	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	褐灰 5YR4/1	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
242	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 5YR5/2	にぶい橙 5YR6/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
243	無文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 5YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
244	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 5YR7/3	浅黄橙 10YR8/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
245	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	赤色斑 粒褐 5YR4/6	にぶい赤 色斑粒褐 5YR4/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH89
246	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	褐 7.5YR4/3	褐 7.5YR4/3	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH89
247	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	黒褐 7.5YR3/1	褐灰 10YR4/1	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH89
248	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
249	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい 黄橙 10YR4/3	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH89
250	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/3	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
251	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR4/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
252	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 7.5YR5/2	灰褐 7.5YR4/2	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
253	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 7.5YR4/2	灰褐 7.5YR4/2	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
254	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR7/6	にぶい 黄橙 10YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
255	無文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	黒褐 10YR3/1	縄文	ナデ		石英・長石	SH89
256	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 5YR6/4	にぶい赤 色斑粒褐 5YR5/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
257	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
258	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
259	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR6/3	灰褐 7.5YR5/2	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
260	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	刺突 文・沈 線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SH89
261	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 7.5YR6/2	にぶい赤 色斑粒褐 5YR5/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
262	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	灰黄褐 10YR5/2	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒・雲母	SH89
263	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	褐灰 5YR7/6	橙 5YR7/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
264	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 5YR6/4	灰黄褐 10YR6/2	刺突 文・沈 線・縄 文	ナデ		石英・長石	SH89
265	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 7.5YR5/2	橙 5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
266	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
267	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	褐灰 10YR4/1	灰白 10YR8/2	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
268	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	刺突 文・縄 文	ナデ		石英・長石	SH89
269	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
270	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR5/4	にぶい 黄橙 10YR5/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
271	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/4	沈線	ナデ		石英・長石	SH89
272	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
273	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/3	刺突 文・沈 線	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
274	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	橙 7.5YR7/6	沈線	ナデ		石英・長石	SH89

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
275	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
276	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	褐灰 10YR5/1	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SH89
277	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
278	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 雲母	SH89
279	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	刺突文	ナデ		石英・長石	SH89
280	鉢		北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	無文	ナデ		石英・長石	SH89
281	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式	中期 末	良	にぶい 褐 7.5YR5/4	にぶい 褐 7.5YR5/4	縄文・ 沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SH89
282	無文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/3	浅黄橙 7.5YR8/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
283	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい 褐 7.5YR5/4	縄文・ 沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SH89
284	無文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
285	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	中期 末	良	灰黄褐 10YR5/2	にぶい 黄褐 10YR5/4	凹線	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
286	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	中期 末	良	褐灰 10YR4/1	褐灰 10YR4/1	凹線	ナデ		石英・長石	SH89
287	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	中期 末	良	暗灰黄 2.5Y5/2	黒褐 2.5Y3/1	凹線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SH89
288	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい 褐 7.5YR5/3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
289	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR4/7	橙 5YR6/6	縄文・ 沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
290	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR6/4	にぶい 橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
291	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰 N4/0	浅黄橙 10YR8/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
292	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい 黄橙 10YR7/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
293	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/4	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
294	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	褐灰 10YR5/1	灰白 10YR8/2	無文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
295	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	褐灰 10YR4/1	橙 5YR6/8	無文	ナデ		石英・長石	SH89
296	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/1	にぶい 橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
297	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 7.5YR5/2	浅黄橙 7.5YR8/3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
298	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	黄灰 2.5Y5/1	にぶい橙 7.5YR7/3	無文	ナデ		石英・長石	SH89
299	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/1	にぶい橙 5YR6/3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
300	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/2	褐灰 10YR6/1	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
301	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	浅黄橙 7.5YR8/4	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒・雲母	SH89
302	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい橙 5YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
303	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 7.5YR8/2	灰白 10YR8/2	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
304	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
305	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	浅黄橙 7.5YR8/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒・雲母	SH89
306	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	黄灰 2.5Y4/1	浅黄橙 10YR8/3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
307	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 7.5YR6/2	にぶい橙 7.5YR7/3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
308	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 2.5Y8/1	にぶい橙 7.5YR7/4	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH89
309	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 7.5YR4/1	橙 5YR6/6	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
310	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR7/3	灰白 10YR7/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
311	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 7.5YR8/3	明褐灰 7.5YR7/2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH89
312	深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	明褐 7.5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	無文	ナデ		石英・長石・雲母	SH89
313	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい褐 7.5YR5/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH85
314	有文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	灰白 10YR8/2	凹点・ 沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SH85
315	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	淡赤色 斑粒橙 2.5YR7/4	橙 2.5Y7/6	沈線	ナデ		石英・長石	SH85
316	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR5/3	にぶい 黄橙 10YR5/3	刺突 文・縄 文	ナデ		石英・長石・雲母	SH85
317	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH85
318	有文 深鉢	胴部	凹線文 土器	後期 後葉	良	にぶい橙 7.5YR7/4	灰黄褐 10YR6/2	凹線	ナデ		石英・長石・雲母	SH85

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
319	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/2	明褐灰 7.5YR7/2	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH85
320	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH85
321	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	灰黄褐 10YR4/2	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH85
322	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	黒褐 7.5YR3/1	灰褐 7.5YR4/2	沈線	ナデ		石英・長石	SH85
323	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	橙 5YR7/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH85
324	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄褐 10YR4/3	黒褐 10YR3/2	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SH85
325	無文 深鉢	胴部	凹線文 土器	後期 後葉	良	黒褐 10YR3/1	黒 10YR2/2	無文	不明	a	石英・長石・角閃石	SH85
326	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR6/6	橙 5YR6/0	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH85
327	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	にぶい 橙 7.5YR6/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SH85
328	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 上層式	後期 前葉	良	灰 5Y6/1	灰 5Y5/1	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	SH78
329	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	黒 2.5Y2/1	黒褐 2.5YR3/1	凹線・ 貝殻圧 痕	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SH85
330	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 褐 7.5YR5/3	灰褐 7.5YR4/2	沈線	ナデ		石英・長石	SH85
331	有文 深鉢	胴部	凹線文 土器	後期 後葉	良	黒褐 10YR3/2	黒褐 10YR3/1	凹線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SH166
332	浅鉢	底部			良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい 黄褐 10YR6/3	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SH107
333	深鉢	底部			良	にぶい 黄褐 10YR5/3	にぶい 黄褐 10YR5/3	無文	ケズ リ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SH107
334	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐 7.5YR4/4	黒褐 7.5YR3/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
335	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR5/3	黒褐 10YR3/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
336	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 橙 5YR6/4	にぶい 橙 5YR6/4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
337	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐 7.5YR4/4	にぶい 黄褐 10YR4/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
338	有文 深鉢	口縁 ～胴 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黒褐 5YR3/1	黒褐 7.5YR3/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
339	有文 深鉢	口縁 ～頸 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐 7.5YR4/3	黒褐 7.5YR3/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
340	有文 深鉢	口縁 ～胴 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黒 2.5YR2/1	黒 10YR2/1	沈線・ 縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
341	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR4/3	黒褐 10YR3/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
342	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	にぶい 橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SX199
343	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR4/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・チャート・ 角閃石	SX199
344	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黒 2.5Y2/1	黒 2.5Y2/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
345	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	縄文	ミガ キ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
346	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 褐 7.5YR4/3	褐 7.5YR4/3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
347	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	縄文	ミガ キ		石英・長石・雲母	SX199
348	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黒 10YR2/1	黒 10YR2/1	沈線・ 縄文	ミガ キ		石英・長石・雲母	SX199
349	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	縄文	不明	a	石英・長石・角閃石	SX199
350	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰白 7.5YR8/2	橙 5YR6/6	縄文	ナデ		石英・長石	SX199
351	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 橙 5YR6/4	橙 7.5YR6/4	沈線・ 縄文	ミガ キ		石英・長石・赤色斑粒	SX199
352	有文 深鉢	口縁 ～頸 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黒 10YR2/2	黒褐 10YR3/2	沈線・ 縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
353	有文 深鉢	口縁 ～胴 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	褐 7.5YR4/3	縄文	ナ デ・ ミガ キ		石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX199
354	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	縄文	ナデ		石英・長石	SX199
355	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR5/4	にぶい 黄褐 7.5YR5/4	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
356	有文 深鉢	口縁 ～胴 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐灰 10YR4/1	灰褐 7.5YR4/2	縄文	ミガ キ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
357	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ	a	石英・長石・赤色斑粒・ 角閃石	SX199
358	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ		石英・長石	SX199

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
359	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR5/3	にぶい 黄褐 10YR5/3	縄文	ナデ	a	石英・長石・赤色斑粒・ 角閃石	SX199
360	有文 深鉢	口縁 ～頸 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR5/3	にぶい 黄褐 10YR5/3	縄文	ケズ リ	a	石英・長石・角閃石	SX199
361	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰黄褐 10YR4/2	にぶい 黄褐 10YR4/3	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
362	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
363	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX199
364	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX199
365	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ミガ キ・ ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SX199
366	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	赤色斑 粒褐 5YR4/6	褐 7.5YR4/3	沈線・ 縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
367	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰白 10YR8/2	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX199
368	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黒褐 10YR3/1	黒褐 2.5Y3/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
369	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐灰 10YR4/1	黒褐 10YR3/2	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
370	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黒褐 10YR3/2	黒褐 10YR3/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
371	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX199
372	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線	ナデ		石英・長石・チャート	SX199
373	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	暗灰黄 2.5YR5/2	にぶい 黄褐 10YR5/4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
374	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	浅黄橙 10YR8/4	明黄褐 10YR7/6	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX199
375	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐 7.5YR4/4	黒 7.5YR2/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
376	有文 深鉢	口縁 ～胴 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐 7.5YR4/4	黒褐 7.5YR3/2	無文	ナデ	b	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
377	無文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR5/4	無文	ナデ	b	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
378	無文 深鉢	口縁 ～胴 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	褐灰 10YR4/1	無文	ケズ リ		石英・長石・赤色斑粒	SX199

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
379	無文 深鉢	口縁 ～頸 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄褐 10YR5/3	無文	ナデ		石英・長石	SX199
380	無文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい 黄橙 10YR5/4	無文	ナデ	b	石英・長石・角閃石	SX199
381	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黒褐 10YR3/1	浅黄橙 10YR8/3	沈線・ 刺突	ナデ		石英・長石	SX199
382	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/3	灰褐 7.5YR4/2	沈線	ナデ		石英・長石	SX199
383	有文 深鉢	口縁 ～胴 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	暗褐 7.5YR3/3	にぶい 黄褐 10YR5/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX199
384	有文 深鉢	口縁 ～胴 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰褐 7.5YR4/2	灰褐 7.5YR4/2	沈線・ 刺突	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
385	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰褐 7.5YR4/2	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線・ 刺突	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
386	有文 深鉢	口縁 ～胴 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい黄 橙 10Y7/3	にぶい黄 橙 10Y7/2	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SX199
387	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	橙 5YR6/8	橙 5YR6/6	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
388	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	橙 5YR6/6	にぶい 黄褐 10YR5/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
389	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰黄褐 10YR4/2	褐灰 10YR4/1	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
390	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	橙 5YR6/5	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
391	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰黄褐 10YR5/2	橙 7.5YR6/6	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
392	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	突起	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
393	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐灰 7.5YR3/1	にぶい橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・ 雲母	SX199
394	有文 深鉢	頸部・ 胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/4	褐 7.5YR4/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
395	有文 深鉢	頸部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黒 7.5YR2/1	にぶい 黄橙 10YR6/4	沈線	ナデ		石英・長石	SX199
396	有文 深鉢	頸部・ 胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	橙 5YR6/6	橙 7.5YR6/6	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
397	有文 深鉢	頸部・ 胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/3	明褐灰 7.5YR7/2	沈線	ナデ		石英・長石	SX199
398	有文 深鉢	頸部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR4/3	褐 7.5YR4/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
399	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐 10YR4/3	灰黄褐 10YR4/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
400	有文 深鉢	頸部・ 胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
401	有文 深鉢	頸部・ 胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR7/6	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
402	有文 深鉢	頸部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SX199
403	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・ 雲母	SX199
404	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黄灰 2.5Y4/1	にぶい 黄褐 10YR5/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
405	有文 深鉢	頸部・ 胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰白 2.5Y7/1	灰 5Y7/1	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
406	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR4/3	灰黄褐 10YR4/2	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
407	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR5/3	灰褐 7.5YR4/2	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
408	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黒 N1.5/0	橙 5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
409	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
410	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	にぶい 黄橙 10YR7/2	沈線	ナデ		石英・長石	SX199
411	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐灰 5YR4/1	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
412	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/3	黄灰 2.5Y4/1	沈線・ 縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
413	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/3	黒褐 10YR3/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
414	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ		赤色斑粒	SX199
415	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/3	灰褐 7.5YR4/2	沈線	不明		石英・長石	SX199
416	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX199
417	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	橙 5YR6/6	橙 5YR7/6	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
418	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰褐 7.5YR4/2	黒褐 7.5YR3/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
419	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/4	褐 7.5YR4/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
420	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	橙 5YR6/6	褐灰 7.5YR4/1	沈線・ 縄文	不明		石英・長石・雲母	SX199
421	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SX199
422	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ		石英・長石	SX199
423	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 5YR7/3	沈線	ナデ		石英・長石	SX199
424	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/3	沈線	ナデ		石英・長石	SX199
425	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐 7.5YR4/6	褐 7.5YR4/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
426	有文 深鉢	頸部・ 胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐 7.5YR4/3	褐 7.5YR4/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
427	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	褐 7.5YR4/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX199
428	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/4	褐 7.5YR4/5	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・	SX199
429	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰褐 7.5YR4/2	にぶい 黄橙 10YR5/3	縄文	不明		石英・長石	SX199
430	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい赤 色斑粒褐 5YR4/3	にぶい 黄橙 10YR4/3	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SX199
431	有文 浅鉢	口縁 ～頸部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰 N4/0	灰黄褐 10YR6/2	沈線・ 縄文	不明		石英・長石	SX199
432	有文 浅鉢	口縁 ～頸部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SX199
433	無文 浅鉢	口縁 ～頸部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	暗灰黄 2.5Y5/2	にぶい 黄橙 10YR6/4	無文	ケズ リ・ ナデ		石英・長石	SX199
434	有文 浅鉢	口縁 部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰黄褐 10YR5/2	にぶい 黄橙 10YR7/2	沈線	不明		石英・長石	SX199
435	有文 浅鉢	口縁 ～胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	灰黄褐 10YR4/2	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
436	無文 浅鉢	口縁 ～胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐 7.5YR4/3	にぶい 黄褐 10YR4/3	無文	ケズ リ・ ナデ	a	石英・長石・赤色斑粒・ 角閃石	SX199
437	無文 浅鉢	口縁 ～頸部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR4/3	にぶい 黄褐 10YR5/3	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
438	無文 浅鉢	口縁 ～胴部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐 7.5YR4/4	褐 7.5YR4/4	無文	ミガ キ・ ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
439	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/4	褐 7.5YR4/6	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
440	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰黄褐 10YR4/2	黒褐 10YR3/2	縄文	ナデ	b	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
441	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR4/3	にぶい黄橙 10YR4/3	縄文	ミガキ・ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
442	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐灰 10YR5/1	にぶい黄橙 10YR6/3	沈線・縄文	ケズリ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX199
443	無文浅鉢	頸～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/4	褐 7.5YR4/4	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
444	無文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	無文	ケズリ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
445	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
446	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黄灰 2.5Y4/1	灰黄褐 10YR5/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
447	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	明赤色斑粒褐 5YR5/6	赤色斑粒褐 5YR4/6	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
448	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒褐 2.5Y3/1	にぶい黄橙 10YR5/4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
449	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX199
450	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐灰 10YR4/1	にぶい黄褐 10YR5/3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX199
451	有文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい橙 5YR7/4	沈線	ミガキ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX199
452	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	沈線	不明		石英・長石	SX199
453	無文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR4/3	暗褐 10YR3/3	無文	ケズリ・ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
454	無文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	無文	ナデ	a	石英・長石・赤色斑粒・角閃石	SX199
455	無文浅鉢	口縁～底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	無文	ケズリ・ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX199
456	無文浅鉢	口縁～底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒褐 7.5YR2/2	暗赤色斑粒褐 5YR3/2	無文	ミガキ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
457	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
458	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/6	褐 7.5YR4/3	無文	ケズリ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
459	深鉢	底部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰黄褐 10YR4/2	橙 7.5YR6/6	無文	ケズ リ		石英・長石・雲母	SX199
460	深鉢	底部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰褐 7.5YR5/2	にぶい 黄橙 10YR7/4	無文	ケズ リ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SX199
461	深鉢	底部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰褐 7.5YR5/2	にぶい橙 5YR6/4	無文	ケズ リ		石英・長石・雲母	SX199
462	深鉢	底部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	灰黄褐 10YR5/2	にぶい 黄褐 10YR5/3	無文	ナデ		石英・長石	SX199
463	浅鉢	底部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	黄灰 2.5Y5/1	暗灰黄 2.5Y4/2	無文	ケズ リ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
464	深鉢	底部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい赤 色斑粒褐 5YR4/4	褐 7.5YR4/4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
465	深鉢	底部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	明褐 7.5YR5/6	にぶい褐 7.5YR5/4	無文	ケズ リ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
466	深鉢	底部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐灰 7.5YR4/1	にぶい 黄褐 10YR5/3	無文	ナデ		石英・長石	SX199
467	深鉢	底部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい赤 色斑粒褐 5YR4/4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
468	深鉢	底部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	褐 7.5YR4/3	褐 10YR4/4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
469	浅鉢	底部	北白川 上層式 3期	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR5/3	にぶい 黄褐 10YR5/3	無文	ケズ リ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SX199
470	有文 深鉢	口縁 ～頸 部	四ツ池	後期 初頭	良	黒褐 10YR3/1	灰褐 7.5YR6/2	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SX199
471	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/3	沈線	ナデ		石英・長石	SX199
472	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/4	にぶい 黄橙 10YR6/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・ 雲母	SX199
473	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR5/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SK08
474	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄褐 7.5YR5/4	灰黄褐 10YR4/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SK10
475	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	明黄褐 10YR7/5	明黄褐 10YR7/5	沈線	ナデ		石英・長石	SK10
476	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	黒褐 7.5YR3/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SK10
477	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい赤 色斑粒褐 5YR5/4	褐 7.5YR4/3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SK10
478	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SK10

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
479	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	褐灰 7.5YR5/1	にぶい 褐 7.5YR6/3	沈線	ナデ		石英・長石	SK10
480	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK10
481	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい 黄橙 10Y6/4	刺突 文・沈 線・縄 文	ナデ		石英・長石・雲母	SK10
482	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	黒褐 5YR3/1	橙 5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK10
483	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	褐灰 10YR5/1	灰黄褐 10YR6/2	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SK10
484	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/4	にぶい 黄橙 10YR6/4	沈線・ 縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK10
485	無文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	にぶい 黄橙 10YR7/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SK10
486	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	黄灰 2.5Y6/1	にぶい 黄橙 10YR7/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	SK22
487	有文 浅鉢	口縁 部	北白川 上層式	後期 前葉	良	褐灰 10YR5/1	灰黄褐 10YR5/2	刺突 文・沈 線	ナデ		石英・長石・雲母	SK15
488	無文 深鉢	頸部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK25
489	無文 深鉢	胴部	凹線文 土器	後期 後葉	良	にぶい 黄橙 7.5YR7/4	灰黄褐 10YR5/2	条痕	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK27
490	有文 深鉢	胴部	凹線文 土器	後期 後葉	良	橙 5YR6/6	にぶい 黄橙 10YR6/3	凹線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK32
491	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/4	にぶい 黄橙 10YR6/4	凹線	ナデ		石英・長石	SK71
492	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SK44
493	無文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	灰黄褐 10YR4/2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK44
494	無文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	にぶい 橙 7.5YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK71
495	有文 深鉢	胴部	凹線文 土器	後期 後葉	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	にぶい 橙 5YR7/4	凹線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK71
496	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	にぶい 橙 7.5Y7/4	にぶい 黄橙 10YR7/3	凹線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK71
497	無文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 褐 7.5YR5/4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SK71
498	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	刺突文	ナデ		石英・長石	SK76

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
499	無文 深鉢	底部	滋賀里 Ⅲ式	晩期	良	灰白 10YR7/1	にぶい 黄橙 10YR7/3	無文	ケズ リ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK73
500	無文 深鉢	口縁 部	滋賀里 Ⅲ式	晩期	良	黒褐 2.5Y3/1	橙 5YR6/6	無文	ケズ リ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK73
501	無文 深鉢	口縁 ～胴 部	滋賀里 Ⅲ式	晩期	良	褐灰 10YR4/1	暗褐 10YR3/3	無文	ミガ キ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SK73
502	無文 深鉢	口縁 ～胴 部	滋賀里 Ⅲ式	晩期	良	黒 7.5YR2/1	にぶい 橙 7.5YR7/3	無文	ミガ キ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK73
503	有文 深鉢	頸部 ～胴 部	北白川 C式	中期 末	良	明赤色 斑粒褐 5YR5/6	にぶい 黄橙 10YR5/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK75
504	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	褐灰 10YR5/1	沈線・ 縄文	不明		石英・長石	SK90
505	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/1	灰黄褐 10YR4/2	沈線・ 縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK90
506	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰 N5/0	淡黄 2.5YR8/3	沈線・ 縄文	不明		石英・長石・雲母	SK90
507	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/4	にぶい 橙 5YR6/4	沈線	不明		石英・長石・雲母	SK90
508	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	黒 N2/0	暗灰 N3/0	凹線・ 貝殻圧 痕・刺 突	ナデ		石英・長石	SK91
509	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	灰褐 7.5YR4/2	灰褐 7.5YR4/2	凹線・ 沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SK91
510	有文 浅鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 橙 7.5YR6/4	縄文	ナデ		石英・長石	SK122
511	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SK122
512	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	浅黄橙 10YR8/3	灰白 2.5YR8/2	縄文	不明	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK124
513	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 褐 7.5YR5/4	にぶい 黄橙 10YR6/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SK124
514	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	沈線	不明		石英・長石・雲母	SK124
515	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 褐 7.5YR6/3	にぶい 褐 7.5YR6/3	沈線・ 刺突	ナデ		石英・長石	SK122
516	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	黄灰 2.5Y6/1	橙 7.5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK124
517	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK124
518	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	沈線・ 縄文	不明		石英・長石・赤色斑粒	SK124
519	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK124
520	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK124

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
521	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR4/2	灰黄褐 10YR4/2	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SK124
522	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/3	灰 N4/0	沈線	不明		石英・長石	SK124
523	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	沈線	不明		石英・長石	SK124
524	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 5YR7/6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK124
525	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	褐灰 10YR4/1	褐灰 10YR4/1	沈線	ナデ		石英・長石	SK136
526	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	刺突文・沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SK146
527	無文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR7/4	にぶい褐 7.5YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK146
528	有文深鉢	口縁部(波状)	北白川C式	中期末	良	褐灰 10YR4/1	灰黄褐 10YR5/2	押引き刺突文・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SK146
529	有文深鉢	口縁部(波状)	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR6/4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK146
530	有文深鉢	口縁部(波状)	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6/2	褐灰 10YR4/1	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SK146
531	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	暗褐灰 7.5YR7/2	にぶい褐 7.5YR6/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK146
532	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6/2	オリーブ黒 5Y3/1	沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK146
533	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR7/3	にぶい橙 5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK146
534	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	黒褐 10YR3/2	黒褐 10YR3/2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK146
535	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK146
536	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK146
537	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/3	にぶい橙 7.5YR7/4	凹点	ナデ	b	石英・長石・チャート	SK146
538	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR7/3	褐灰 5YR4/1	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK146
539	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR6/3	にぶい橙 5YR6/4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK146

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
540	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR6/3	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK146
541	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/3	灰褐 7.5YR6/2	沈線	不明	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK146
542	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	褐灰 7.5YR4/1	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	SK146
543	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK146
544	有文 深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 5YR6/4	にぶい 黄橙 10YR7/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK146
545	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	沈線	不明	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK146
546	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK146
547	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	褐灰 7.5YR4/2	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK146
548	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 5YR6/4	にぶい赤 色斑粒褐 5YR5/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK146
549	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK146
550	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK146
551	有文 深鉢	底部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい赤 色斑粒褐 5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SK146
552	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	刺突 文・沈 線	ナデ		石英・長石・雲母	SK162
553	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/3	にぶい橙 7.5YR7/4	刺突文	ナデ		石英・長石	SK162
554	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	明黄褐 10YR7/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK162
555	無文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰 N4/0	淡黄 2.5Y8/3	縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK162
556	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	灰白 2.5Y8/2	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SK162
557	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	沈線	ナデ		石英・長石	SK162
558	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK181
559	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK194

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
560	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄褐 10YR5/3	オリーブ黒 5Y3/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK195
561	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SK195
562	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/2	沈線・縄文	不明	b	長石・チャート	SK195
563	鉢	高台部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2	穿孔	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK201
564	無文深鉢	口縁～頸部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	無文	ケズリ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK203
565	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄褐 10YR5/4	暗褐 10YR3/4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK202
566	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線	ナデ		石英・長石	SK201
567	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	沈線	不明		石英・長石	SK201
568	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR5/3	沈線・縄文	不明		石英・長石・赤色斑粒	SK201
569	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK202
570	無文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3	無文	ケズリ		石英・長石・雲母	SK203
571	無文深鉢	底部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR4/3	無文	ケズリ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SK203
572	無文深鉢	底部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/2	橙 7.5YR6/6	無文	ケズリ		石英・長石・赤色斑粒	SK203
573	無文深鉢	底部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	無文	ケズリ		石英・長石・赤色斑粒	SK203
574	有文深鉢	胴部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/2	灰白 10YR8/2	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK202
575	有文深鉢	胴部	北白川上層式	後期前葉	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	沈線	ナデ		石英・長石	SK204
576	無文深鉢	口縁部	北白川上層式	後期前葉	良	橙 7.5YR6/6	灰黄褐 10YR6/2	縄文	不明	b	石英・長石・チャート	SK204
577	有文深鉢	口縁部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい褐 5YR5/4	にぶい褐 5YR5/4	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK207
578	有文深鉢	口縁部	北白川上層式	後期前葉	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK207

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土地 点
						内面	外面					
579	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式	後期 前葉	良	橙 7.5YR6/6	にぶい 黄褐 10YR4/3	沈線	ナデ		石英・長石	SK207
580	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK207
581	有文 深鉢	頸部	北白川 上層式	後期 前葉	良	灰黄 2.5YR7/2	灰黄 2.5YR7/2	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK207
582	有文 深鉢	胴部	北白川 上層式	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR5/3	沈線	ナデ		石英・長石	SK207
583	有文 深鉢	口縁 部	北白川 上層式	後期 前葉	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK207
584	有文 深鉢	頸部	北白川 上層式	後期 前葉	良	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR7/4	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK207
585	深鉢	底部	北白川 上層式	後期 前葉	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	無文	不明	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SK207
586	深鉢	底部	北白川 上層式	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR7/2	灰白 10YR8/2	無文	ナデ		石英・長石	SK207
587	無文 深鉢	口縁 ～胴 部	北白川 上層式	後期 前葉	良	にぶい 黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	沈線・ 縄文	ケズ リ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SK207
588	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	橙 5YR6/6	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SP06
589	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい赤 色斑粒褐 5YR4/3	にぶい赤 色斑粒褐 5YR4/3	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SP06
590	有文 深鉢	口縁 部(波 状)	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石	SP20
591	無文 深鉢	口縁 部		後期	良	黒褐 2.5Y3/1	黒褐 2.5Y3/1	無文	ミガ キ		石英・長石・雲母	SP21
592	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR5/1	刺突 文・沈 線	不明		石英・長石	SP24
593	無文 浅鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	黒 7.5Y2/1	灰黄 2.5Y6/2	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SP24
594	有文 深鉢	胴部	凹線文 土器	後期 後葉	良	にぶい 黄橙 10YR6/3	黒褐 2.5Y3/1	巻貝扇 状圧 痕・凹 線・刺 突文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・ 雲母	SP28
595	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 7.5YR6/2	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SP66
596	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい 黄橙 10YR7/3	沈線・ 縄文	不明		石英・長石	SP66
597	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ		石英・長石	SP66

報告 番号	器形	部位	形式	時期	焼 成	色調		文様・ 施文	調整	種 別	含有鉱物	出土 地点
						内面	外面					
598	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SP66
599	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	沈線	不明		石英・長石・雲母	SP74
600	有文 深鉢	頸～ 胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰褐 7.5YR4/2	灰褐 7.5YR4/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SP112
601	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR5/3	にぶい橙 10YR6/3	凹線	ナデ		石英・長石	SP115
602	有文 深鉢	胴部	凹線文 土器	後期 後葉	良	にぶい橙 7.5YR6/4	浅黄橙 10YR8/3	凹線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SP120
603	有文 深鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	灰褐 7.5YR6/2	灰 5Y4/1	巻貝扇 状圧 痕・凹 線	不明		石英・長石・角閃石	SP120
604	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SP128
605	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	沈線・ 縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SP128
606	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/3	灰褐 7.5YR5/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SP116
607	無文 浅鉢	口縁 部	凹線文 土器	後期 後葉	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR6/6	無文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SP120
608	有文 深鉢	頸～ 胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	黒褐 10YR3/2	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SP128
609	有文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線・ 縄文	ナデ	a	石英・角閃石	SP129
610	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	橙 2.5YR7/6	橙 2.5YR6/6	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SP129
611	無文 深鉢	胴部			良	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい褐 7.5YR5/3	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・ 雲母	SP130
612	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SP149
613	有文 深鉢	胴部	北白川 土層式	後期 前葉	良	にぶい 黄橙 10YR5/3	黄灰 2.5Y4/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SP137
614	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/4	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SP135
615	無文 深鉢	口縁 部	北白川 C式	中期 末	良	にぶい 黄橙 10YR7/3	橙 2.5YR6/6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・ 赤色斑粒	SP150
616	有文 深鉢	胴部	北白川 C式	中期 末	良	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	沈線・ 縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SP151

※種別は、a：角閃石の入ったもの、b：在地の胎土

圖 版



(1) トレンチ全景(南東から)



(2) 大型落ち込み状遺構 S X 08
(北から)



(3) 大型落ち込み状遺構 S X 08
(東から)



(1) 1 トレンチ遺構集中部(南東から)



(2) 4 トレンチ全景(西から)



(1) 1 トレンチ全景(南東から)



(2) 1 トレンチ北部(南から)



(3) 2・3 トレンチ(南東から)



(1) 3 トレンチ全景(北西から)



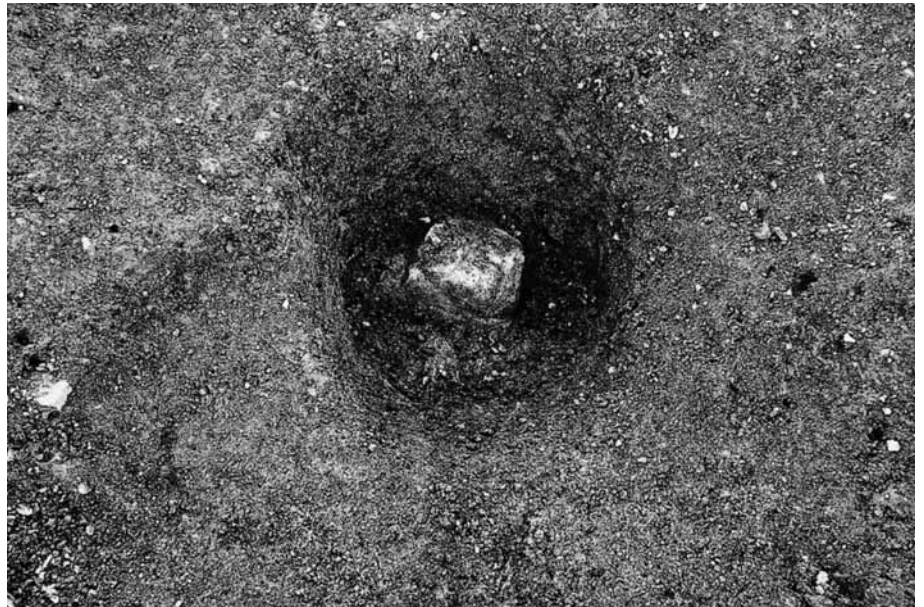
(2) 2 トレンチ(北西から)



(3) 4 トレンチ(南西から)



(1) 1 トレンチ溝 S D01(西から)



(2) 1 トレンチ溝 S D01内
柱穴 S P153(東から)



(3) 1 トレンチ溝 S D02(西から)



(1) 1 トレンチ柱穴 S P 81(南から)



(2) 1 トレンチ柱穴 S P 175
(南から)



(3) 1 トレンチ柱穴 S P 176
(南から)



(1) 1 トレンチ柱穴 S P177
(西から)



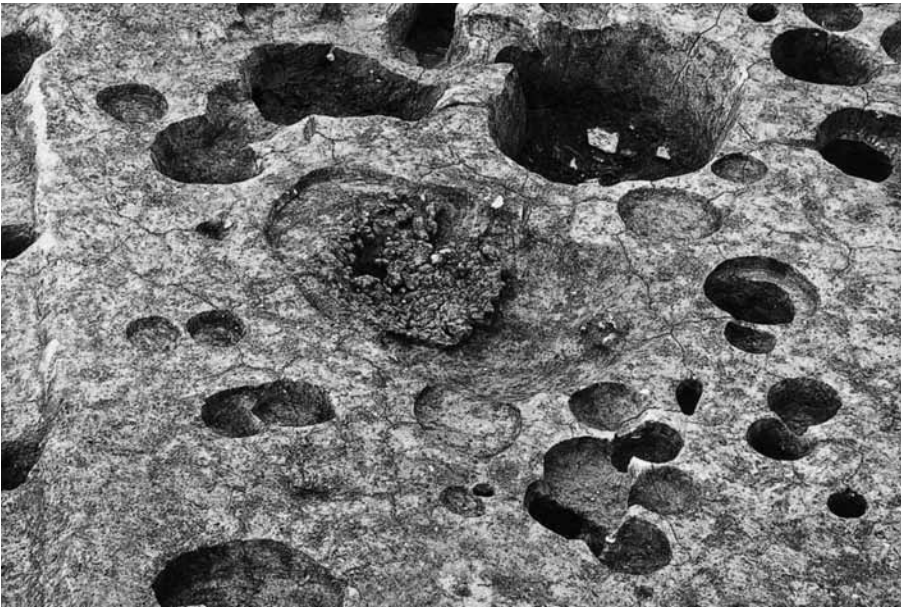
(2) 4 トレンチ溝 S D160上層
(南から)



(3) 4 トレンチ溝 S D160下層
(東から)



(1) 1 トレンチ縦穴式住居跡 S H89
(東から)



(2) 1 トレンチ縦穴式住居跡 S H89
内炉跡 S X148(東から)



(3) 1 トレンチ縦穴式住居跡 S H89
内炉跡 S X148断ち割り
(北から)



(1) 1 トレンチ竪穴式住居跡 S H85
(東から)



(2) 1 トレンチ竪穴式住居跡 S H85
(北から)



(3) 1 トレンチ竪穴式住居跡 S H85
焼土(東から)



(1) 1 トレンチ溝 S D79・
 堅穴式住居跡 S H78上面
 (東から)



(2) 1 トレンチ堅穴式住居跡 S H78
 (東から)



(3) 1 トレンチ堅穴式住居跡
 S H166(東から)



(1) 1 トレンチ縄文時代の崖
S X199(西から)



(2) 1 トレンチ縄文時代の崖
S X199断面 1 (西から)



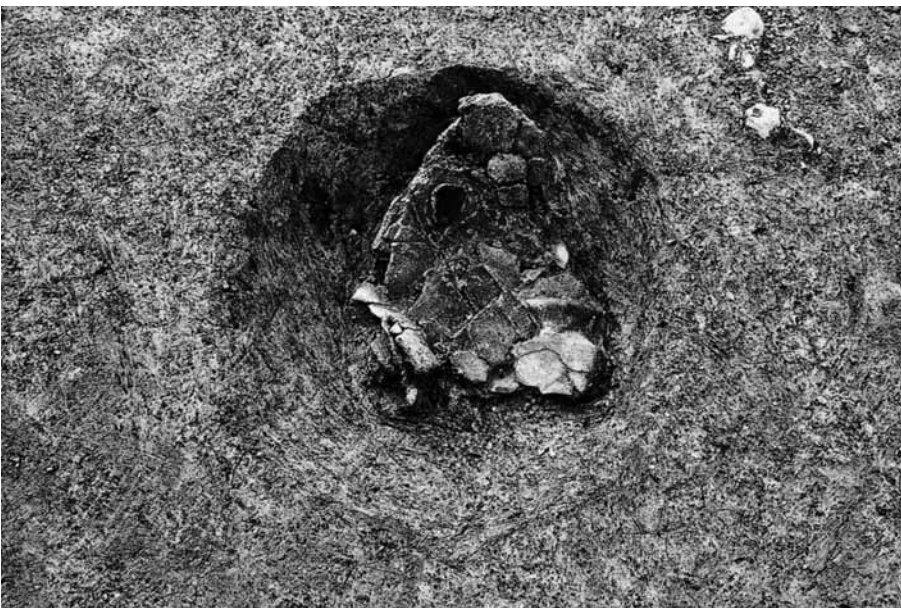
(3) 1 トレンチ縄文時代の崖
S X199断面 2 (西から)



(1) 1 トレンチ縄文時代の崖
S X199遺物出土状況(西から)



(2) 1 トレンチ土坑 S K73上層
(西から)



(3) 1 トレンチ土坑 S K73下層
(南から)



(1) 1 トレンチ土坑 S K 136
(東から)



(2) 1 トレンチ土坑 S K 144
(西から)



(3) 1 トレンチ土坑 S K 181
(西から)



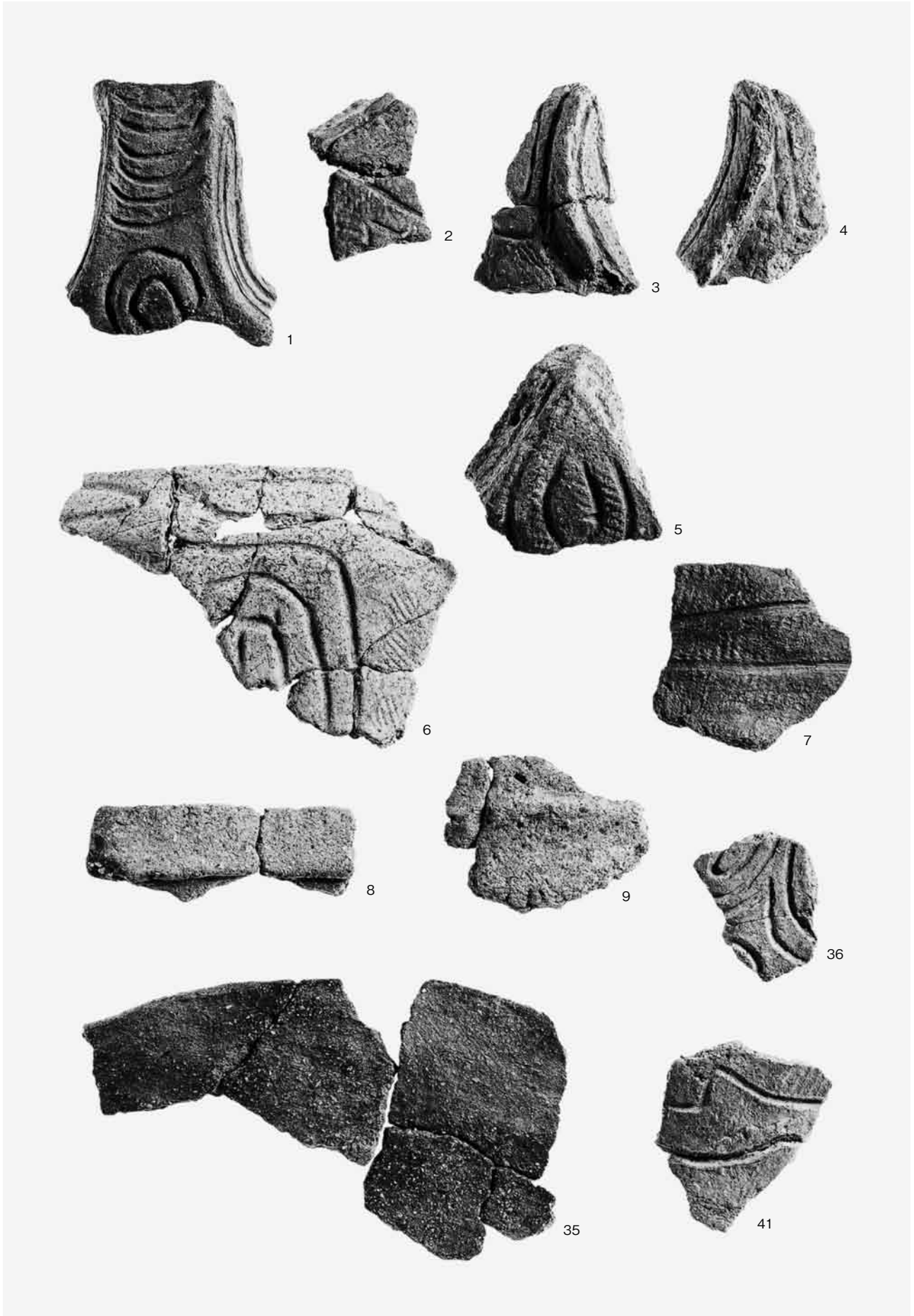
(1) 1 トレンチ土坑 S K 203
(西から)



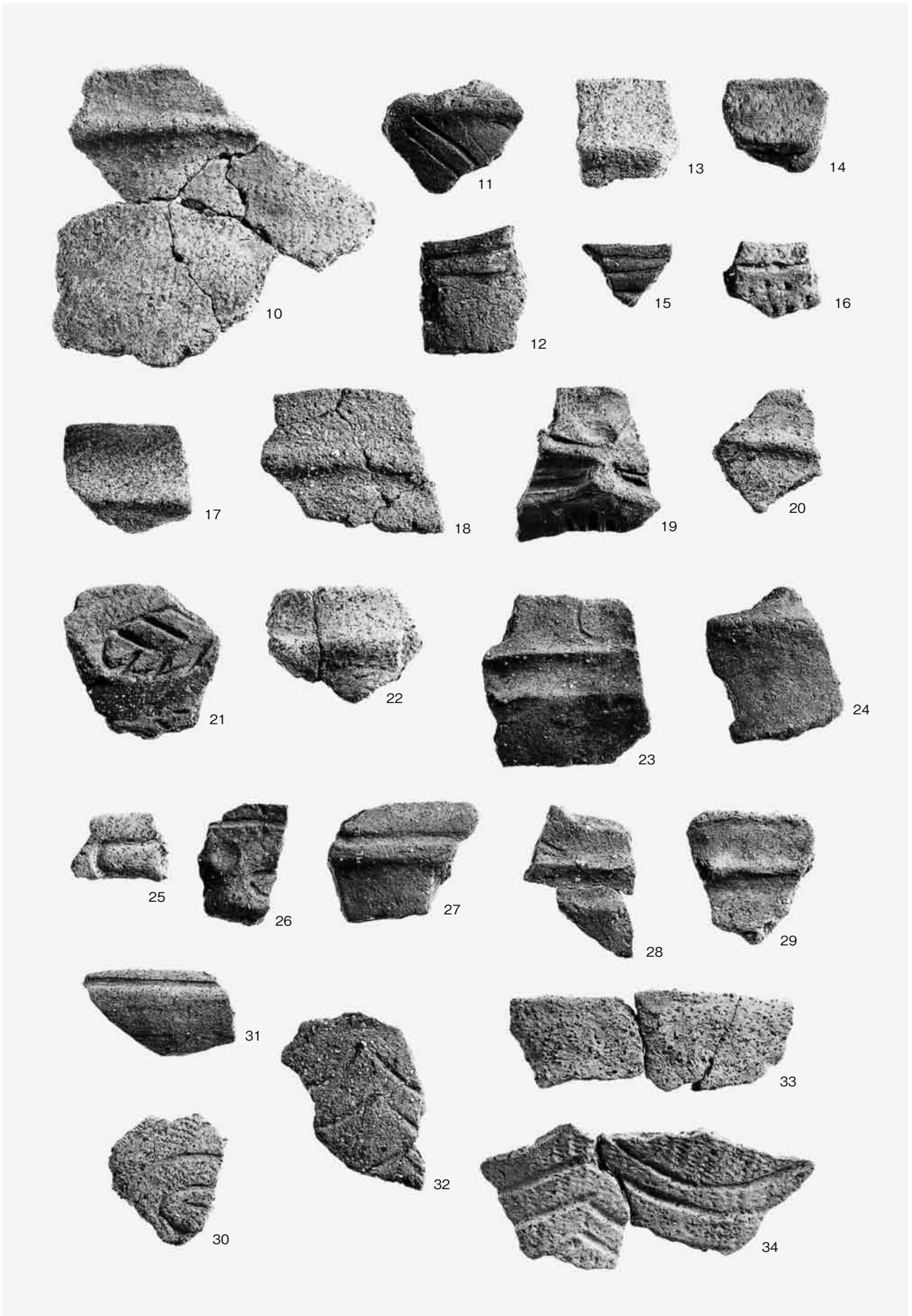
(2) 1 トレンチ土坑 S K 207
(西から)



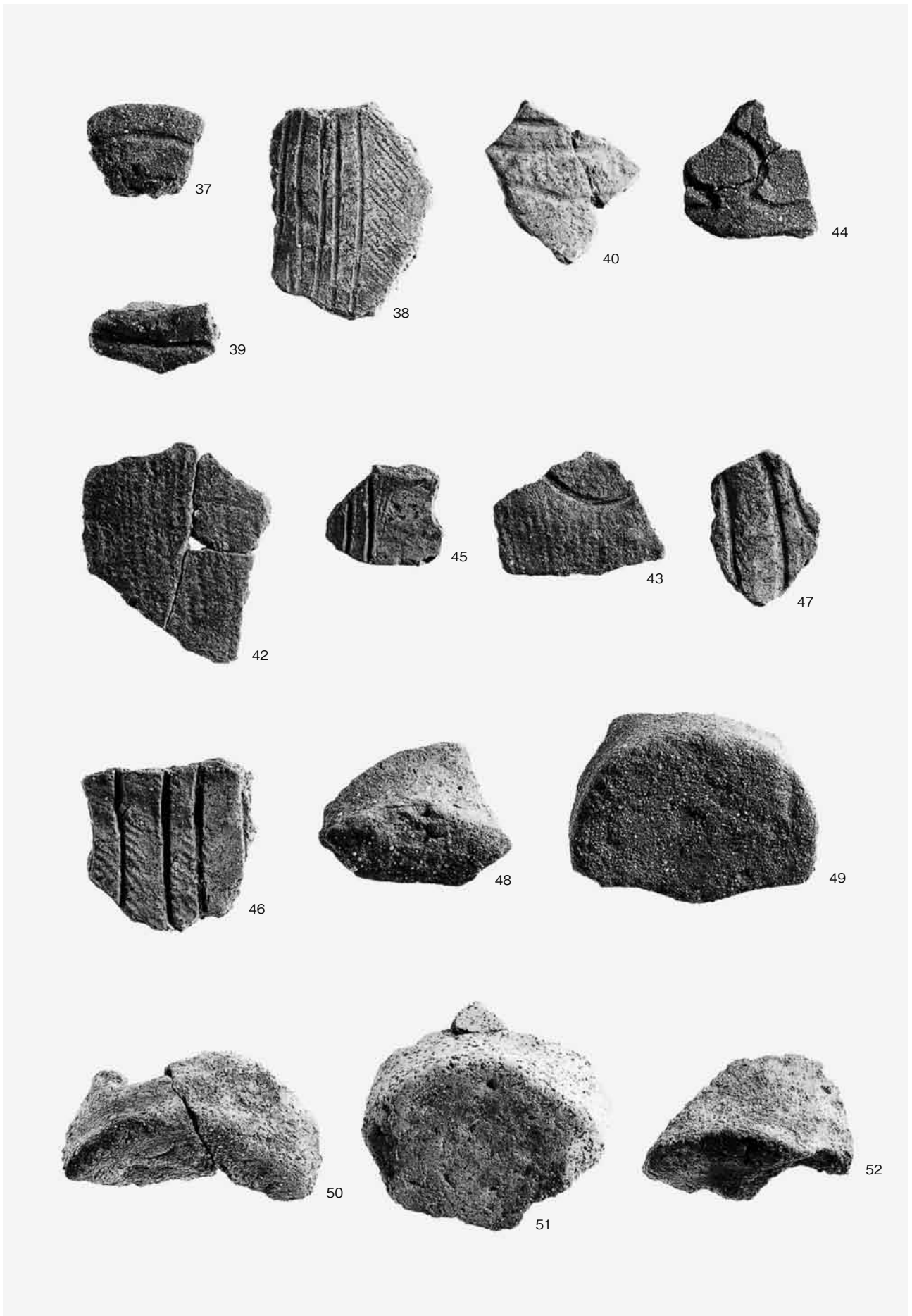
(3) 1 トレンチ土坑 S K 208
(北から)



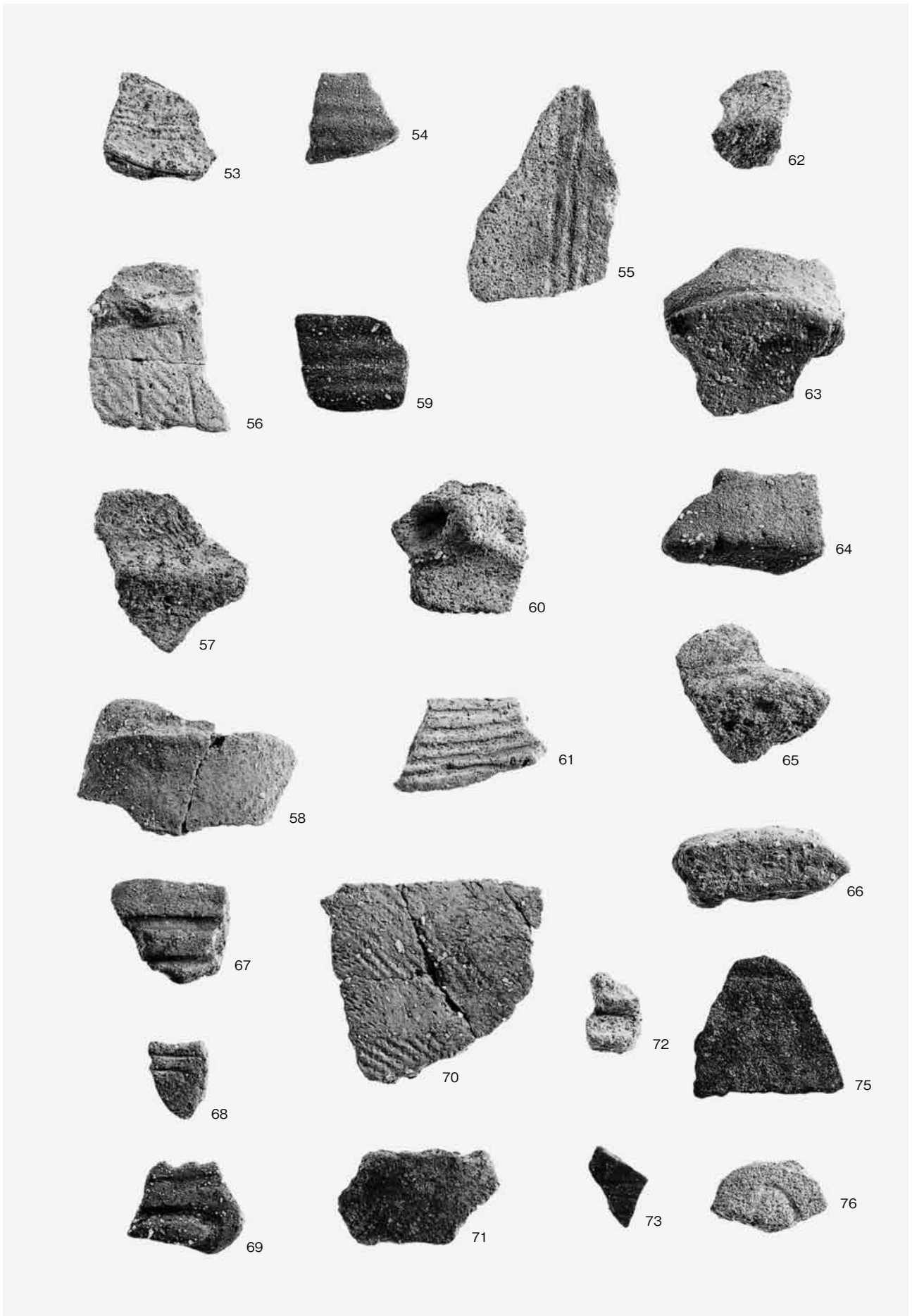
大型落ち込み状遺構 S X08出土縄文土器(1)



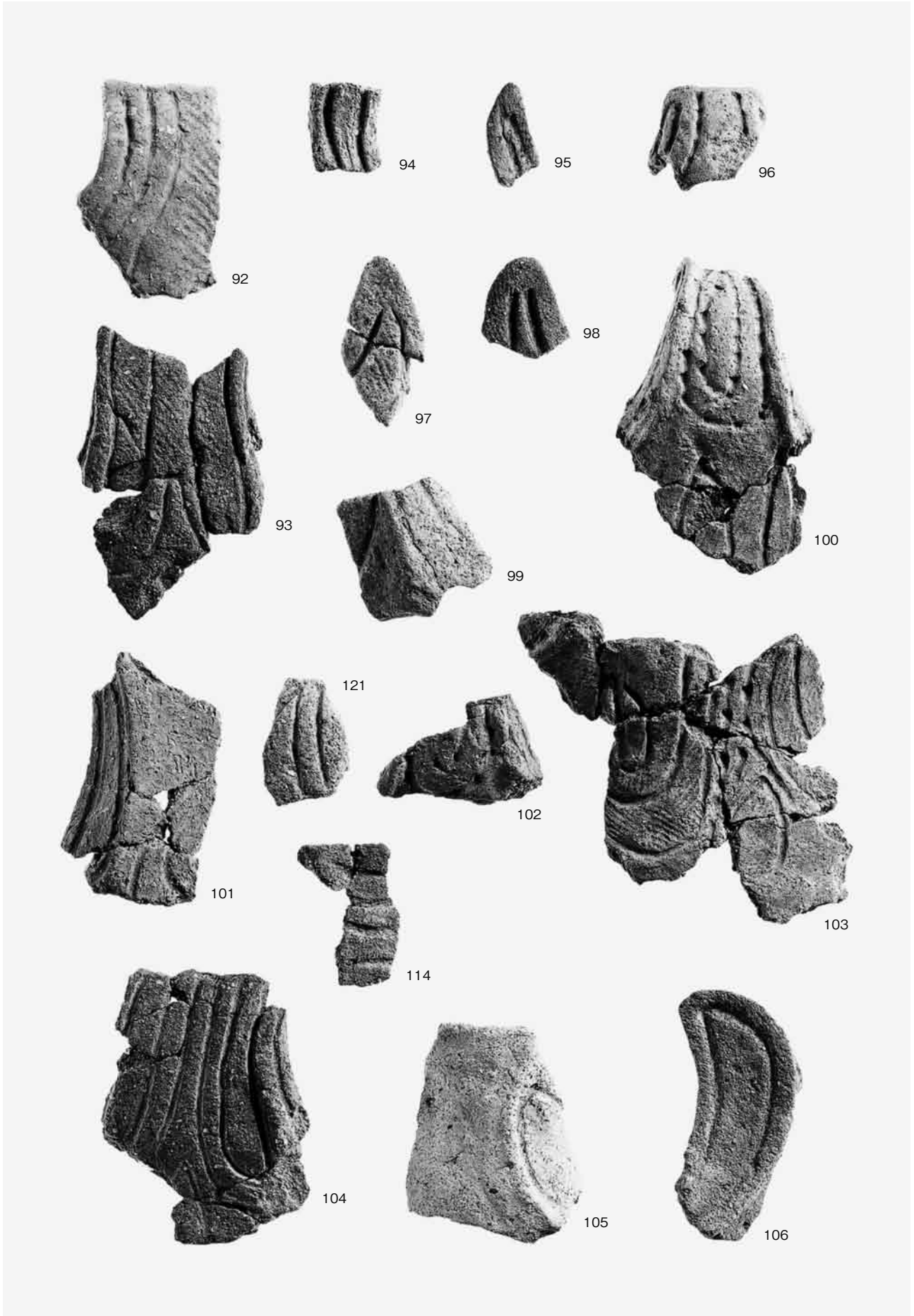
大型落ち込み状遺構 S X08出土縄文土器(2)



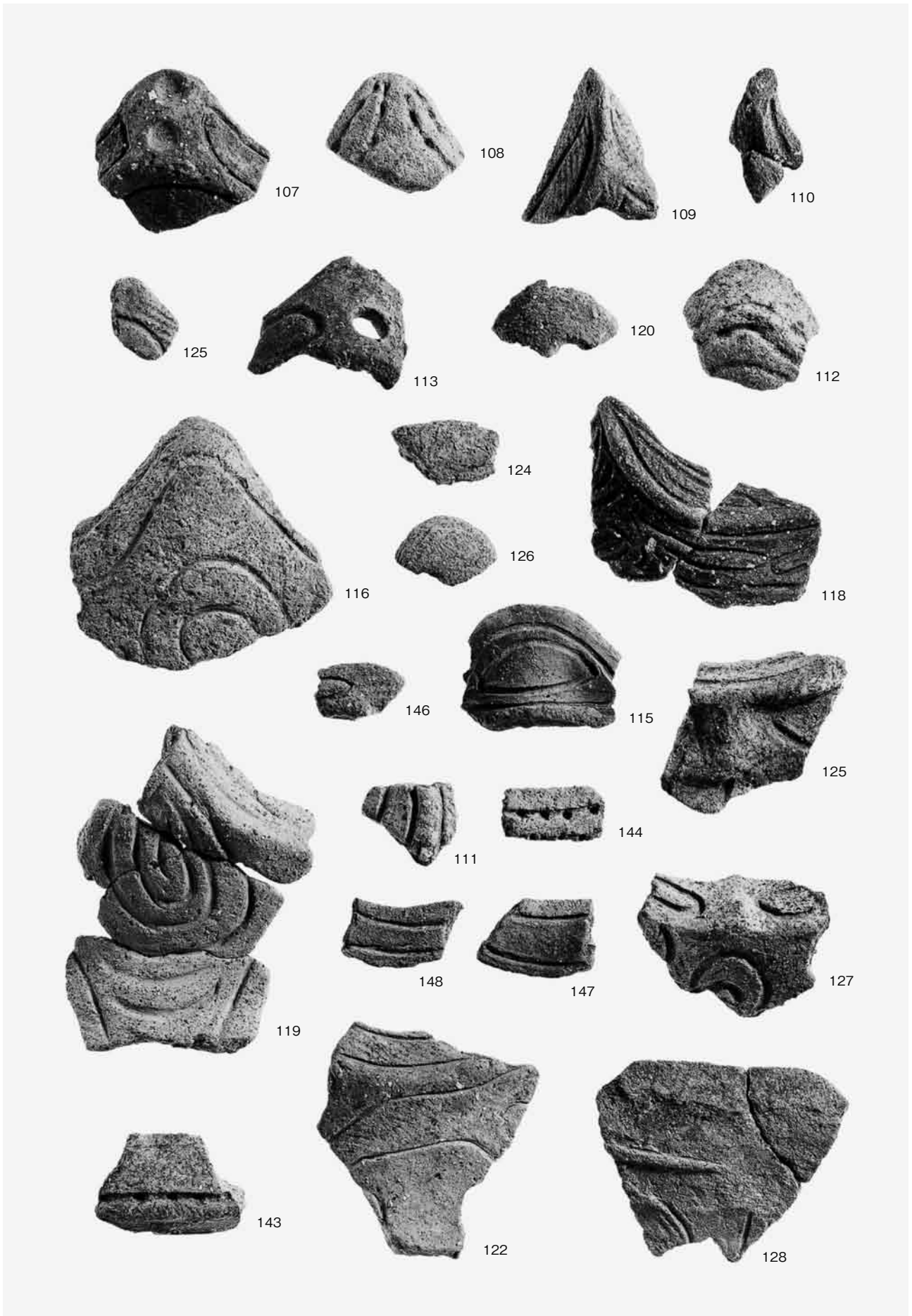
大型落ち込み状遺構 S X08 出土縄文土器 (3)



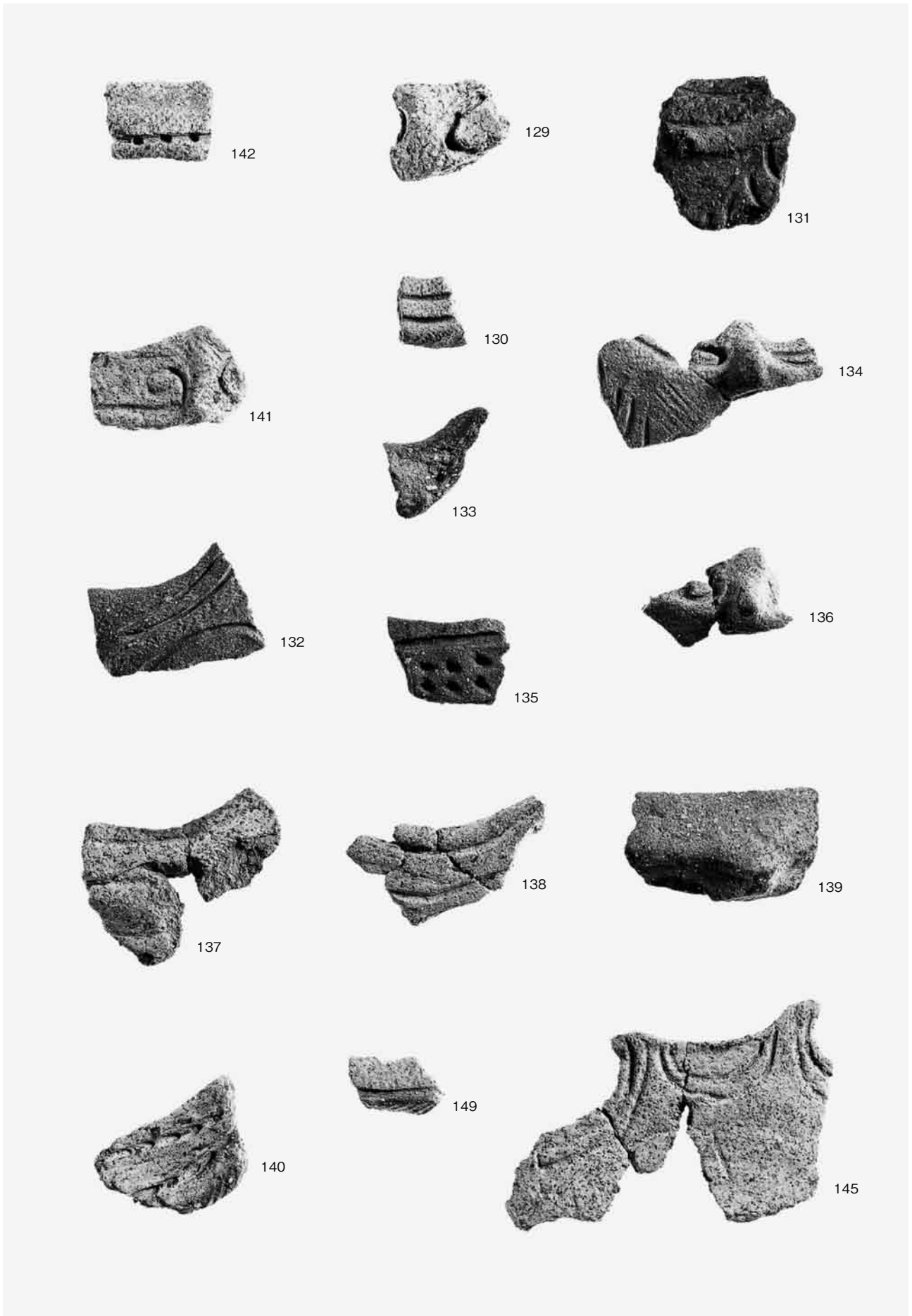
土坑及び柱穴出土縄文土器



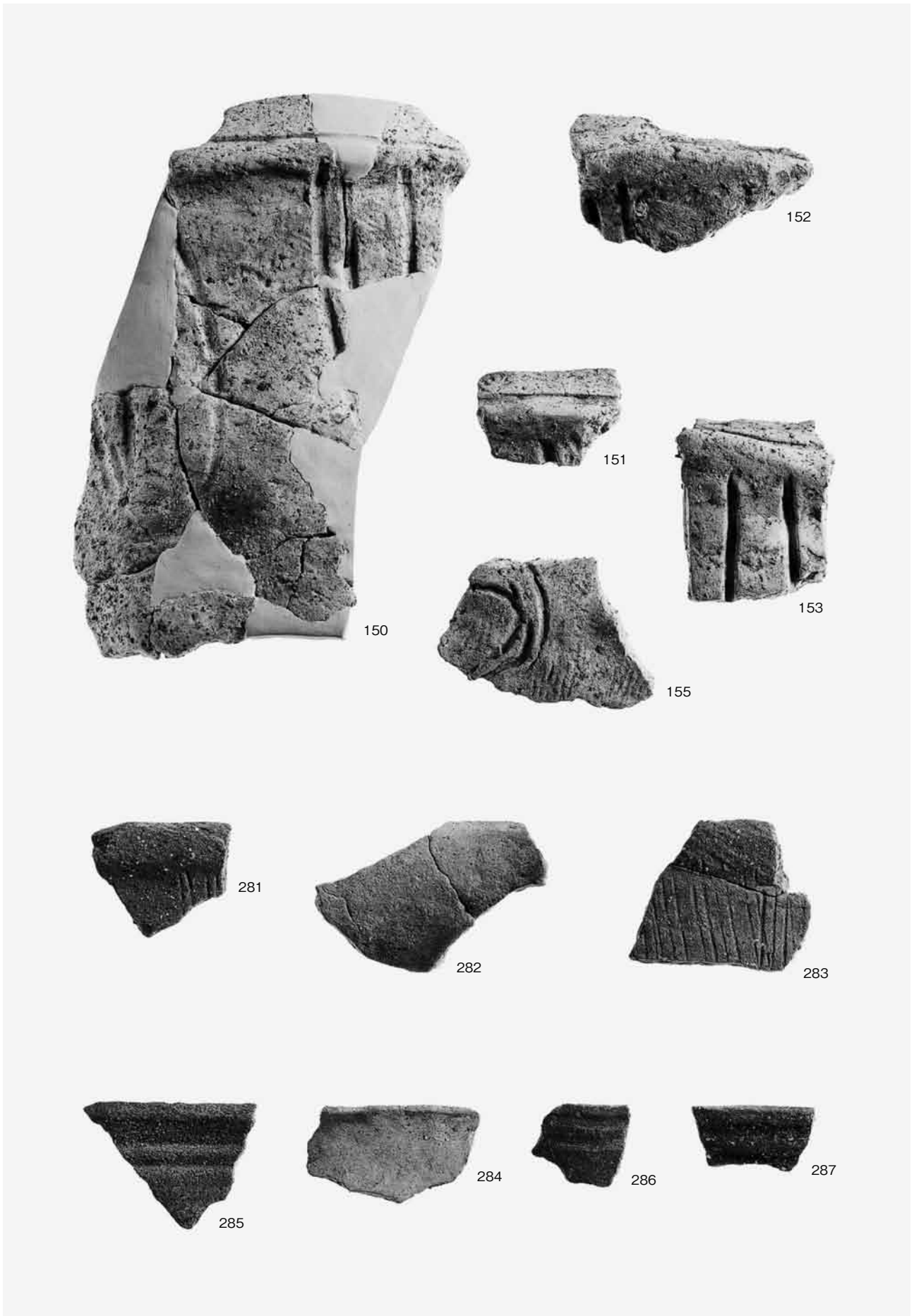
竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器(1)



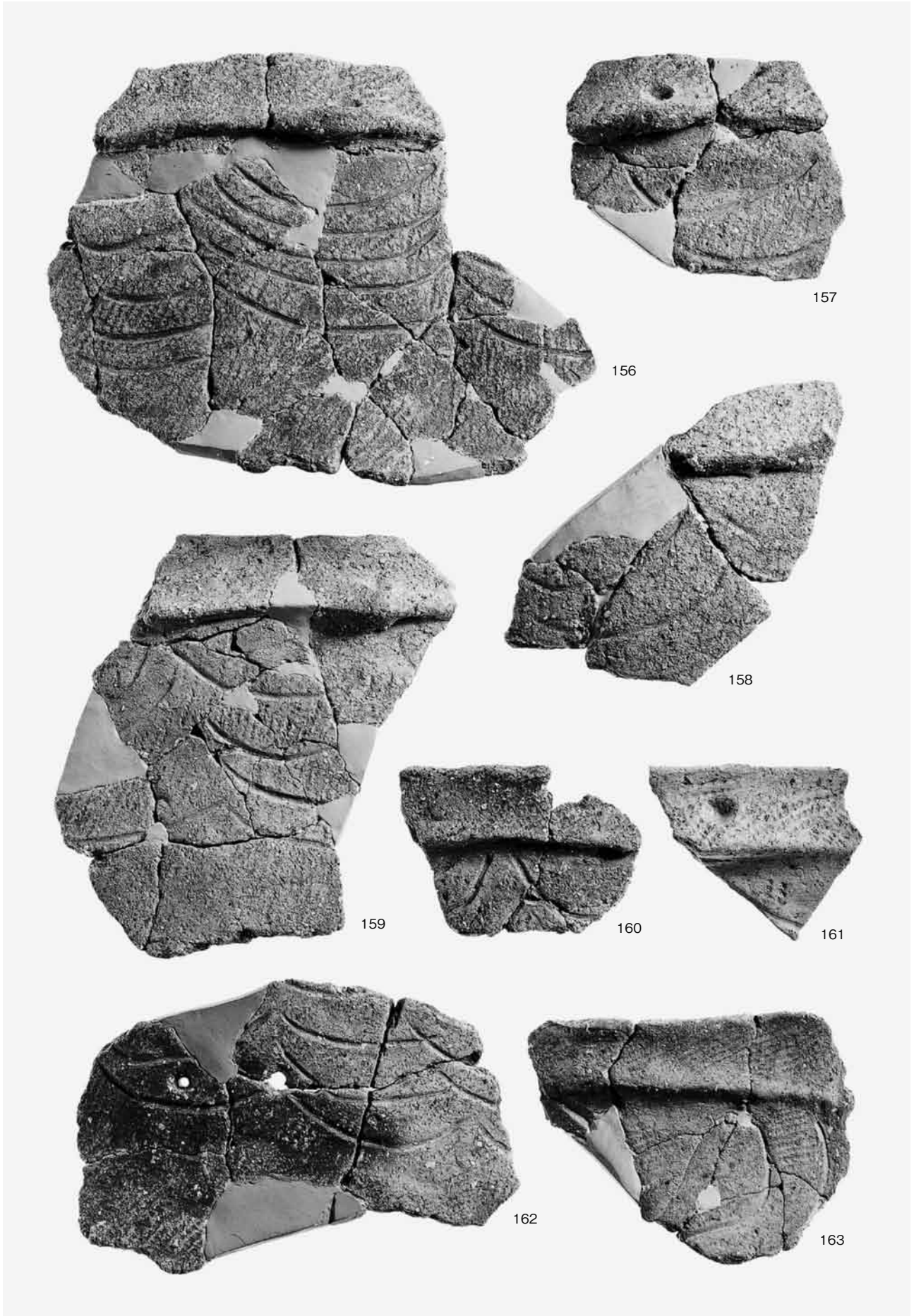
竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器(2)



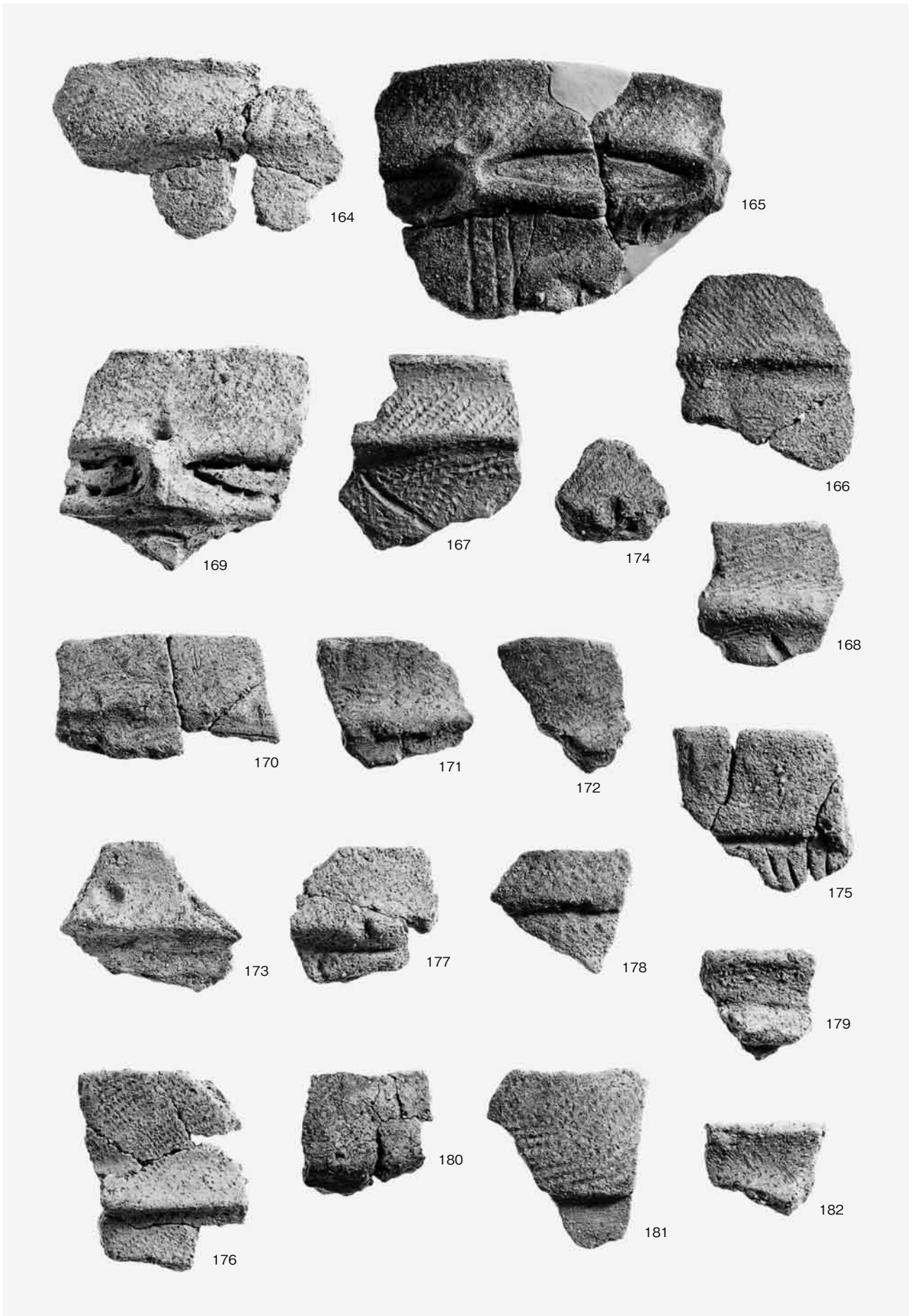
竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器(3)



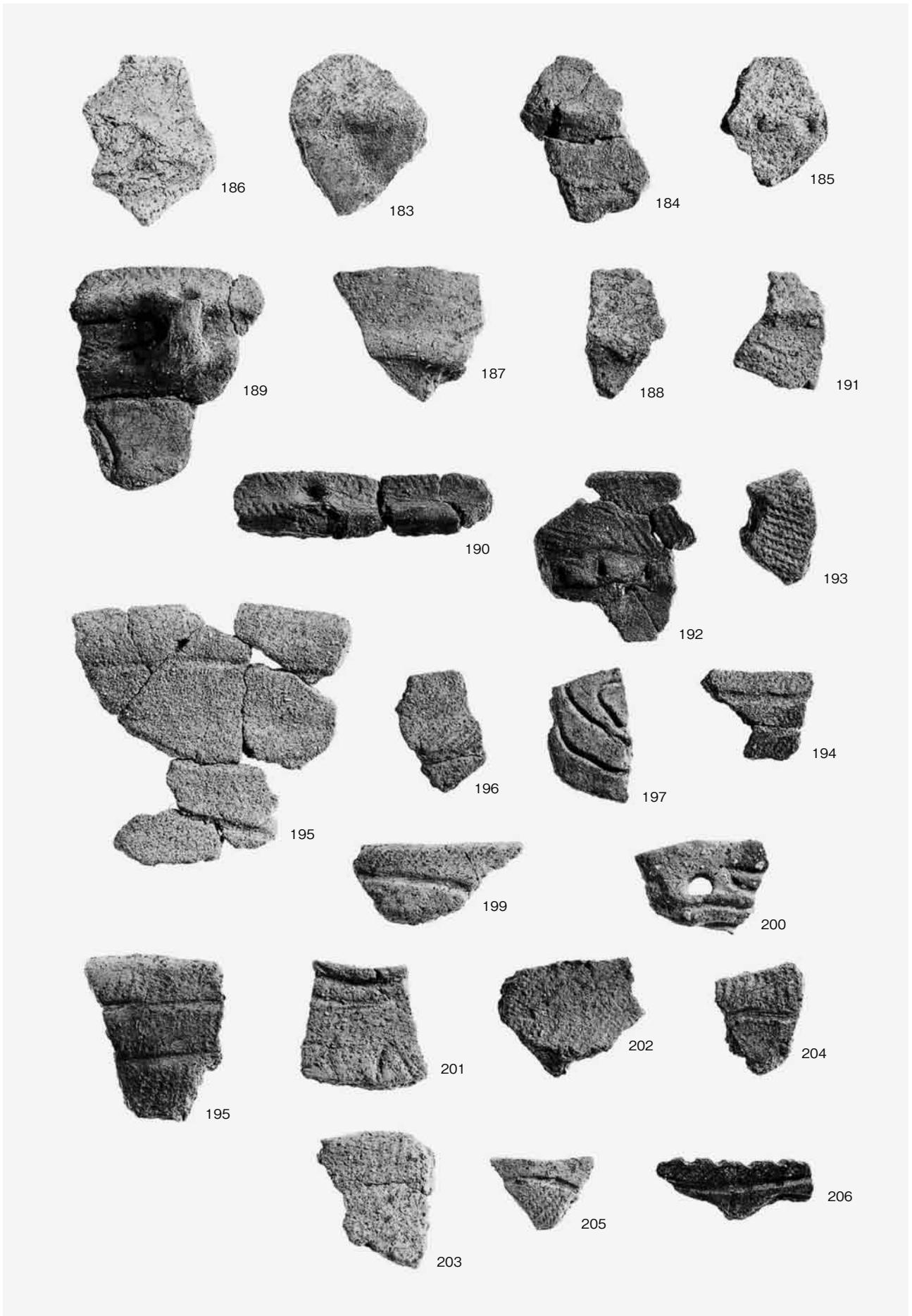
竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器(4)



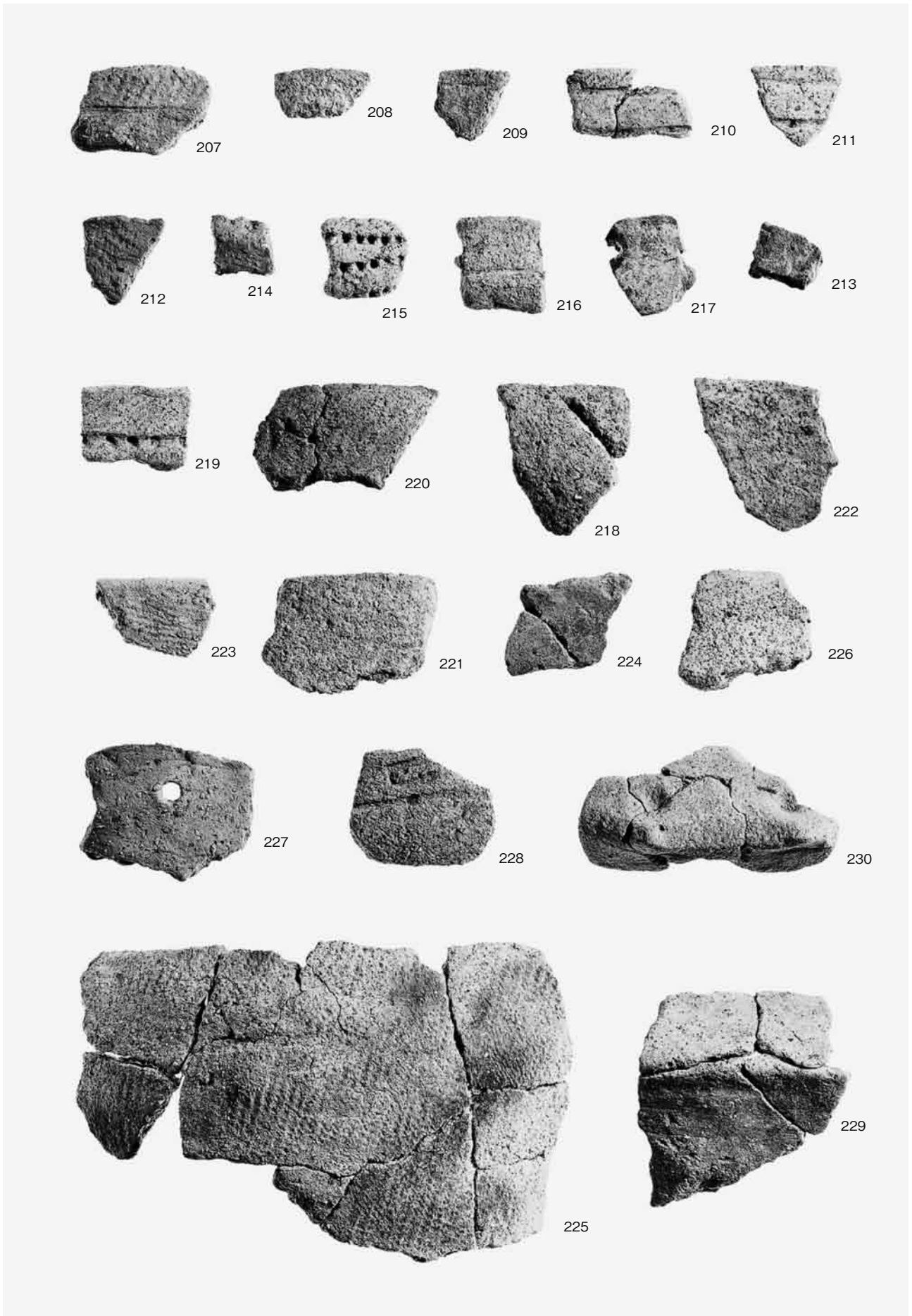
竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器(5)



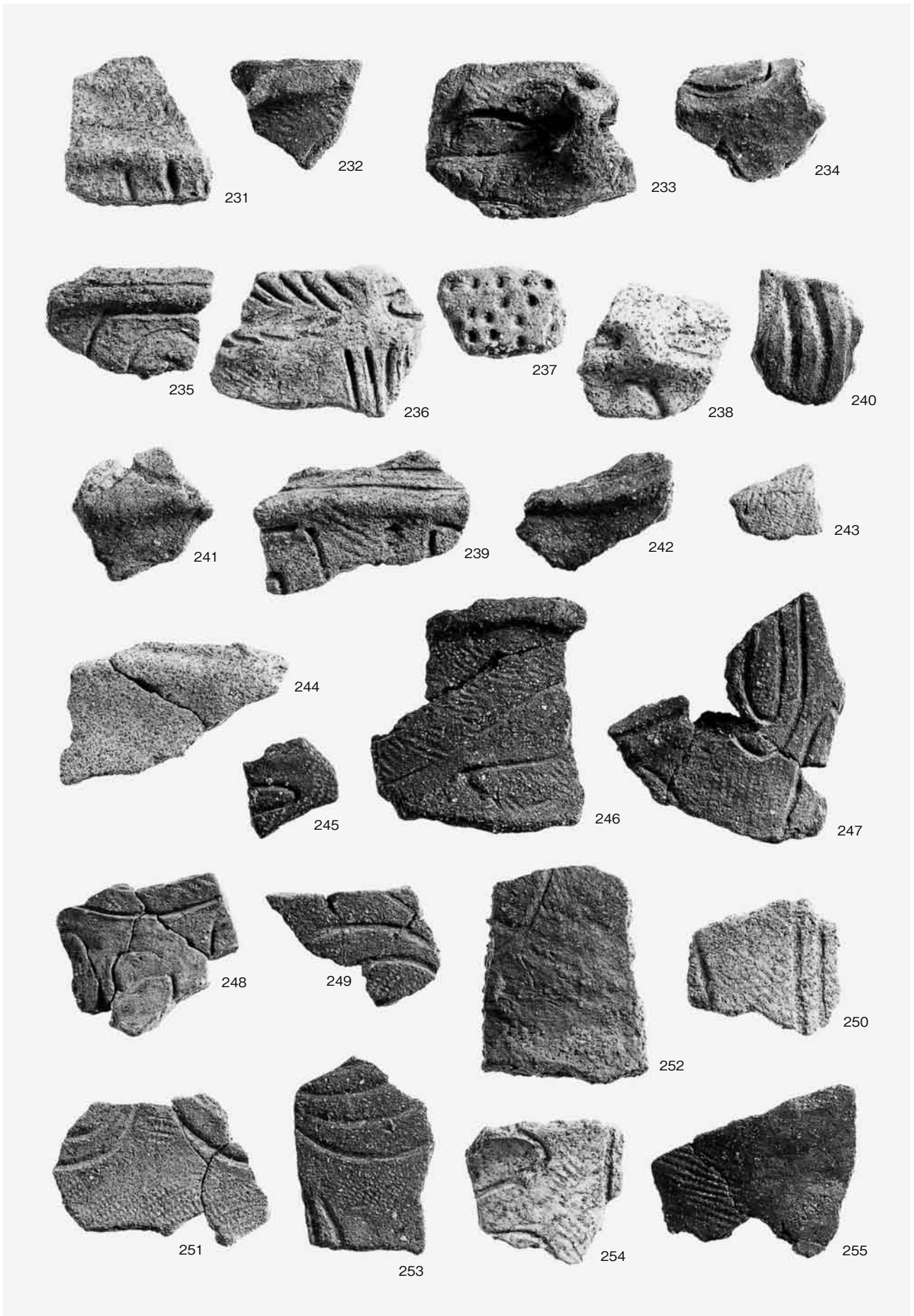
竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器(6)



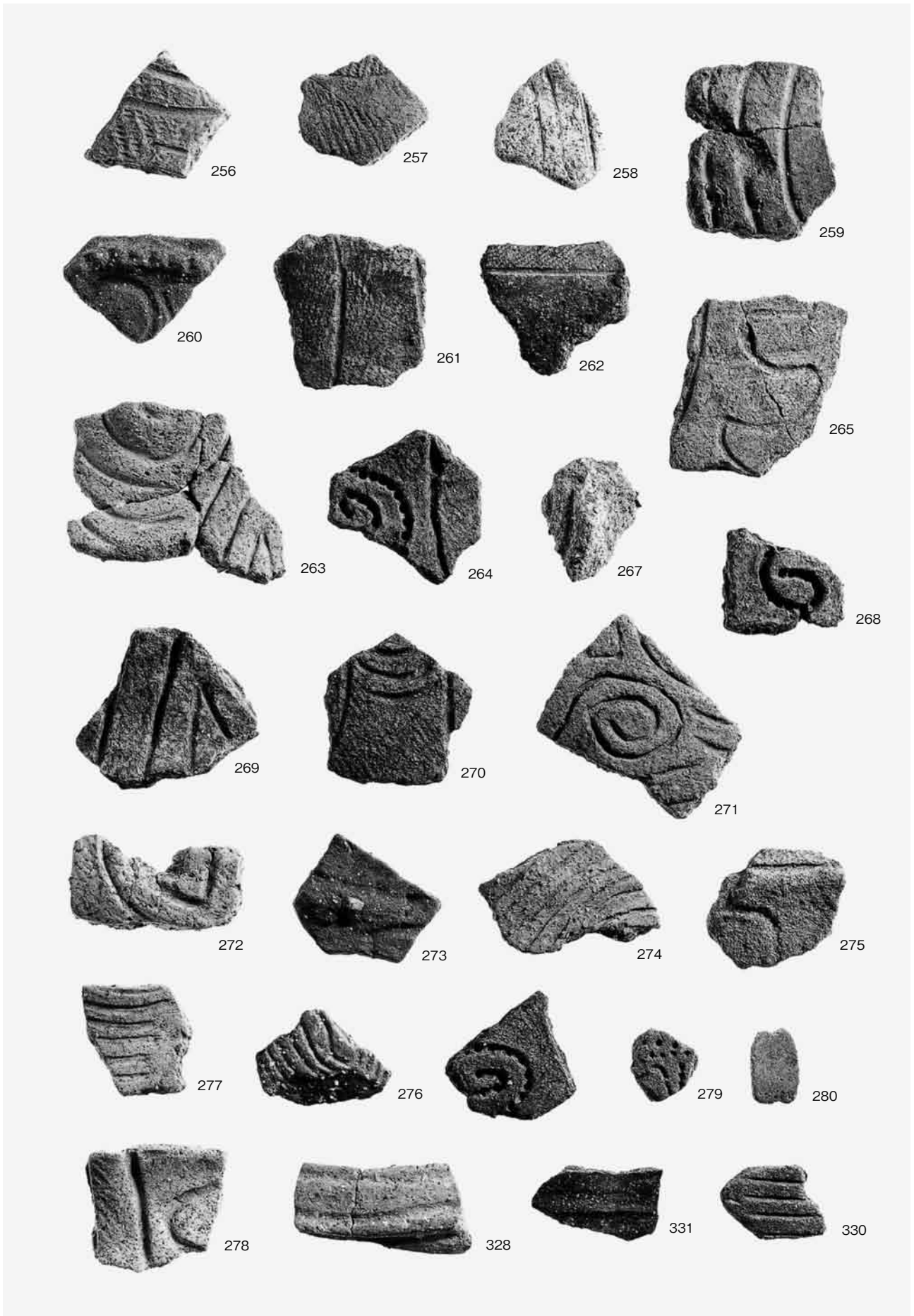
竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器(7)



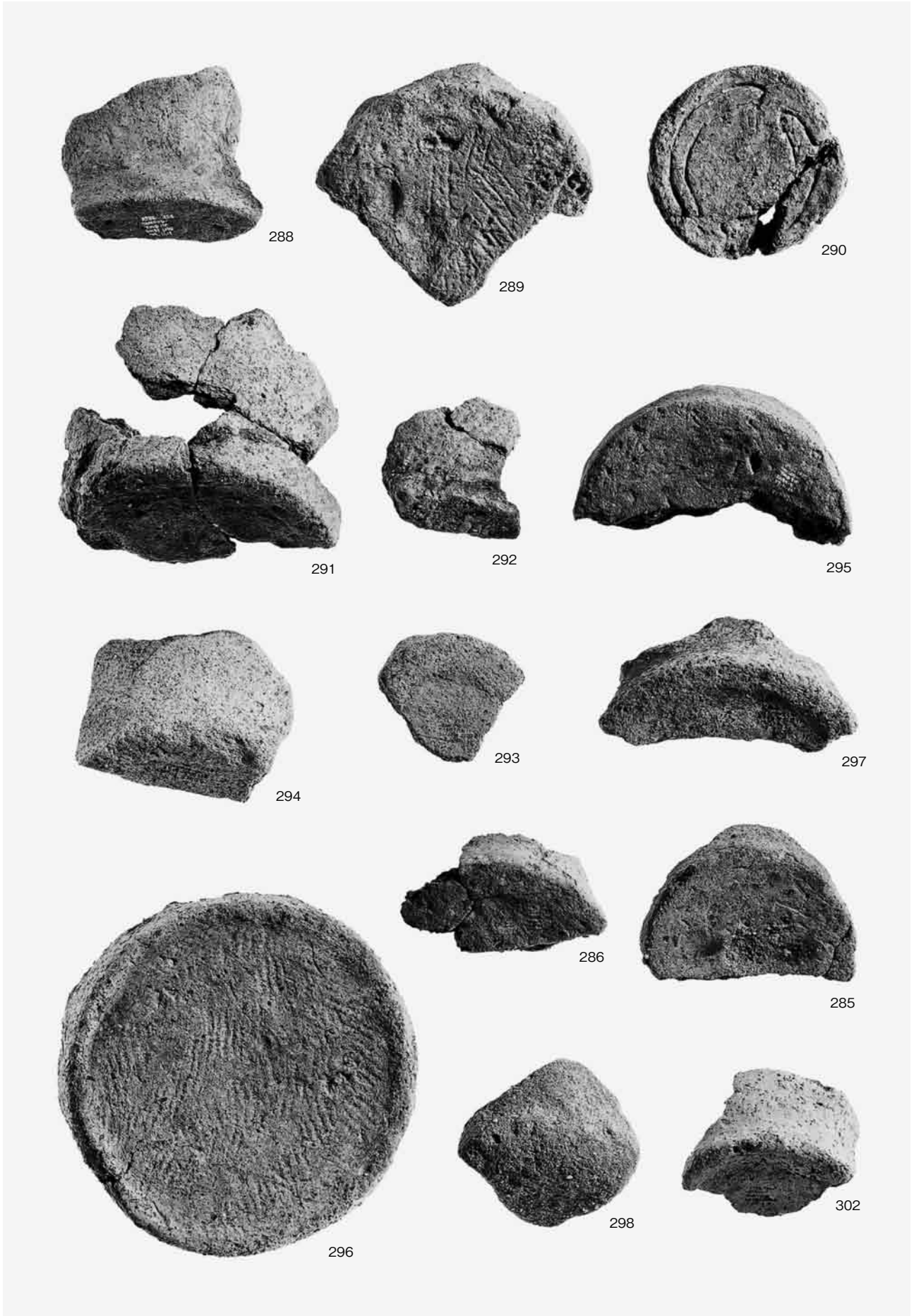
竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器(8)



竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器(9)



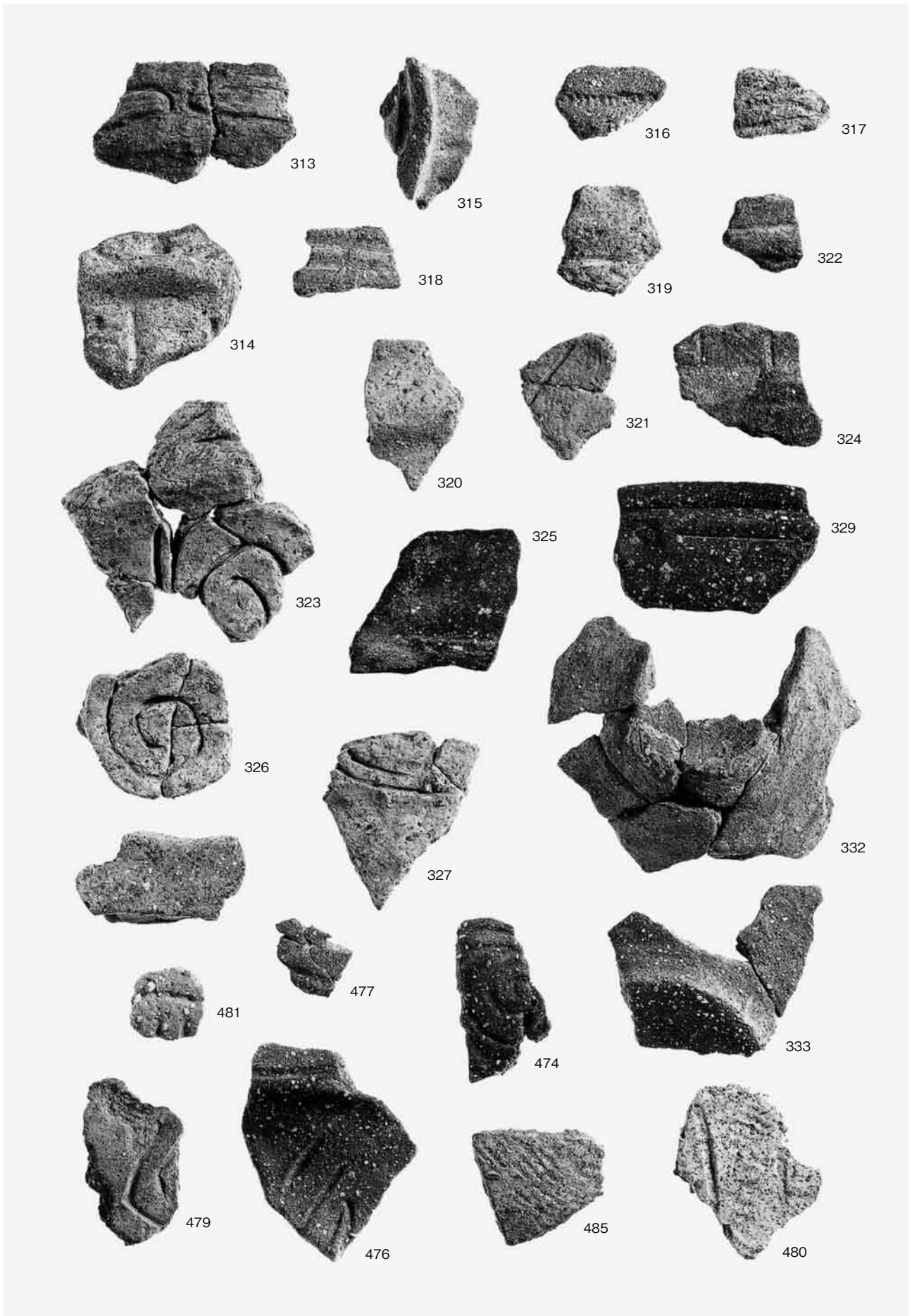
竪穴式住居跡 S H78・85・89出土縄文土器



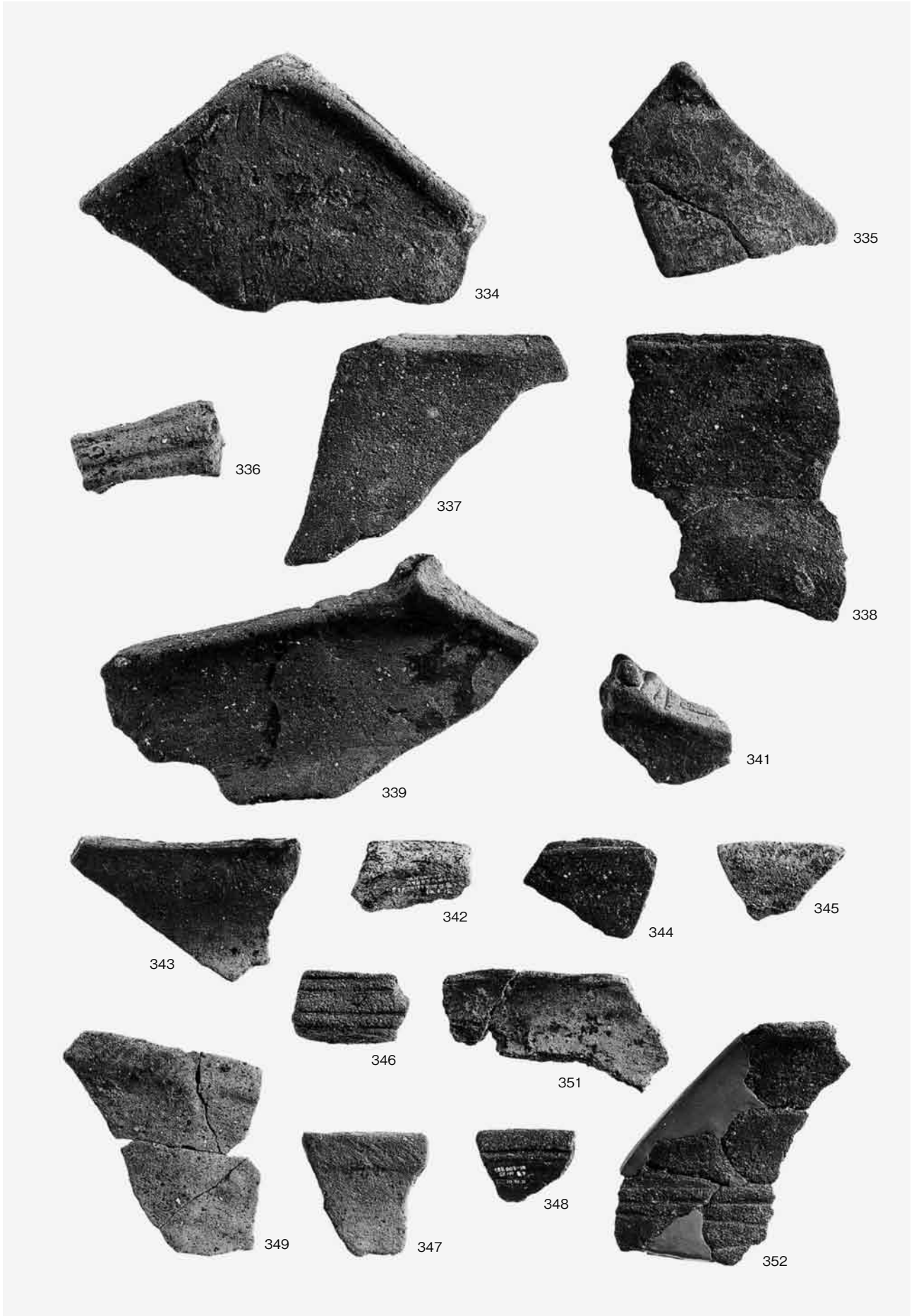
竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器底部(1)



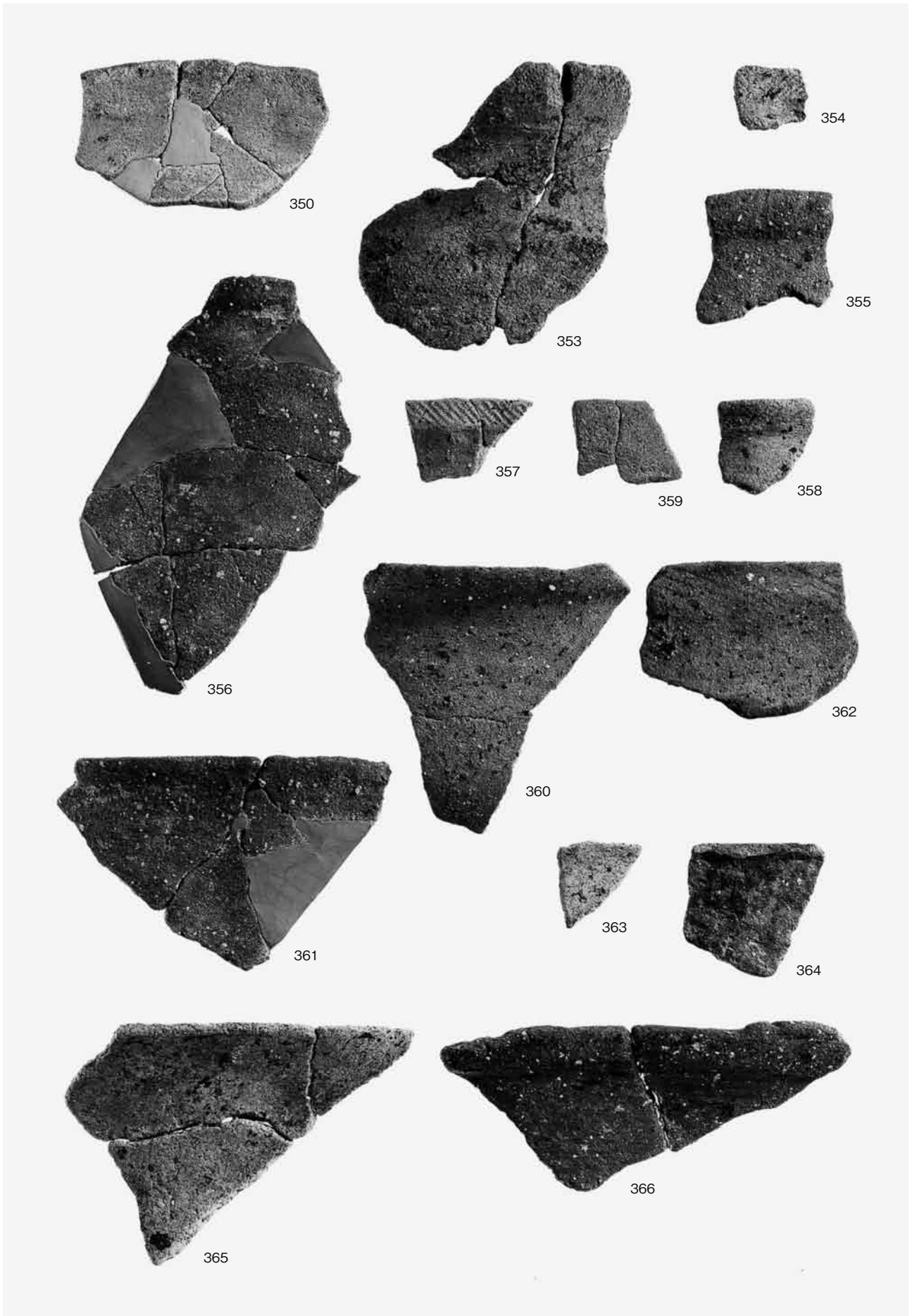
竪穴式住居跡 S H89出土縄文土器底部(2)



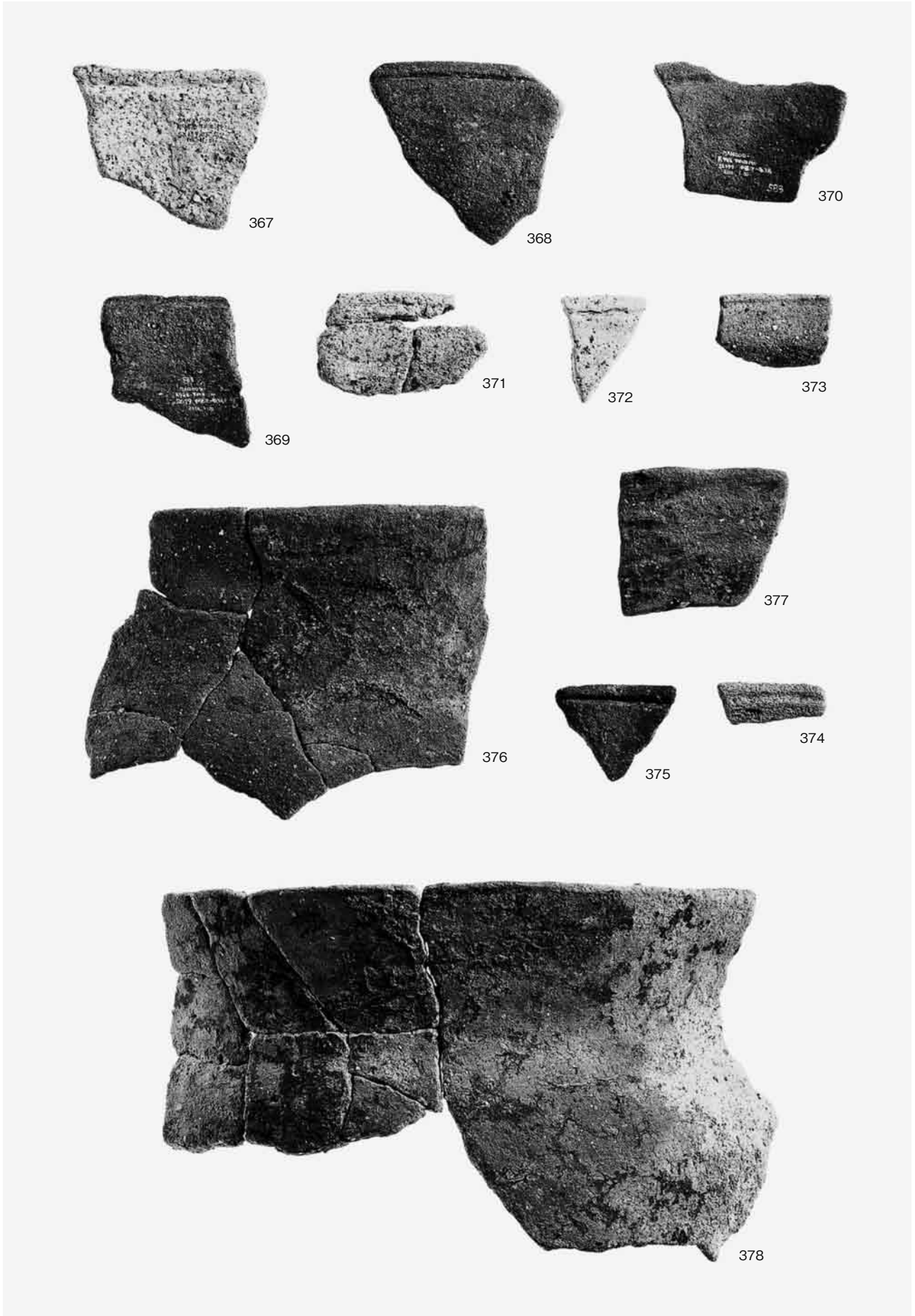
竪穴式住居跡 S H85及び土坑出土縄文土器



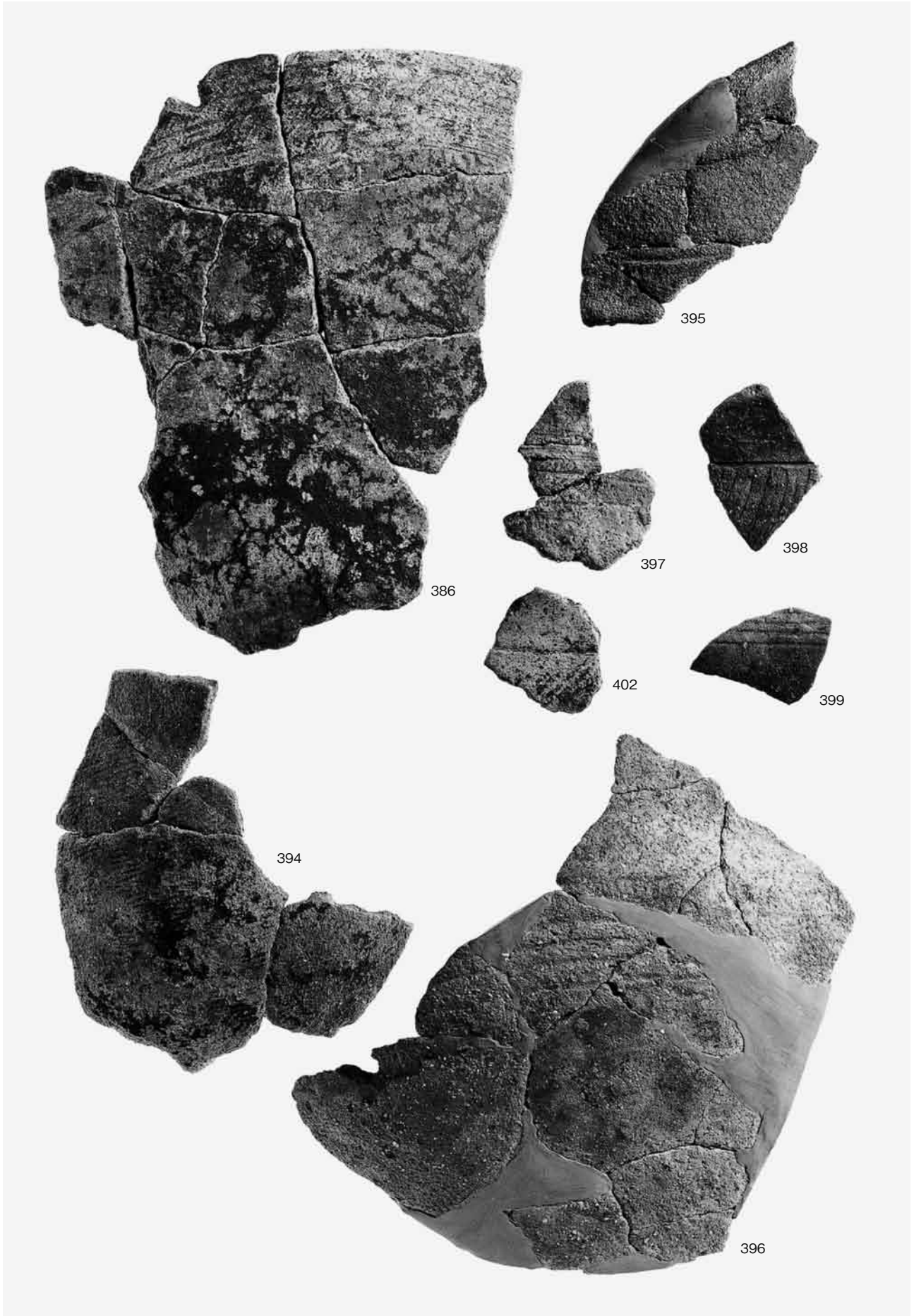
縄文時代の崖 S X199 出土縄文土器(1)



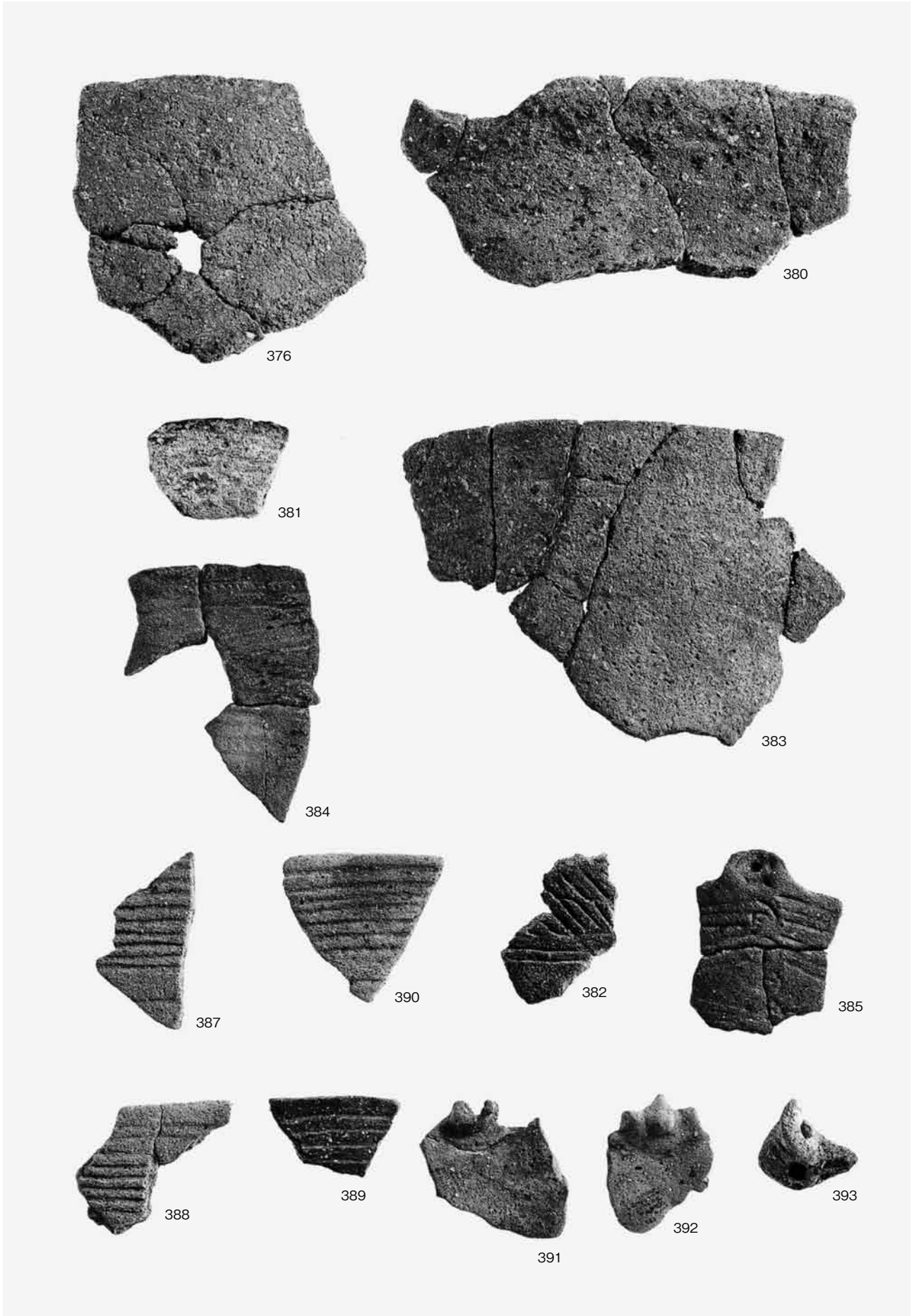
縄文時代の崖 S X199 出土縄文土器(2)



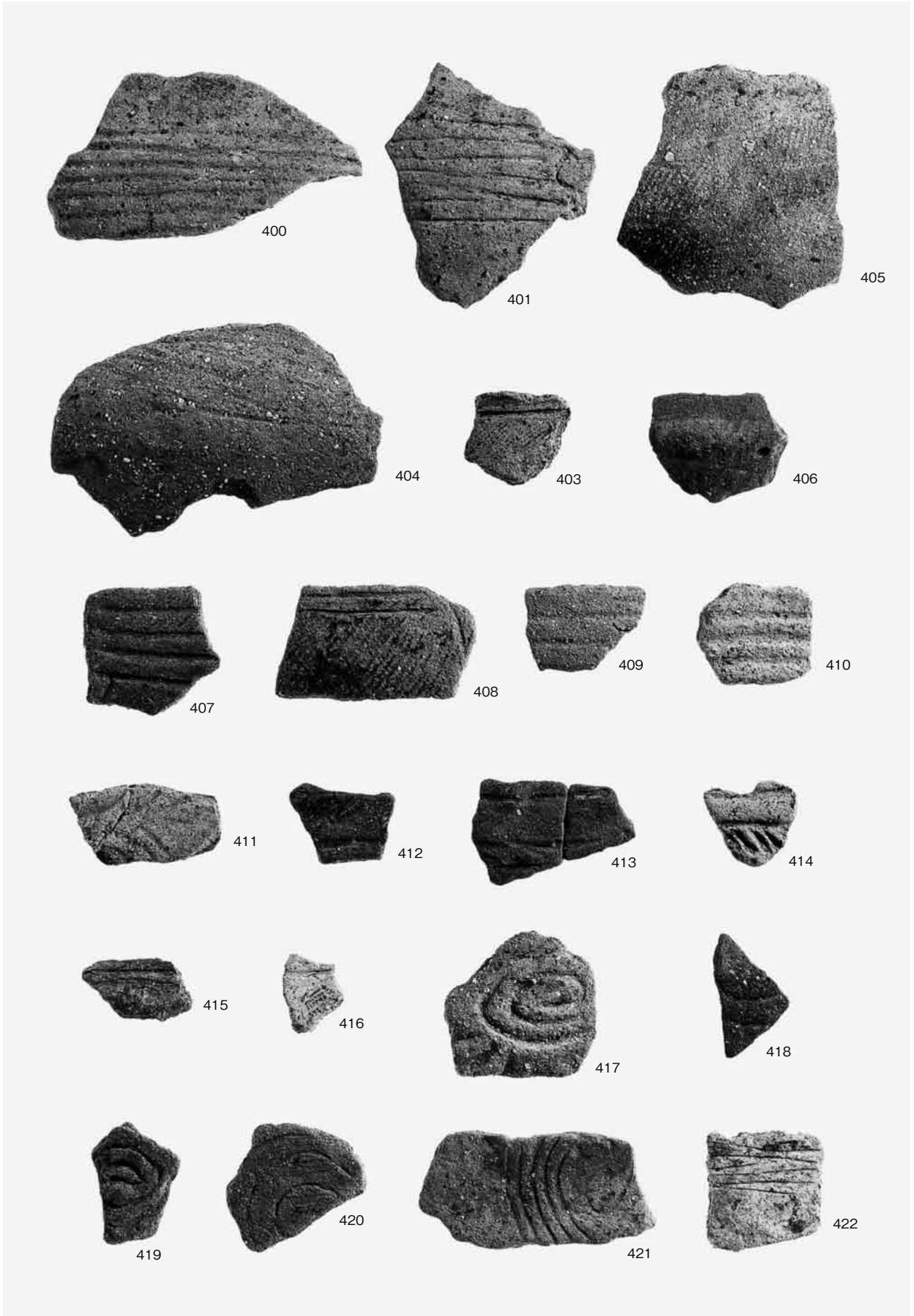
縄文時代の崖 S X199 出土縄文土器 (3)



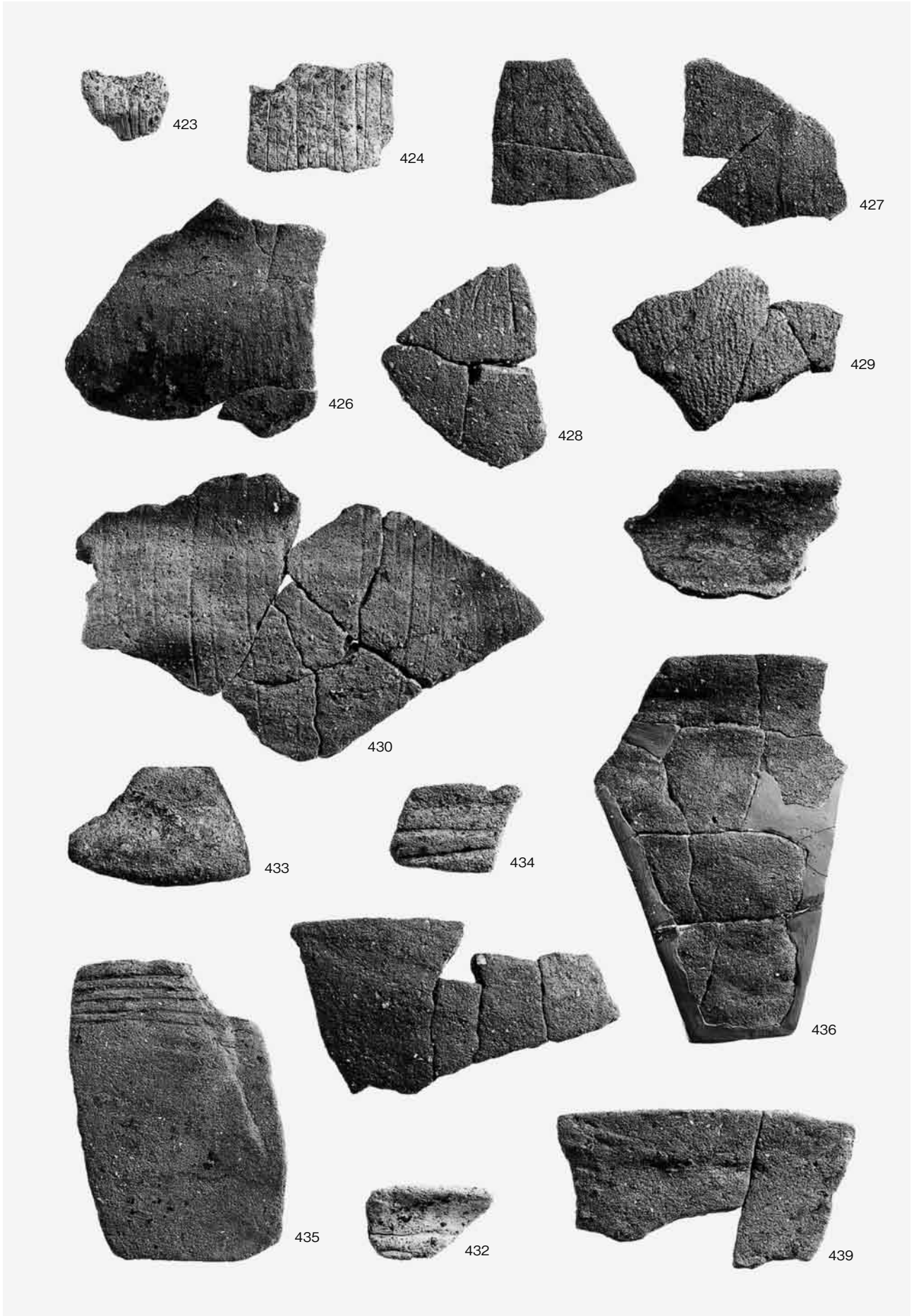
縄文時代の崖 S X199 出土縄文土器(4)



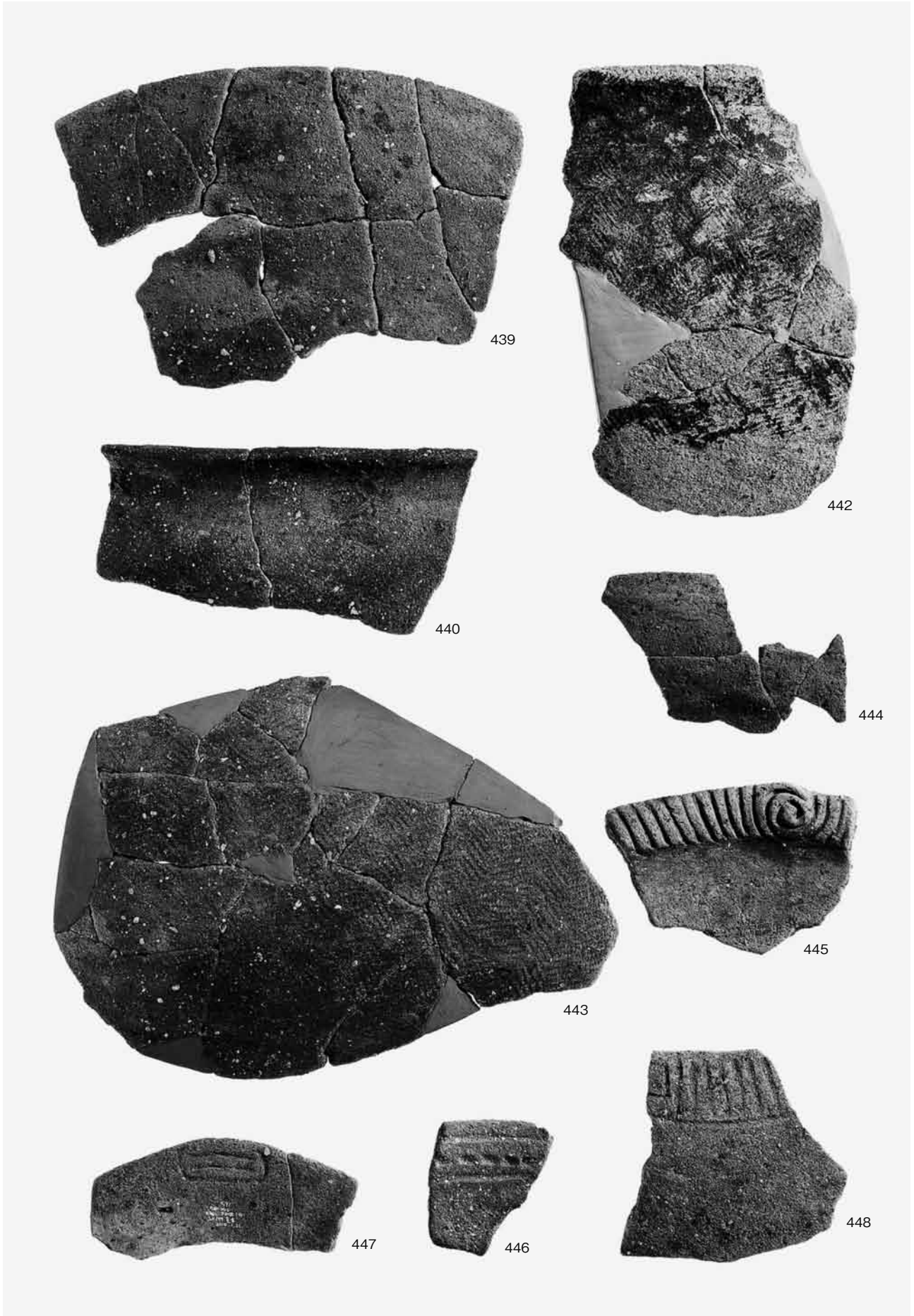
縄文時代の崖 S X199 出土縄文土器 (5)



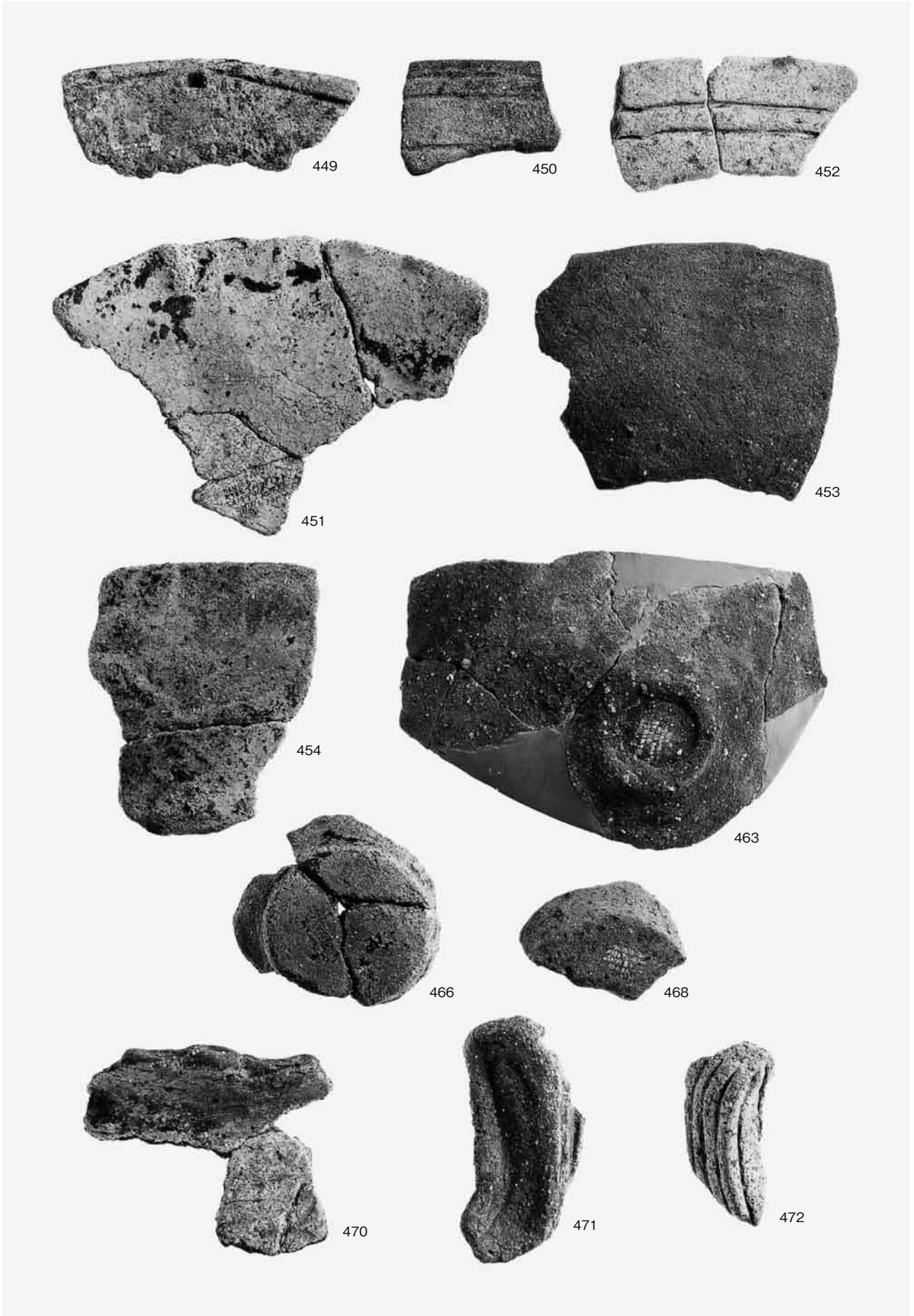
縄文時代の崖 S X199 出土縄文土器 (6)



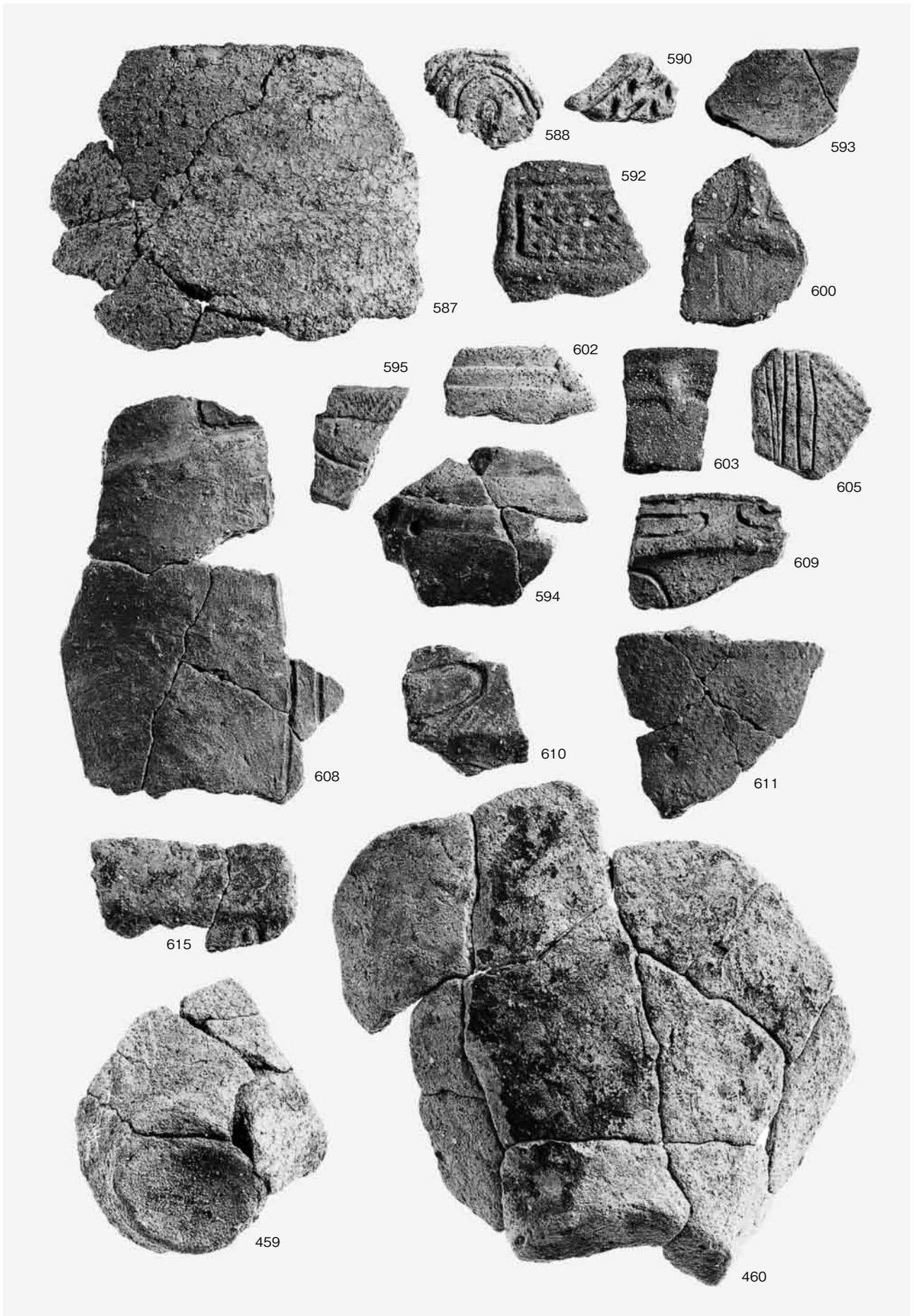
縄文時代の崖 S X199 出土縄文土器(7)



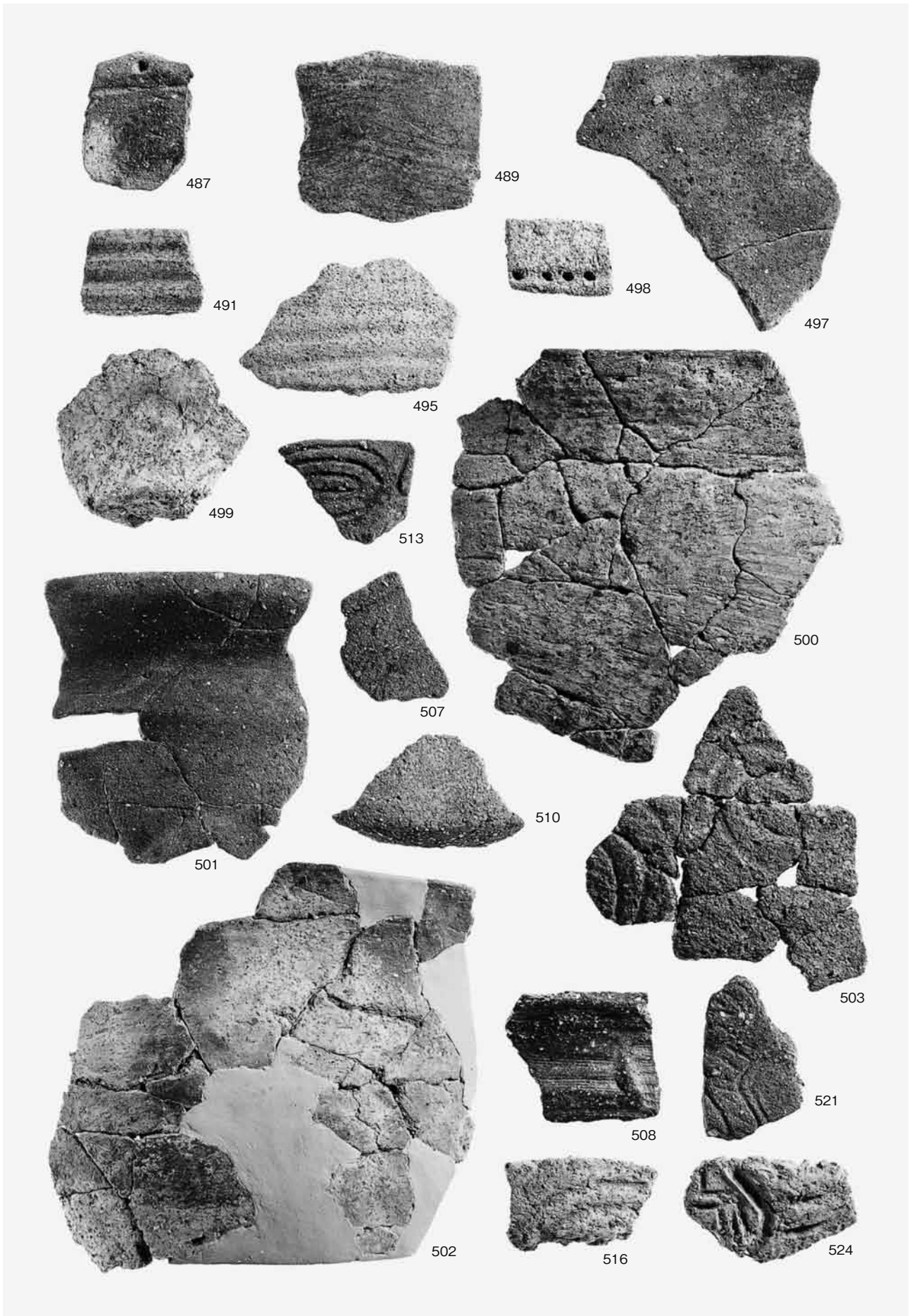
縄文時代の崖 S X199 出土縄文土器(8)



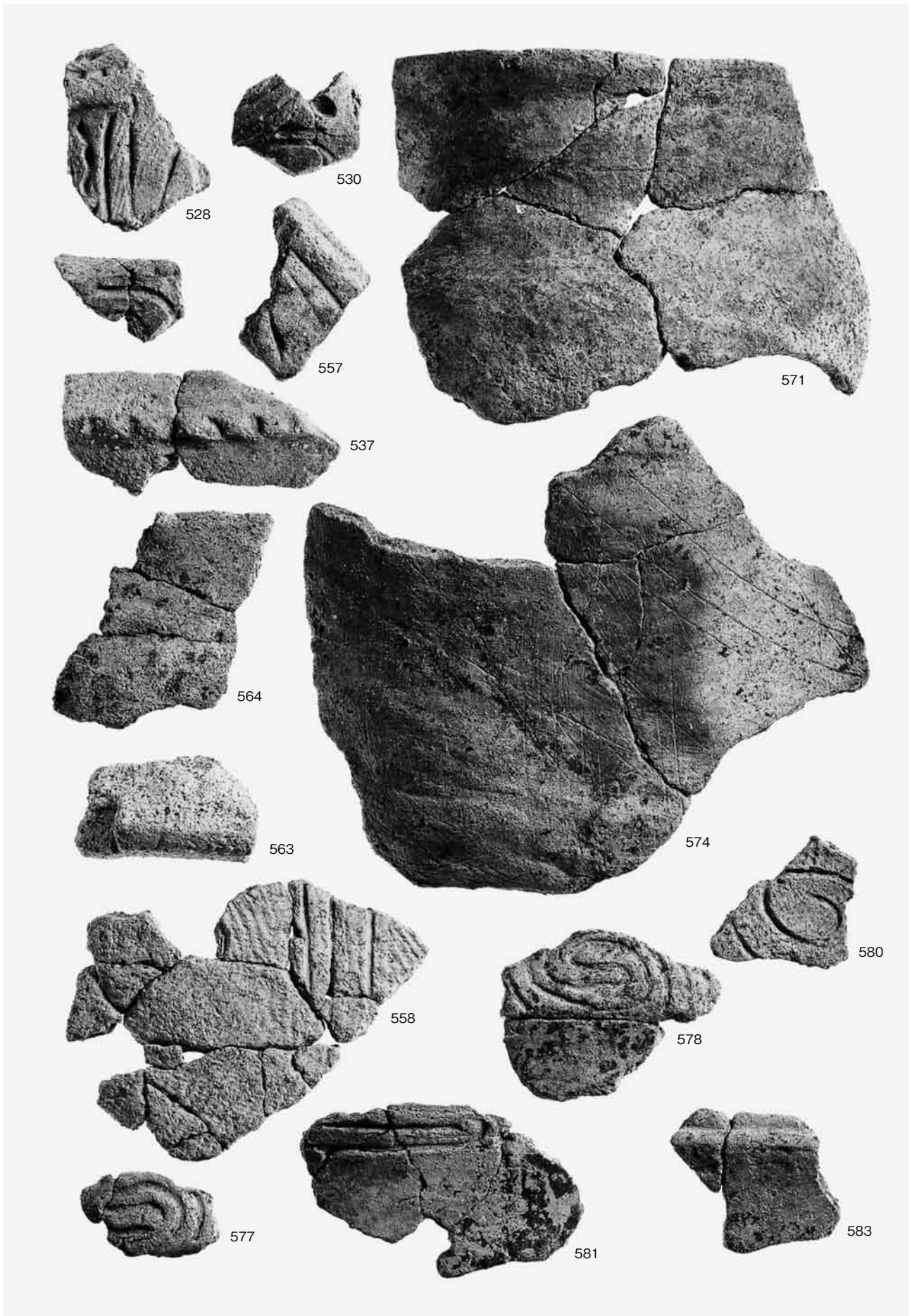
縄文時代の崖 S X199 出土縄文土器 (9)



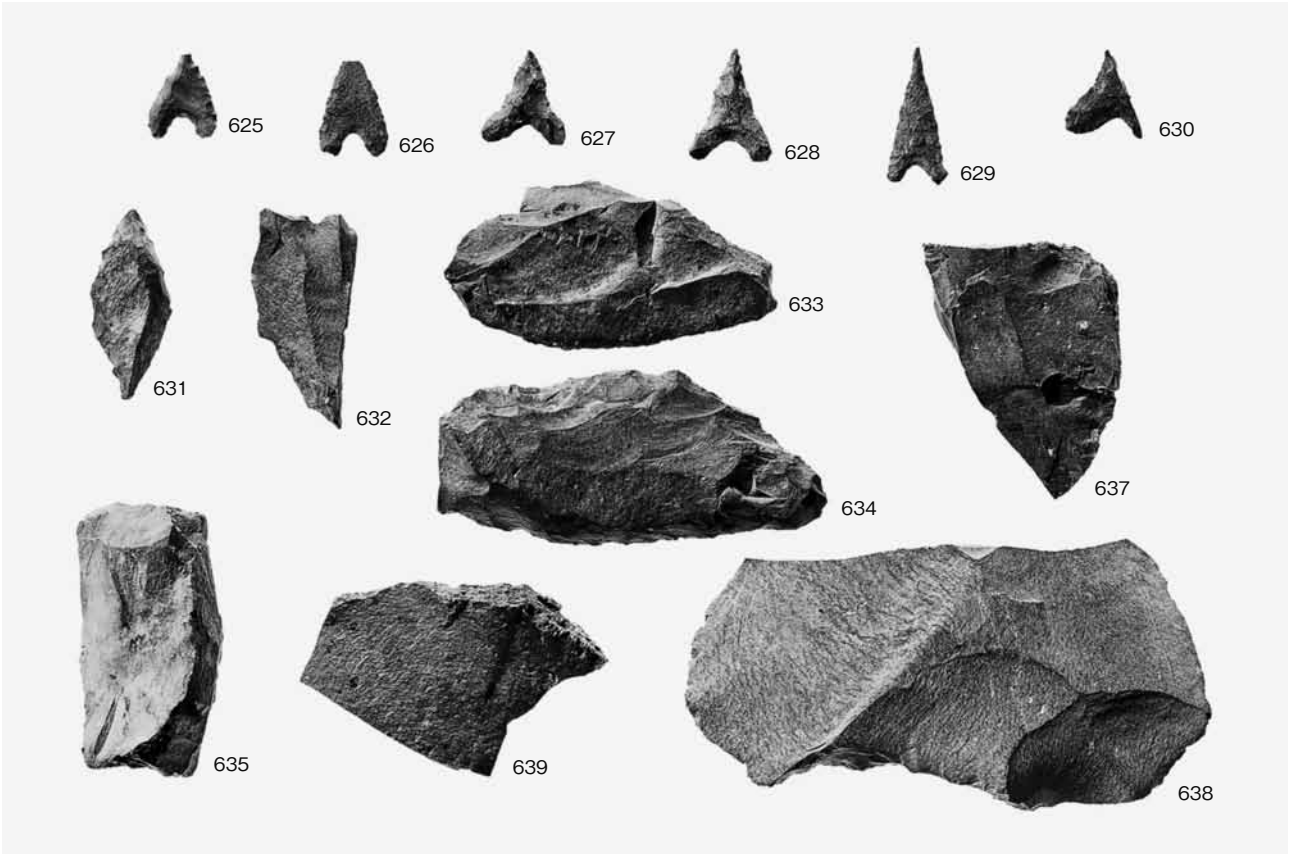
縄文時代の崖 S X199 及び柱跡出土縄文土器



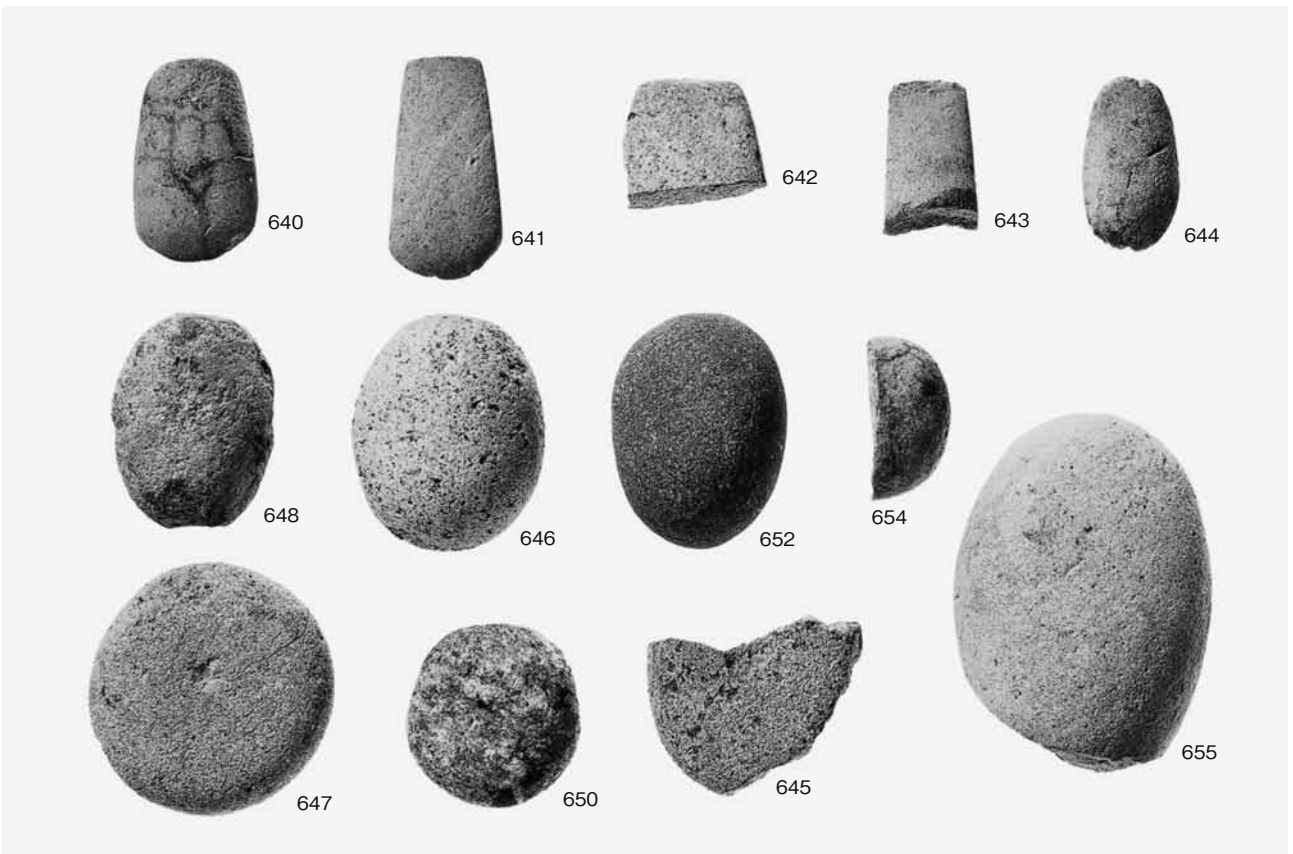
土坑出土縄文土器(1)



土坑出土縄文土器(2)



(1) 打製石器



(2) 石斧及び礫石器